

A区近景

第III章 五輪野遺跡A区

第1節 A区の概要

五輪野遺跡は昭和57、58年度に発掘調査が実施され、遠賀川系の併せ口甕棺等が出土しているが、今回の発掘調査区はその地点の約600m東方にあたる。

今回の調査区は、地形的に段丘上と段丘下の低地に二分される。便宜的に段丘下の低地部をA区、段丘上をB区とする。A区の標高は約35m、B区の標高は約31mである。

A区とB区の境界はB区をのせる段丘の崖線である。場所によっては崖線下に湧水も見られるようであるが、調査区内で確認することはできなかった。また、周辺には溜池状の湿地も点在する。

検出された遺構は土坑61基、流路跡3条である。土坑内からは木製品1点と馬の歯と思われる動物歯1点が出土しているが土器類は全く検出されておらず年代決定の決め手を欠く。馬の歯はB区の第9、16号住居跡で出土しているのでそれらとほぼ同時期とも考えられる。

3条の流路跡は本来は自然の流路であったものの、後に湿地に変化したようであり、マコモ層が形成されている。図示したのは最古段階の流路跡であり、第1号流路跡の北岸には面的に川原石が堆積しているのが確認された。

縄文時代から平安時代以降にかけての遺物はこれらの流路跡が埋没し、湿地化していく過程の堆積土中やマコモ層中から出土している。遺物の時期と層位は必ずしも対応しておらず、同一層準から平面的に隣接して縄文土器、土師器、木製品、自然木が検出されたりする。但し、弥生時代の遺物は調査区南西部から比較的まとまって出土している。削平や盛土のため、現状から本来の地形を読み取ることは困難であるが、遺物の出土状態や堆積土の状況から、これらの弥生土器は南西側の調査区外の微高地からの崩落土に包含されていたものと思われる。

なお、出土した木製品の内3点の年輪年代を測定したところ、図115-129は1163年、図116-134は1280年、図112-123は1299年との結果が得られている（光谷拓実氏御教示による）。

第2節 遺構の配置

A区の遺構は顕著な偏在傾向を示す。

第44号土坑を除く全ての土坑は、グリッド8ライン以南、18ライン以北の限られた範囲の中から確認されている。調査区北部は広範囲に攪乱を受けているため明言はできないが、同種の土坑はもともとなかったようである。土坑の分布範囲の南限は、第1号流路跡の北縁にほぼ一致するが、土坑が構築された頃には、第1号流路跡付近は既に湿地化していたものと推定される。湿地化している部分はマコモ層が形成されている。土坑の分布範囲は地山、堆積土とともに粘性の強い土質ではあるが泥炭化はしていない。

第1号流路跡以南の地域の大半は泥炭層が堆積しているが、グリッドSライン以東周辺部は微高地状となっておりマコモ層は形成されていない。他の土坑と分布を異にする第44号土坑はこの微高地上に位置する。

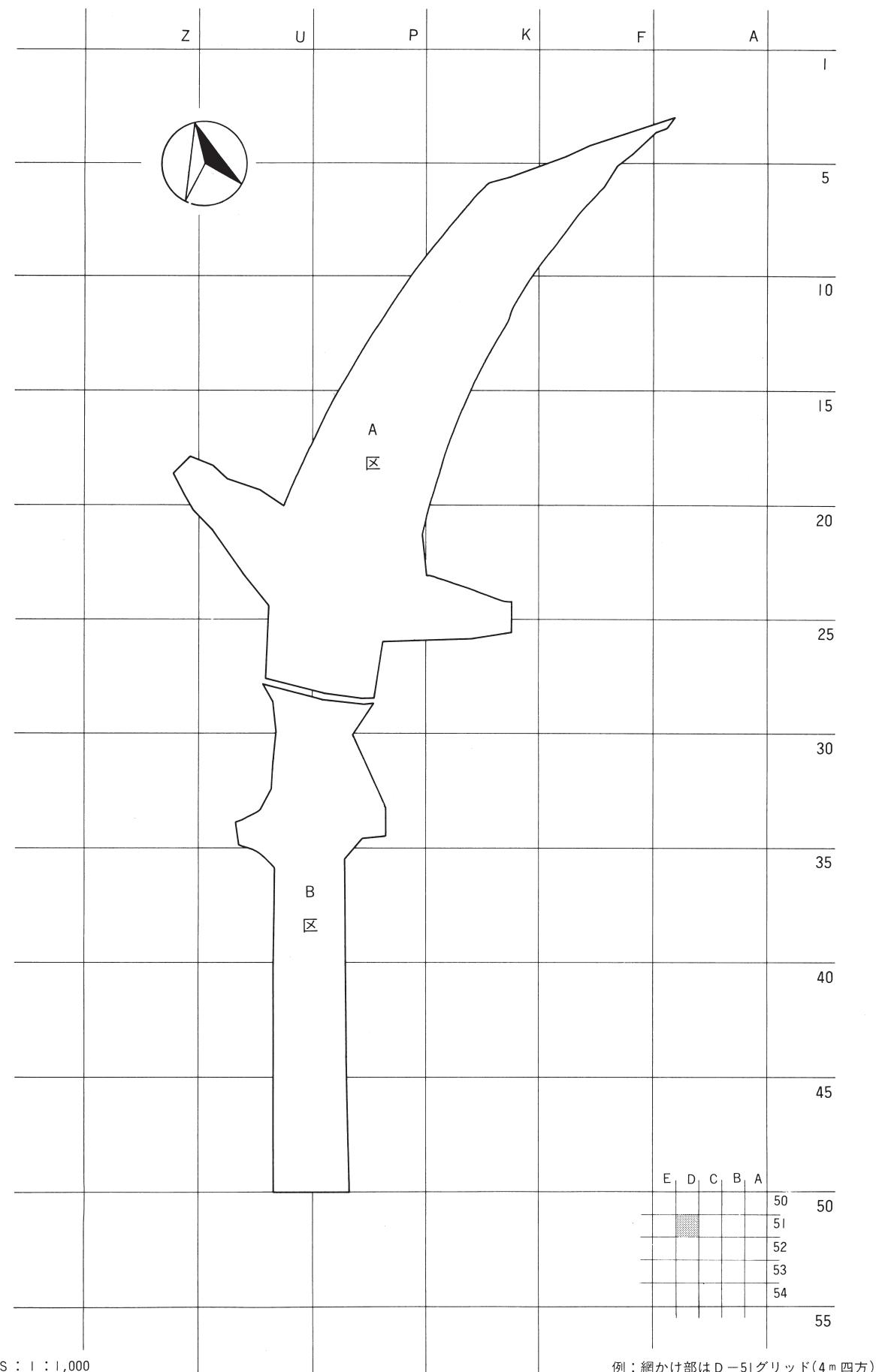


図62 五輪野遺跡グリッド配置図

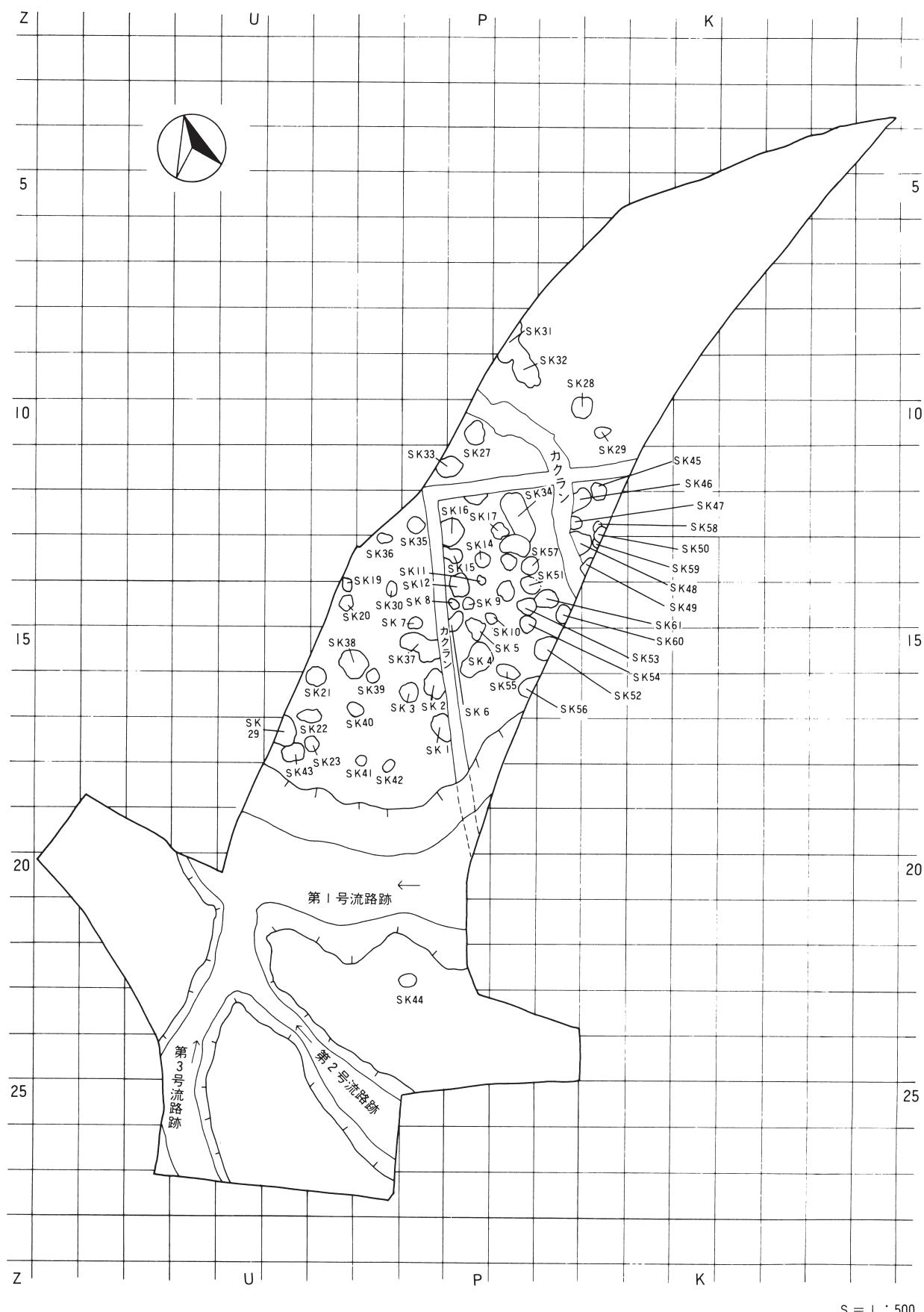


図63 五輪野遺跡A区遺構配置図

第3節 土 坑

A区第1号土坑

[位置] Q-16～17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 攪乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約37cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は一部攪乱により失われているが、緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第2号土坑

[位置] Q-15～16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約2.7mを測る。深さは最深部で約56cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第3号土坑

[位置] Q～R-16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約1.9mを測る。深さは最深部で約54cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面はオーバーハングぎみに立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 木製品が1点出土している。

A区第4号土坑

[位置] P-15～16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約3.4mを測る。深さは最深部で約74cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、床面から壁にかけては鍋底状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第5号土坑

[位置] P-14~15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約2.2mを測る。深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第6号土坑

[位置] P-14~15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形に近く、長径は約2.0mを測る。深さは最深部で約48cmを測る。

[壁・床面] 床面は若干凹凸があり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第7号土坑

[位置] Q-14~15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近く、径は約1.3mを測る。深さは最深部で約48cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面はやや内傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第8号土坑

[位置] P-14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形に近く、長径は約1.0mを測る。深さは最深部で約42cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第9号土坑

[位置] P-14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約1.2mを測る。深さは最深部で約49cmを測る。

[壁・床面] 床面は緩やかな凸状を呈し、床面から壁面にかけては鍋底状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第10号土坑

[位置] O～P-14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな橢円形に近く、長径は約1.2mを測る。深さは最深部で約23cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第11号土坑

[位置] P-13～14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形に近く、長径は約1mを測る。深さは最深部で約48cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては鍋底状を呈し、壁は比較的垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第12号土坑

[位置] P-13～14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな長方形で、長径は約2.3mを測る。深さは最深部で約58cmを測る。

[壁・床面] 床面は緩やかな凸状を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第13号土坑

[位置] O-13～14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約1.8mを測る。深さは最深部で約42cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第14号土坑

[位置] P-13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約1.4mを測る。深さは最深部で約42cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第15号土坑

[位置] P-13グリッドで確認されている。

[重複] A区第16号土坑と重複している。新旧関係は不明確である。

[平面形・規模] 攪乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約33cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第16号土坑

[位置] P～Q-12～13グリッドで確認されている。

[重複] A区第15号土坑と重複している。新旧関係は不明確である。

[平面形・規模] 攪乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約28cmを測る。

[壁・床面] 床面は若干凸凹があり、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第17号土坑

[位置] O-12～13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約1.6mを測る。深さは最深部で約27cmを測る。

[壁・床面] 床面は緩やかな凸状を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第18号土坑

[位置] P-11～12グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で長径は約2.4mを測る。深さは最深部で約25cmを測る。

[壁・床面] 床面は平坦であるが、段を有する。壁面は緩く傾斜して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第19号土坑

[位置] S-13~14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東側が調査区外と攢乱にかかるため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約104cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は一度内傾し広がりながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第20号土坑

[位置] S-14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ橜円形に近い形態で、長径は1.5mを測る。深さは最深部で約125cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、一度内傾し広がりながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第21号土坑

[位置] S-T-15~16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約2mを測る。深さは最深部で約70cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は一度内傾し広がりながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 自然木が1本検出されている。

A区第22号土坑

[位置] S-T-16~17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約2.1mを測る。深さは最深部で約38cmを測る。

[壁・床面] 床面はごく緩やかな凹状を呈し、壁面はやや内傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第23号土坑

[位置] S～T-17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近く、径は約1.5mを測る。深さは最深部で約38cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては鍋底状を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第24号土坑

[位置] T-17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかるため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約58cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけて不整形であり、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第25号土坑

[位置] O-13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近く、径は約1.5mを測る。深さは最深部で約55cmを測る。

[壁・床面] 床面は若干凸凹があり、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第26号土坑

[位置] O-12～13グリッドで確認されている。

[重複] A区第34号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 東側が調査区外にかかるため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約34cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は比較的垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第27号土坑

- [位置] P-10グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約2.1mを測る。深さは最深部で約47cmを測る。
- [壁・床面] 床面は不整形で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 出土していない。

A区第28号土坑

- [位置] M~N-9~10グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約2.1mを測る。深さは最深部で約26cmを測る。
- [壁・床面] 床面は不整形で段を有し、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 出土していない。

A区第29号土坑

- [位置] M-10グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約1.5mを測る。深さは最深部で約23cmを測る。
- [壁・床面] 床面は緩やかな凸状を呈し、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 出土していない。

A区第30号土坑

- [位置] R-14グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形はほぼ橢円形に近い形態で、長径は約1.4mを測る。深さは最深部で約74cmを測る。
- [壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面はやや内傾して立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 出土していない。

A区第31号土坑

- [位置] O-8~9グリッドで確認されている。
- [重複] A区第32号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかるため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約48cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第32号土坑

[位置] N～O-9グリッドで確認されている。

[重複] A区第31号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形はいびつな橢円形に近く、長径は約3.1mを測る。深さは最深部で約53cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第33号土坑

[位置] P～Q-11グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形に近く、径は約2.4mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第34号土坑

[位置] O-12～13グリッドで確認されている。

[重複] 第26号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 平面形はほぼ橢円形に近く、長径は約4.4mを測る。

[壁・床面] 床面は若干凹凸があり、壁面は僅かに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第35号土坑

[位置] Q-12グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約1.5mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第36号土坑

[位置] R-12~13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形に近い形態で、長径は約1.4mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は内湾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第37号土坑

[位置] Q-15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径は約2.4mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がるが、場所によっては内湾する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第38号土坑

[位置] R~S-15~16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近く、径は約2.8mを測る。深さは最深部で約49cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面は攪乱により一部失われているがやや内傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第39号土坑

[位置] R-15~16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近く、径は約1.4mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第40号土坑

[位置] R~S-16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西側が攪乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約36cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては鍋底状を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第41号土坑

[位置] R-17~18グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約1.0mを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は内湾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第42号土坑

[位置] R-17~18グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東側が攪乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約80cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第43号土坑

[位置] T-17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形に近い形態で、径は約2.1mを測る。深さは最深部で約60cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけて不整形であり、壁面は比較的オーバーハングぎみに立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第44号土坑

[位置] Q~R-22グリッドで確認されている。

[重複] なし。他の土坑とは分布が異なる。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近く、径は約1.4mを測る。深さは最深部で約78cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は傾斜しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第45号土坑

[位置] M-11~12グリッドで確認されている。

[重複] なし

[平面形・規模] 深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は段を有して緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第46号土坑

[位置] M~N-11~12グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西側が攢乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約47cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は一部失われているが緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第47号土坑

[位置] N-12グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西側が攢乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約27cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は一部失われているが緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第48号土坑

[位置] M~N-12~13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西側が攢乱により切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第49号土坑

[位置] M-13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 攪乱と調査区外にかかっているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約56cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は扇状に広がりながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第50号土坑

[位置] M-12～13グリッドで確認されている。

[重複] 第58・59号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかっているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で約57cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては鍋底状を呈し、床面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第51号土坑

[位置] O-13～14グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で規模は径で約1.7mを測る。深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第52号土坑

[位置] N～O-15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 深さは最深部で約36cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で、壁面は段を有し緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第53号土坑

[位置] O-14グリッドで確認されている。

[重複] 第61号土坑と重複している。本土坑のほうが新しい。

[平面形・規模] 深さは最深部で約54cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面はやや内傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第54号土坑

[位置] O-14~15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 深さは最深部で約48cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第55号土坑

[位置] O-15~16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 深さは最深部で約58cmを測る。

[壁・床面] 床面は若干凹凸があり、壁面は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第56号土坑

[位置] N~O-16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 深さは最深部で約49cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第57号土坑

[位置] O-13グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形に近い形態で、径は約1.7mを測る。深さは最深部で40cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁面はややオーバーハングぎみに立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第58号土坑

[位置] M-12グリッドで確認されている。

[重複] 第50号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第50号土坑に切られているため、平面形・規模は不明瞭である。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第59号土坑

[位置] M-13グリッドで確認されている。

[重複] 第50号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第50号土坑に切られているため、平面形・規模は不明瞭である。深さは最深部で52cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては鍋底状を呈し、壁は比較的垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第60号土坑

[位置] N-14グリッドで確認されている。

[重複] なし

[平面形・規模] 調査区外にかかるため規模は不明確であるが、ややいびつな円形になるものと思われる。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

A区第61号土坑

[位置] N～O-14グリッドで確認されている。

[重複] 第53号住居と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第53号土坑との重複のため明確ではないが、短径約1.5m程の橢円形に近い平面形である。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

(太田原 潤・小山 朋子)

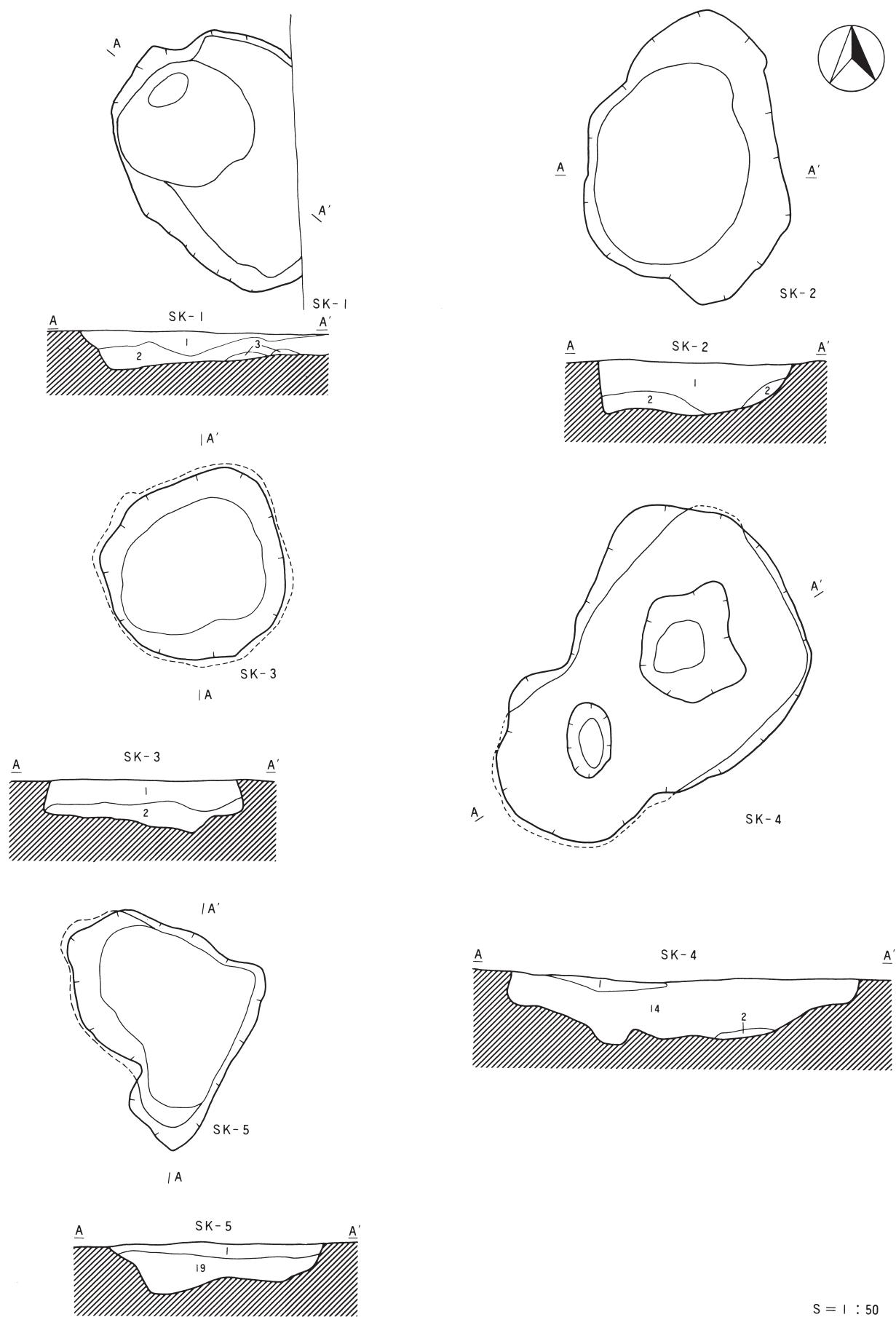


図64 A区土坑（1）（SK 1、2、3、4、5）

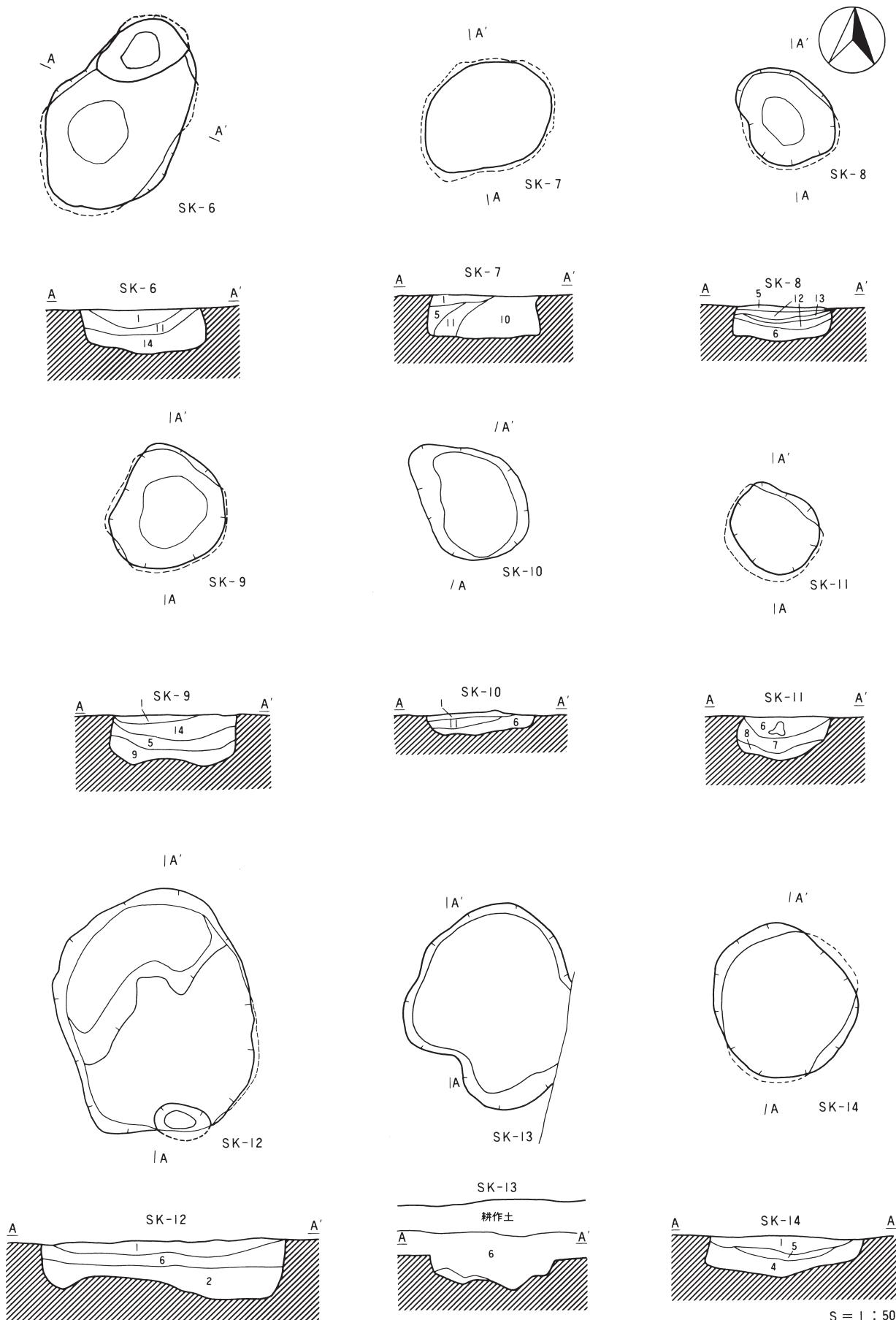


図65 A区土坑（2）（SK-6、7、8、9、10、11、12、13、14）

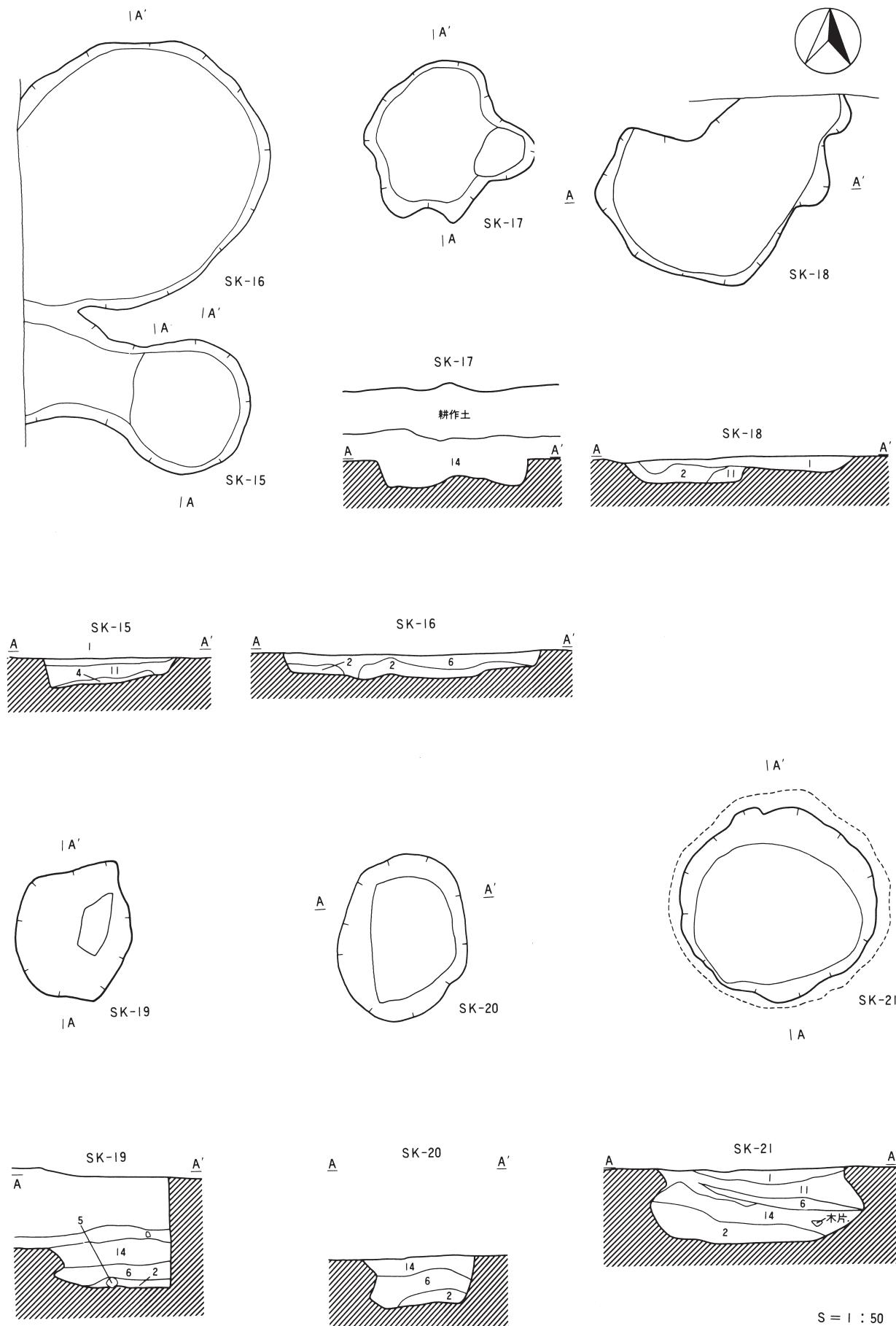


図66 A区土坑(3)(SK-15、16、17、18、19、20、21)

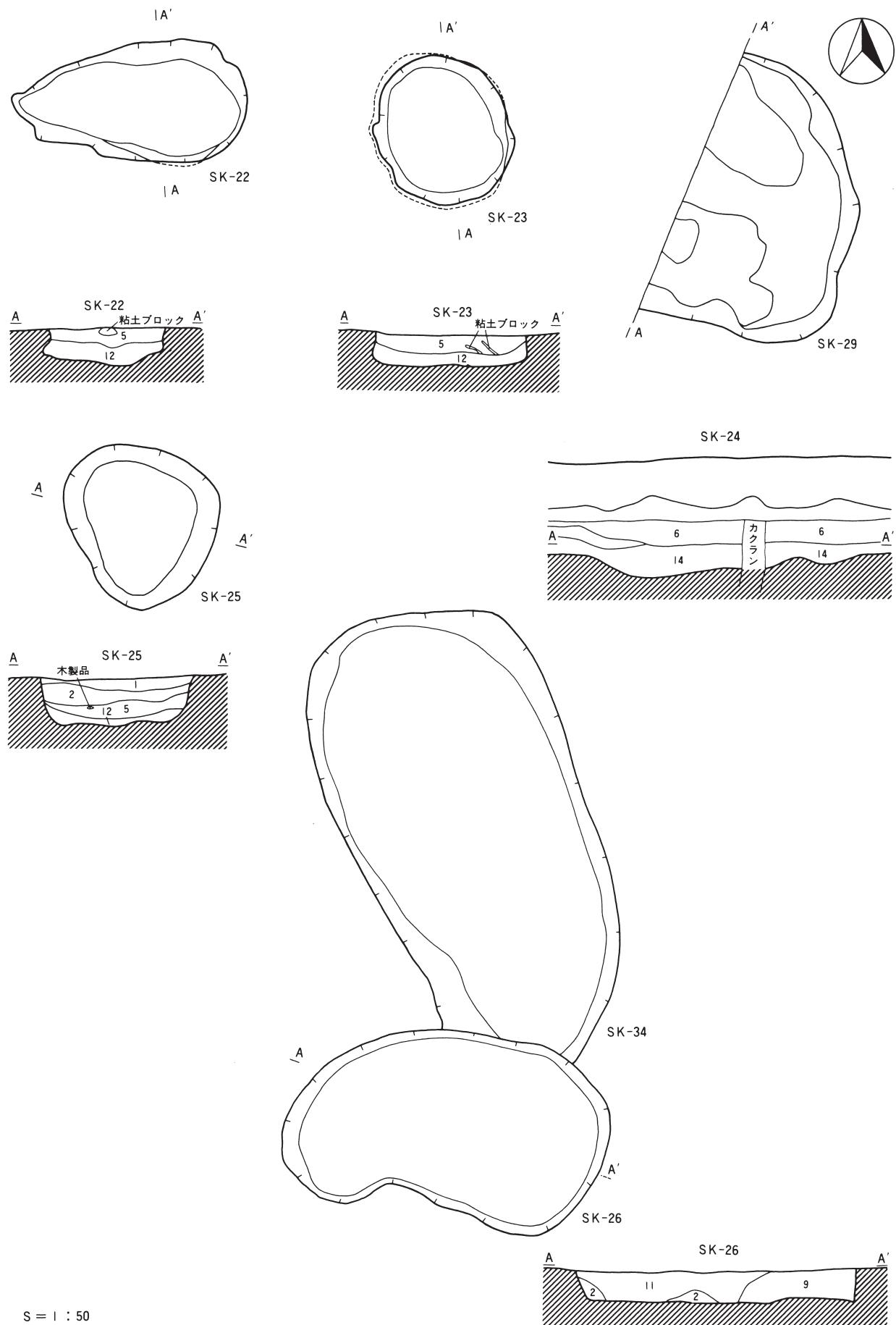


図67 A区土坑(4)(SK22、23、25、26、34)

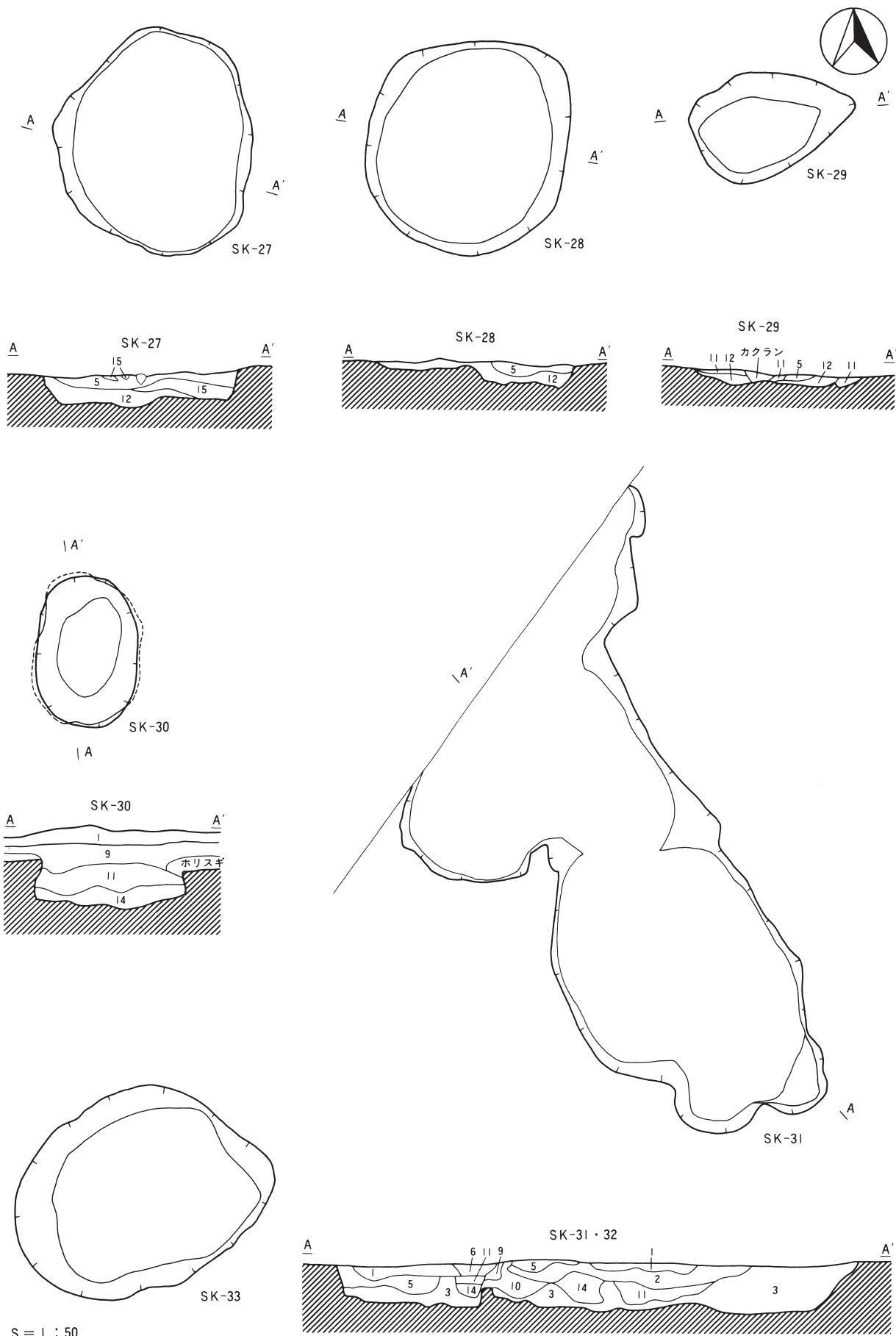


図68 A区土坑(5)(SK-27、28、29、30、31、32、33)

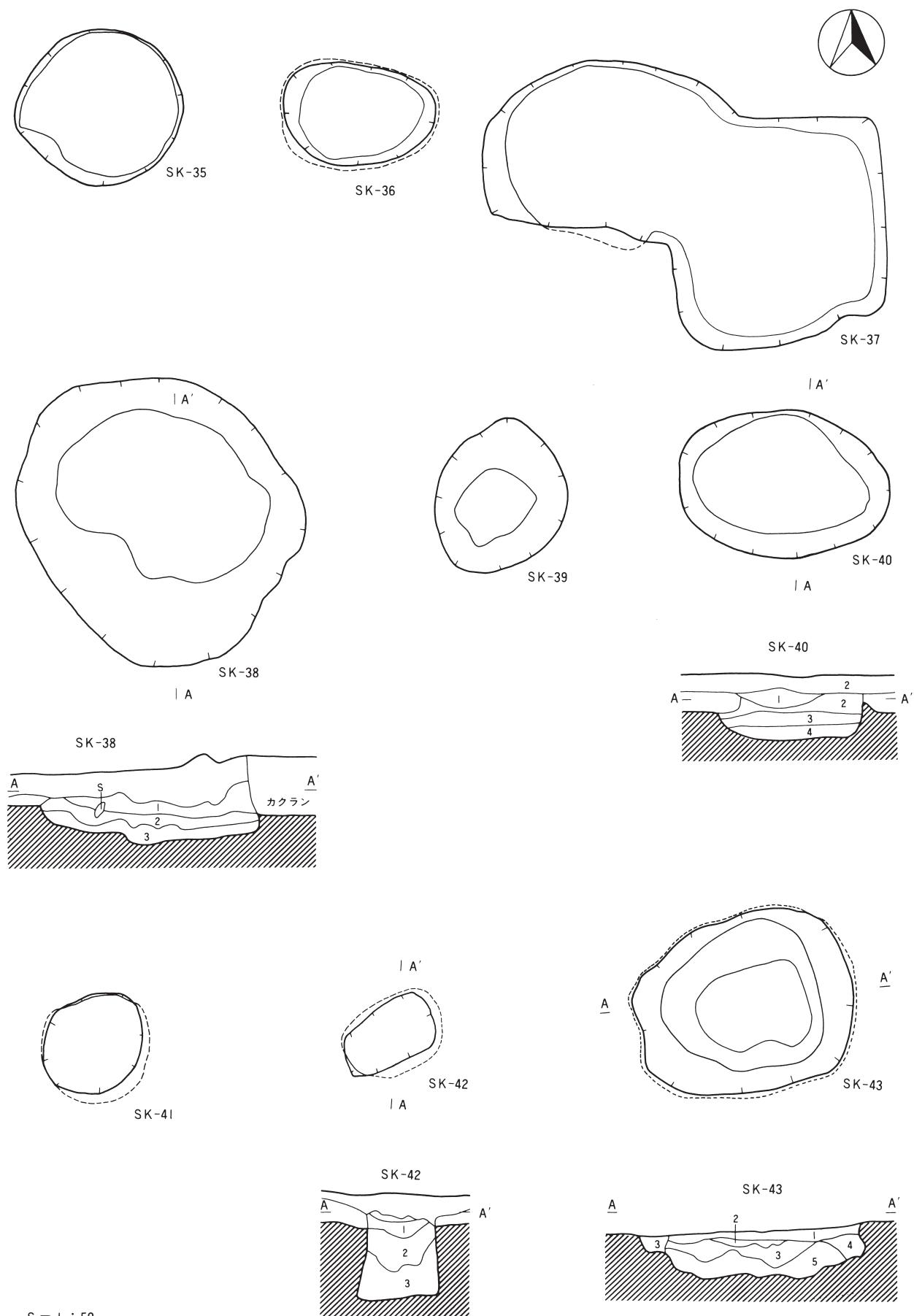


図69 A区土坑(6)(SK-35、36、37、38、39、40、41、42、43)

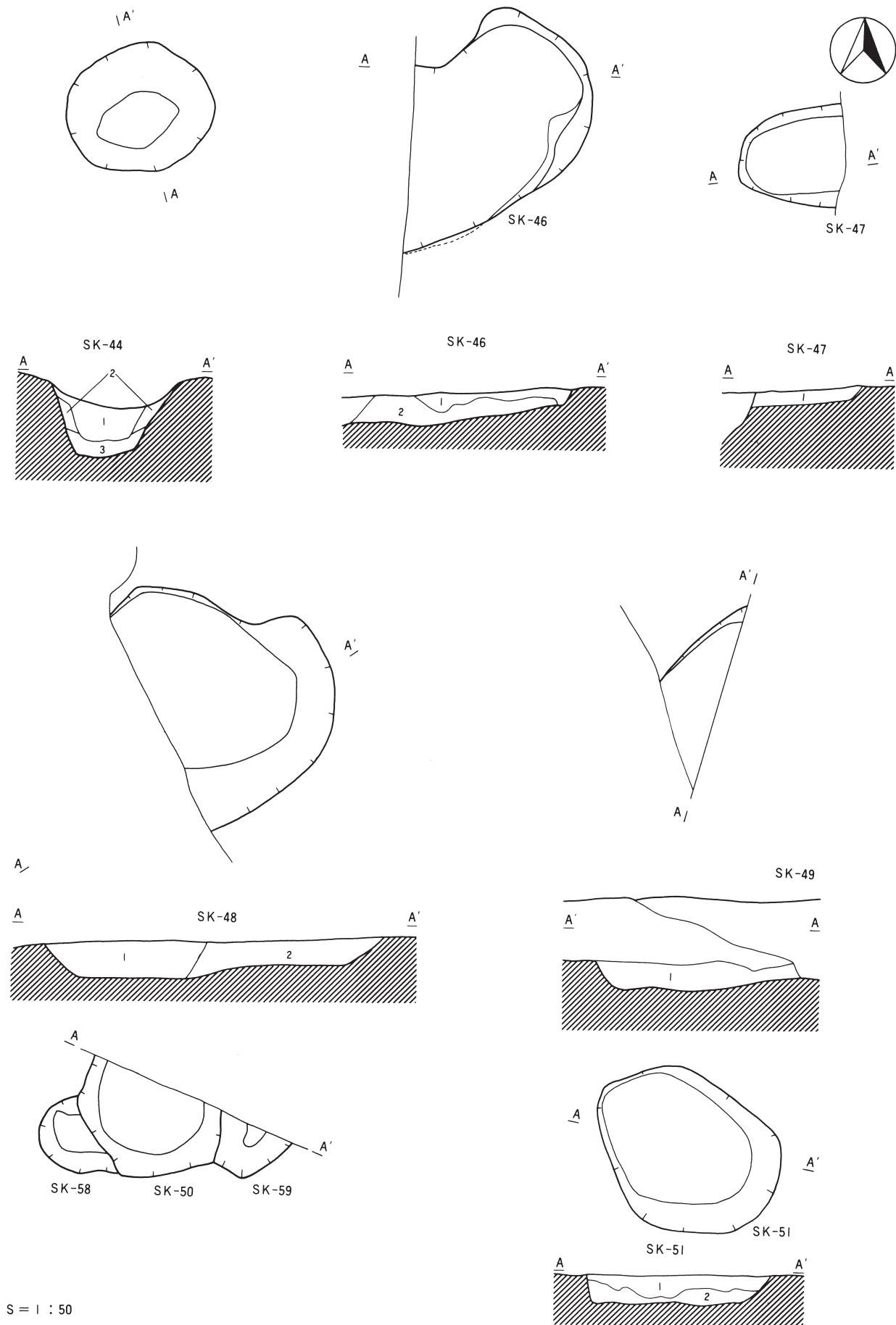


図70 A区土坑(7)(SK44、46、47、48、49、50、51、58、59)

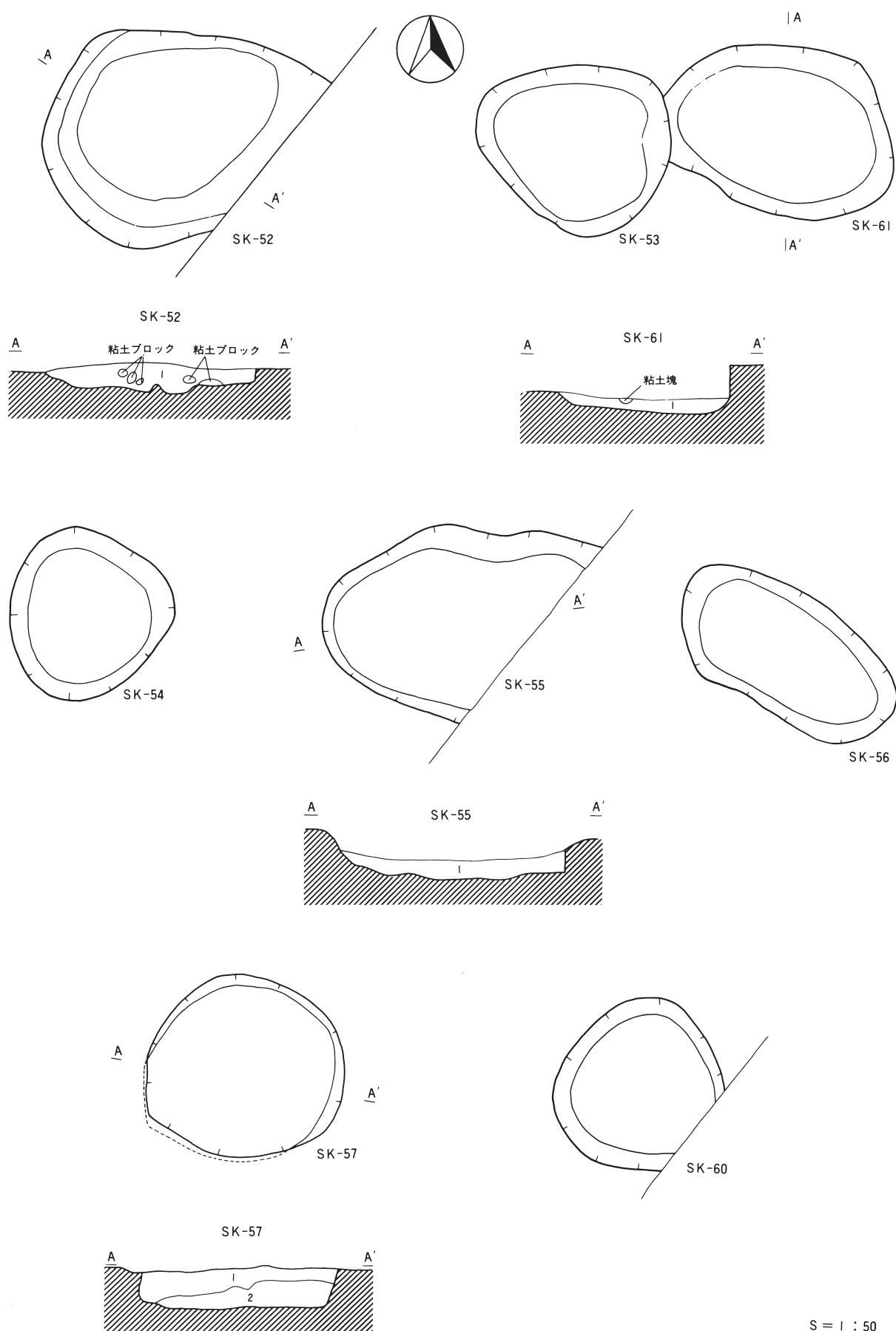


図71 A区土坑(8)(SK-52, 53, 54, 55, 56, 57, 60, 61)

S K I ~37				
1層 10YR2/3	黒褐色土主体	火山灰微量混入	A 区 S K 47	
2層 10YR2/2	黒褐色土主体	ロームブロック多量混入 10GY4/I暗緑灰色土微量 混入	1層 10YR2/2	黒褐色土主体 緑色粘土50%
3層 10G3/I	暗緑灰色土主体	黒色土微量混入	A 区 S K 48	
4層 10Y6/2	オリーブ灰色土主体	黒色土多量混入	1層 2.5Y3/I	黒褐色土主体 石(径30mm) 1% 10Y4/2オリーブ灰色粘土(径5mm) 1%
5層 10YR1.7/I	黒色土主体	泥炭層	2層 5Y2/I	黒色土主体 10Y5/2オリーブ灰色粘土 5% 2.5Y5/2暗灰黄色土10%
6層 10YR2/3	黒褐色土主体	粘土ブロック(10cm位) 混入		
7層 5Y2/I	黒色土主体	オリーブ黒色土多量混入	A 区 S K 49	
8層 7.5Y3/I	オリーブ黒色土主体	砂質土層 黒色土微量混入	1層 10YR2/I	黒色土主体 5GY6/I粘土塊(5cm) 10% 土師の カケラ混入(1個)
9層 10YR1.7/I	黒色土主体	粘土粒少量混入	A 区 S K 50	
10層 10YR2/I	黒褐色土主体	粘土ブロック多量混入 暗渠による攪乱がみられる	1層 10YR2/I	黒色土主体 5GY6/I粘土塊(5cm~10cm) 5%
11層 10YR2/2	黒褐色土主体	ロームブロック、粘土ブ ロック少量混入	A 区 S K 51	
12層 10YR2/I	黒色土主体	泥炭質 5層よりも纖維 質が多く含まれる	1層 10YR2/I	黒褐色土主体 5GY6/I粘土 1%
13層 10YR2/I	黒色土主体	灰の層	2層 10YR2/I	黒褐色土主体 5GY6/I粘土 5%
14層 10YR2/3	黒褐色土主体	粘土ブロックがマーブル 状に混入		
15層 2.5Y6/3	にぶい黄色土主体	粘土層 黒色土微量混入 鉄分含む	A 区 S K 52	
A 区 S K 38			1層 10Y2/I	黒色土主体 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土塊 1% 2層 10Y6/2
1層 10YR2/I	黒色土主体	10YR1.7/I黒色土ブロック(15cm大 大変な状態) 混入 火山灰 5%	A 区 S K 53	
2層 10YR1.7/I	黒色土主体	泥炭層	1層 10Y2/I	黒色土主体 10Y4/2オリーブ色粘土塊を5%含む
3層 10YR2/I	黒色土主体	粘土ブロック(15cm大) 1個 粘 土ブロック小 5%	A 区 S K 54	
A 区 S K 40			1層 10YR2/I	黒色土
1層 10YR2/I	黒色土主体	ロームブロック 5%	2層 10YR2/I	黒色土主体 5GY6/I粘土ブロック50% (最大塊20 cm)
2層 10YR1.7/I	黒色土主体	鉄分 1% 木片 1%		
3層 10YR2/I	黒色土主体	粘土ブロック 1% 木片 1%	A 区 S K 55	
4層 10YR1.7/I	黒色土主体	泥炭質 炭、粘土ブロック 1%	1層 10YR1.7/I	黒色土主体 7.5GY6/I緑灰色ロームブロック 20% 10YR2/2黒褐色土10% 木 片10%
A 区 S K 42				
1層 10YR2/I	黒色土主体	礫層 小ジャリが山のようにはいつ ている	A 区 S K 56	
2層 10YR1.7/I	黒色土主体	粘土ブロック 5% 木片 5%	1層 2.5Y2/I	黒色土主体 2.5Y2/3黄褐色粘土 1%
3層 10YR2/I	黒色土主体	泥炭層 粘土ブロック 10%	2層 2.5Y2/I	黒色土主体 10YR3/3暗褐色の木の 腐ったものが層状に混入
A 区 S K 43			3層 10Y6/2	オリーブ灰色粘土主体 5GY4/I暗オリーブ灰色粘 土 5% 1層の土が層状 に30%混入
1層 10YR2/I	黒色土			
2層 10YR1.7/I	黒色土			
3層 10YR2/2	黒褐色土主体	10YR4/I褐灰色土30%と10YR4/ 2灰黃褐色土20%がマーブル状に 混入	A 区 S K 57	
4層 10YR2/3	黒褐色土主体	10YR1.7/I黒褐色土塊(円形 径19cm) 混入	1層 10YR2/I	黒色土主体 5GY6/I粘土粒 1%
5層 10YR1.7/I	黒色土主体	7.5GY5/I緑灰色土粒30% 10 YR4/2灰黃褐色土20% 地山	2層 10YR2/I	黒色土主体 10YR4/2灰黃褐色砂塊(10cm) 2個
A 区 S K 44				
1層 10YR1.7/I	黒色土主体	粘土粒(3mm大) 1%	S K 59	
2層 10YR3/I	黒褐色土主体	礫(2mm程度) 少量 しまりあり	1層 10YR2/I	黒色土主体 10YR4/2灰黃褐色土塊(2cm位) 1%
3層 10YR2/I	黒色土主体	10Y2/6オリーブ灰色の粘土粒 (1~5cm大) 30%含む しま りあり	2層 10YR2/I	黒褐色土主体 5GY6/I粘土(5~10cm) 20% 10 YR4/2灰黃褐色土 5%
A 区 S K 45				
1層 10YR2/I	黒褐色土主体	5GY6/I粘土 5%		
2層 10YR2/I	黒褐色土主体	5GY6/I粘土塊(15cm) 2個		
A 区 S K 46				
1層 10YR2/I	黒色土主体	ローム粒 5% 粘性特に有り		
2層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム大塊25% ローム粒10% 粘性特に有り		

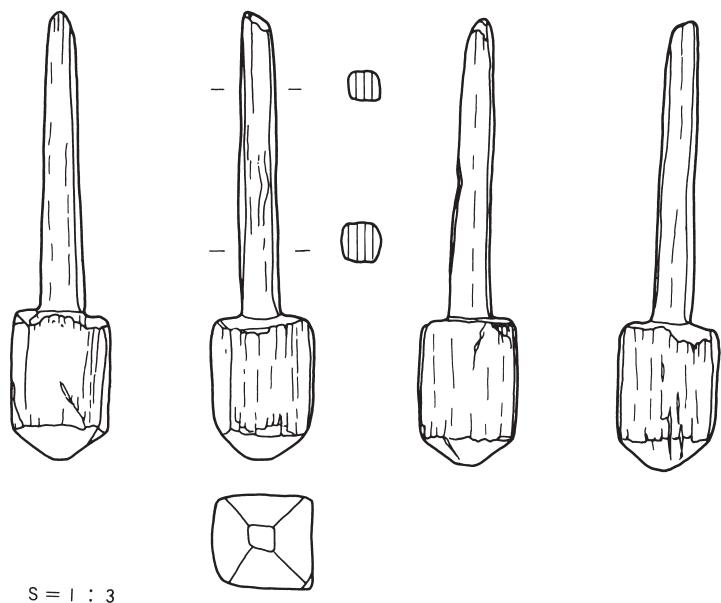


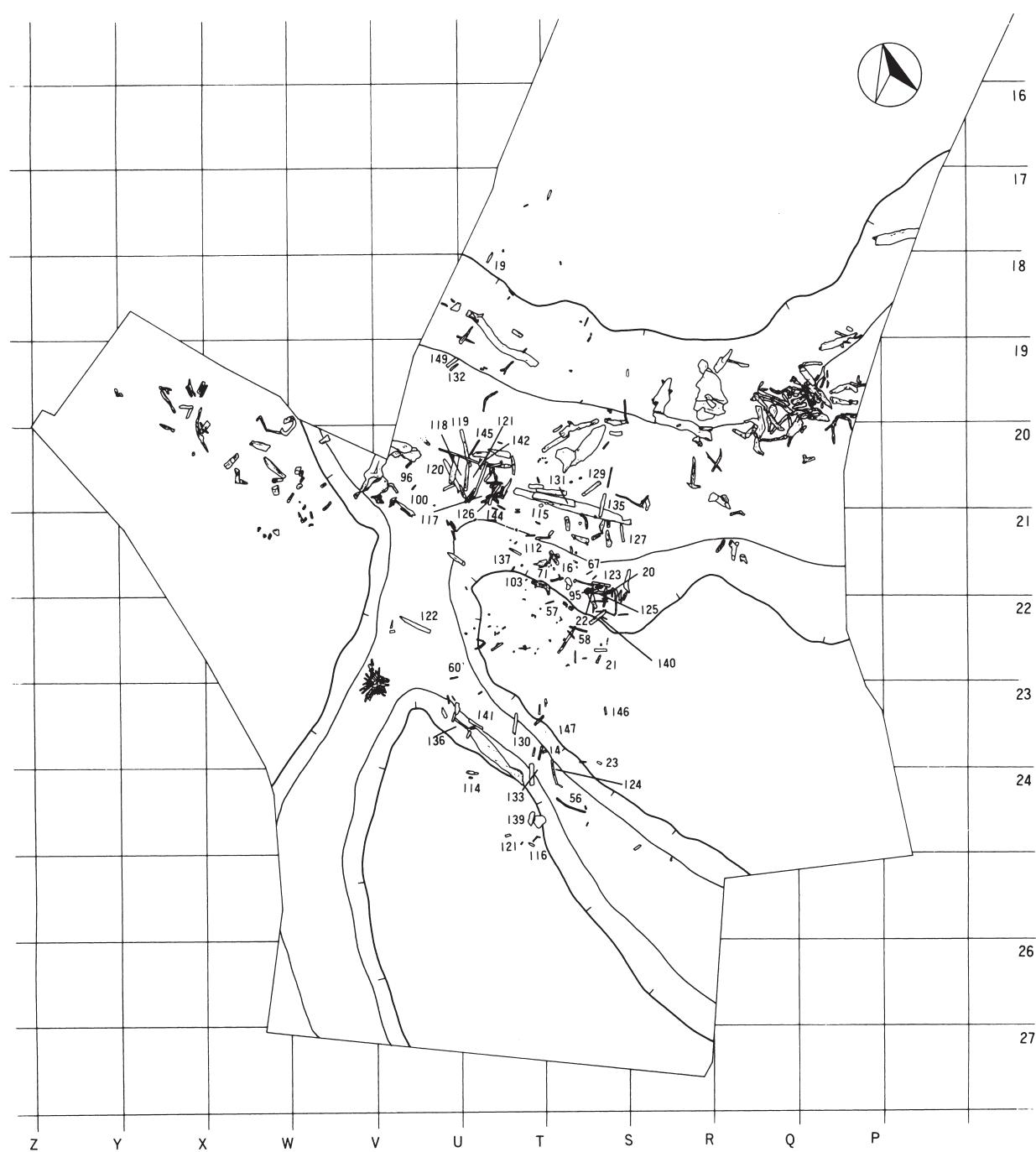
図72 A区 3号土坑出土木製品

第4節 流路跡

A区からは3条の流路跡が検出されている。第1号流路跡の北岸からは拳大前後の川原石が面的な広がりをもって確認されていることなどから、これらの流路は自然の流路であったものと思われる。川原石が堆積した頃はある程度の水流があったものと推定されるが、その後泥炭層が形成されていることから、ある時期から水流が途絶え、湿地化したものと思われる。湿地化した後も一時的には水流が回復した時期もあったようである。図示したのは最古段階の流路であるが、遺物が関連するのはむしろ湿地化した後のようにある。湿地化した範囲は旧流路とほぼ重複するが、その周辺部にまで及んでいる。図73に示した木製品、自然木の分布する範囲が湿地化の進んだ部分である。遺構を識別するのは土質の性格上困難であるが、旧流路を転用した水路、或いは湿田があつた可能性は考えられる。

出土した遺物は縄文時代から中・近世にかけてのものであるが、縄文時代、弥生時代の遺物はW-22~23グリッド周辺に多い。削平や盛土の影響で旧来の地形は不明確であるが、遺物の出土状況や堆積土の状況から、これらの遺物は、その南西部に位置する調査区外の微高地からの崩落土に包含されていたものと思われる。奈良・平安時代の土師器、須恵器等は顕著に集中する傾向は看取されないが、B区の遺構となんらかの関連を有するものと考えられる。木製品は時期を特定するのが困難であるが、加工の特徴等から中・近世にかけてのものが主体を占めるようである。木製品以外に自然木も確認されているが、V-23グリッド付近などでは横転した状態の木も確認されている。

湿地部分では、木製品やこれらの自然木、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器などが混然となつて出土しており、遺物の時代と層位の相関関係を見出すことはできなかった。



S = 1 : 300

図73 第1号流路跡周辺木製品出土状態

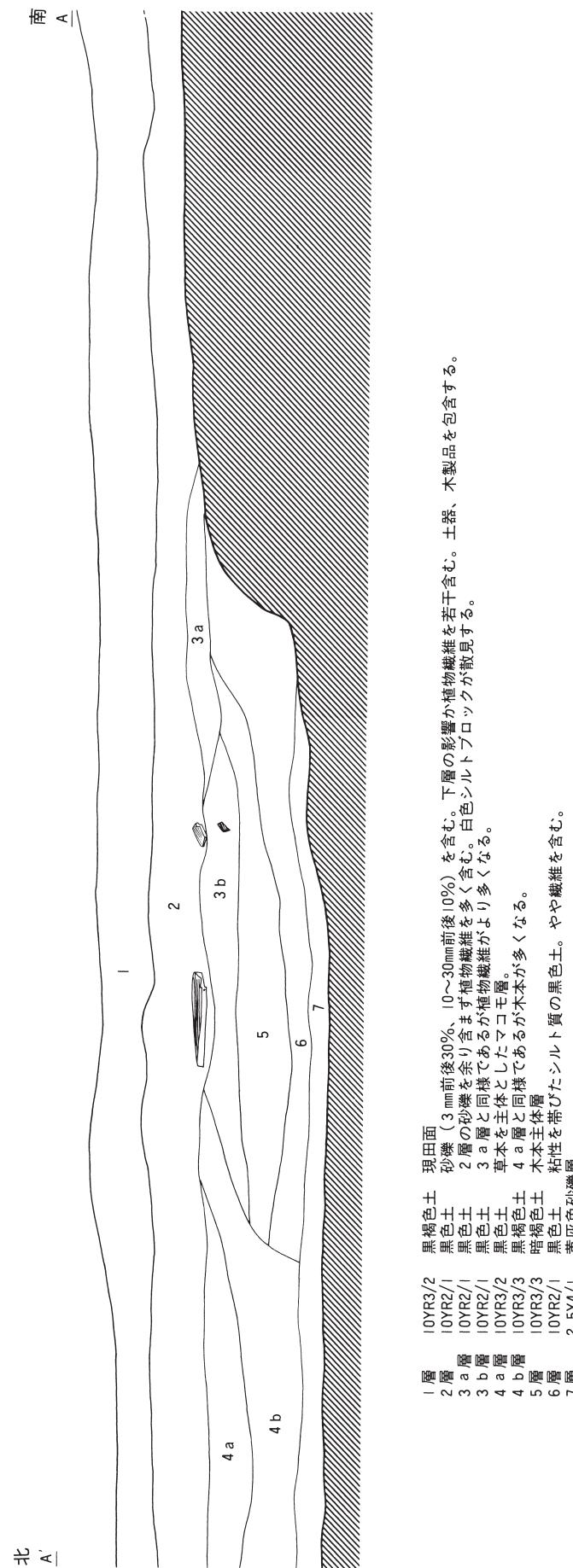


図74 第1号流路跡土層断面図

第5節 A区出土の縄文土器

A区から出土した縄文時代の土器は、時期的に広範囲であり、早期から晩期に至る。破片数はかなりの量であるが、復元できるものはほぼ無いに等しいため、器形的、法量のことなどは明らかではない。文様等をもとに I類～VII類に大別し、必要に応じてさらに細別した。

(I類) 縄文早期の土器 (図75-1)

底部の破片で1片出土している。尖底の深鉢形土器と推定される。縄文を横位に施文した痕跡がみられるが、磨耗が激しく縄文の原体は不明である。

(II類) 縄文前期の土器 (図75-2～7)

口縁部、胴部の破片で6片出土している。いずれも円筒下層d式に比定される深鉢と考えられる。器形は外反しながらも、ほぼ垂直に立ち上がる円筒形と考えられる。文様は、撚糸を押圧したものが多くみられる。中には、無節のLとRを押圧し、「ハ」字状の文様を構成しているもの(図75-2、7)もある。また、口縁部下よりには隆帯が設けられ、隆帯上は棒状工具などで刺突された文様が施されている(図75-2、3、5、6、7)。地文は、無節のR-L縄文(図75-4、6)、単節のR-L縄文を羽状に施文している(図75-2)ものがみられる。

(III類) 縄文中期の土器 (図75-8)

破片で1片出土している。時期的には、大木10式に併行するものと考えられる。器形は、底部から胴部にかけてはやや外反して立ち上がり、胴部から口縁部に向けてはほぼ垂直に立ち上がる深鉢形と考えられる。文様は、「J」字状の文様を連続して施文している。地文は、単節のL-R縄文を斜位に施文している。

(IV類) 縄文後期の土器

縄文後期に比定される土器片の数は一番多く、時期的にもいくつかの段階に分かれる。よって、十腰内I式に先行する後期前葉と思われる土器(A類)、十腰内I式に相当する土器(B類)、十腰内II式に相当する土器(C類)、十腰内II式以降(III前後)と思われる土器(D類)に細分した。

IVA類

後期前葉と思われる土器は、破片で7片出土している。弥栄平(2)遺跡第IV・V群(青森県教委・1984)に相当する土器をIVA1、沖附(2)遺跡第III群(青森県教委・1986)に相当する土器をIVA2、その他をIVA3とする。

IVA1類 (図75-16～19)

口縁部の破片が1片、胴部の破片が3片出土している。器形は、口縁部がやや外反する深鉢形と推定できる。文様は沈線文のみで、いずれにも渦巻状のものが施文されている。地文は単節のL-R縄文が斜位に施文されているものが1片で(16)、他は磨り消されていると思われる。

IVA2類 (図76-20～21)

口縁部・胴部の破片が、それぞれ1片ずつ出土している。器形は、口縁部がやや外反する深鉢形と推定できる。文様は、どちらにも三角状に区画するような沈線文がみられ、区画内は磨り消されているのが特徴である。地文は、単節のL-R縄文を斜位または縦位に施文している。

IVA 3類 (図75-9~15)

口縁部の破片が2片、胴部の破片が5片である。この内、9と10は同一個体と思われる。いずれも深鉢の1部分と考えられる。文様は多種多様で、曲線的な隆帯を有し、隆帯上には刻目を施文しているもの(9、10)、入り組んだ沈線で区画をし、区画内を磨り消しているもの(12、13、15)、竹管状の工具で刺突した文様があるもの(14)、条痕なのか工具を使用したのか明らかではないが、多条の交差した線文があるもの(11)がみられる。

IVB類 (図76-22~37、図77-38~41)

十腰内I式に相当する土器は、破片で20片出土している。器形は、壺とわかるものが1点、後はほとんどを深鉢としているが(観察表)、明らかに深鉢とわかるもの以外は、壺や鉢の破片であることも考えられる。

壺は現存器高が約9cmの小型なものである(図76-24)。文様は、平行沈線とその上位には牛の角状の沈線が施文されている。沈線区画内のみに縄文が残り、その他の部分は磨り消されているようである。

深鉢は、口縁部が外反するもの(図76-22、25、27、29、30、32)、ほとんど外反しないもの(図76-23、26、28、31)に分かれる。また、波状口縁のもの(図76-29、30、31、32)、頸部がすぼむような器形もみられる(38)。文様は、平行沈線を施文するものがほとんどである。それ以外にみられる文様としては、渦巻状の沈線文を施文しているもの(図76-22、図77-38)、横に長い円形状の沈線文を施文しているもの(図76-23、26、31、33、34、37、図77-41)がある。また、ほとんどが磨消縄文だと思われる。

IVC類 (図77-42~53、図78-54~65)

十腰内II式に相当する土器は、破片で26片出土している。その内、同一個体と思われるものは、(図77-44・45)、(図77-51・52・53)、(図78-54・55・57)、(図78-56・60・62)、である。器形は全て深鉢になると思われるが、破片の小さいものなどは他の器形になることも考えられる。口縁部は平坦なもの(図77-42、46、47、48、49、51、52、53、図78-54、55、57)、大波状のもの(図77-43、44、45、50、図78-56)に2分される。平坦な口縁のものはそれほど外反せず、大波状のものは、強く外反すると考えられる。文様は平行沈線を基本とした、磨消縄文がほとんどであるが、それぞれバリエーションを加えている。平行沈線上に「S」字状の縦位沈線を加えているもの(図77-43、47)、平行沈線間に小円状の沈線文を加えているもの(図78-54、55、57)、平行沈線間に鋸歯状の沈線を、多条な単位で施文しているもの(図78-56、60、62)、平行沈線を利用して、長円形状の沈線文が連なる形で施文しているもの(図77-44、45)がみられる。また、口唇から口縁上位にかけて文様を施文しているものもあるが、IVC類の中では4片のみである(図77-50~53)。底部は、斜位に立ち上がるもの(図78-61)と垂直に近い形で立ち上がるもの(図78-63、64、65)に分かれる。後者は、大波状口縁のものとセットになると思われる。

IVD類 (図78-66~69、図79-70~78)

十腰内II式以降（III前後）と思われる土器は、破片で14片出土している。器形は深鉢・壺・注口・台付土器などがみられる。

深鉢は、波状口縁でほぼ垂直に立ち上がる器形のもので、地文のみの簡素なもの（図78-68、69、図79-73）、同じような器形で、文様を有するもの（図79-72、75、77）に分かれる。

壺は、肩が強く張るもの（図78-66）や、狭口のもの（図78-67）小型なもの（図79-71、74、76）に分かれる。内外面とも丁寧に磨き調整されているのが特徴である。

注口土器は、いわゆる牛乳瓶形のもので、胴部中央部よりやや下に、注ぎ口穿孔の痕が確認できる（図79-70）。文様は、波状の沈線文を施し、間隔をおいて磨り消されている。

台部が1片出土している（図79-78）。台上には鉢や杯状のものがくると予想できる。文様は、上位に沈線を施しているが、台下端までを丁寧に磨き調整しているため、ほとんど磨り消されている。台下端はR-Lの縄文を施している。

（V類）縄文晚期の土器

縄文晚期の土器は、時期的に言うと晩期前葉から中葉にかけての、前半期に比定されるものが多く出土している。分類にあたっては、大洞B式に相当する土器（A類）、大洞BC式に相当する土器（B類）、大洞C1からC2に相当する土器（C類）に細分した。

VA類（図79-79～80）

大洞B式に相当する土器は、口縁部と台部の破片で2片出土している。

口縁部の破片（図79-79）は鉢形土器の一部と思われるが、台を有する可能性もある。器形は、外反する波状の口縁を有し、頸部より下は肩の張らない碗状を呈すると推定される。文様は、口唇に刻目を入れ、口縁部から頸部にかけては、B式特有の三叉状入組文が施文されている。

台部の破片（図79-80）は、台付土器の一部であり、上に鉢形か杯形のものが乗ると考えられる。台は斜位に強く傾き、円状と三角状の透かし彫りを有している。文様は、円状の小穴から三角状の小穴に向かう斜位の沈線と、台下端に沿っての沈線が施文されている。

VB類（図79-81～94、図80-95）

大洞BC式に相当する土器は、破片で15片出土している。器形は、深鉢・鉢・壺がみられる。

深鉢の一部と思われる破片は2片出土している。器形的には、ほぼ垂直に立ち上がり、口縁部が若干内側にすぼむもの（図79-83）と、口縁部がやや外反するもの（図79-88）に分かれる。文様は、83は地文のみであるが、口縁部には小突起が貼付けされている。88には、平行沈線や円状沈線文などの文様がみられる。

鉢型土器の一部と思われる破片は12片出土している。器形的には、口縁部がほぼ垂直に立ち上がるものの（図79-81、84）、口縁部が外反し、肩が張るもの（図79-82、85、86、87、89、90、91、92、93、図80-95）に分かれる。なお、いずれの破片も台部を有する器形になる可能性は高い。文様は、ほとんどが口唇部に切り込みか刻目を有し、口縁部に小突起を有するもの（図79-82、85、93）BC式特有の羊歯状文を施文しているもの（図79-81、86、87、91、93）、雲形文を施文しているもの（図79-84）などがみられる。地文は、単節のR-LかL-R縄文が斜位に施文されており、希に無節の縄文もみられる（図79-89、92）。

壺形土器は、破片で1片のみ出土している(図79-94)。肩部から胴部にかけての破片であることはわかるが、全体の器形は明らかではない。文様は、雲形文の一部思われるものが確認できる。

V C類 (図80-96~98)

大洞C1からC2に相当する土器は、破片で3片出土している。いずれも口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、肩部のみが張るような鉢形と推定できる。文様帶もV B類と大差なく、よりB C式に近い時期のものと考えることができる。

(VI類) 時期不明の土器片

全くの無文であったり、地文のみのもので、その破片からは時期を特定できないものを集めた。破片数で約60点にもなるため、無文・地文のみの口縁から胴部の破片(A類)、無文・地文のみの土器底部(B類)、無文・地文のみの台付土器底・台部(C類)に細分してみた。

VIA類 (図80-99~図82-130)

地文のみの口縁部破片は20片になる。器形的には、口縁部が内側にすぼむもの(図80-99、100、102、103、104、107、図81-115、116、117)、垂直または、やや外反するもの(図80-101、105、106、図81-113、114、118、119、120、121、122、123)に分かれる。地文のみの胴部破片は9片になり、すべて深鉢の胴部と推定される。地文は、ほとんどが単節のR-L縄文かL-R縄文を斜位に施文しているが、中には横位に施文しているもの(図81-114、116、123)、縦位に施文しているもの(図81-117)もみられる。

無文の口縁部破片は3片で、いずれも深鉢形と考えられる(図80-110、111、112)。小穴を穿孔しているものもみられる(図80-112)。

VIB類 (図82-131~図83-162)

地文のみの底部破片は13片になる。ほとんどが深鉢の底部になると考えられる。地文は、単節のR-L縄文かL-R縄文を斜位に施文しているものが多い。無文の底部破片は19片になる。これも、ほとんどが深鉢の底部になると思われる。底面に網代痕がみられるものもある(図82-131、133、135)。

VIC類 (図83-163~170)

地文のみ、又は無文の台付土器形底部および台部破片は、全部で8片出土している。地文のみといっても、ほとんどが磨耗しており、その原体は明らかではない。台高は2~5cmの範囲内に収まる。器形はほとんどが「ハ」字状にひらくものとなっている。

(VII類) ミニチュア土器 (図83-171~173)

ミニチュア土器は3点出土している。器形は3点とも「おちょこ」形で、器高は約2.5~5cmの範囲内である。底部は、平底のもの(図83-171)と丸底のもの(図83-172、173)がある。また173は、割れ口から判断して、ひしゃくの柄のようなものが付随すると推測できる。171は、内面に黒色の有機物(漆かアスファルト)が付着している。

(新山 隆男)

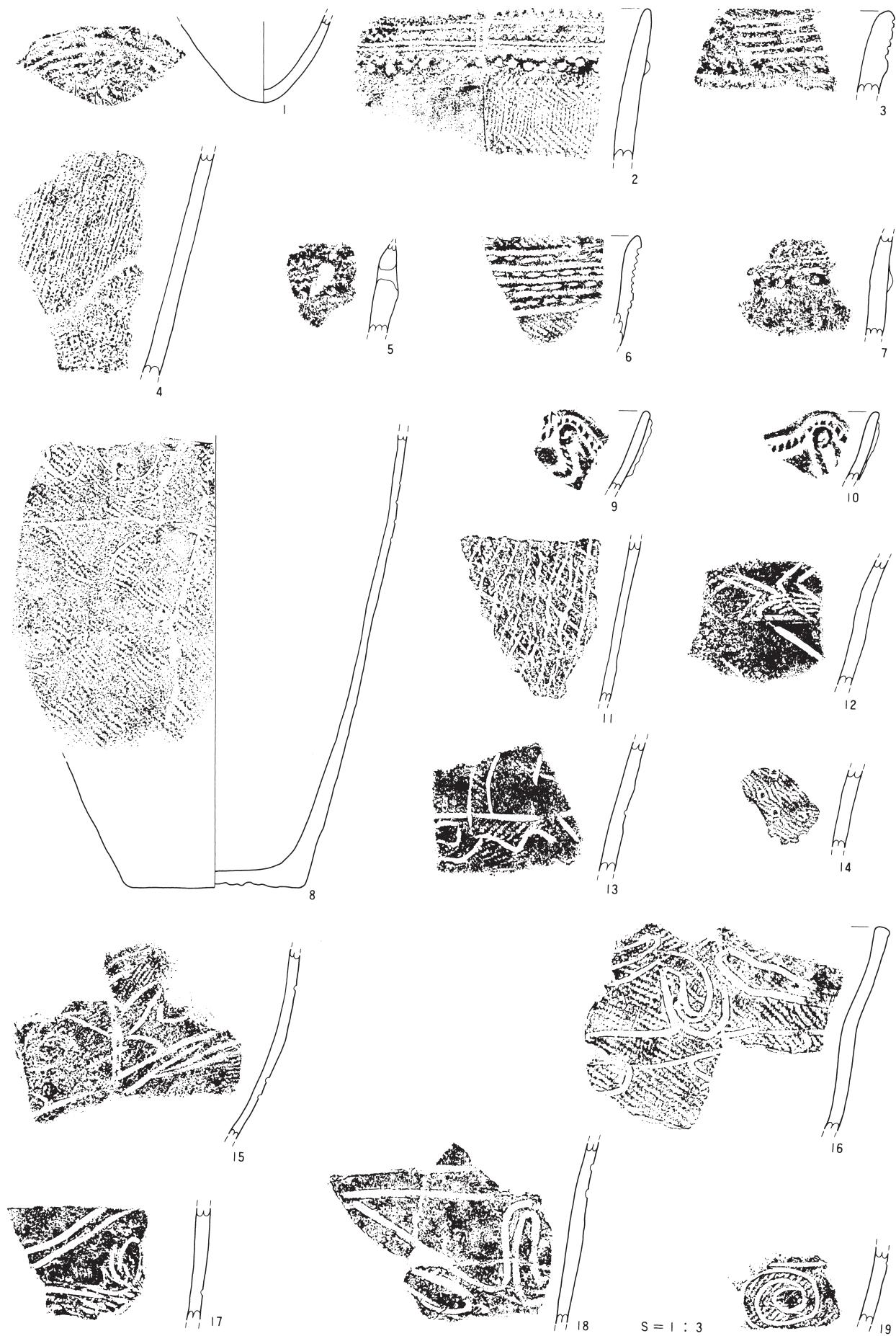


図75 A区出土縄文土器 (1)

$S = 1 : 3$

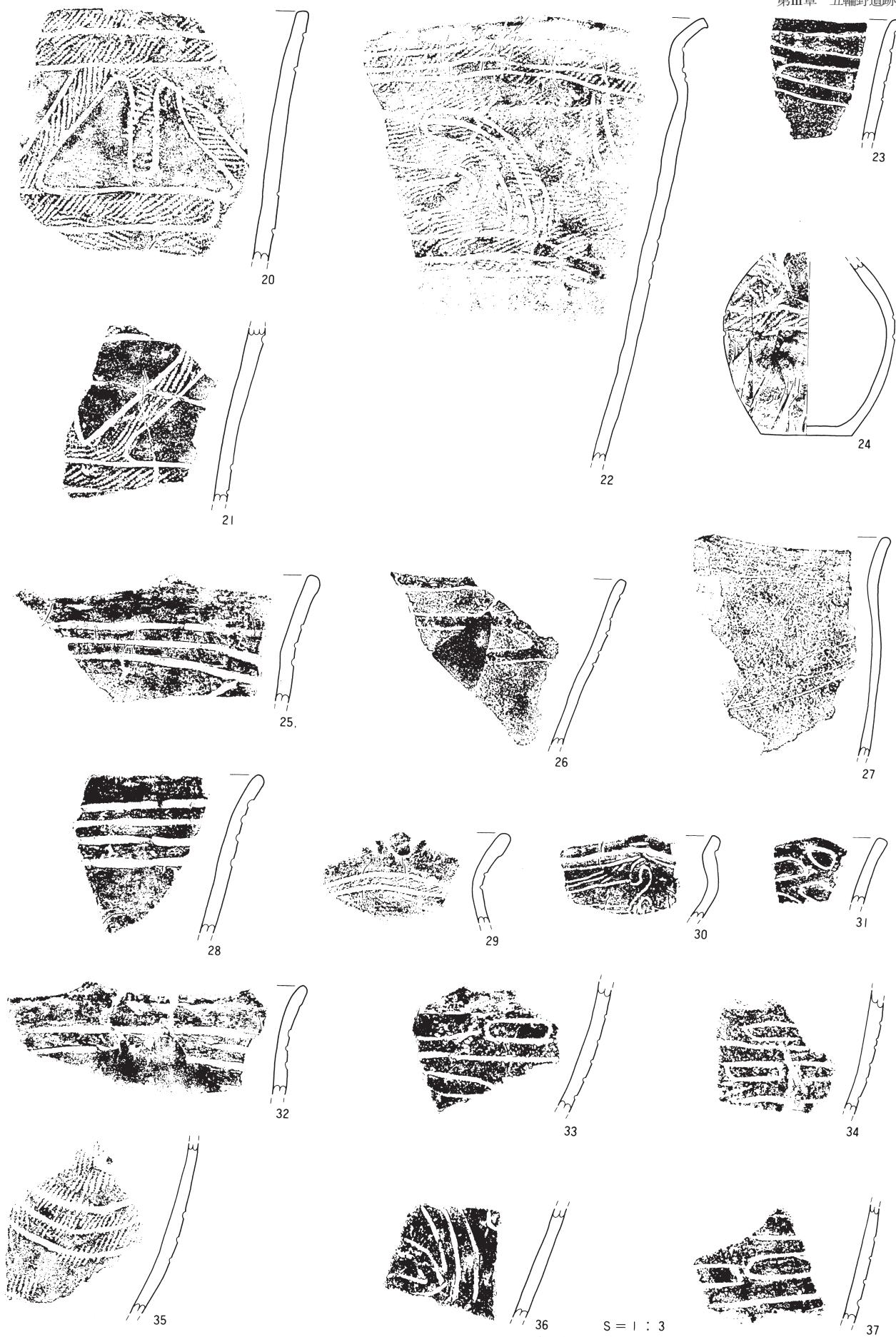


図76 A区出土縄文土器 (2)

S = 1 : 3

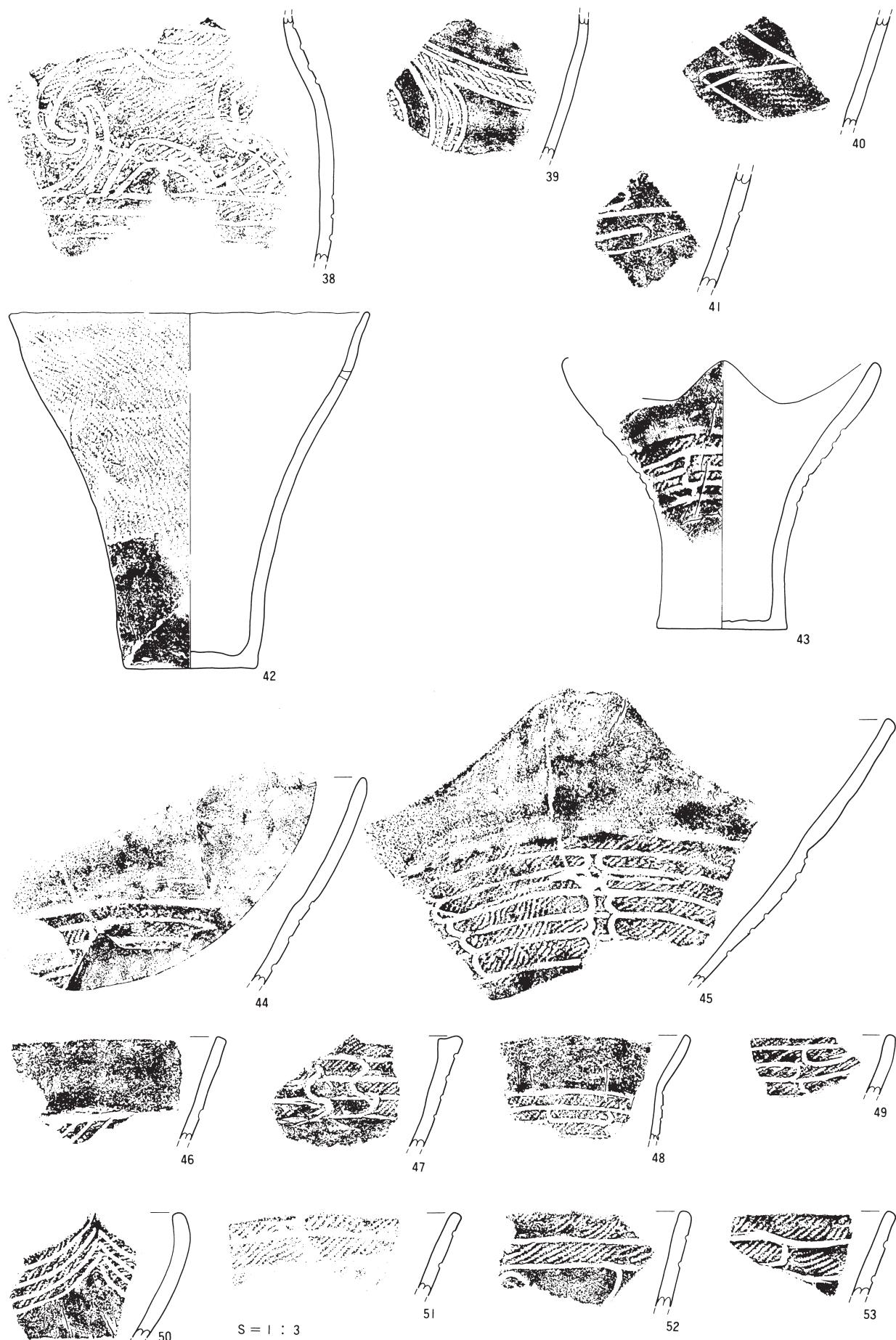


図77 A区出土縄文土器（3）

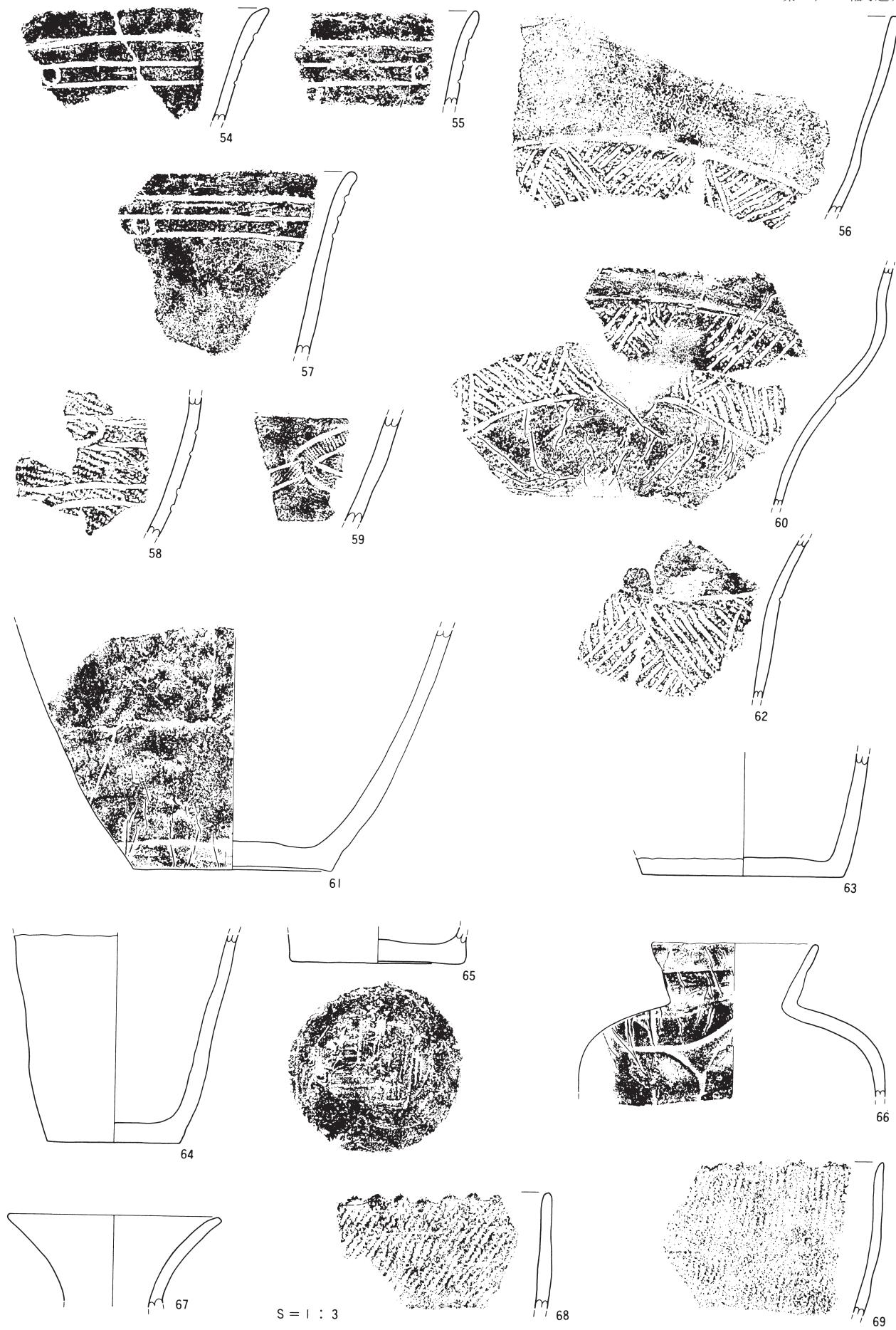


図78 A区出土縄文土器 (4)

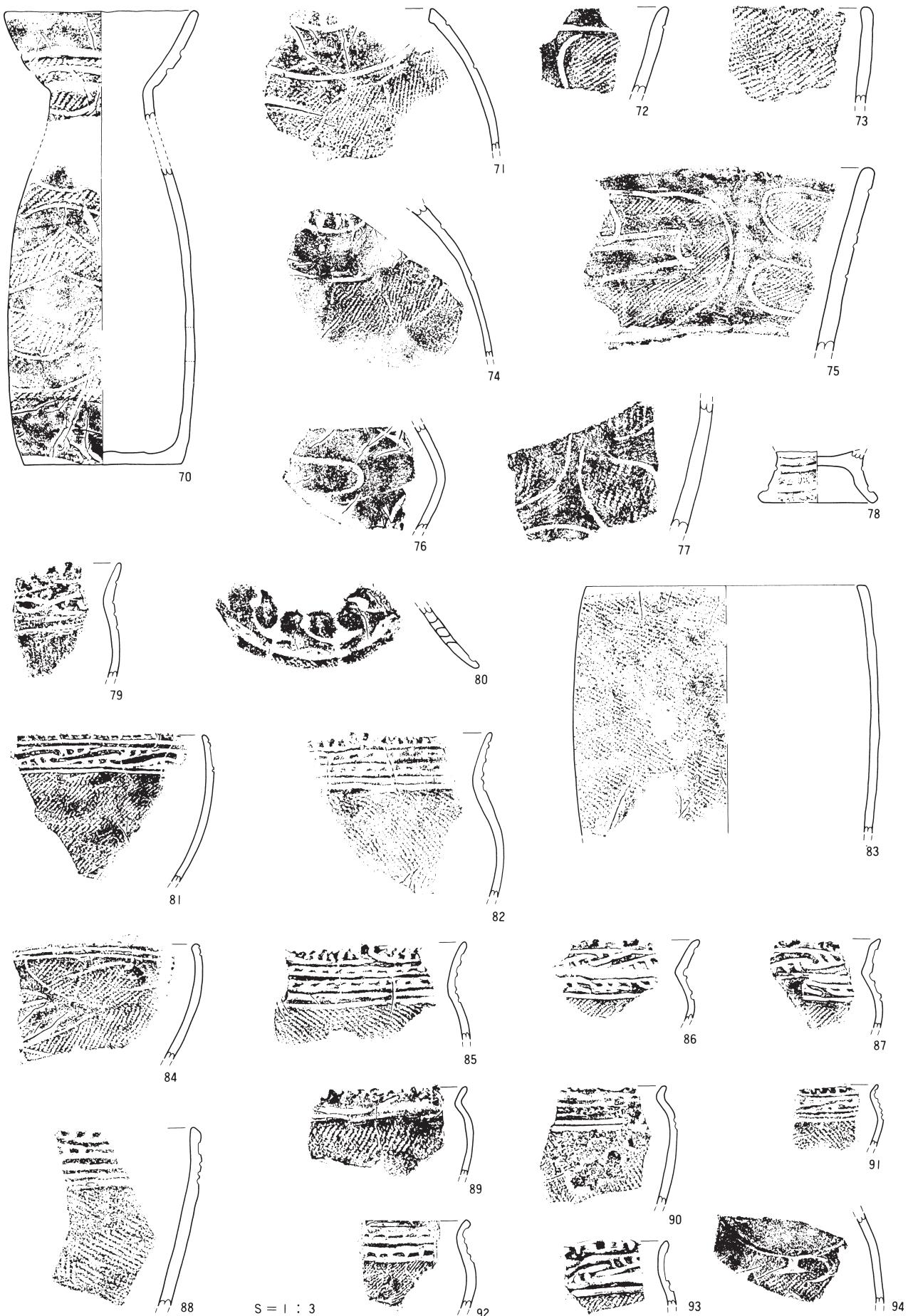


図79 A区出土縄文土器 (5)

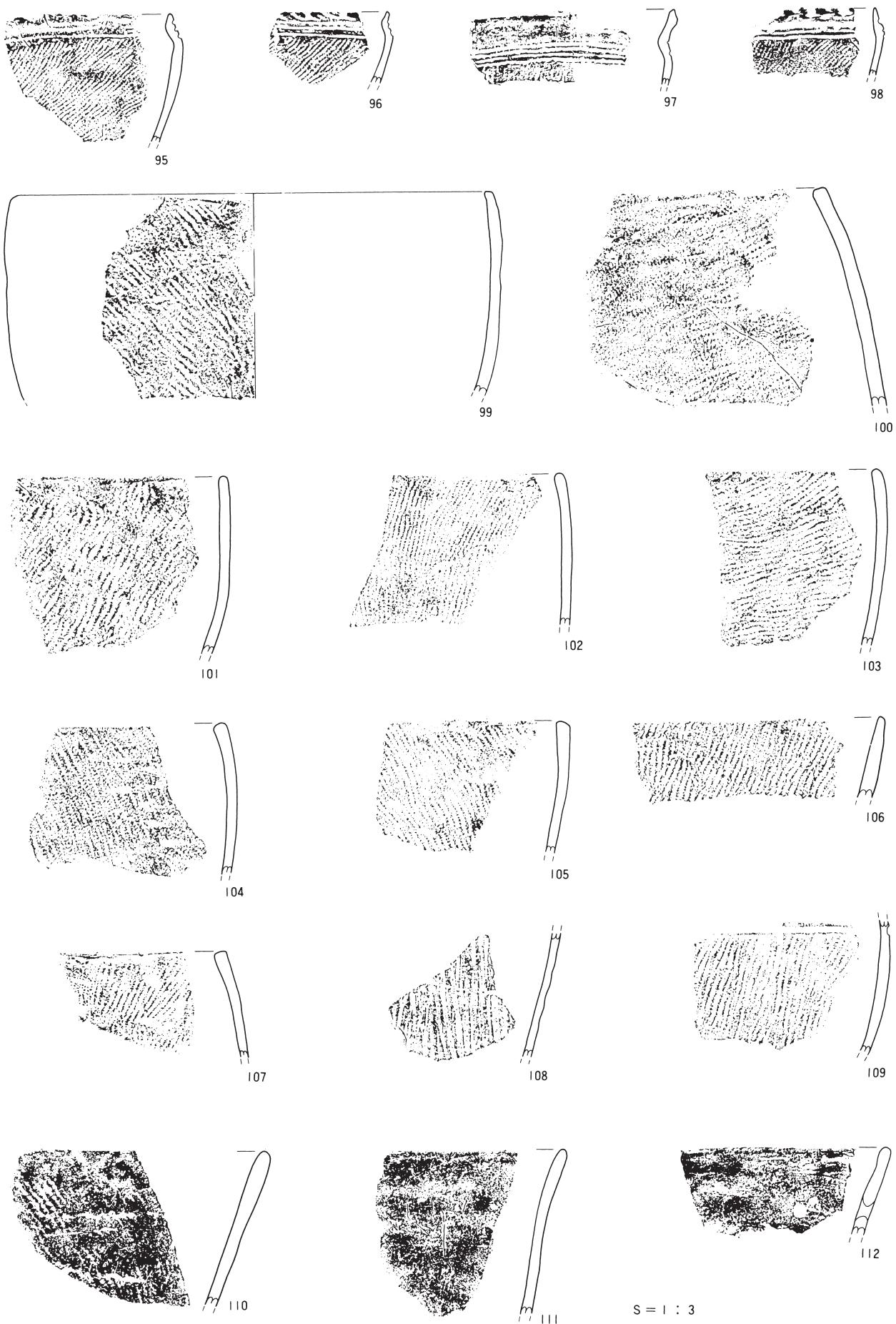


図80 A区出土縄文土器 (6)

S = 1 : 3

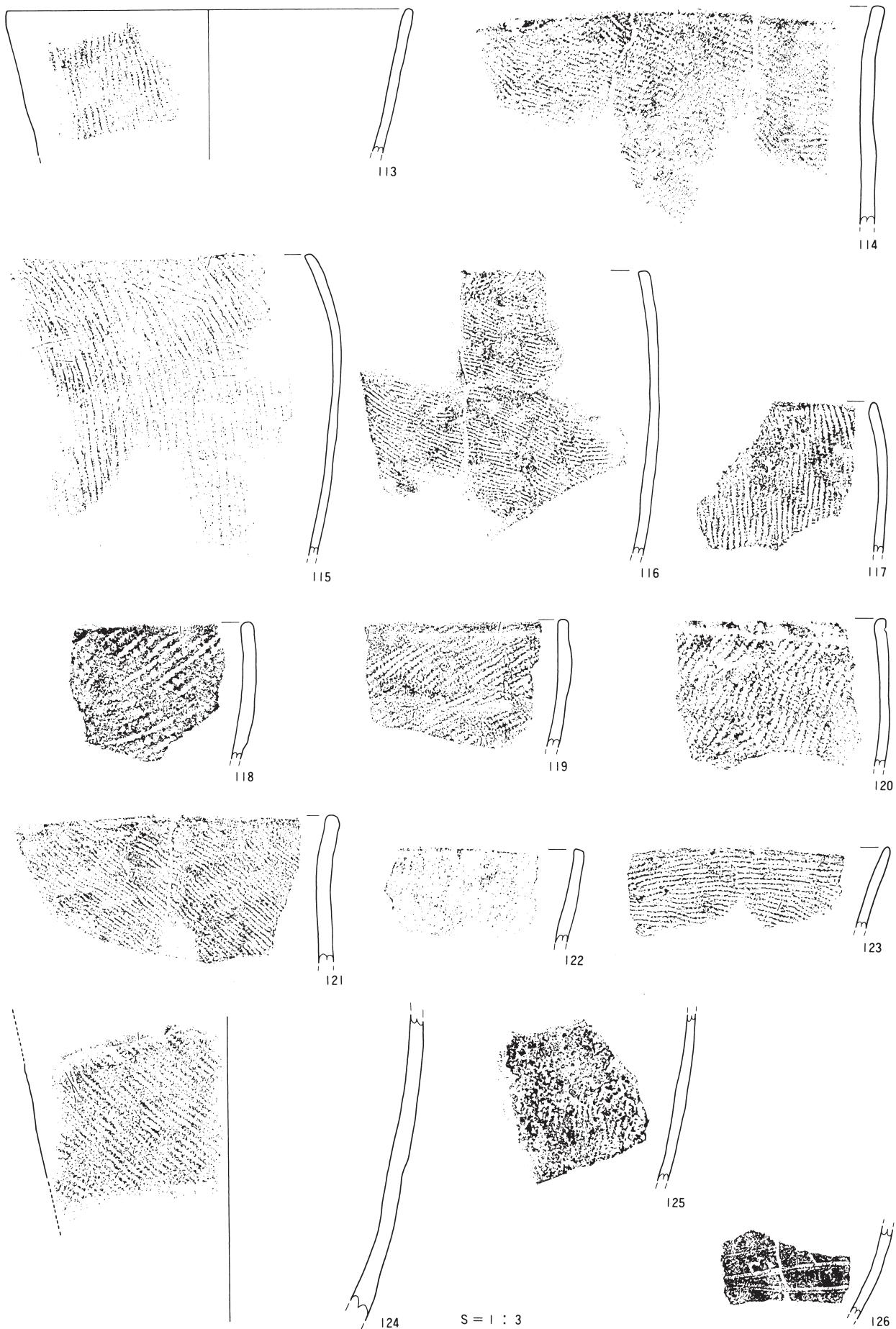


図81 A区出土縄文土器（7）

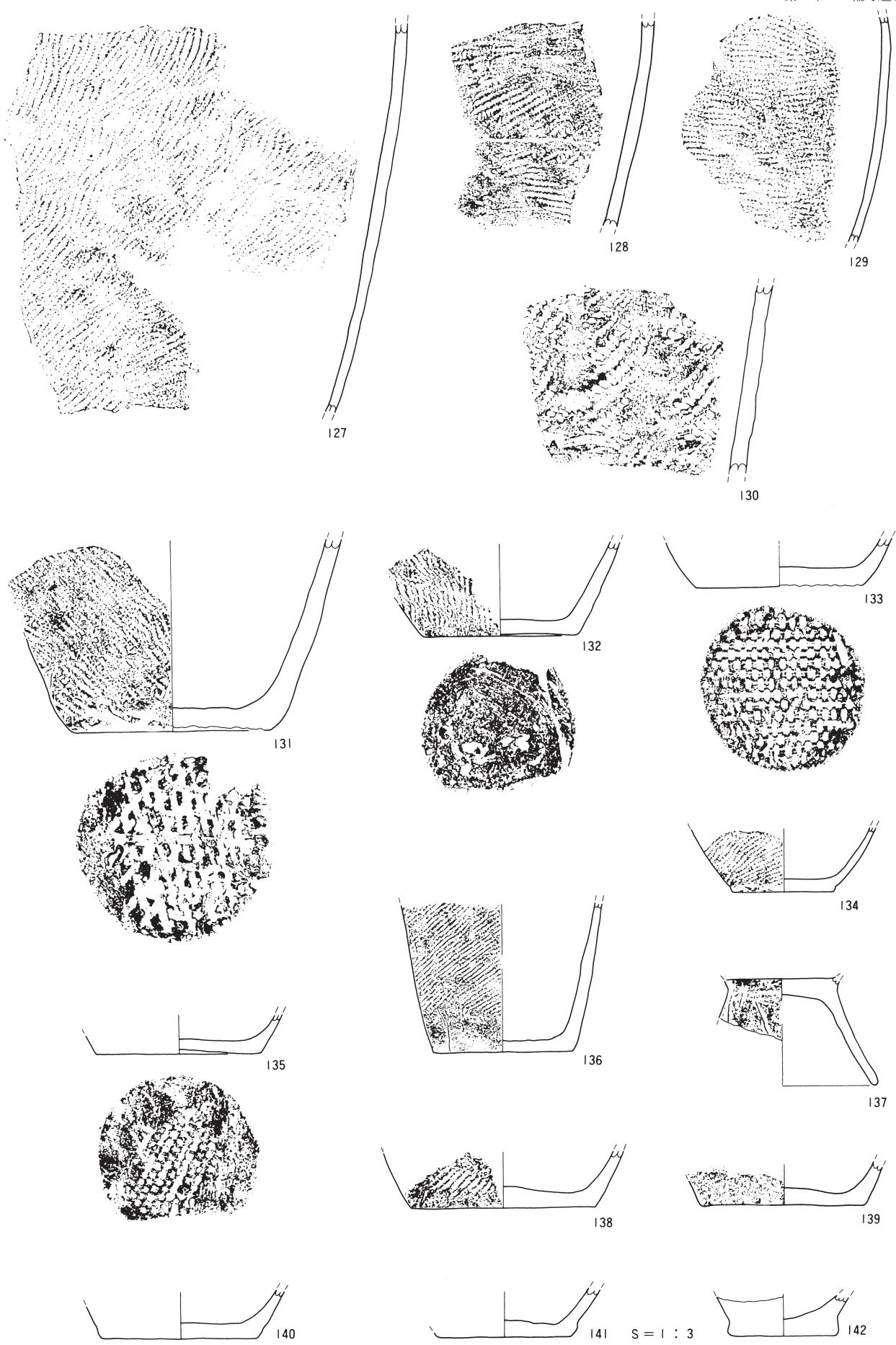


図82 A区出土縄文土器 (8)

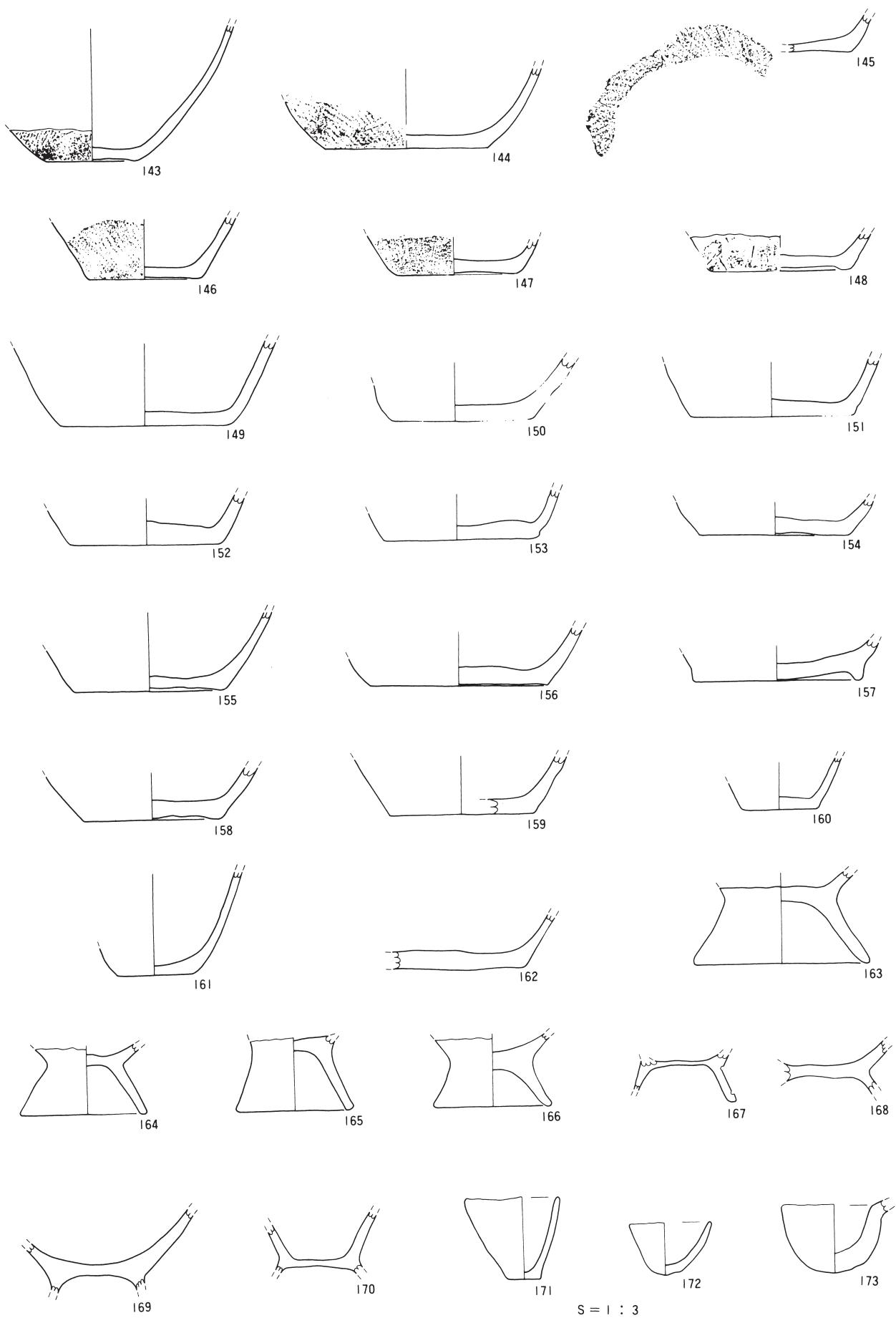


図83 A区出土縄文土器 (9)

第6節 A区出土の弥生土器

復元個体が少なく、器形の明らかでないものが多数である。分類においても、はっきりとした時期的分類とまではいかないが、わずかな文様と頸部の変化等からI類からV類に大別し、必要に応じてさらに細別した。

(I類) 砂沢式～五所式に比定される土器 (図84-1～7)

破片で7片出土している(図84-1～7)。いずれも壺の破片と考えることができる。口縁部を有する破片は2片のみで、口縁上位の内外面に横位沈線を施文しているもの(図84-1)、「無頸壺」・「短頸壺」の類に含まれ、2個1対と思われる小穴が穿孔されているもの(図84-4)が見られる。また、横位沈線上に粘土粒の貼付けをしているもの(図84-2、7)、工字文を施文しているもの(図84-3、4、5、6)が見られる。工字文は単純なもので、変形的なものは見られない。地文は、単節のR-L縄文を斜位に施文しているものが多い。

(II類) 五所式～井沢式に比定される土器 (図84-8～9)

破片で2片出土している。1片は皿状の鉢と思われるもので、形状から台を有すると考えられる(図84-8)。波状の口縁を有し、工字文に加えて変形の工字文も施文されている。

もう1片は、台付鉢か高坏の台部である(図84-9)。台高はおよそ5cmで、中位には三角状の透かし彫りが施されている。また、多条の横位沈線と斜め沈線の交点には粘土粒の貼付け痕が確認できる。

(III類) 井沢式に比定される土器

井沢式と思われる土器片は、いくつかの器形に分かれるため、甕形土器(A類)、壺形土器(B類)、鉢(台付)形土器(C類)としてまとめた。

III A類 (図84-10～17、図85-18～22、図86-24)

甕形土器は、平坦な口縁で強く外反し、肩部で大きく内湾するもの(図84-10～17、図85-19、図86-24)と、平坦な口縁で緩く外反し、肩部はそれほど張らないもの(図85-20～22)に器形的には分かれる。文様帶は、数条の横位沈線のみのもの(図84-12、13、15、図85-18、22)、横位沈線の他、列点文を1～3列施文したもの(図84-10、11、14、16、17、図85-19、20、21、図86-24)の2種類に分けられる。地文は、図84-12が単節のL-R縄文を斜位に施文している他は、単節のR-L縄文を斜位、または縦位に施文しているのがほとんどである。また、口唇部から縄文を施文しているのが特徴的である。

III B類 (図85-23、図86-25～33)

壺形土器は、文様、地文を有するもの(図85-23、図86-25～30)、文様のみのもの(図86-31～33)に分けられる。文様帶は、数条の横位沈線と列点文が施文されているものがほとんどで、甕形土器と大差はない。中には小穴が穿孔されているものもある(図86-28)。地文は、単節のR-L縄文を斜位、または縦位に施文している。文様のみのものは、数条の横位沈線が確認できるが、図86-31は無文で、沈線を確認できない。

III C 類 (図87-34~39)

III C 類は、鉢形土器としているが、その形状からほとんどに台を有すると推定できる。口縁部は小波状のもの(図87-34、36同一個体)、山形突起を有し突起頂部が2~3に分割され、その他の口唇部は刻目が施されているもの(図87-35、37同一個体、39)、平坦なもの(図87-38)に分けられる。文様は、横位沈線、山形突起に沿った波状の沈線が、全ての内外面に施文されている。頸部から肩部にかけての横位沈線上に、2個1対の粘土粒が貼付けられているものも見られる(図87-37)。地文は単節のR-L繩文を、縦位に近い形で施文している。また、内面は丁寧な磨き調整がなされていることも特徴的である。

(IV類) 井沢式~田舎館式(宇鉄II式含む)に比定される土器

破片で11片出土しているが、器形的には多種に及ぶため、甕形土器(A類)、長頸甕形土器(B類)、壺形土器(C類)、小型甕(ミニチュア)形土器(D類)、蓋形土器(E類)としてまとめた。

IV A 類 (図87-41~43)

甕形土器は、同一個体と思われる破片が3片出土した。平坦な口縁でそれほど外反せず、肩部もそれほど張らない器形と思われる。文様は、口縁部上位の内外面に横位沈線を施文し、肩部に3条の横位沈線と、先端が丸い棒状工具で押し引いた列点文を1列施文している。地文は単節のR-L繩文を縦位に施文している。

IV B 類 (図87-44~45)

宇鉄II式と思われる、長頸甕の破片が2片出土した。2片は同一個体と考えられる。短く平坦な口縁で、ほぼ垂直に立ち上がる頸部を有する。文様は、数条の横位沈線と波状文が見られる。地文は単節のR-L繩文が口唇部から施文されており、沈線間にも地文が若干見られることから、沈線施文後磨消したものと推定できる。内面は丁寧な磨き調整がなされている。

IV C 類 (図87-40、46、47)

壺形土器は、破片で3片出土している。器形の全容は明らかではないが、やや外反する平坦な口縁を有し、胴最大径はやや上半に位置すると考えられる。文様は、口縁部上位の内外面に3条の横位沈線が施文されている。頸部から肩部にかけては、数条の横位沈線と変形工字文が施文されている。また、3片とも、先端が丸い棒状工具で、短く押し引くような技法の刺突文が施されている。

IV D 類 (図87-48)

小型甕(ミニチュア)形土器は口縁部と頸部の一部を欠くが、大部分が分かる形で出土している。現存器高が約6.5cm、胴最大径が約7.5cmとかなり小型である。器形は、口縁部は欠損していて明らかではないが、頸部はほぼ垂直に立ち上がり磨き調整が行われている。肩部には横位沈線のみが施文されている。地文は単節のR-L繩文を斜位、縦位に施文している。底面は無文であるが、若干の磨き調整がなされている。

IV E 類 (図87-49、50)

蓋形土器は2個体出土している。図87-50は、直径約14.7cm、高さ約2.6cmの倒皿状を呈する。図87-49も破片の状況から判断すると、ほぼ同じ法量の倒皿状と考えることができる。文様帶は、両個体とも全容が明らかではないが、はっきりとした違いが見られる。

図87-50は、粘土紐の貼付けにより十字状に4区画し、区画内を粘土紐と沈線により充填している。十字状の交点、四端には粘土粒の貼付け、粘土紐上と円盤外側は刻目が施されている。側縁には、2条・3条の横位沈線が施文されている。また、内外面とも丁寧な磨き調整がなされている。さらに、2個1対の小穴が穿孔されているが、どの土器とセットであるかは明らかではない。

図87-49は、円盤外側に沿った形で2条の沈線を巡らし、「く」字状の沈線を多数並べる形で施文している。また、内外面とも磨き調整が行われているが、50に比べるとやや雑な感じを受ける。

(V類) 田舎館式に比定される土器

田舎館式と思われる土器は、いくつかの器形に分かれるため、甕形土器（A類）、長頸甕形土器（B類）、壺形土器（C類）、鉢（台付）形土器（D類）にまとめた。

V A類（図88-51～63）

甕形土器は、破片で13片出土している。その内、同一個体と思われるものは図88-51・56・57である。破片の部位としては、口縁部から肩部にかけてのものが多い。器形は、平坦な口縁で割と強く外反し、肩部で大きく内湾すると思われるものがほとんどである。文様は、横位沈線が施文されているのは言うまでもないが、全ての破片に鋸歯状文を施文していることが大きな特徴である。鋸歯状文の位置的な関係を見ると、口縁部の中段か肩部の上位に位置し、その上下には数条の横位沈線が施文されているか、上側の横位沈線に付随する形がとられている。その他、内面に数条の横位沈線を施文しているもの（図88-53）、列点文・刺突文を施文しているもの（図88-51、53、56、57）などが見られる。

V B類（図88-64～67、図89-68～76）

長頸甕形土器は、破片で13片出土している。その内、同一個体と思われるものは、（図88-66・67）、（図89-68・71）、（図89-69・70・72・73・76）、（図89-74・75）の4組である。破片の部位としては、口縁部から肩部にかけてが確認できる。口縁部は、短くて強く外反するものがほとんどであるが、山形突起を有するもの（図88-64、65、66、67、図89-69）が多い。頸部は、ほとんど垂直に立ち上がる（図88-64、65、66・67、図89-68・71）、「ハ」字状に立ち上がる（図89-70、75）の2種類に分かれる。肩部はややふくらむもの（図89-72・73・76）が見られる。文様は、肩部に見られる波状工字文が特徴的である（図89-72・73・76）。頸部に連繫菱形文と思われる文様も見られる（図89-74・75）。

V C類（図89-77～80）

壺形土器は、肩部から胴部にかけての破片が4片出土している。いずれも器形的には明らかではないが、肩部はかなり張るものと推定できる。文様は、全てに横位沈線と鋸歯状文が見られる。他の文様としては、上位に列点文が2列に施文されるもの（図89-80）、沈線を挟んでそれぞれ1列の列点文が施文されるもの（図89-78）が見られる。地文は、いずれも単節のR-L縄文を縦位に施文している。

V D類（図89-81～85、図90-95～97）

鉢形土器は、台部の破片はそのまま台付鉢と推測できるが、口縁部、胴部の破片についても、その形状から台を有するものとして考える。

まず、台部については4片出土しているが、台高は低いもので約3cm、高いものでは約5cmある。

器形としては、「ハ」字状に立ち上がるるもの(図89-82、83、84)、ほぼ垂直に立ち上がるもの(図89-85)に分かれる。文様は、全てに横位沈線が見られる他、台部下端に刻目があるもの(図89-82、83)、台部上位に貼瘤のような突起をもつもの(図89-83)もある。

口縁部、胴部の破片は合わせて4片出土しているが、その内図90-96・97は同一個体と思われる。器形としては、小型甕に低めの台を有するようなものと推定される。文様は、口縁部上位の内外面に横位沈線を有し(図89-81、図90-95)、鋸歯状文、変形工字文を施文するもの(図89-81)、波状工字文を施文するもの(図90-95)が見られる。

(VI類) 弥生後期に比定される土器(図90-87~89)

弥生の後期(IV~V期:須藤)と思われる破片は、口縁部2片、底部が1片の3片出土している。口縁部の2片は、強めに外反し、頸部が長く、肩部はそれほど張らない甕形土器の1部と考えられる。文様は、いずれも口唇部直下から施文され、重菱形文が施されているもの(図90-87)、粗雑な感じで横位沈線と鋸歯状文が施文されているもの(図90-88)がみられる。地文は、小さい撫りで単節のL-R繩文が図90-88に施されているが、これもまばらな感じを受ける。底部の破片(図90-89)は、胴部も台部も欠損しているが、割れ口から判断すると、脚の短い台部を有した鉢(台付)形土器と考えられる。

(VII類) その他の土器(図89-86、図90-90~94)

ここでは、地文のみのものや、弥生時代のものと思われるがその器形が明らかではない底部の破片を一括した。地文のみのものは全て単節のR-L繩文で、斜位または縦位に施文されている。底面は無文であるが、全て磨き調整の痕跡が見られる。また、底部下位に2条の沈線が施文されているものもみられる(図89-86)。

第7節 A区出土奈良・平安時代の土器

奈良・平安時代の遺物としては土師器、須恵器、紡錘車、鉄製品などが出土している。復元できる個体は少なく、分布上も特にまとまりは看取されない。年代的には8世紀頃のものから11世紀以降のものまで含まれるようである。

墨書き土器が2点出土しているが、図91-10は「夷」である可能性も考えられるが破片であるため断定できない。

(新山 隆男)

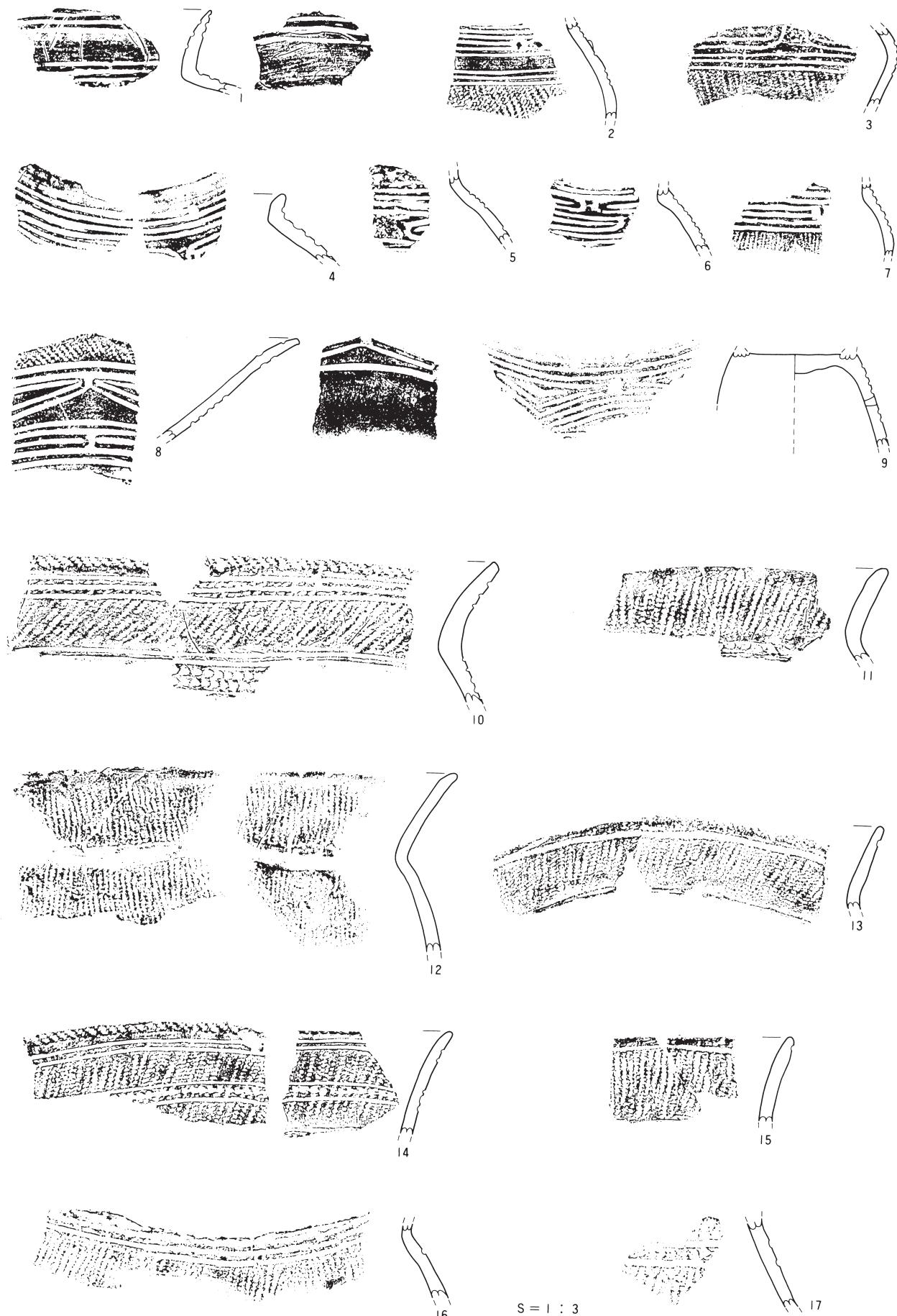


図84 A区出土弥生土器（1）

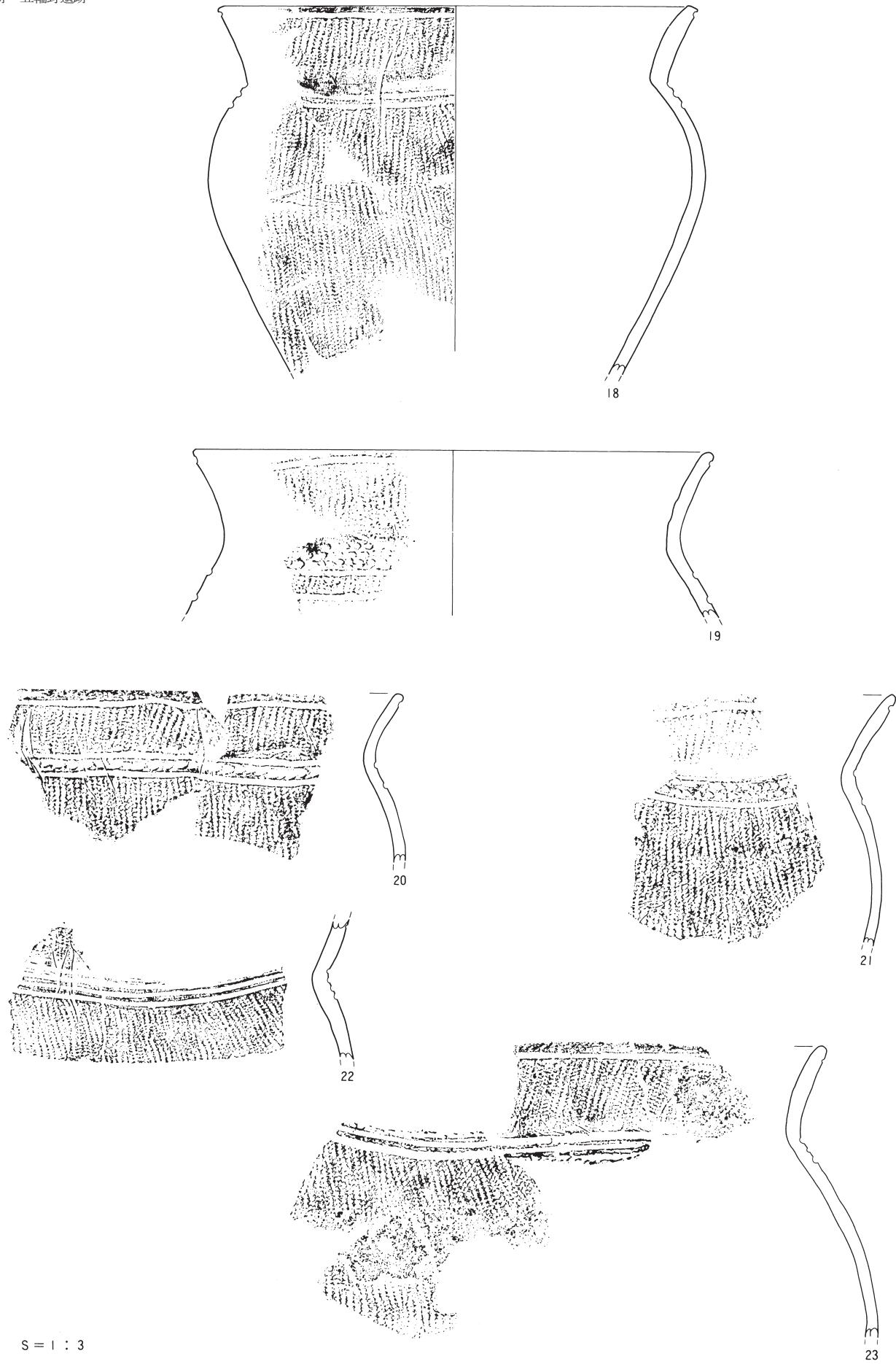


図85 A区出土弥生土器（2）

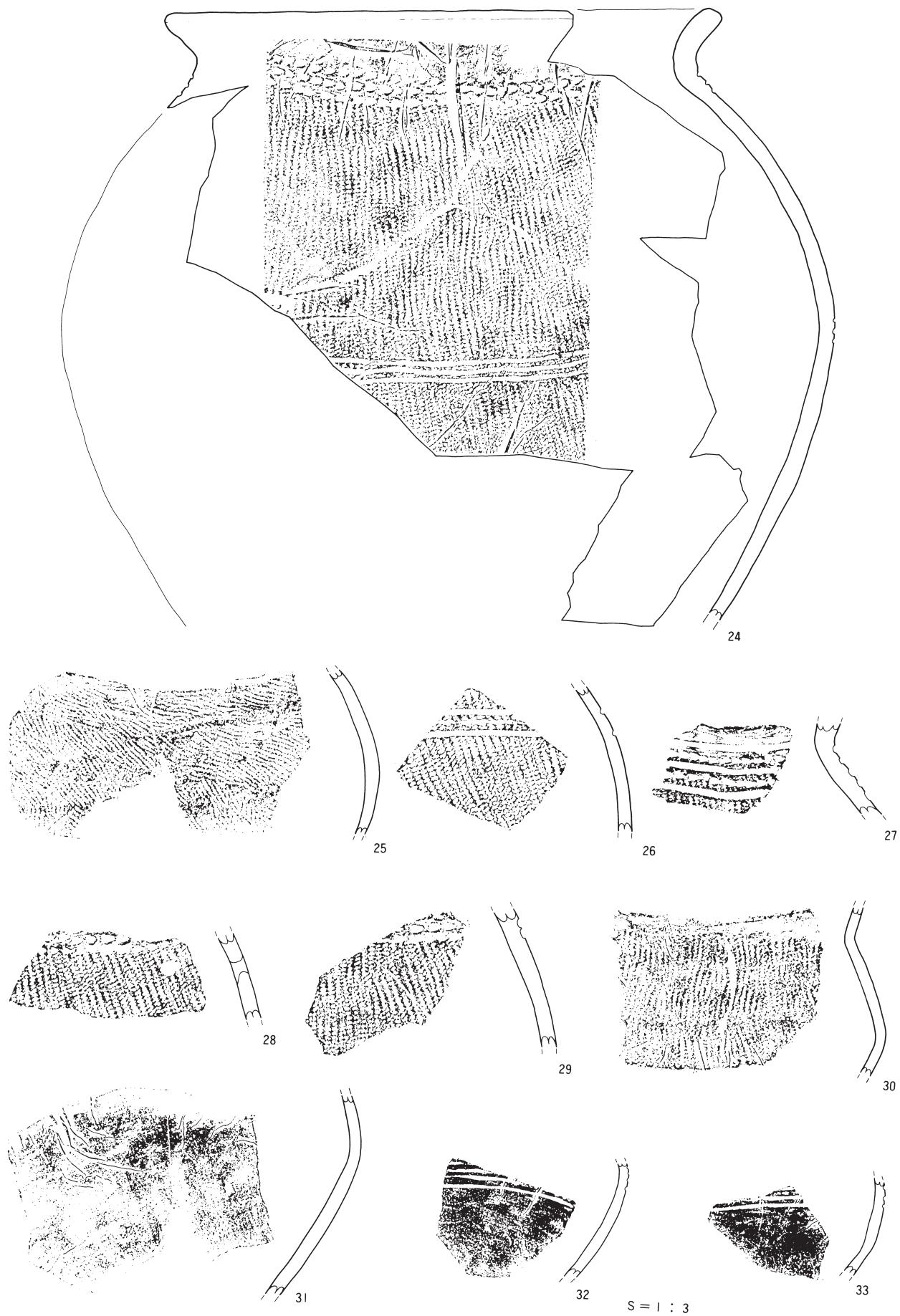


図86 A区出土弥生土器（3）

S = 1 : 3

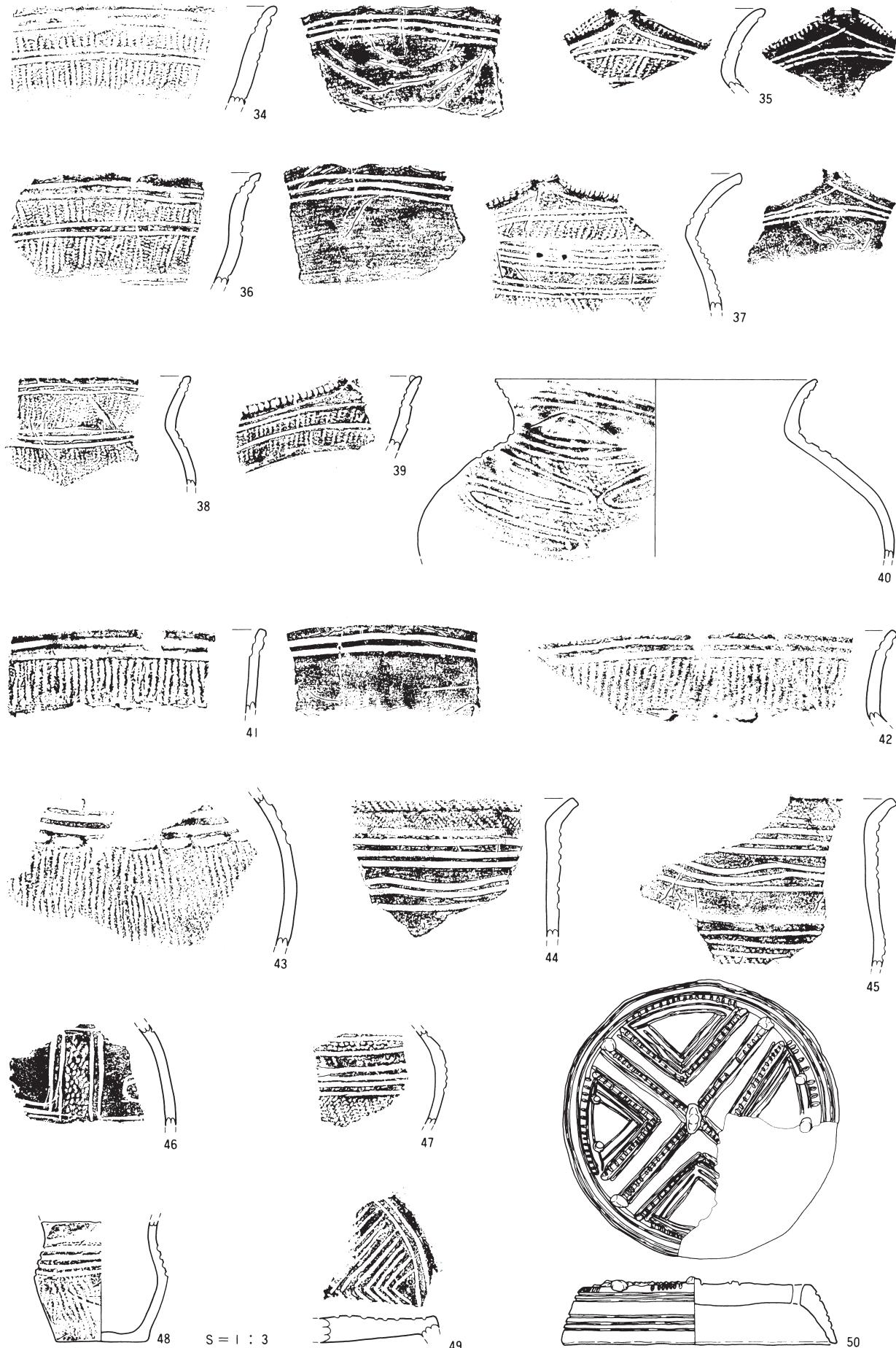


図87 A区出土弥生土器 (4)

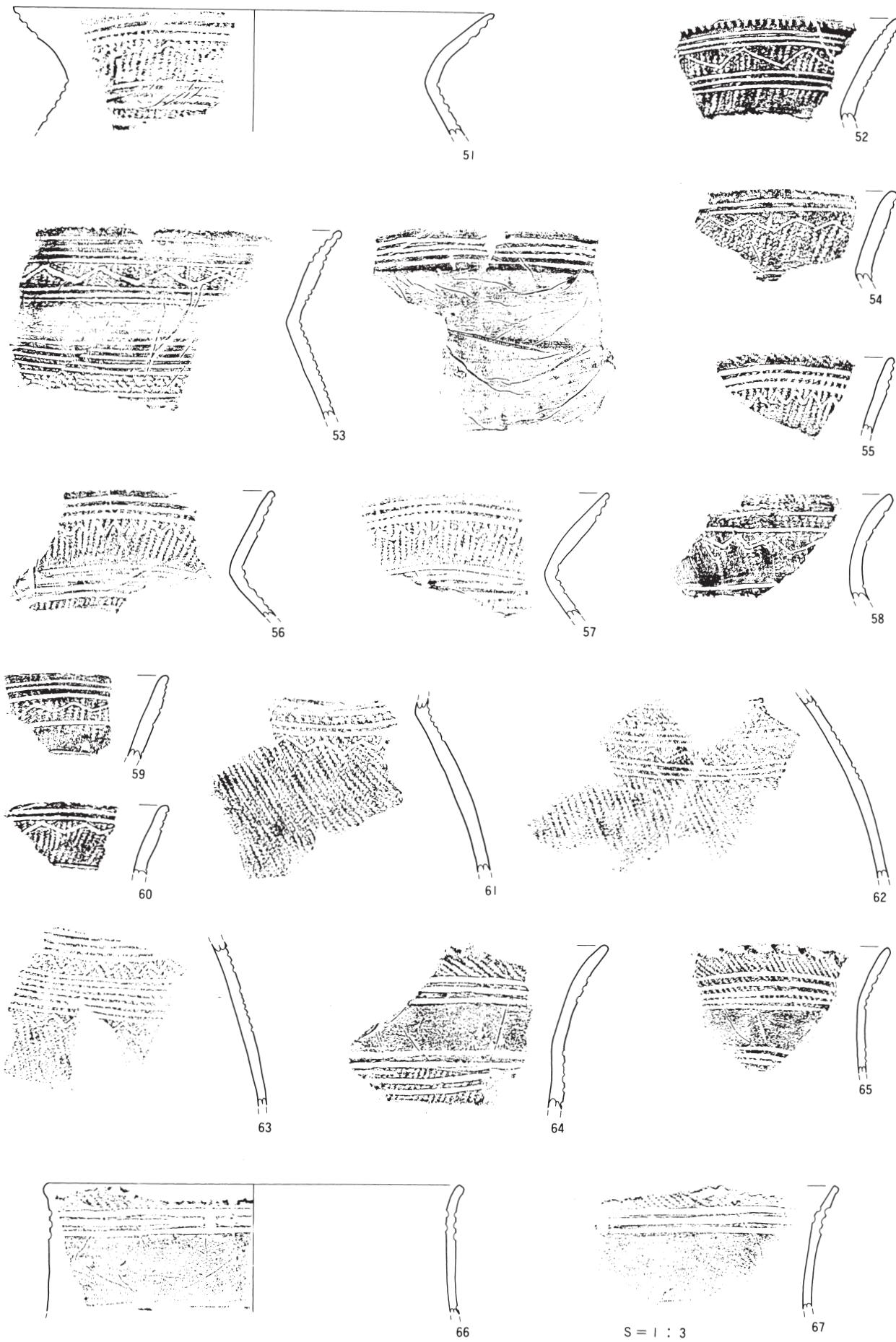


図88 A区出土弥生土器（5）

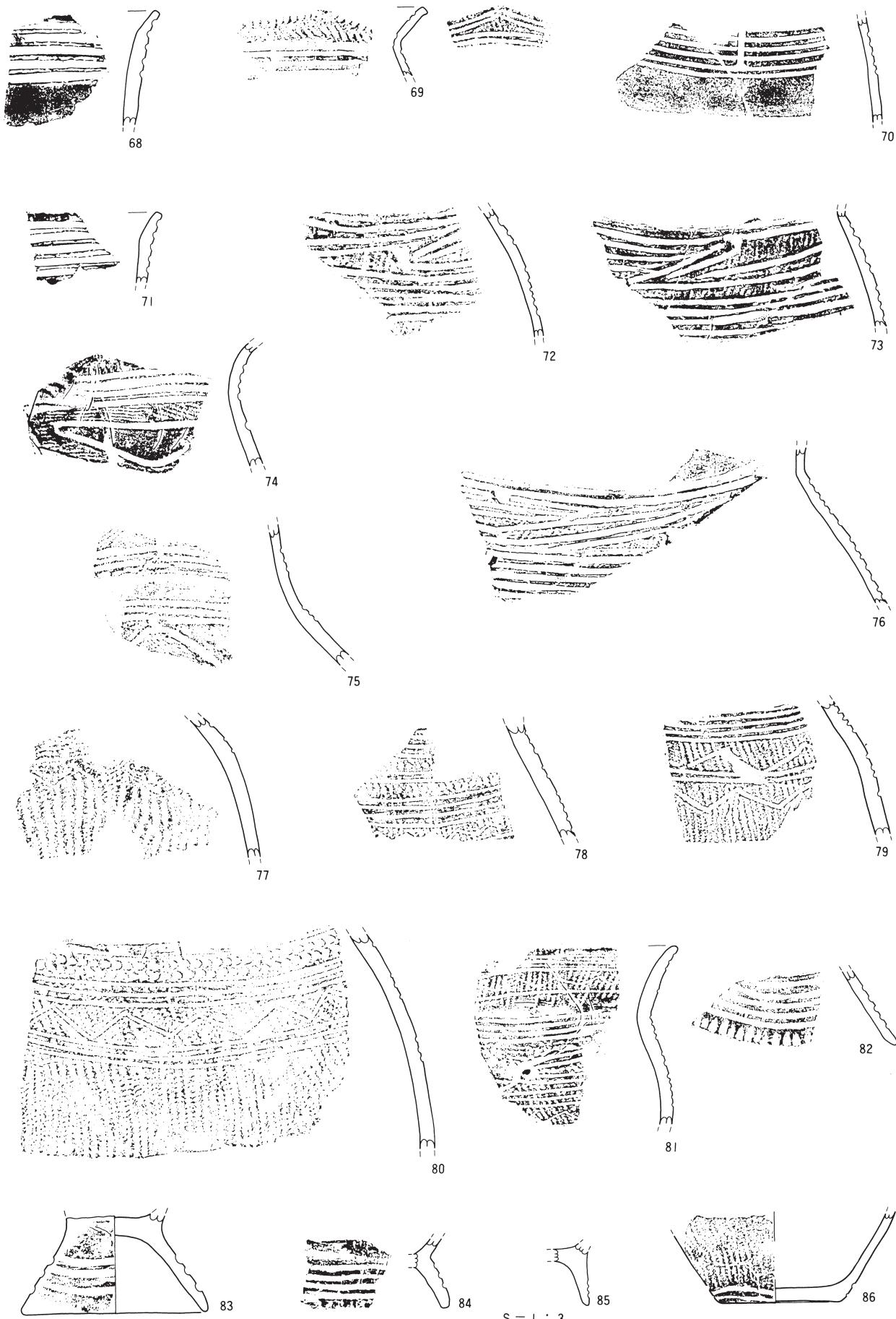


図89 A区出土弥生土器（6）

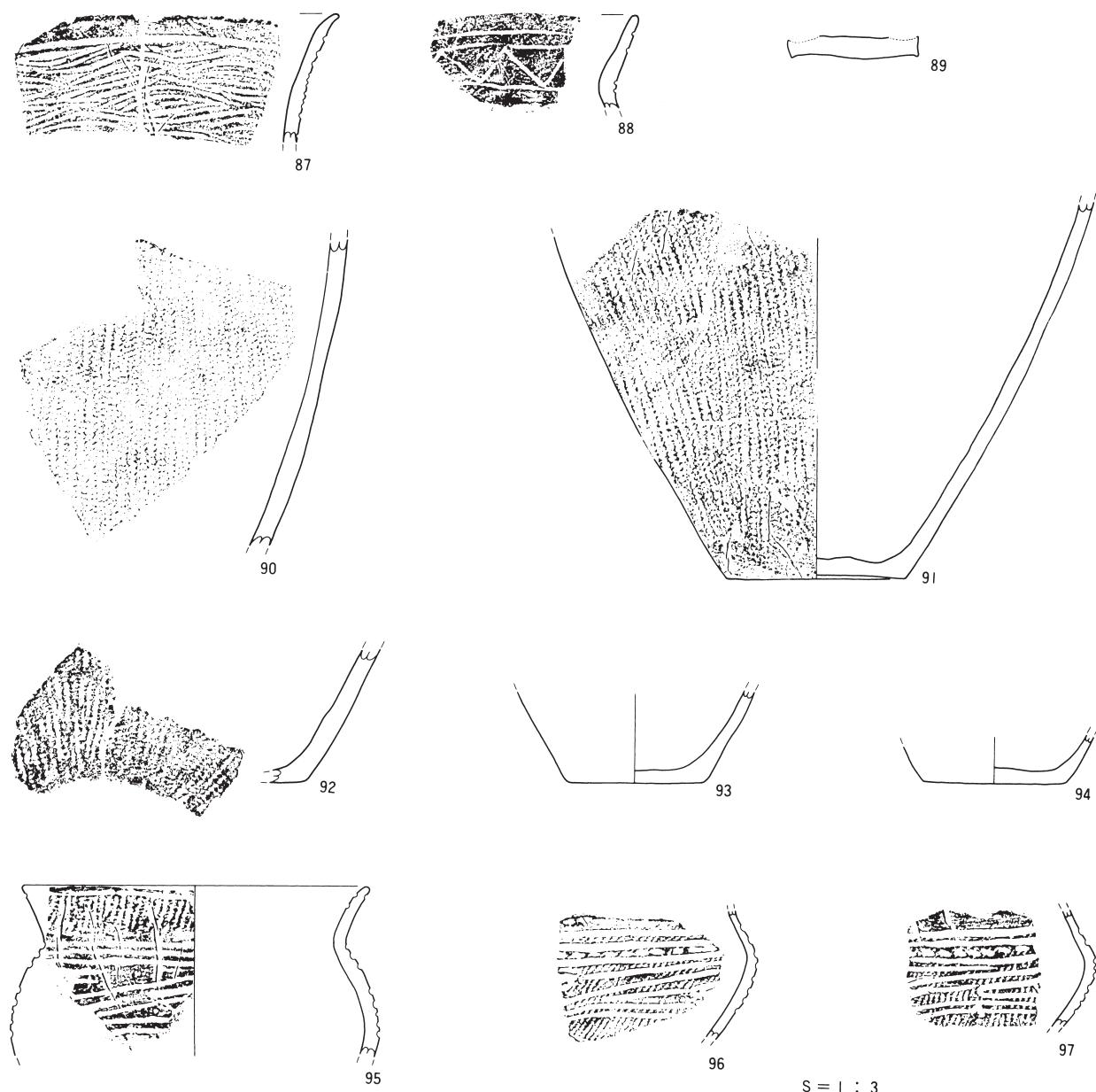
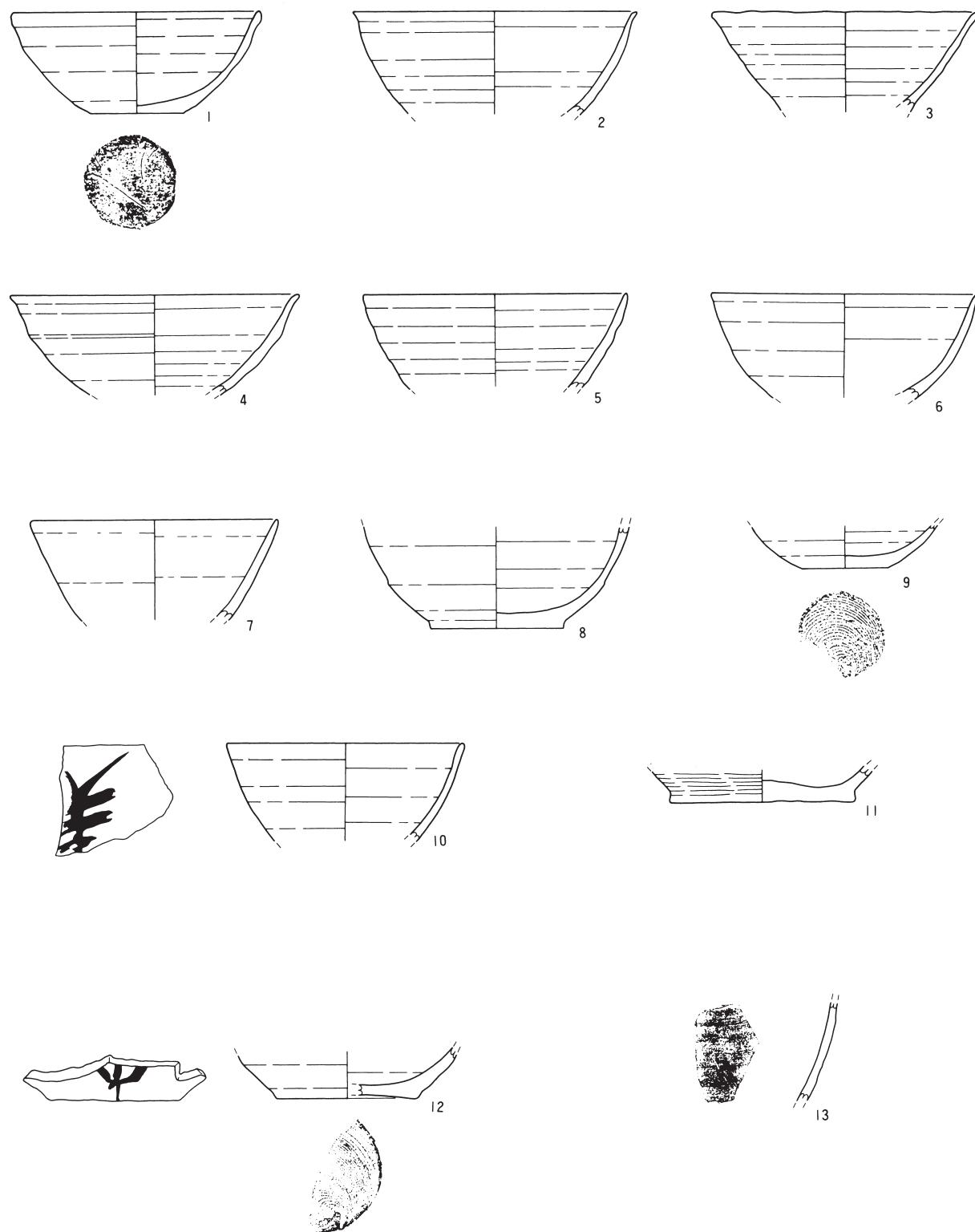


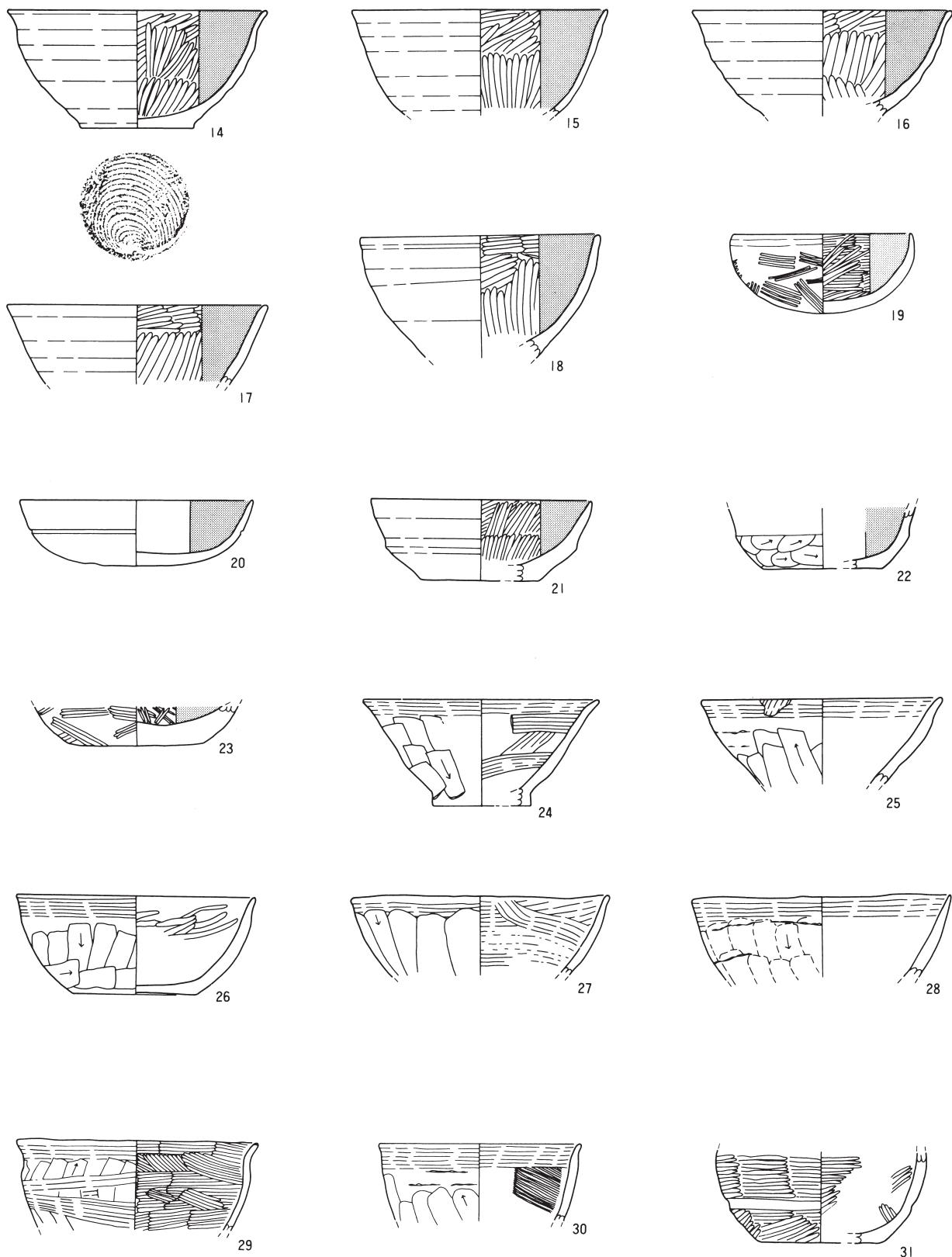
図90 A区出土弥生土器（7）

S = 1 : 3



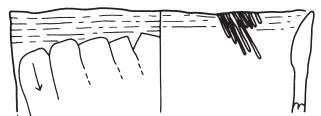
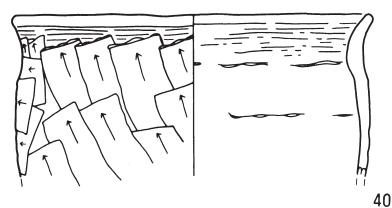
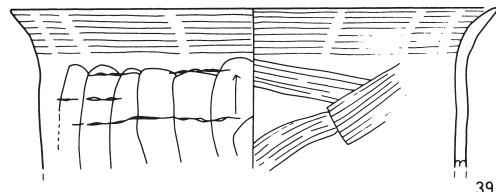
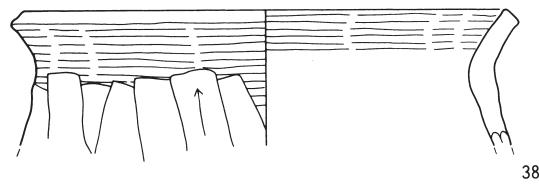
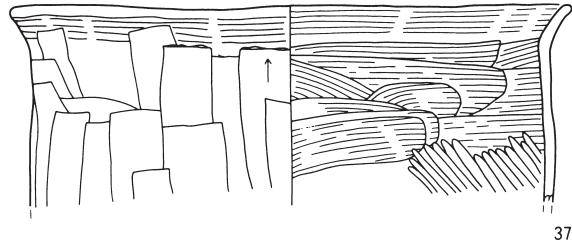
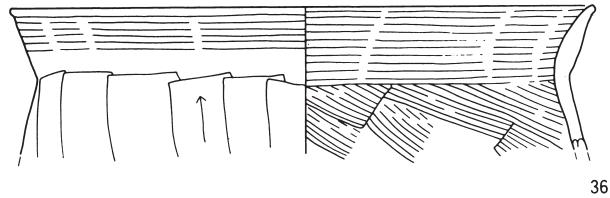
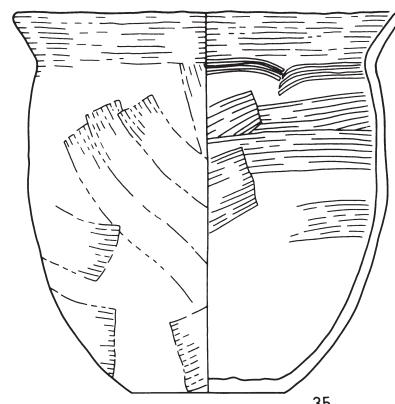
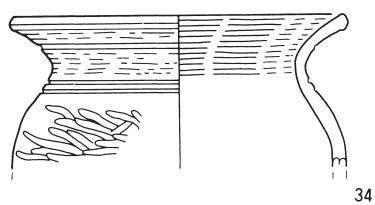
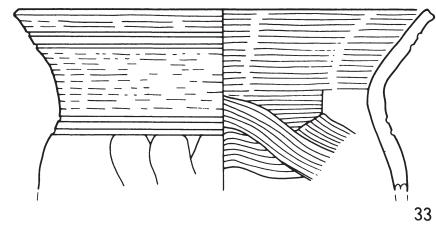
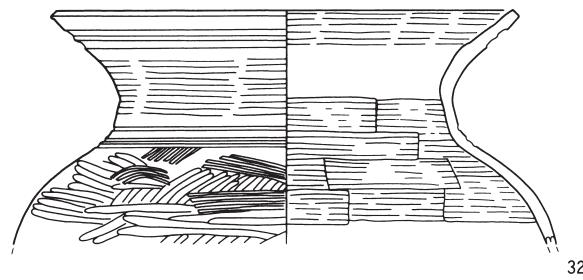
S = 1 : 3

図91 A区出土土師器(1)



S = 1 : 3

図92 A区出土土師器（2）



S = 1 : 3

図93 A区出土土器 (3)

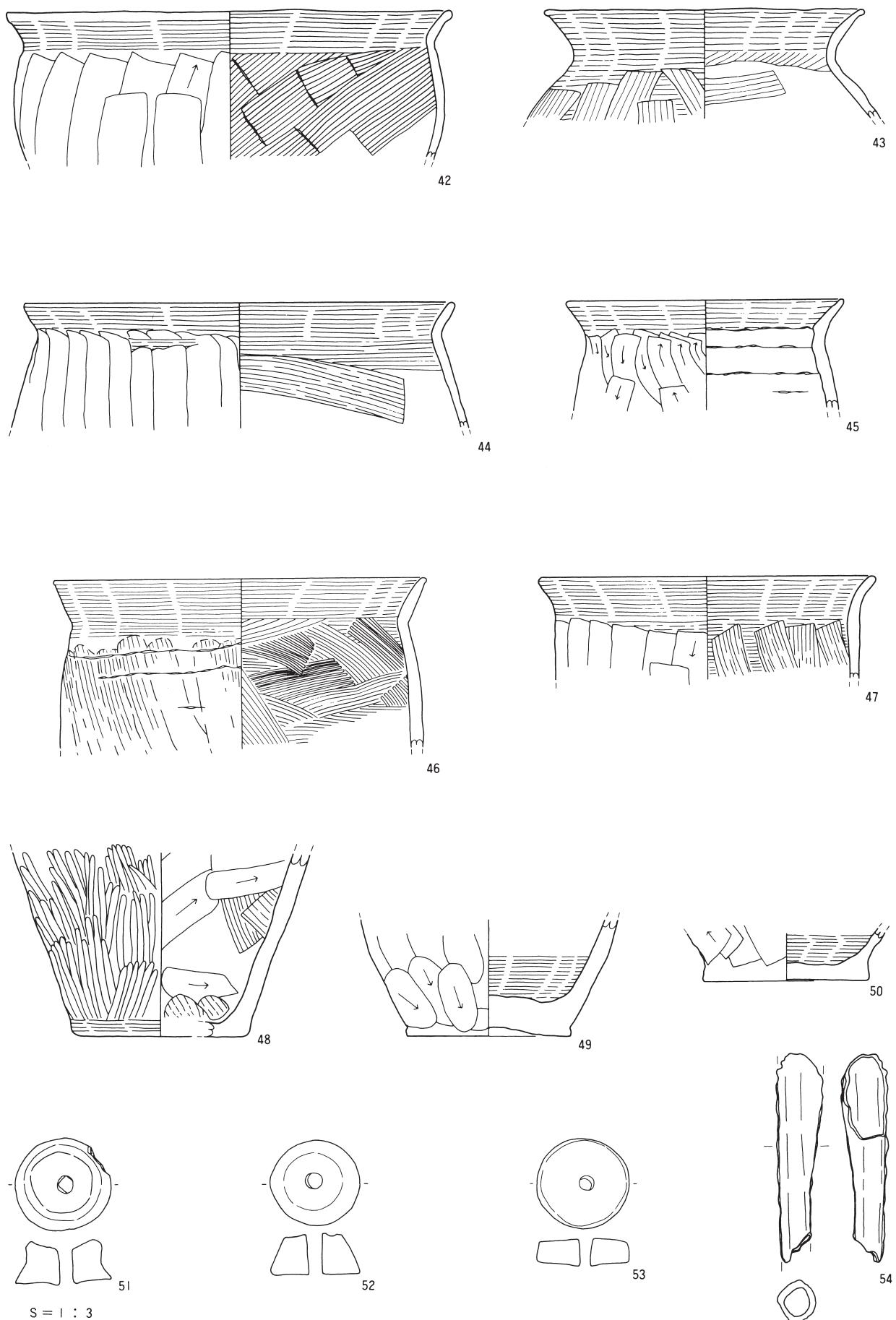


図94 A区出土土師器(4)、紡錘車、鉄製品

S = 1 : 3

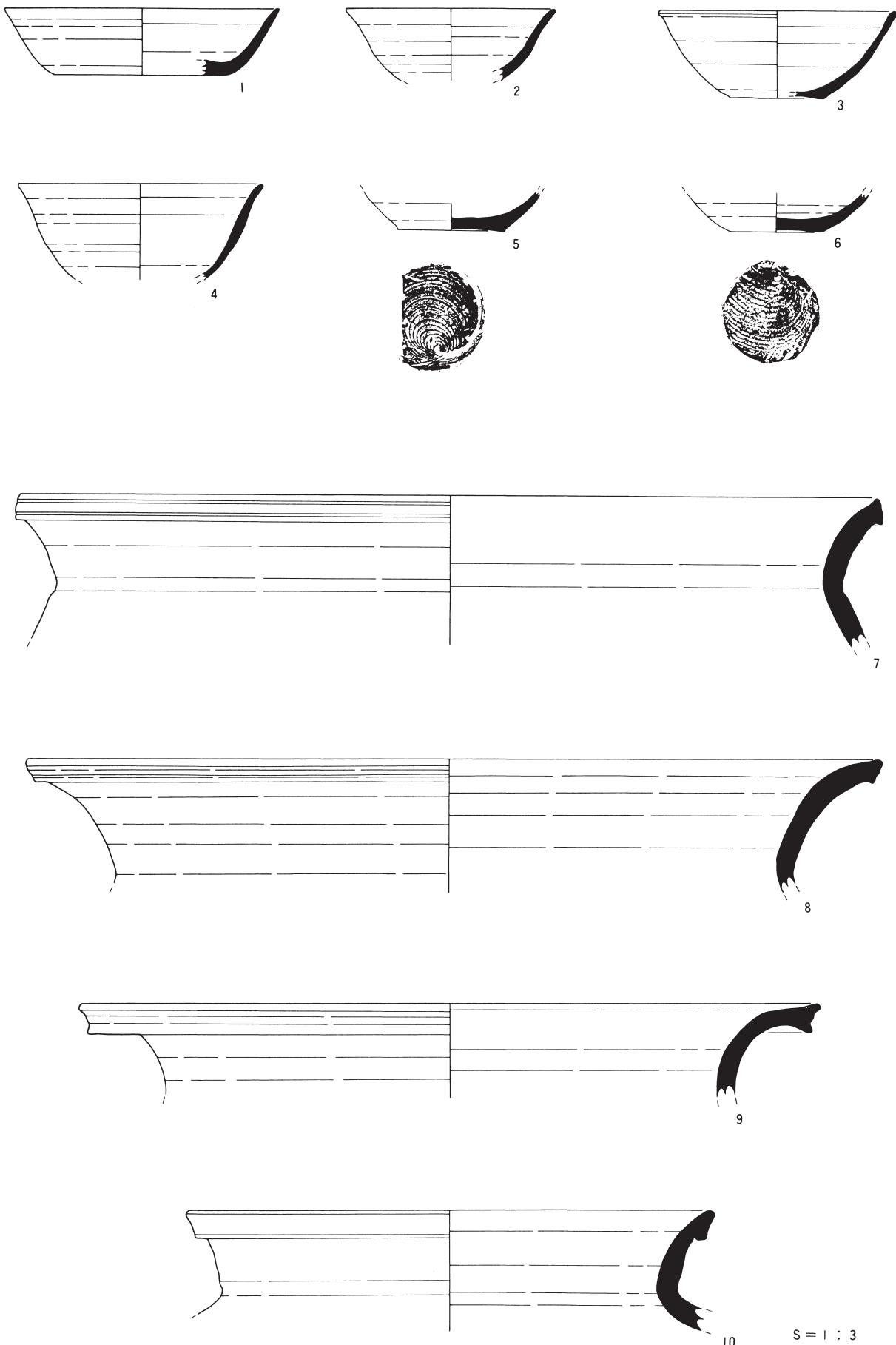


図95 A区出土須恵器（1）

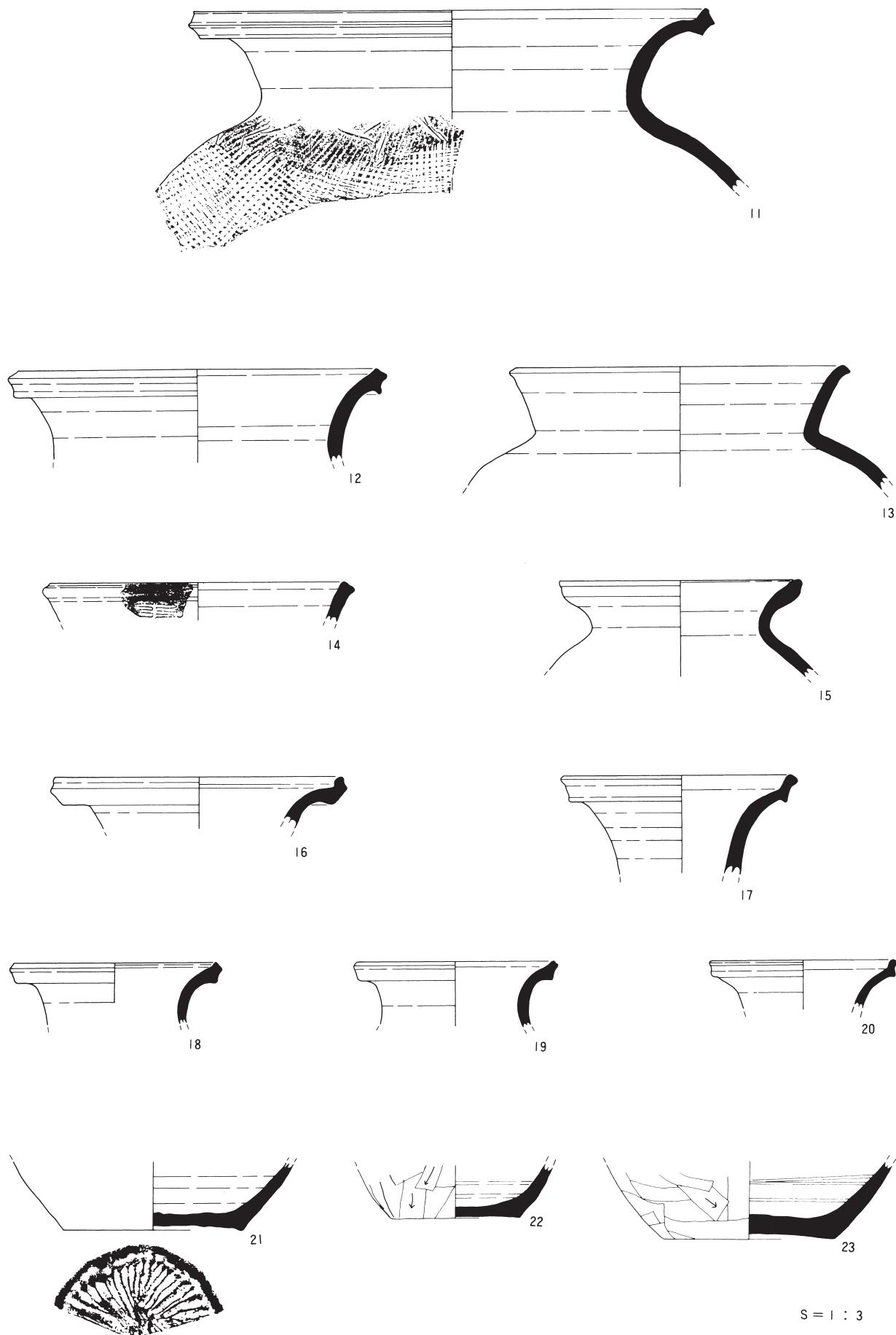


図96 A区出土須恵器（2）

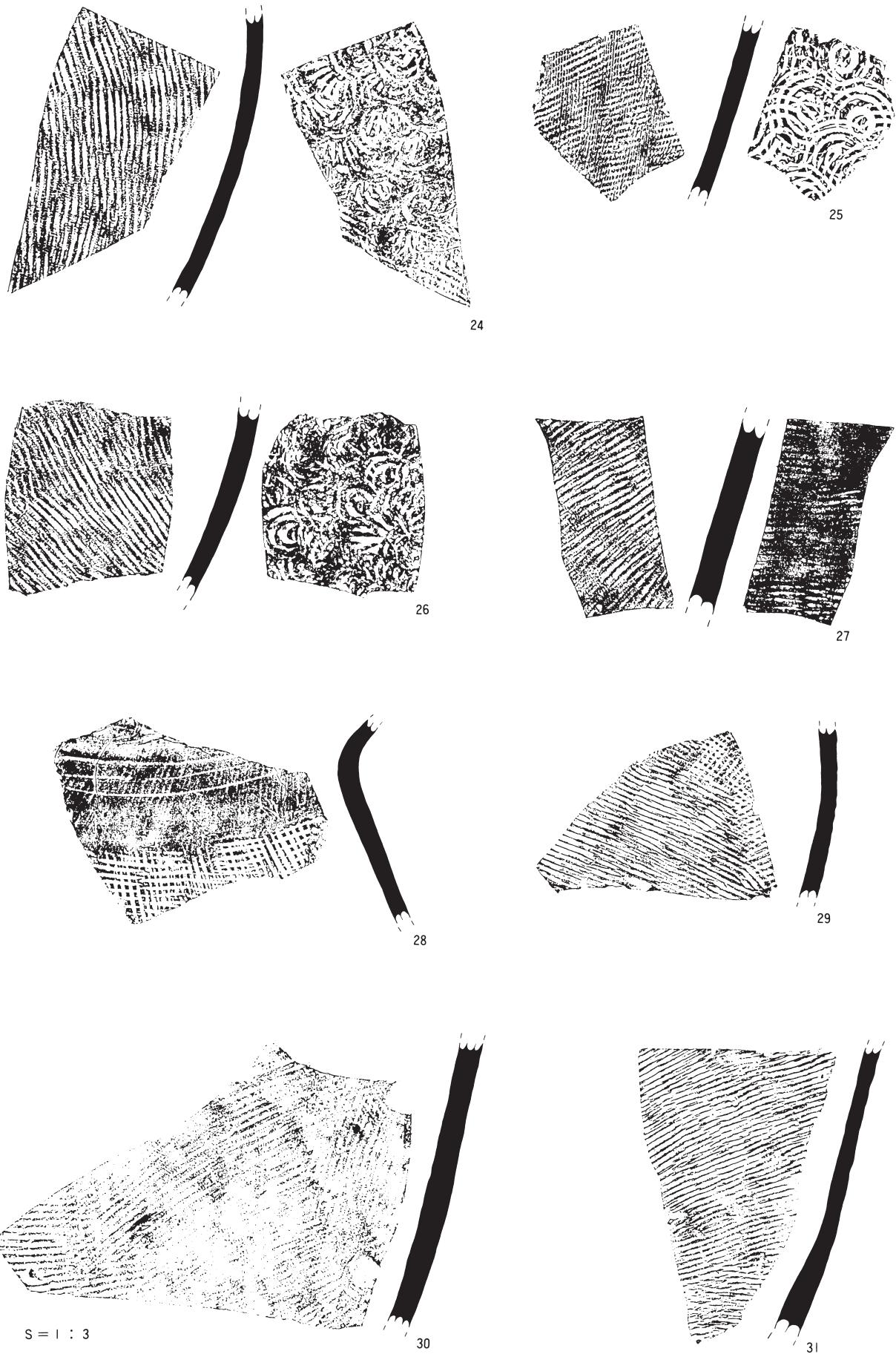
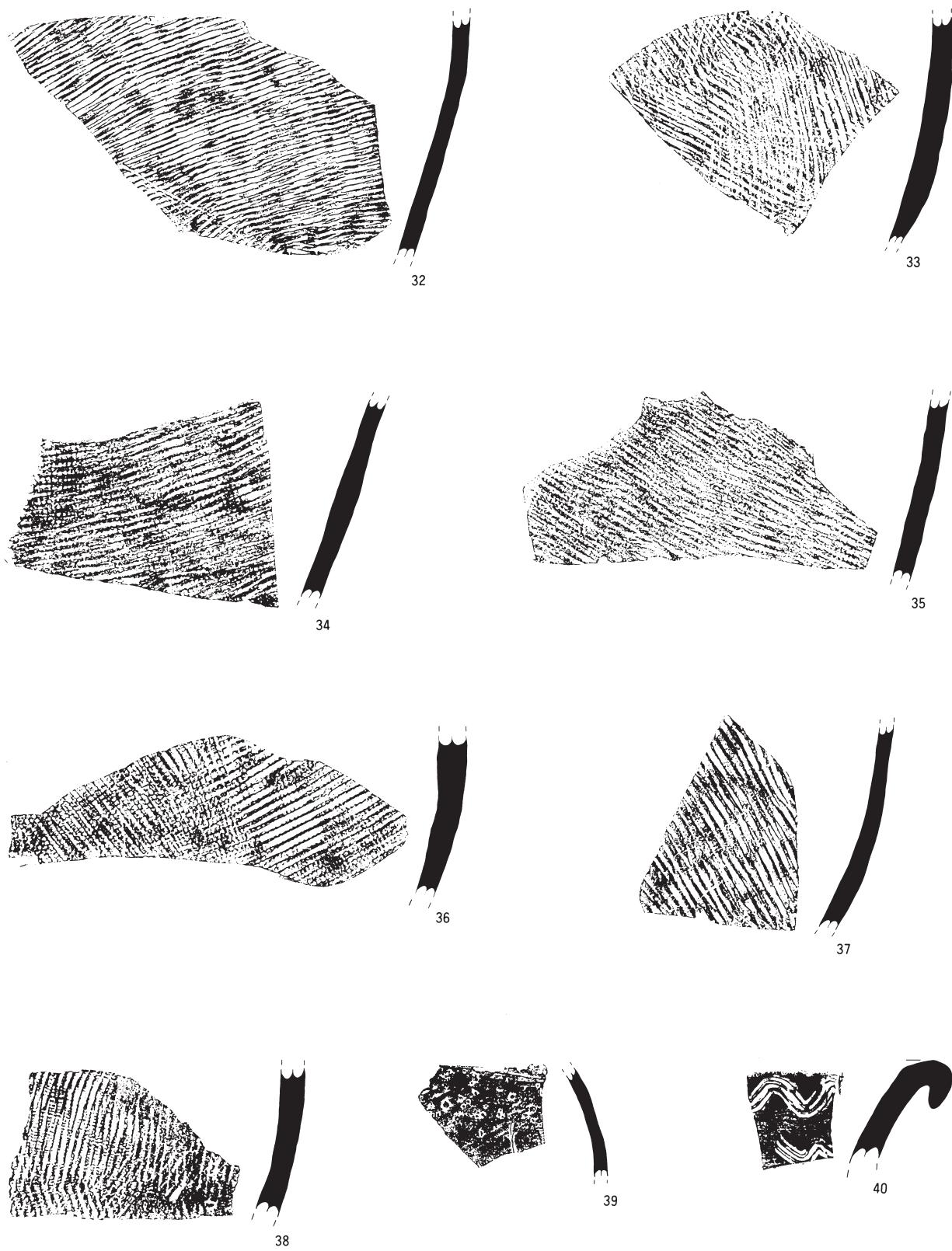


図97 A区出土須恵器 (3)



S = 1 : 3

図98 A区出土須恵器 (4)

第8節 A区出土の木製品

木製品は第1号流路跡とA区第3号土坑から出土している。第1号流路跡からは明確に加工が見られる150点を本節で取りあげる。内訳は板材35点、角材4点、棒状木製品40点、箸状木製品32点、板状木製品16点、大足5点、下駄2点、曲物8点、皿2点、椀1点、櫛1点、火鑽板1点、加工材3点である。A区第3土坑からは栓が1点出土している。

2の縦櫛の歯は2本残存している。本来は11本あったものと推測される(図99-2)。

6は曲物の側板である(図100-6)。この側板は一重巻きの側板を2枚重ねあわせたもので、内板の接合部内面には板を曲げるための野引が約5~7mm間隔で8本施されている。側板の綴じ合わせは2カ所で行われ、1列の樺皮紐綴じが施されている。1カ所は上が外綴じ下が内綴じの2段綴じである。一方は1段の内綴じである。結合釘孔は5カ所あり、その内2カ所に結合木針片が残存している。この曲物は円板を側板の内側にはめ込み、側板の上から木釘を打ち込んで結合させる釘結合曲物である。

下駄は一本造りの連歯下駄が2点である(図101-14、15)。14は左半分を欠き、斜めに鼻緒孔が付けられている。15は内側面が斜めにほりこまれた前歯と鼻緒孔が1つ残存している。

16~18は用途不明木製品である(図101-16~18)。3点とも裏面に削り加工が施されていることから加工材に分類した。

大足の足板が5点(図102-19~23)、足板の未成品と思われる板材(図117-139)が1点出土している。足板は3形態に区分される。側縁の切欠きを緒通し孔として用いる無孔の大足(図102-20)と鼻緒孔と切欠けのある大足(図102-19、22)、さらに切欠けと鼻緒孔の他に枘取り付け孔を備えた大足(図102-21)である。

大足の横木と思われる棒状木製品(図106-58、60)と板状木製品(図109-101)の3点が出土している。足板を支える横木は細長い扁平な棒または板の両端を削って紐を結わえられるようなくびれを持ったものである。完形品ではないが棒状木製品58と60、板状木製品101は端部に紐を結びつけられるくびれがあることから大足の横木の可能性が考えられる。

箸状木製品は完形で出土したものはなく、全て先端部または基部の破片である。ここでは尖端部に向かって徐々に細くなるように削りだされたものを箸状木製品とした。

板材の中には両側に溝状の切り込み加工または先端に凸状加工が施されているものが見られる(図114-125~128、図115-129)。さらに、これらは両端の加工の間の長さが68~72cmとほぼ一定していることから、この5点の板材は横組み井戸枠(横板井籠組井戸)の可能性が考えられる。

木製品の加工痕から、手斧、鋸、鑿、鉋、野引等の道具を使用していたことが推定される。これらの道具の消長から年代を類推すると、出土した木製品は一時期に限定されるものではないことが予想される。年代幅としては平安時代末期から近世にかけてのものが含まれているものと思われる。なお、分類・用語は『木器集成図録 近畿古代編』を参考とした。

(杉野森淳子)

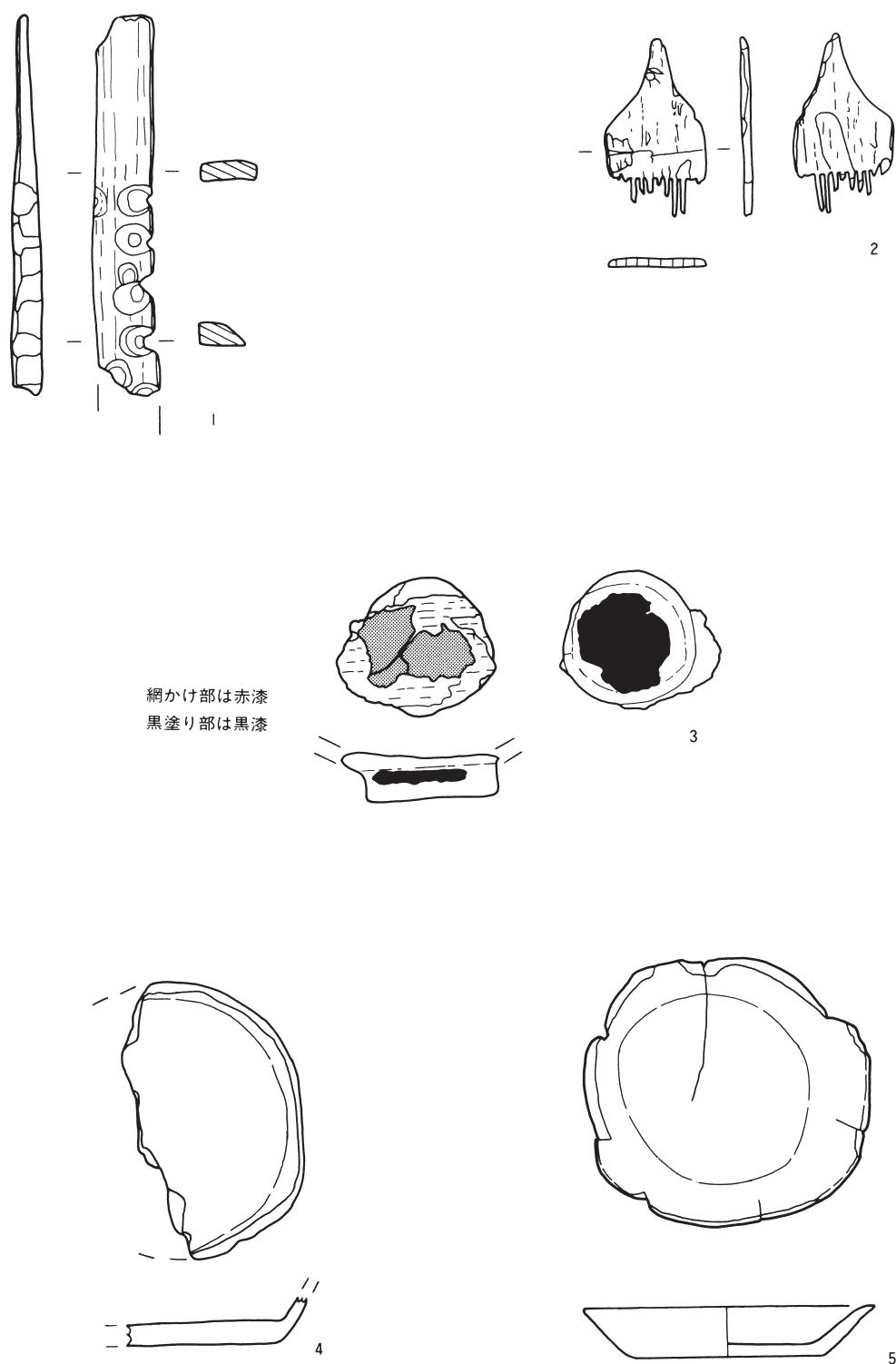


図99 A区出土木製品（1）

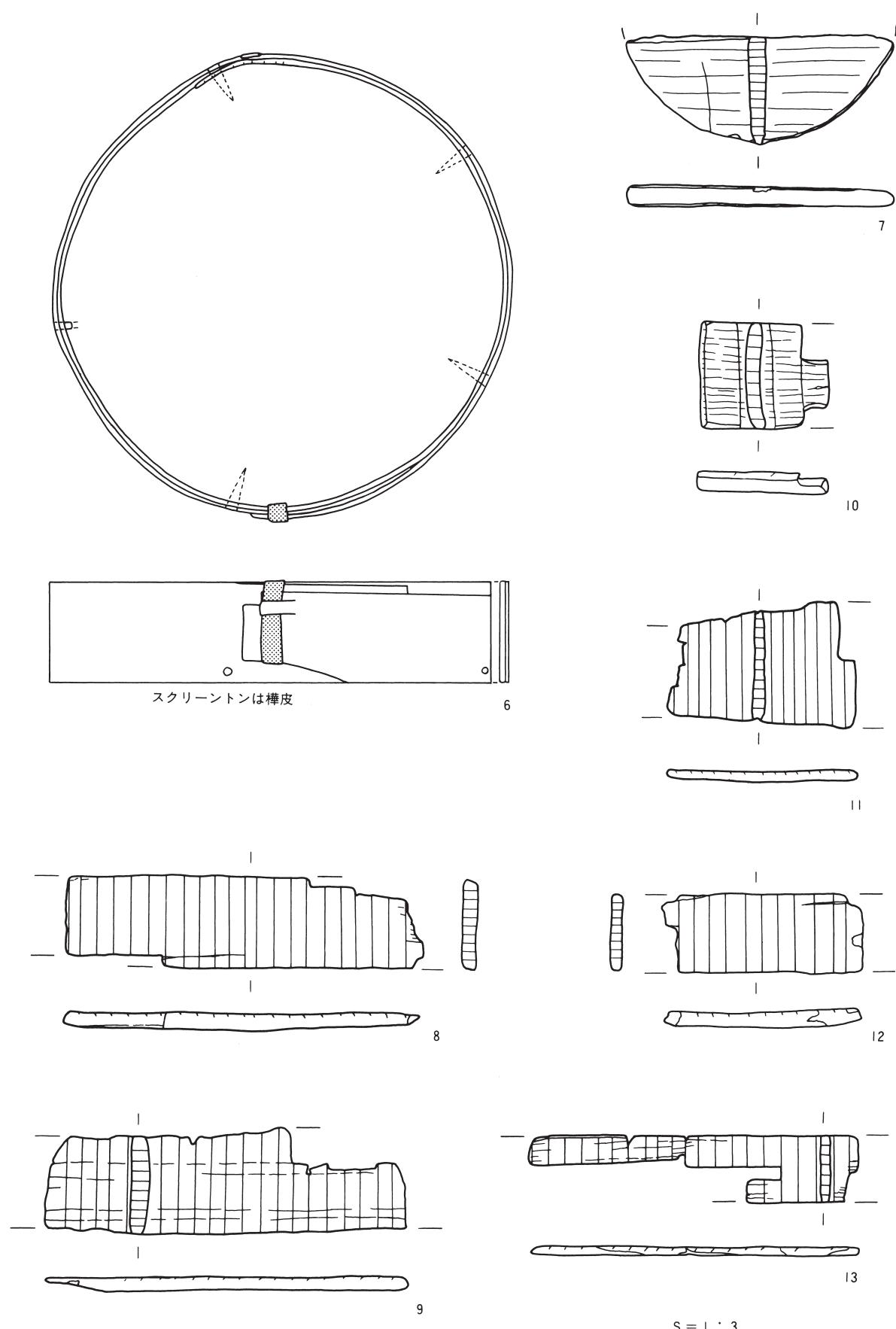


図100 A区出土木製品（2）

S = 1 : 3

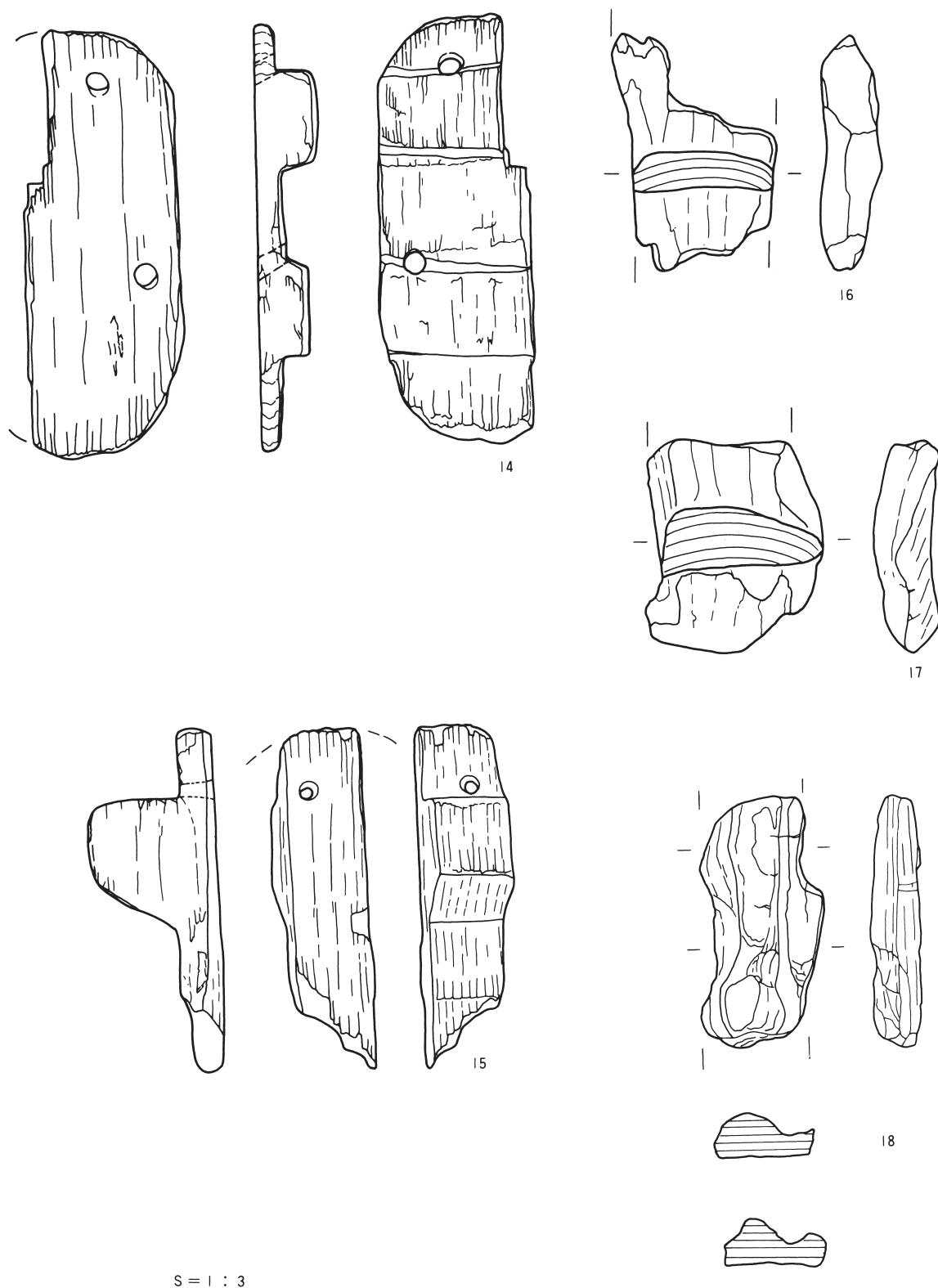


図101 A区出土木製品（3）

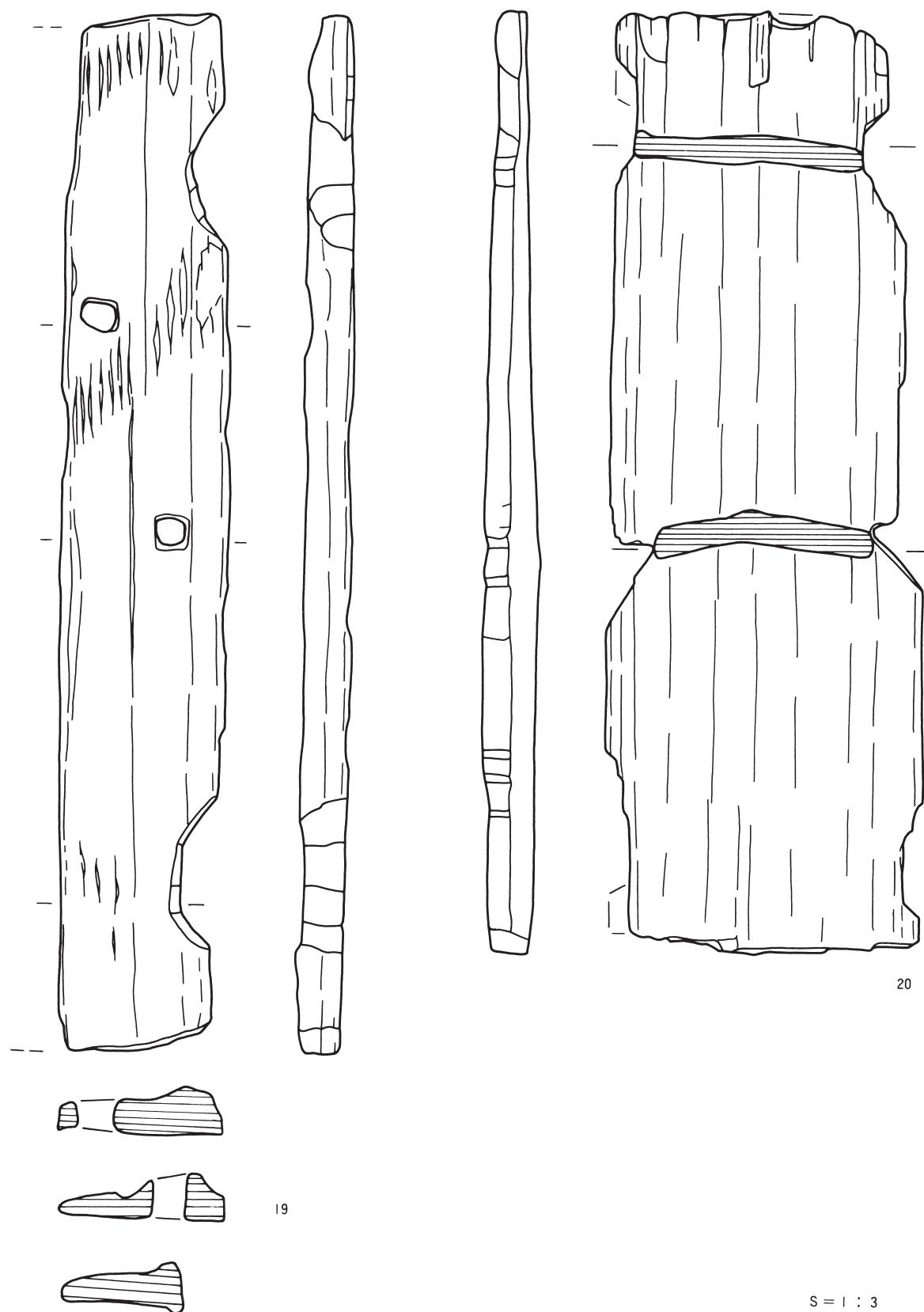


図102 A区出土木製品（4）

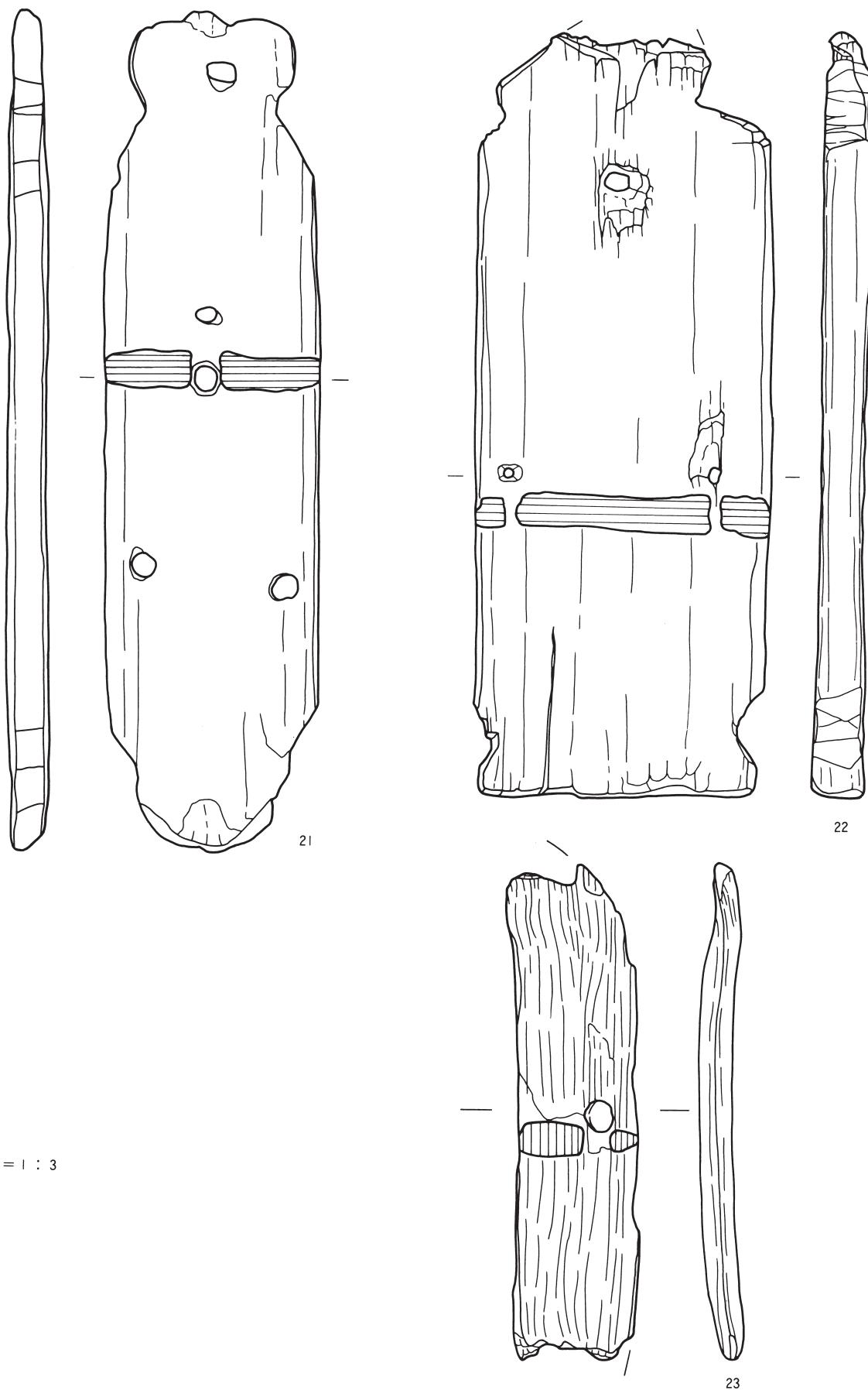


図103 A区出土木製品（5）

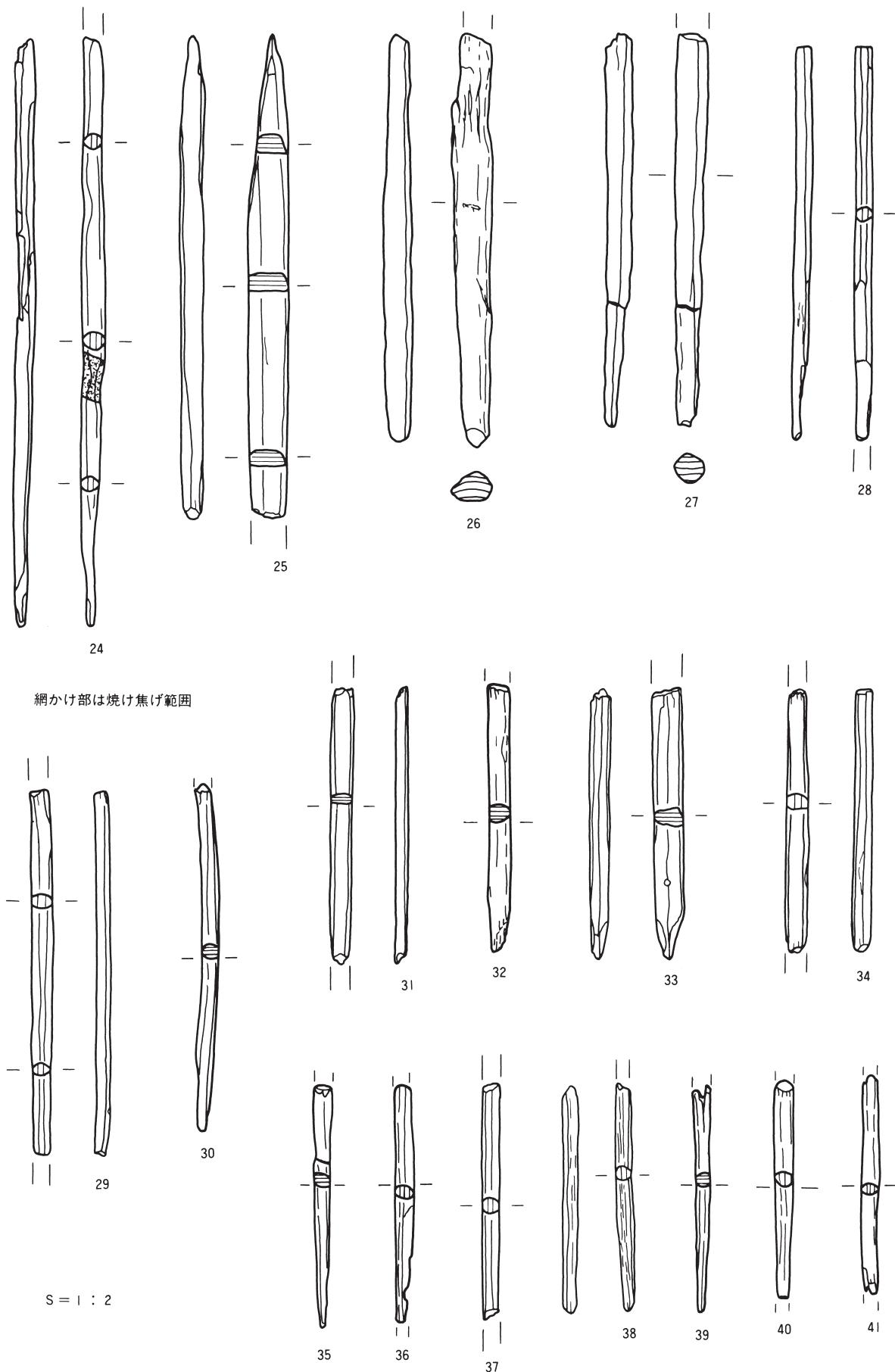


図104 A区出土木製品 (6)

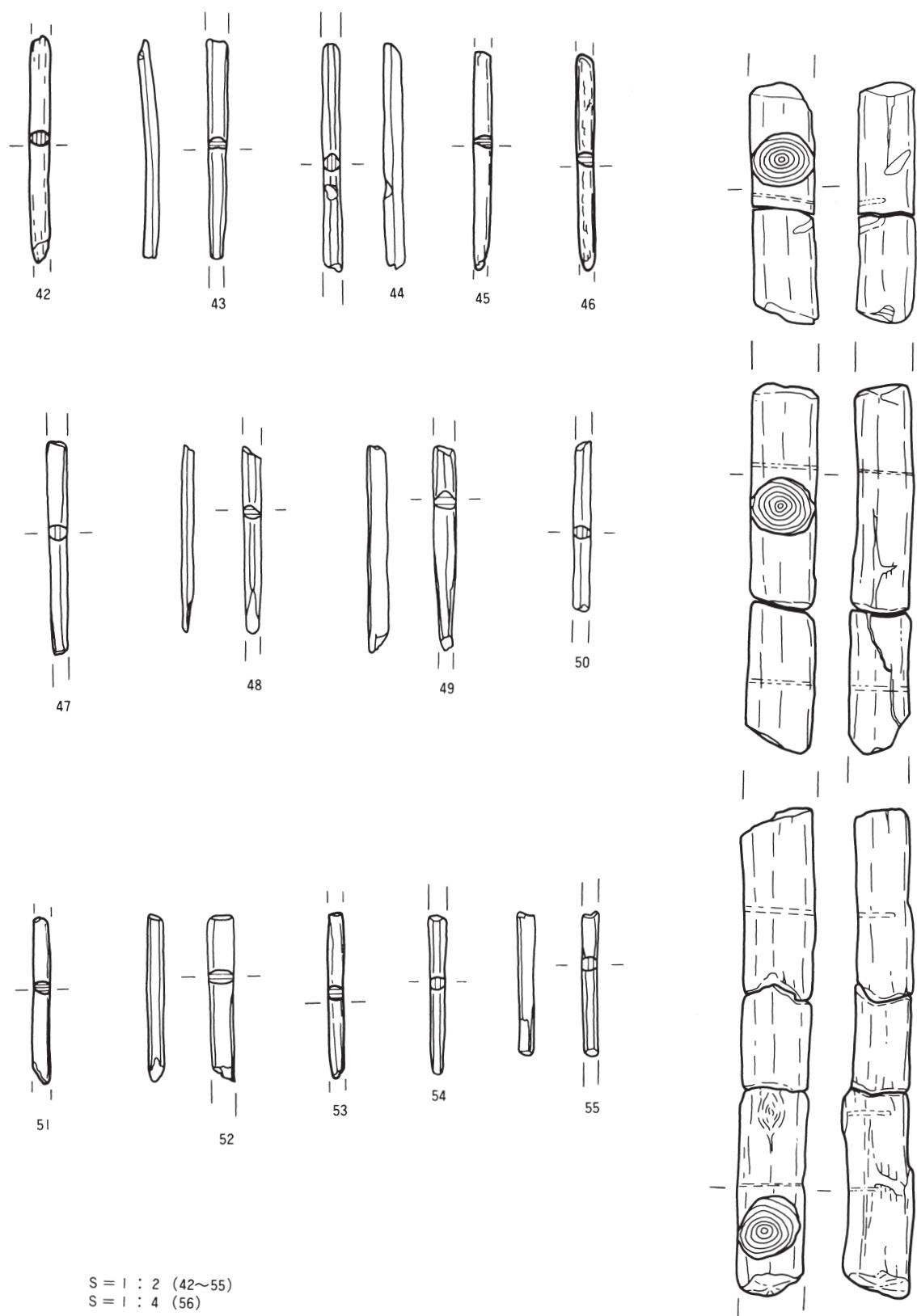


図105 A区出土木製品 (7)

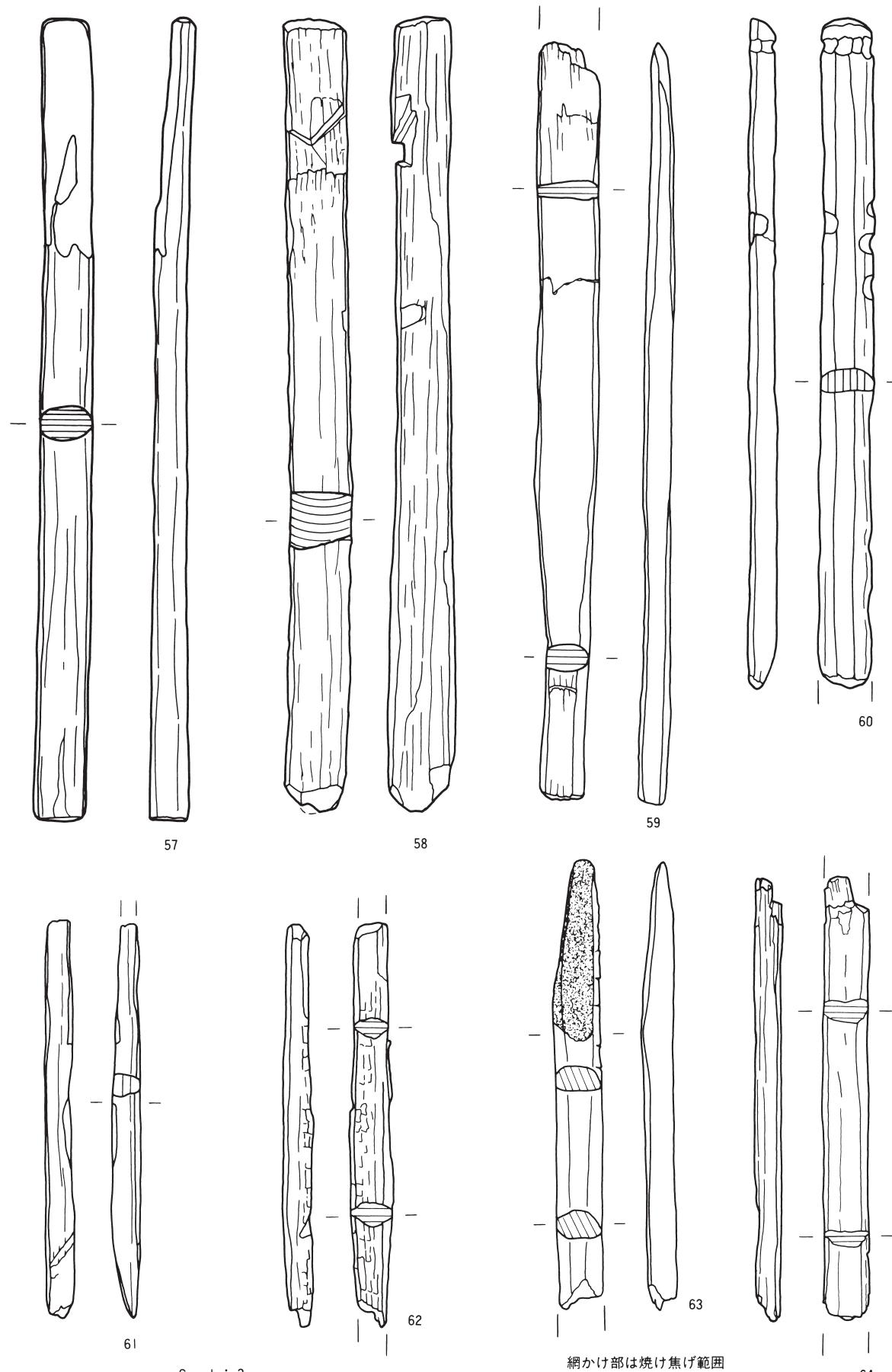


図106 A区出土木製品 (8)

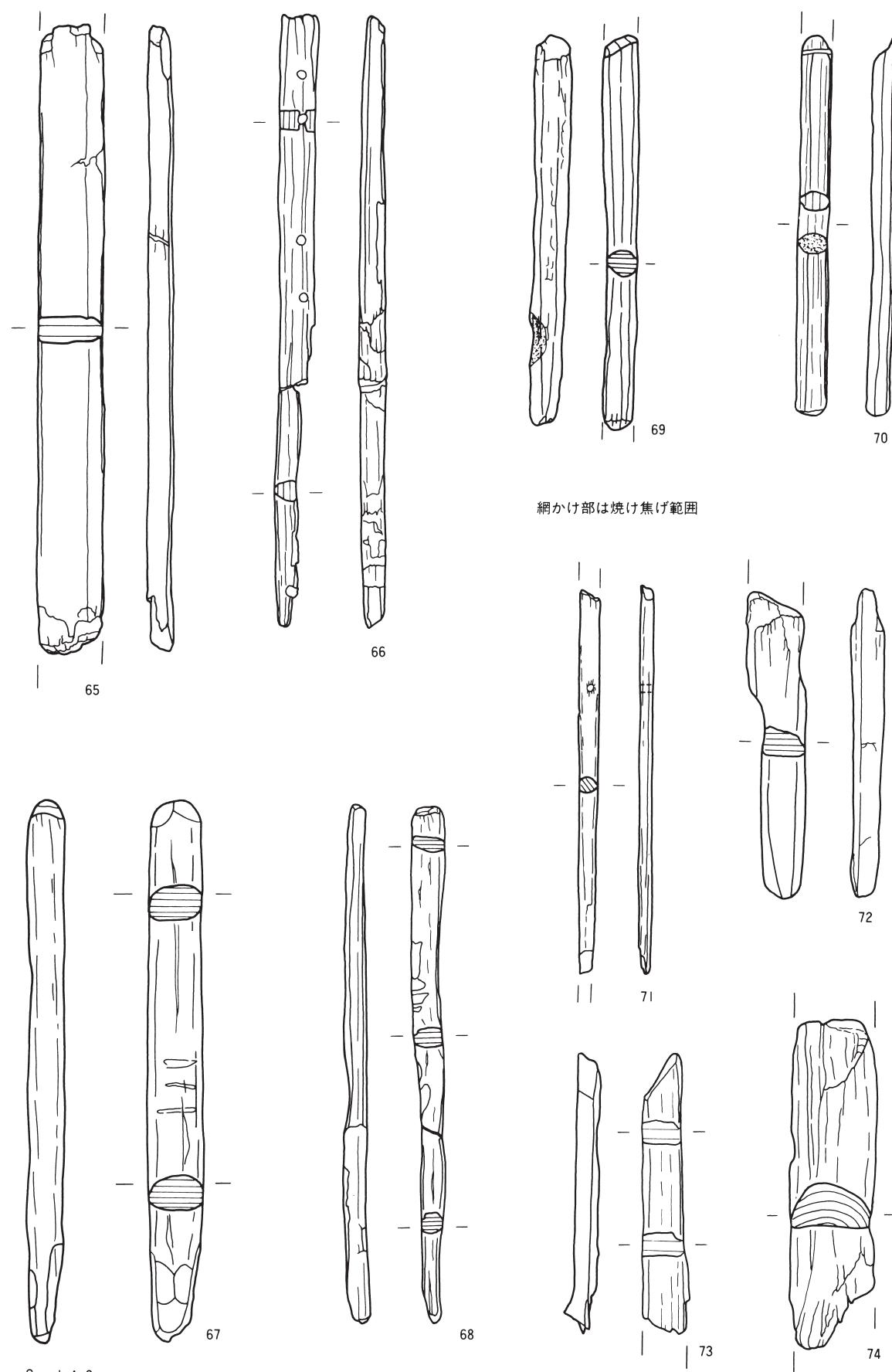


図107 A区出土木製品 (9)

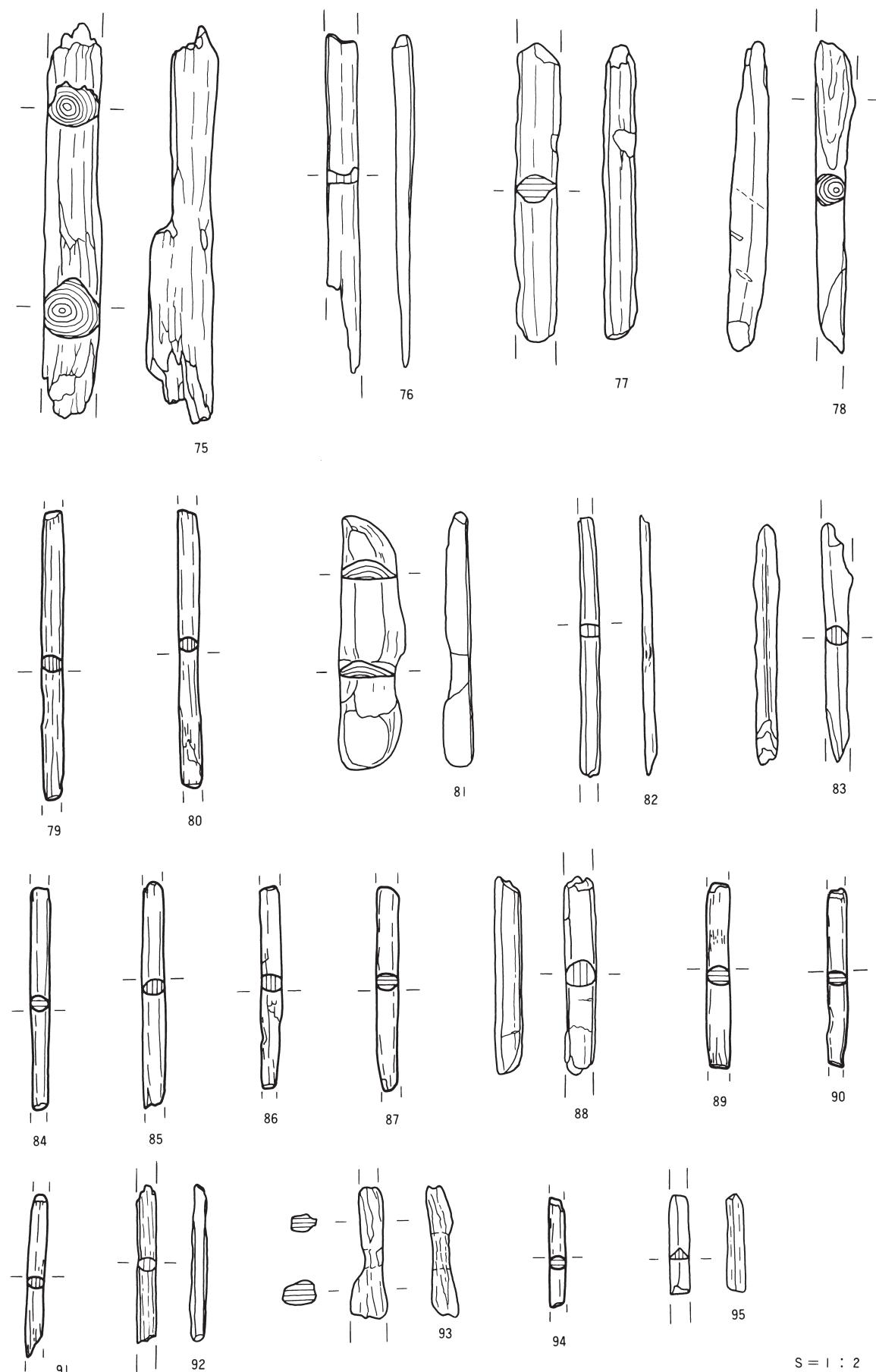
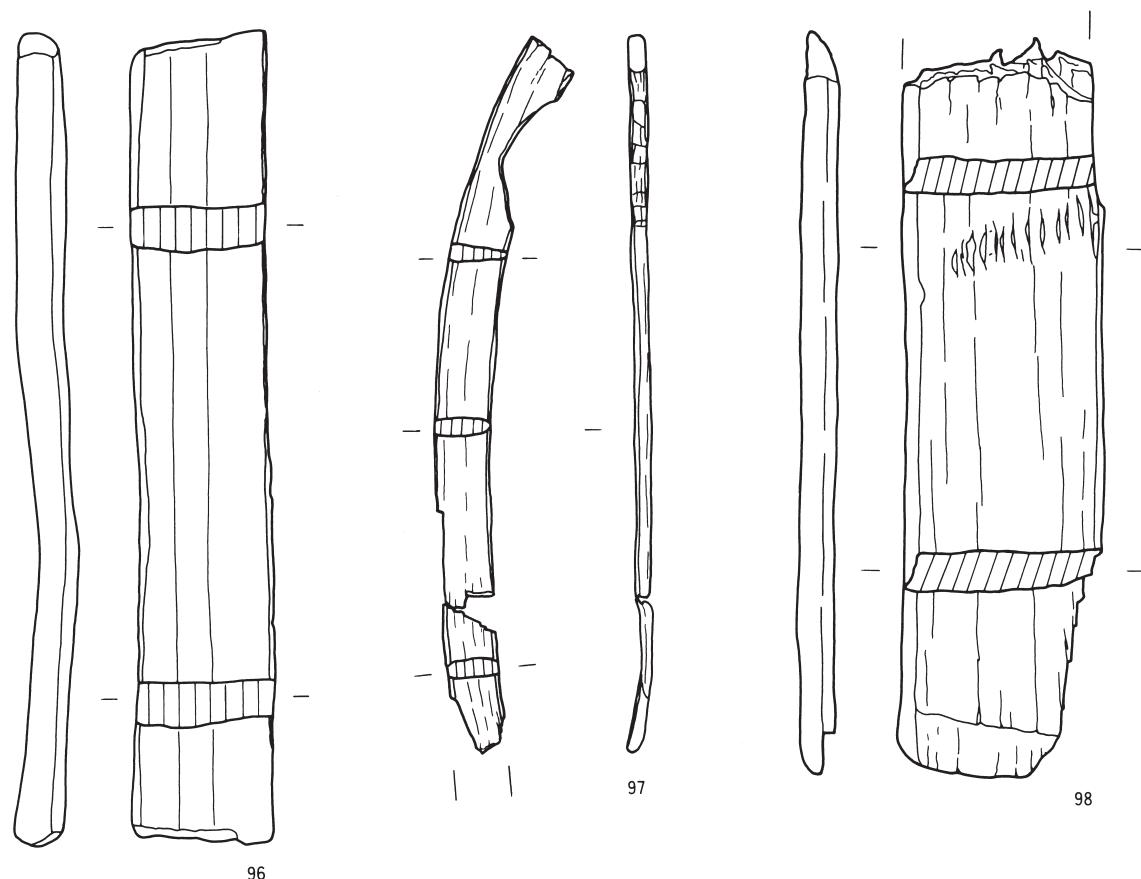


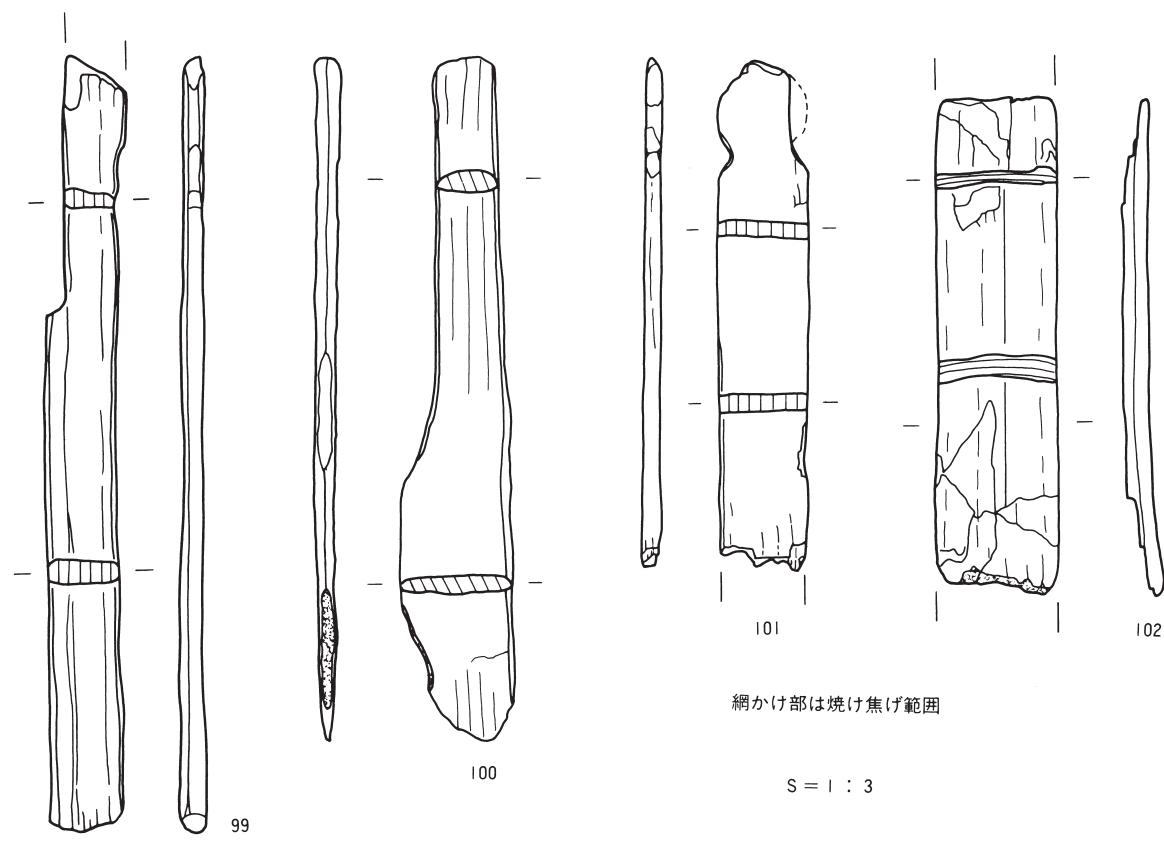
図108 A区出土木製品 (10)



96

97

98



99

100

網かけ部は焼け焦げ範囲

$S = 1 : 3$

図109 A区出土木製品 (11)

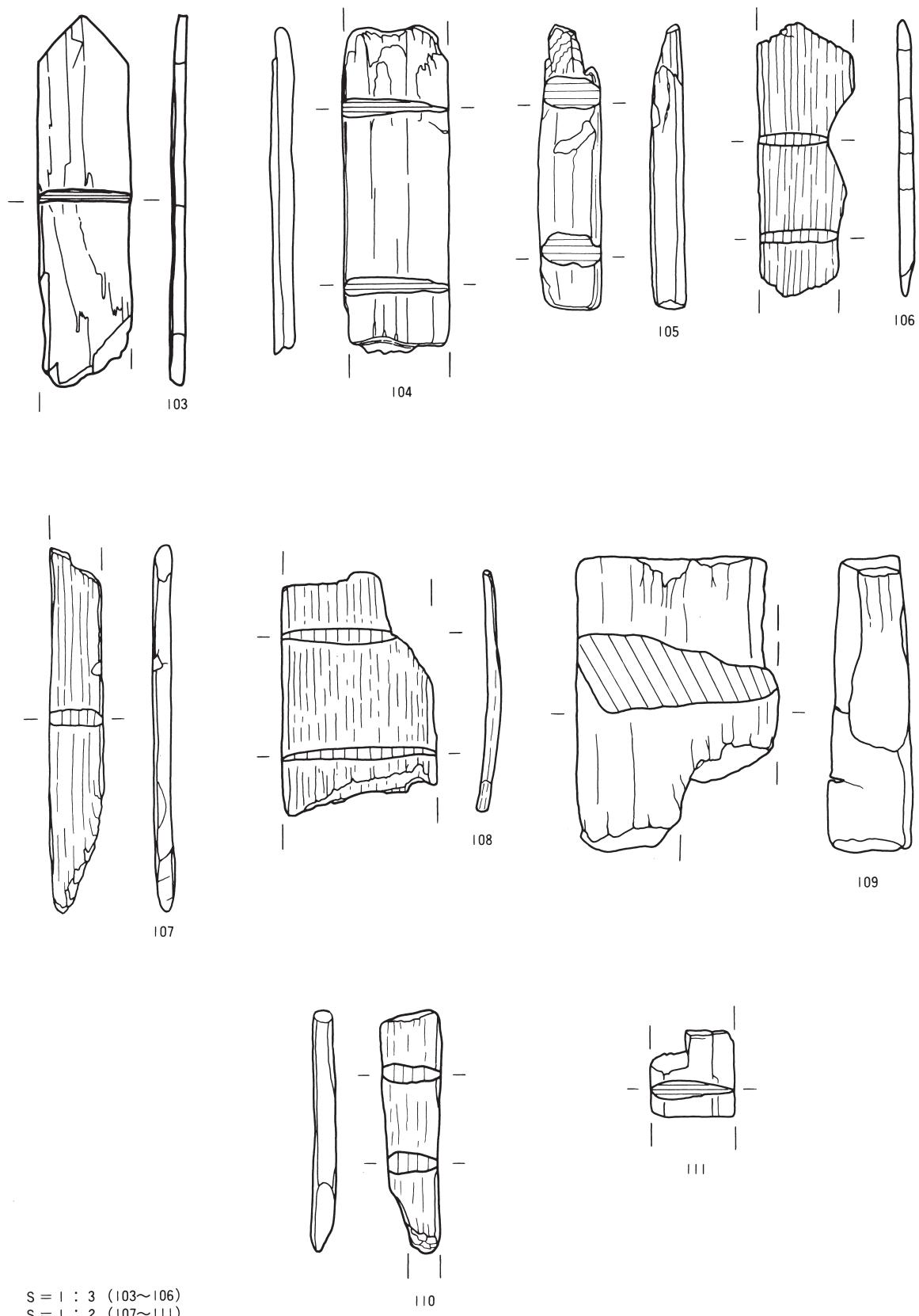


図110 A区出土木製品 (12)

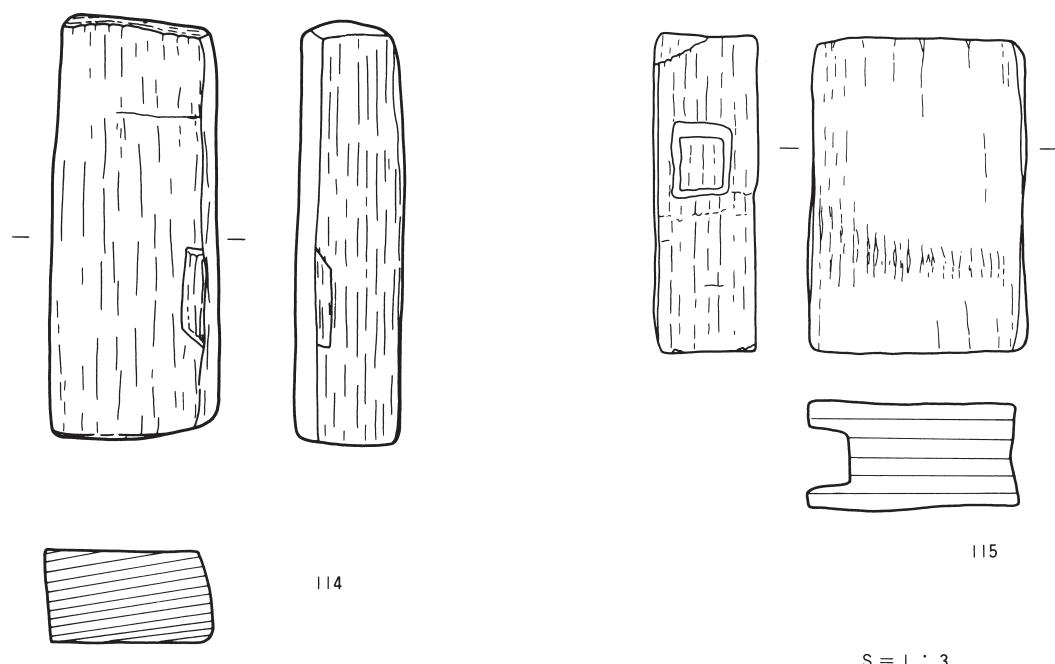
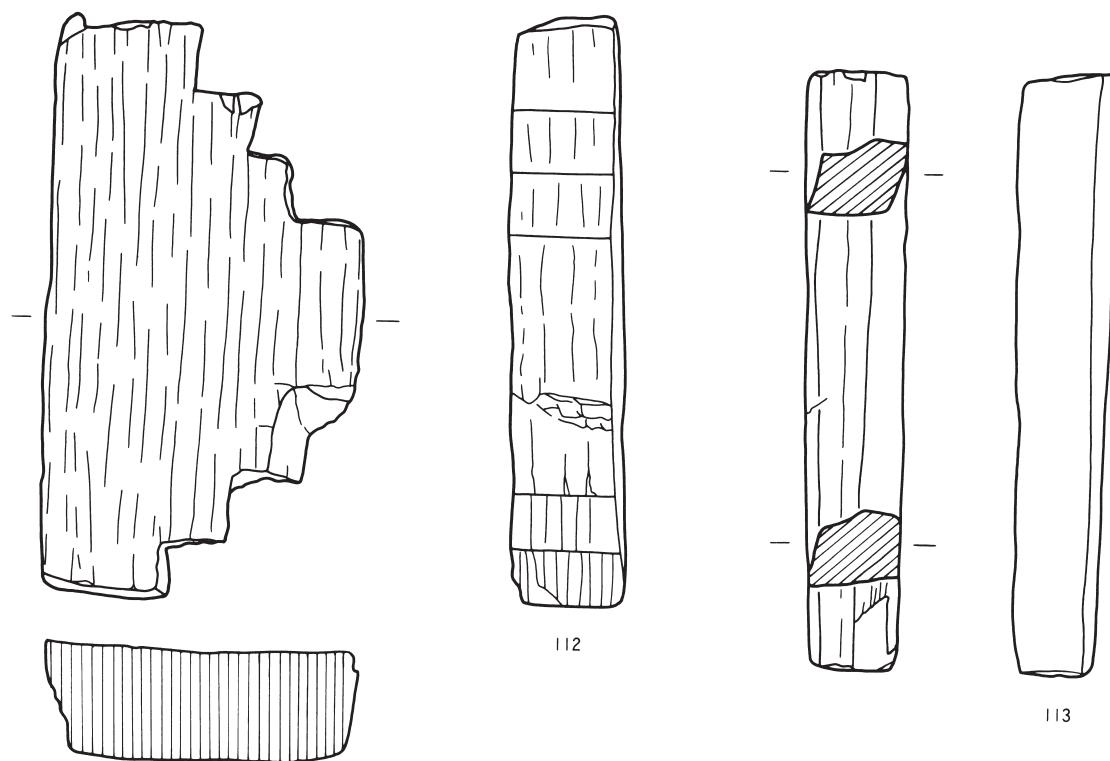


図111 A区出土木製品 (13)

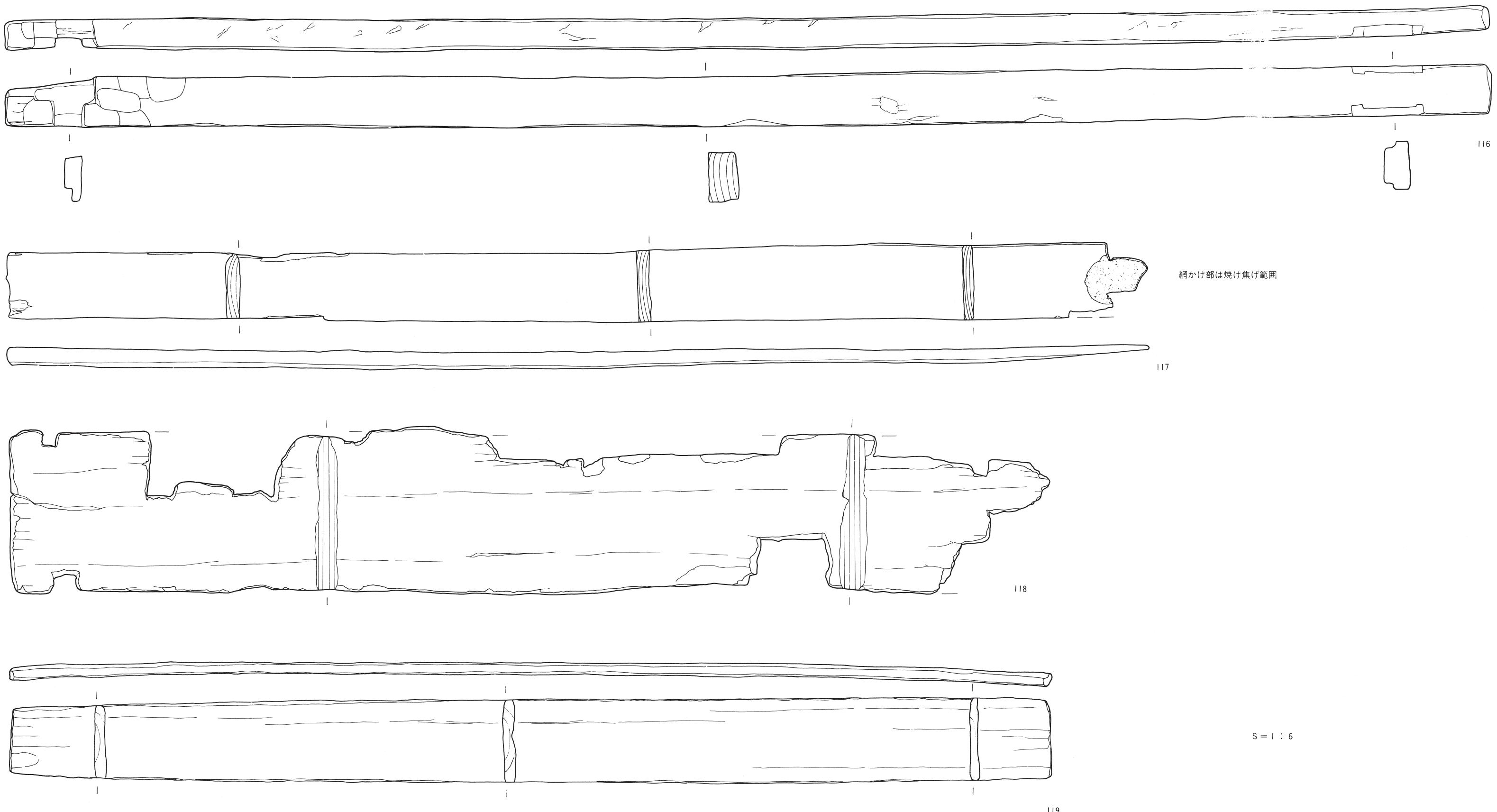


図112 A区出土木製品（14）

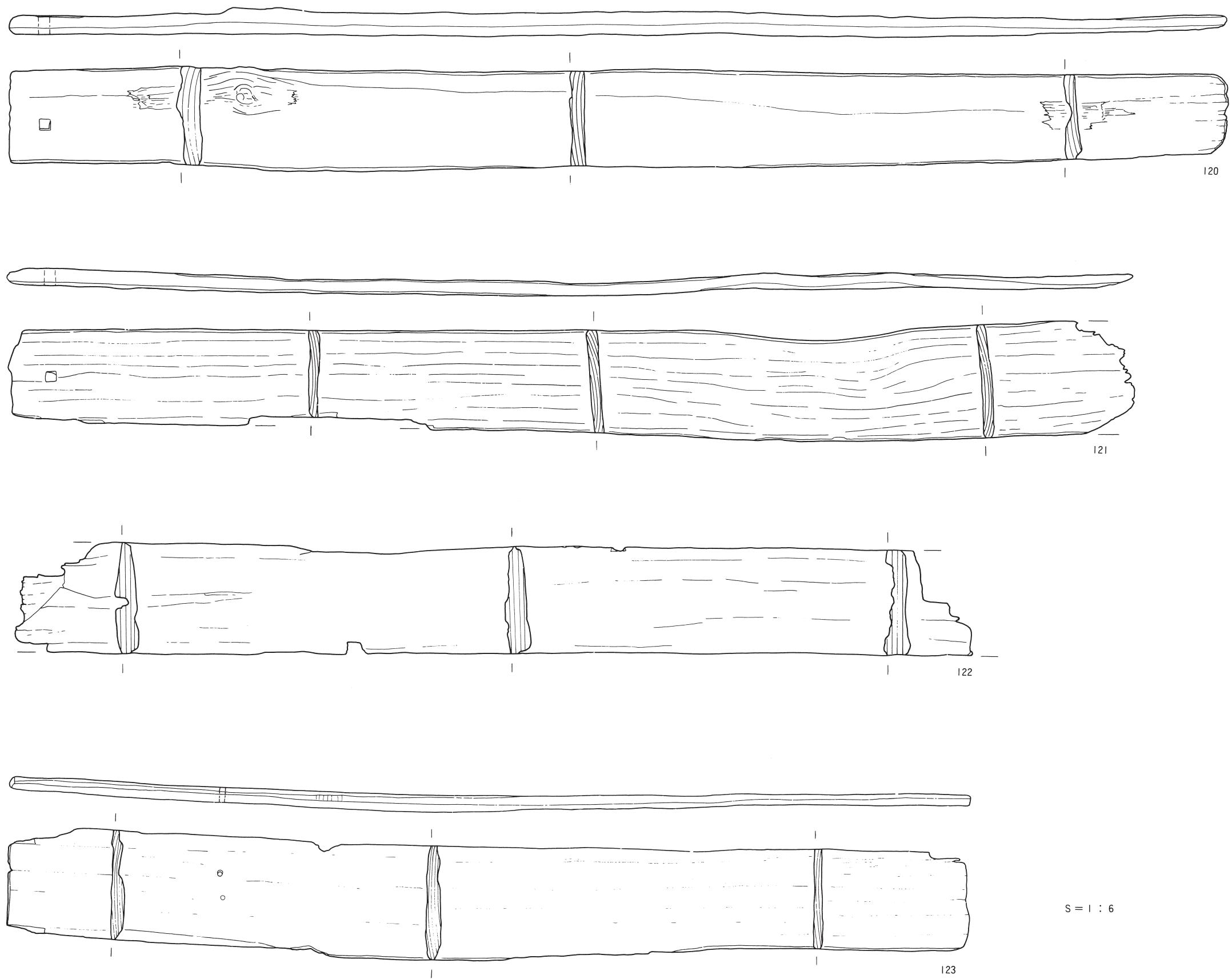


図113 A区出土木製品 (15)

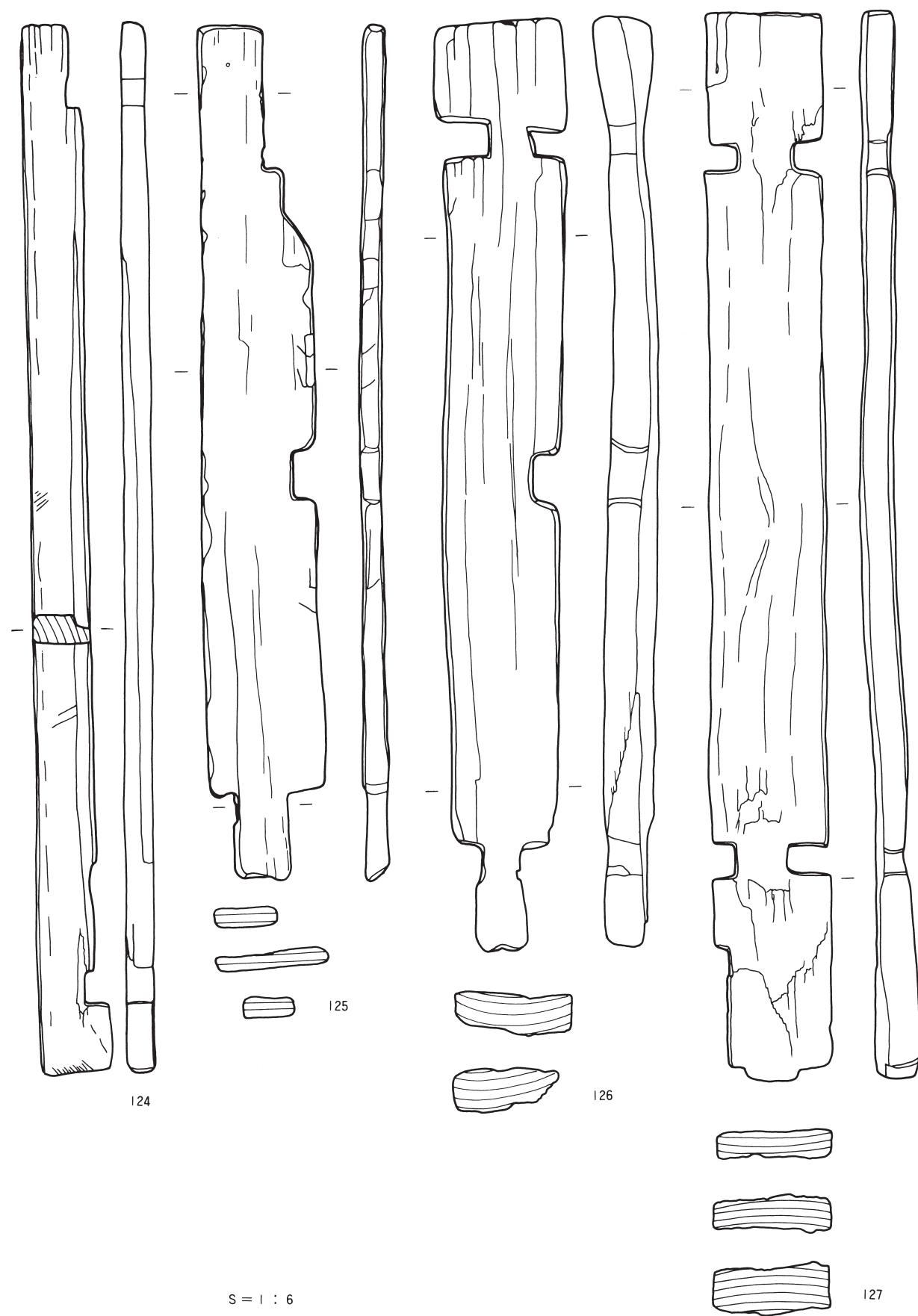


図114 A区出土木製品 (16)



図115 A区出土木製品 (17)



図116 A区出土木製品 (18)

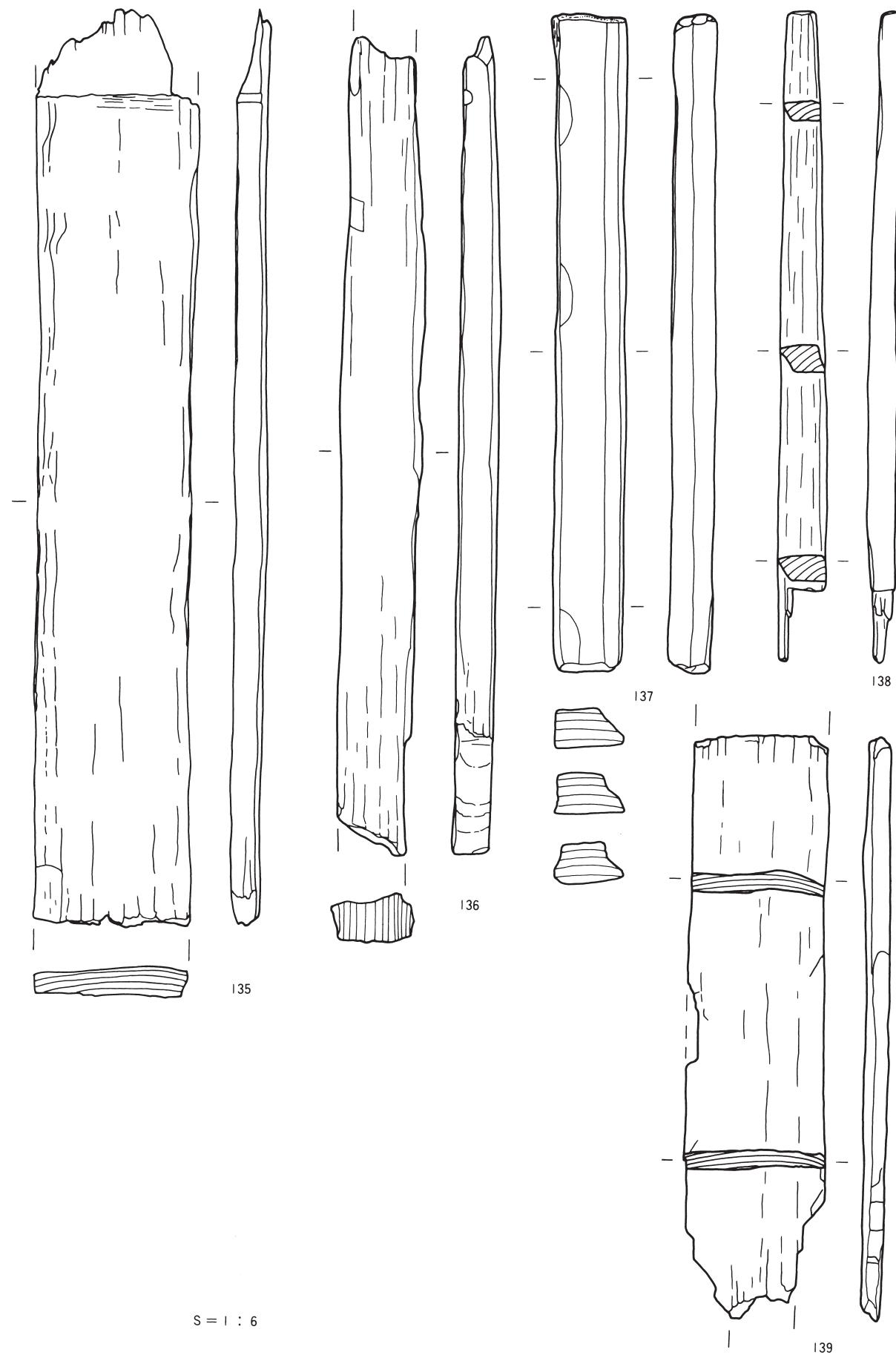
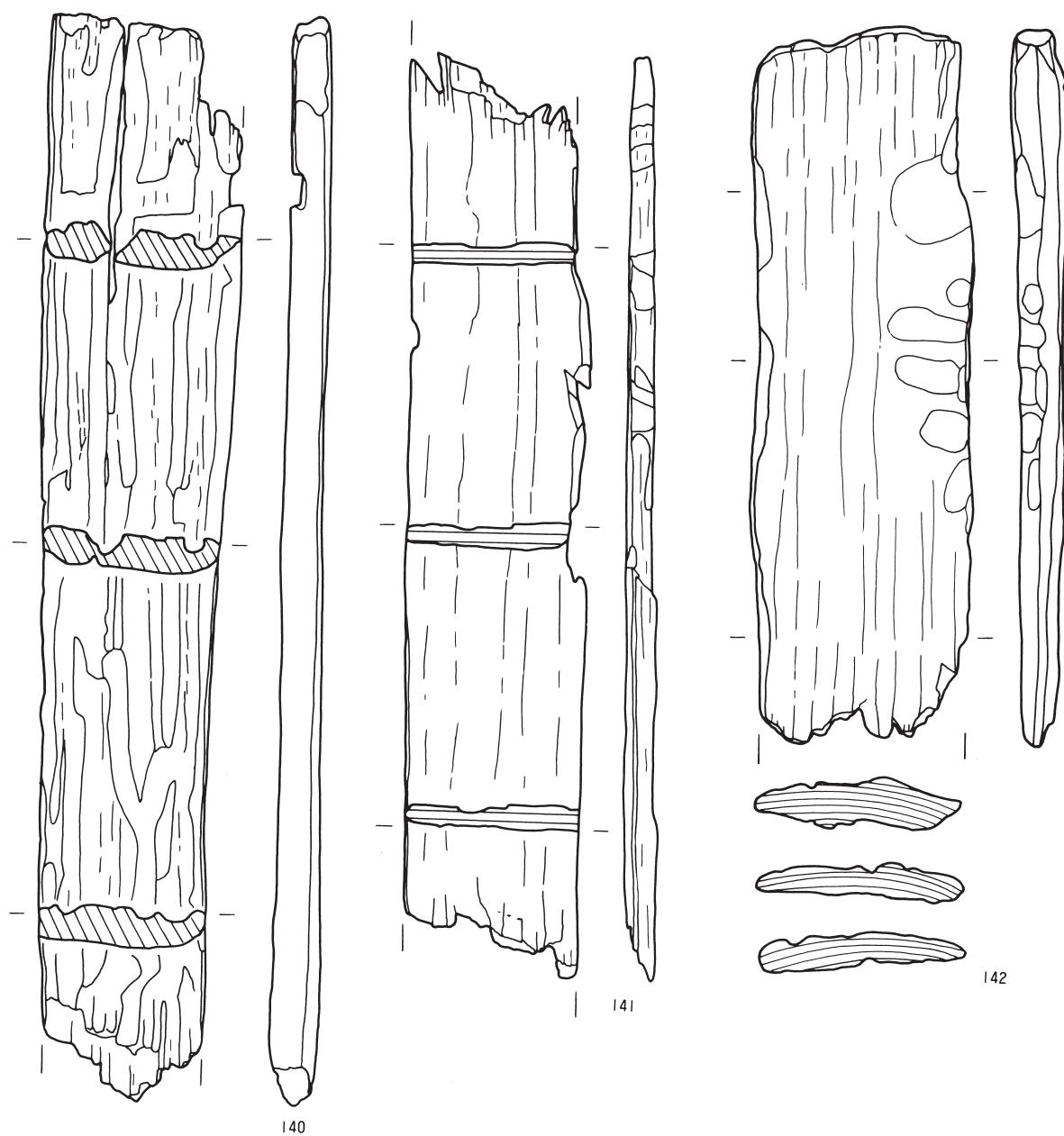
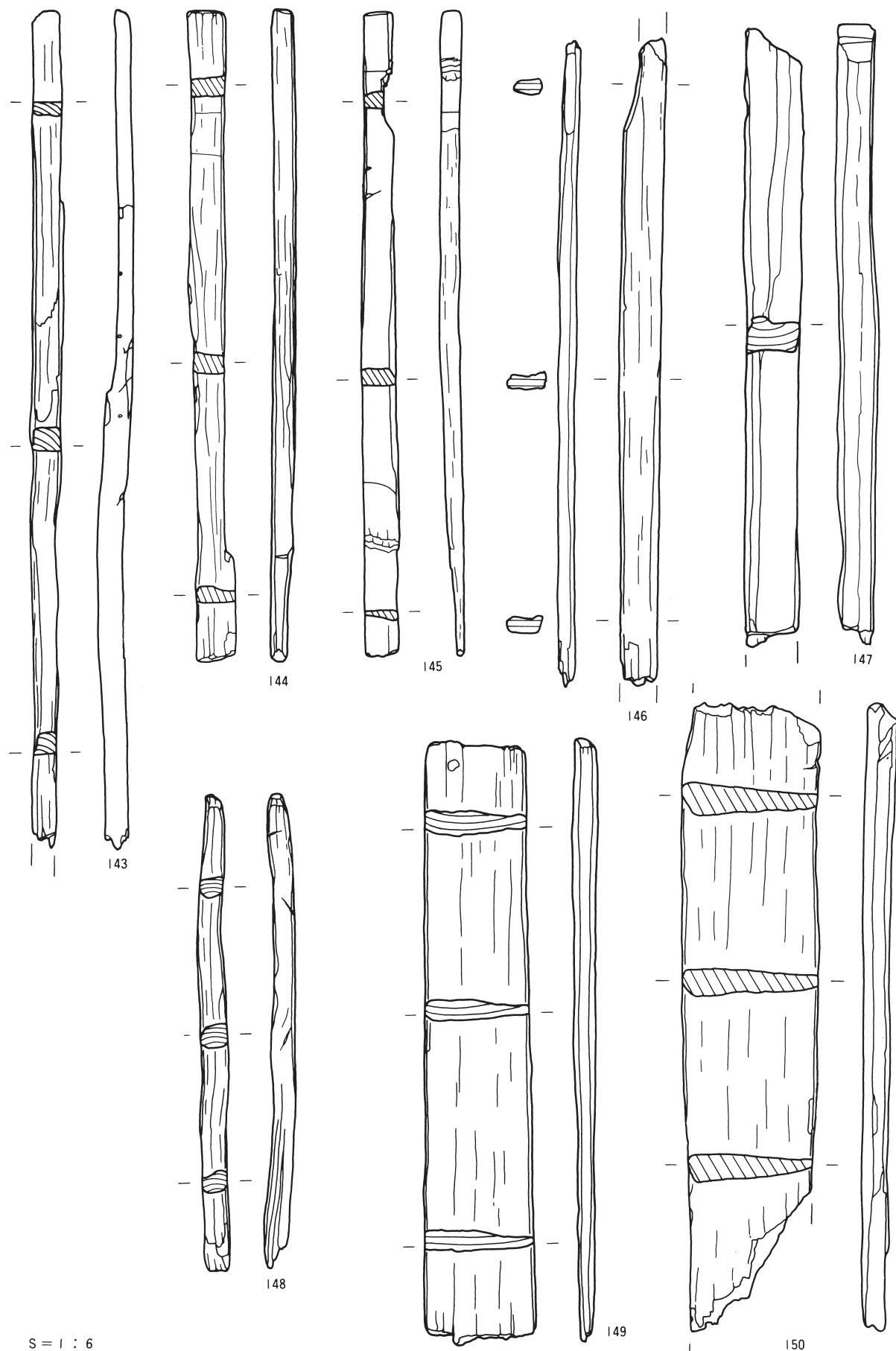


図117 A区出土木製品 (19)



S = 1 : 6

図118 A区出土木製品 (20)



S = 1 : 6

図119 A区出土木製品 (21)

表7 A区出土縄文土器(1)

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
75	1	I	深鉢	底部	尖底	灰黄褐10YR6/2			Q-22	最下層	内面なで
	2	II	深鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、口縁部2条 1単位の撚糸圧痕、1条の鋸歯状文1類をそれぞれ交互に施文、その下降帯、隆帶上円型状刺突文、R-L縄文	暗褐7.5YR3/3	A	R-16	2層	内面剥落、磨き? 酸化鉄付着	
	3	II	深鉢	口縁部	平坦口縁、交差するように横位と斜位の撚糸圧痕文、その下降帯、隆帶上刻目、縄文磨耗	黒褐7.5YR2/2	s s	S-20		内面磨き	
	4	II	深鉢	胴部	R-L縄文	橙5YR6/6	s s	R-16	2層	内面剥落	
	5	II	深鉢	口縁部?	隆帶有り、撚糸圧痕文、他は風化激しく不明	暗褐7.5YR3/3		R-16	2層	穿孔有り、内面風化激しい	
	6	II	深鉢	口縁部	平坦口縁、口唇条痕、R-L縄文 地に交互に撚糸圧痕文と押しひきの刺突文	暗褐7.5YR3/3				5層	内面磨き
	7	II	深鉢	口縁部	口唇部欠損、隆帶有り、撚糸圧痕文、他は風化激しく不明	暗褐7.5YR3/3		R-16	2層	内面風化激しい	
	8	III	深鉢	胴~底部	L-R縄文地に曲沈線、胴部下位 は磨消、底面網代痕	暗褐7.5YR3/3	A	T-25	4層	内面磨き?	
	9	IV A 3	深鉢	口縁部	波状口縁、波状に沿って粘土紐の貼付け、粘土紐上刻目、円形状、曲線状の粘土紐貼付	黒褐7.5YR2/2	A	W-22	3層	内面なで?	
	10	IV A 3	深鉢	口縁部	波状口縁、波状に沿って粘土紐の貼付け、粘土紐上刻目、円形状、曲線状の粘土紐貼付	灰黄褐10YR6/2	A	W-22	3層	内面なで?	
	11	IV A 3	深鉢	胴部	多条の交差した条痕	灰黄褐10YR6/2		T-17	1層	内面なで	
	12	IV A 3	深鉢	胴部	入組状磨消縄文	暗褐7.5YR3/3	s s	W-21	4層	内面剥落	
	13	IV A 3	深鉢	胴部	入組状磨消縄文	黒褐7.5YR2/2	s s	X-20	4層	内面剥落	
	14	IV A 3	深鉢?	胴部	L-R縄文?地に円状刺突文(竹管状刺突文)	にぶい黄褐10YR6/2	s s A			内面磨き	
	15	IV A 3	壺	口縁部	平坦口縁、入組文、平行沈線、磨消縄文	にぶい黄褐10YR6/2	s s	V-23	4層	内面剥落	
	16	IV A 1	深鉢	口縁~頸部	波状口縁、L-R縄文地に渦巻文 、曲沈線文	灰黄褐10YR6/2	A	Q-20	5層	内面磨き	
	17	IV A 1	深鉢	胴部	渦巻状文、平行沈線	灰黄褐10YR6/2		Q-20	5層	内面磨き?	
	18	IV A 1	深鉢	胴部	平行沈線、入組沈線文	灰黄褐10YR6/2	A	Q-20	5層	内面なで	
	19	IV A 1	深鉢	胴部	渦巻状文、磨消縄文	灰黄褐10YR6/2	A	W-23	3層	内面磨き	
76	20	IV A 2	深鉢	口縁~胴部	平坦口縁、平行沈線、三角状入組文、磨消縄文(L-R)	灰黄褐10YR6/2	A	Q-20	5層	内面磨き	
	21	IV A 2	深鉢	口縁部	平坦口縁、三角状文、平行沈線	灰黄褐10YR6/2	A	Q-20	5層	内面磨き?	
	22	IV B	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、平行沈線、入組状磨消縄文(L-R)、口縁部内面にL-R縄文	暗褐7.5YR3/3	A	S-25	5層	内面磨き?	
	23	IV B	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線、曲沈線、長円形状沈線文	黒褐7.5YR2/2	A	X-21	5層	内外面磨き	
	24	IV B	壺	肩~底部	沈線施文後、なで、沈線区画内L-R縄文充填(磨消?)	暗褐7.5YR3/3	A	V-22	2層	内面なで、外面酸化鉄付着	
	25	IV B	深鉢	口縁部	小突起、平行沈線	灰白10YR7/1	A	Q-20	5層	内面なで	

表7 A区出土縄文土器(2)

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
76	26	IV B	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、曲沈線(長円形)	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	4層	内外面磨き
	27	IV B	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線	黒褐7.5YR2/2		A	V-24	2層	内外面磨き、酸化鉄付着
	28	IV B	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線	灰白10YR7/1		A	R-19	3層	内面なで
	29	IV B	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁頂部5個1単位の粘土粒貼付け、平行沈線、磨消縄文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	V-23	4層	内外面風化激しい、未貫通の穴有り
	30	IV B	深鉢	口縁部	波状口縁、入組沈線文	灰黄褐10YR6/2		A			内外面丁寧な磨き
	31	IV B	深鉢	口縁部	小波状口縁、円状沈線文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-23	4層	内面磨き?
	32	IV B	深鉢	口縁部	小突起、平行沈線	灰白10YR7/1		A	Q-20	5層	内面なで?
	33	IV B	深鉢?	胴部	平行沈線、長円形状沈線	赤褐5YR4/6	s s	A	R-23	4層	内面なで
	34	IV B	深鉢?	胴部	平行沈線、長円形状沈線	赤褐5YR4/6	s s	A	R-23	4層	内面なで
	35	IV B	深鉢	胴部	弧状沈線文、磨消縄文	灰黄褐10YR6/2			W-22	3層	内面磨き
77	36	IV B	深鉢	胴部	入組状磨消縄文	黒褐7.5YR2/2	s s		X-20	4層	内面剥落
	37	IV B	深鉢?	胴部	平行沈線、長円形状沈線	暗褐7.5YR3/3	s s		R-24	3層	内面なで
	38	IV B	深鉢	胴部	L-R縄文地に平行沈線、渦巻状沈線文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	V-23	3層	内面なで
	39	IV B	深鉢	胴部	平行沈線、弧状沈線文、磨消縄文(R-L)	橙5YR6/6		A	X-21	4層	内面なで
	40	IV B	深鉢	胴部	平行沈線、入組状磨消縄文	黒褐7.5YR2/2	s s		X-20	4層	内面剥落
	41	IV B	深鉢?	胴部	平行沈線、曲沈線	暗褐7.5YR3/3	s s	A	R-23	4層	内面磨き?
	42	IV C	深鉢	口縁~胴部	平坦口縁、R-L縄文	にぶい橙5YR6/4		A	R-25	3層	内面上位なで、中位磨き、2個1対の穿孔有り、1004と同一個体
	43	IV C	深鉢	ほぼ完形	大波状口縁、平行沈線、「S」字状沈線(工字文)、磨消縄文	にぶい橙5YR6/4		A	R-25	5層	内外面磨き、酸化鉄付着
	44	IV C	深鉢	口縁部	大波状口縁、平行沈線、磨消縄文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	S-20	3層	内外面磨き
	45	IV C	深鉢	口縁~胴部	大波状口縁、工字文、磨消縄文(R-L)、	灰白10YR7/1	s s	A	R-25	3層	内外面磨き?
	46	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、斜位の平行沈線	灰黄褐10YR6/2	針	A	R-25	3層	内面磨き
	47	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、L-R縄文地に平行沈線、「S」字状曲沈線文	赤褐5YR4/6		A	W-25	3層	内面磨き?
	48	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、L-R縄文地に平行沈線	暗褐7.5YR3/3		A	R-25	3層	内面磨き?
	49	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、工字文、磨消縄文(L-R)	暗褐7.5YR3/3		A	W-23	4層	内面磨き?
	50	IV C	深鉢	口縁部	大波状口縁、波状に沿って4条の沈線、磨消縄文	灰黄褐10YR6/2	針	A	X-21	5層	内面磨き
	51	IV C	深鉢?	口縁部	平坦口縁、口唇なで、R-L縄文地に2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	Q-20	5層	内面磨き?
	52	IV C	深鉢?	口縁部	平坦口縁、平行沈線、曲沈線、磨消縄文(L-R)	暗褐7.5YR3/3			Q-20	5層	内面磨き
	53	IV C	深鉢?	口縁部	平坦口縁、L-R縄文地に平行沈線	暗褐7.5YR3/3		A	Q-20	5層	内面なで
78	54	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線、沈線間円状沈線	暗褐7.5YR3/3			U-24	3層	内面剥落
	55	IV C	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線、沈線間円状沈線	灰黄褐10YR6/2	s s		U-24	3層	内面なで

表7 A区出土縄文土器（3）

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
78	56	N C	深鉢	口縁部	大波状口縁、斜位の平行沈線が交差、	黒褐7.5YR2/2	s s	A	S-25	3層	外面磨き、酸化鉄付着
	57	N C	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線、沈線間円状沈線	灰黄褐10YR6/2	s s		U-24	3層	内面なで、酸化鉄付着
	58	N C	深鉢	胴部	平行沈線、曲沈線（円状）、磨消縄文	暗褐7.5YR3/3		A	Q-20	5層	内面磨き
	59	N C	深鉢？	胴部	入組沈線文、磨消縄文（L-R）	黒褐7.5YR2/2	s s	A	W-23	4層	外面磨き
	60	N C	深鉢？	頸～胴部	磨消縄文、斜位の平行沈線	灰黄褐10YR6/2	s s	A	S-25	3層	内面磨き、酸化鉄付着、1008と同一個体
	61	N C	深鉢	底部	なで、無文	にぶい橙5YR6/4		A	W-24	3層	内面なで、部分磨き
	62	N C	深鉢	口縁部	平坦口縁、平行沈線を交差するよう斜位に施文（鋸歯文？）	灰黄褐10YR6/2	s s		S-25	3層	内面磨き、有機物付着
	63	N C	深鉢？	胴～底部	無文	灰黄褐10YR6/2		A	W-22	3層	内面なで
	64	N C	深鉢？	胴～底部	なで、底面無文	灰黄褐10YR6/2		A	Q-20	5層	内面なで
	65	N C	深鉢	底部	なで、底面網代痕？有り	にぶい橙5YR6/4		A	X-21	4層	内面なで
	66	N D	壺	口縁～肩部	平坦口縁、平行沈線、曲沈線	灰黄褐10YR6/2		A	S-25	5層	外面磨き、胴部内面なで
	67	N D	壺？	口縁部	平坦口縁、無文	黒褐7.5YR2/2		A	T-25	3層	外面磨き
	68	N D	深鉢	口縁部	波状口縁、L-R縄文	橙5YR6/6		A			内面なで？
	69	N D	深鉢	口縁部	波状口縁、L-R縄文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	W-22	3層	内面なで
79	70	N D	注口？	胴～底部	底面網代痕、胴部波状沈線、磨消縄文（L-R）	黒褐7.5YR2/2		A	T-25	3層	内面なで
	70	N D	注口	口縁～頸部	平坦口縁、平行沈線、波状沈線、磨消縄文（L-R）	暗褐7.5YR3/3		A	S-25	5層	内面磨き？、1003と同一個体
	71	N D	深鉢	頸部	R-L縄文地に入組状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	3層	外面磨き
	72	N D	鉢？	口縁部	平坦口縁、平行沈線、弧状沈線、磨消縄文（L-R）	橙5YR6/6		A	V-25	3層	内面なで
	73	N D	深鉢	口縁部	波状口縁、L-R縄文	黒褐7.5YR2/2	s s	A	W-24	3層	内面なで
	74	N D	壺	胴部	平行沈線、磨消縄文	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	3層	外面磨き、酸化鉄付着
	75	N D	深鉢	口縁部	平坦口縁、円状入組文、磨消縄文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	W-22	4層	内面磨き？
	76	N D	壺？	胴部	曲沈線文（長円形）	黒褐7.5YR2/2		A	T-25	3層	内面なで、外面磨き
	77	N D	深鉢？	胴部	弧状沈線文、磨消縄文	灰白10YR7/1	針	A	W-24	3層	内面磨き
	78	N D	台付鉢か高坏	台部	R-L縄文地、上2/3を磨き、上位に1条の横位沈線、	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-22	3層	内面磨き
	79	V A	台付鉢？	口縁部	小波状口縁、口唇切込み、三叉状入組文、縄文磨耗	黒褐7.5YR2/2	s s		V-23	3層	外面剥落
	80	V A	台付鉢か高坏	台部	円状、三角？状の透し彫り	にぶい橙5YR6/4	s s		V-22	3層	内面剥落
	81	V B	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、L-R縄文地に平行沈線、羊齒状文、	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面なで、外面磨き
	82	V B	鉢か台付鉢	口縁部	小突起、突起頂部、口唇刻目、口縁部平行沈線、沈線間列点文、頸部より下R-L縄文	黒褐7.5YR2/2	s s		W-23	3-4層	外面磨き、酸化鉄、有機物付着
	83	V B	深鉢	口縁部	小突起、突起頂部切込み、他はR-L縄文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面なで、外面有機物付着

表7 A区出土縄文土器(4)

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
79	84	V B	鉢	口縁部	平坦口縁、L-R縄文地に平行沈線、雲形文？	にぶい橙5YR6/4	A	W-23	3層	内面磨き？	
	85	V B	鉢か台付鉢	口縁部	小突起、突起頂部、口唇刻目、R-L縄文？地に平行沈線、列点文	黒褐7.5YR2/2	A	W-23	3層	内外面磨き、	
	86	V B	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、口唇切込み、L-R縄文地に平行沈線、羊齒状文	黒褐7.5YR2/2	A	W-23	4層	内外面磨き	
	87	V B	台付鉢？	口縁部	平坦口縁、口唇切込み、L-R縄文地に平行沈線、羊齒状文	黒褐7.5YR2/2	A	W-23	3層	内外面磨き	
	88	V B	深鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、R-L縄文？地に平行沈線、列点文	黒褐7.5YR2/2	s s	V-23	2層	内面なで？	
	89	V B	鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、R-L縄文、頸部横位のなで	黒褐7.5YR2/2	s s	W-22	3層	内面磨き？内面有機物（ふきこぼれ？）付着	
	90	V B	鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、R-L縄文？地に平行沈線、列点文	黒褐7.5YR2/2	A	V-24	2層	内外面丁寧な磨き、外面上有機物（ふきこぼれ？）付着	
	91	V B	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、R-L縄文地に平行沈線、羊齒状文	黒褐7.5YR2/2	A	V-23	3層	内面磨き？	
	92	V B	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、平行沈線、刺突文	暗褐7.5YR3/3	A	W-23	3層	内面磨き	
	93	V B	鉢か台付鉢	口縁部	小突起（粘土粒貼付け）、口唇刻目、L-R縄文地に平行沈線、羊齒状文	灰白10YR7/1	A	W-23	4層	内外面磨き？	
80	94	V B	壺	胴部	L-R縄文地に雲形文？	にぶい橙5YR6/4	A	W-23	3層	内面なで？酸化鉄付着	
	95	V B	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、口唇切込み、L-R縄文地に平行沈線、沈線間刺突文	黒褐7.5YR2/2	A	V-23	3層	内面なで、有機物（ふきこぼれ？）付着	
	96	V C	鉢か台付鉢	口縁部	平坦口縁、口唇切込み、L-R縄文地に平行沈線、沈線上刺突文	黒褐7.5YR2/2	A	W-23	4層	内面磨き、酸化鉄、有機物付着	
	97	V C	鉢	口縁部	小突起、突起頂部切込み、頸部下R-L縄文地に互い違いに2条の平行沈線と列点文	灰白10YR7/1	A	W-22	4層	内面なで？有機物付着	
	98	V C	鉢	口縁部	平坦口縁、口唇切込み、L-R縄文地に平行沈線、沈線上刻目	にぶい橙5YR6/4	A			内面磨き	
	99	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、多条の条痕	暗褐7.5YR3/3	A	V-22	5層	内面なで、部分磨き、外面上酸化鉄付着	
	100	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	暗褐7.5YR3/3	A	W-23	3層	内面なで	
	101	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	にぶい橙5YR6/4	s s	V-23	4層	内面磨き	
	102	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-22	4層	内面なで、部分磨き
	103	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	にぶい黄褐10YR6/2	針	A			内面磨き
104	104	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、R-L縄文	黒褐7.5YR2/2	s s	A	V-23	2層	内面磨き
	105	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、R-L縄文	灰白10YR7/1	A	V-22	3層	内面なで、部分磨き	
	106	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、R-L縄文	暗褐7.5YR3/3			W-23	3層	内面なで
	107	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、口唇から頸部R-L縄	暗褐7.5YR3/3			W-23	4層	内面磨き

表7 A区出土縄文土器(5)

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
					文、3条の横位沈線、1条の鋸歯状文、頸部より下4条、3条の横位沈線、間に列点文						
80	108	VIA	深鉢？	胴部	多条の条痕	灰黄褐10YR6/2	針	A	W-23	4層	内面なで？
	109	VIA	深鉢？	胴部	R-L縄文地に1条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面磨き？
	110	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、磨消縄文(L-R)	灰白10YR7/1			T-21	5層	内面なで
	111	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		V-25	3層	内面なで、有機物付着
	112	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、無文	黒褐7.5YR2/2			W-22	4層	内面磨き、外面ケズリ？穿孔有り
81	113	VIA	深鉢？	胴部	平坦口縁、口唇から頸部R-L縄文、3条の横位沈線、1条の鋸歯状文、頸部より下4条、3条の横位沈線、間に列点文	暗褐7.5YR3/3			W-24	3層	内面磨き
	114	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、磨消縄文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	Q-20	5層	内面なで、部分磨き
	115	VIA	深鉢？	口縁部	多条の条痕	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面なで、※8115と同一個体
	116	VIA	深鉢？	口縁～胴部	平坦口縁、L-R縄文	にぶい橙5YR6/4		A	W-23	3層	内面なで？
	117	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、R-L縄文	黒褐7.5YR2/2		A	V-23	3層	内面なで？穿孔有り
	118	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	にぶい橙5YR6/4	s s	A			内面磨き、刷毛目有り
	119	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	にぶい黄褐10YR6/2		A	W-22	3層	内面なで、部分磨き
	120	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、L-R縄文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-22	3層	内面なで、部分磨き
	121	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、多条の条痕	灰黄褐10YR6/2	s s	A	Q-20	5層	内面なで
	122	VIA	深鉢？	口縁部	ケズリ、無文	黒褐7.5YR2/2			W-23	3層	内面ケズリ、刷毛目有り
	123	VIA	深鉢？	口縁部	平坦口縁、R-L縄文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	124	VIA	深鉢？	胴部	L-R縄文(縦位)	暗褐7.5YR3/3		A			内面磨き
	125	VIA	深鉢？	胴部	L-R縄文？	黒褐7.5YR2/2		A	V-22	3層	内面磨き、有機物・酸化鉄付着
	126	VIA	深鉢？	胴部	交差する条痕？	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面なで、部分磨き
82	127	VIA	深鉢？	胴部	R-L縄文	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	4層	内面磨き？
	128	VIA	深鉢？	胴部	L-R縄文、	にぶい橙5YR6/4			W-23	3層	内面磨き？、磨消縄文？
	129	VIA	深鉢？	胴部	L-R縄文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き？
	130	VIA	深鉢？	胴部	磨消縄文(R-L)	灰白10YR7/1	s s		T-17	1層	内面なで
	131	VI B	深鉢？	底部	L-R縄文、底面網代痕有り	灰黄褐10YR6/2		A	V-21	5層	内面なで？、酸化鉄付着
	132	VI B	深鉢？	底部	多条の条痕、底面無文	暗褐7.5YR3/3				3層	内面なで、底面一部ケズリ
	133	VI B	深鉢？	底部	なで、底面網代痕有り	橙5YR6/6	s s		Y-19	5層	内面なで
	134	VI B	深鉢？	底部	L-R縄文、底面無文	暗褐7.5YR3/3		A	W-22	3層	内面なで、底面磨き
	135	VI B	深鉢？	底部	なで、底面網代痕有り	にぶい黄褐10YR6/2	s s		S-24	5層	内面なで

表7 A区出土縄文土器（6）

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
82	136	VI B	深鉢？	胴～底部	L～R縄文、胴部下位から底部にかけてなで、底面網代痕	灰黄褐10YR6/2	針	A	V-23	3層	内面なで
	137	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	黒褐7.5YR2/2			W-22	3層	内面なで
	138	VI B	深鉢？	底部	L～R縄文、底面無文	暗褐7.5YR3/3	s s		W-23	3層	内面なで
	139	VI B	深鉢？	底部	ケズリ、縄文磨耗、底面無文	橙5YR6/6	s s	A	V-24	3層	内面なで？
	140	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2		A	W-23	3層	内面なで、酸化鉄付着
	141	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	針	A	S-5	4層	内面なで
	142	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	にぶい黄褐10YR6/2	s s	A	S-31	一括	内面なで
83	143	VI B	深鉢？	胴～底部	多条の条痕、底面無文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面なで？
	144	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底面無文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-22	3層	内面なで
	145	VI B	深鉢？	底部	縄文磨耗、底面無文	赤褐5YR4/6			V-24	2層	内面なで？
	146	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底面無文	黒褐7.5YR2/2			V-23	3層	内面なで？
	147	VI B	深鉢？	底部	ケズリ、底面無文	黒褐7.5YR2/2	s s	A	V-23	3層	内面なで
	148	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底部無文	暗褐7.5YR3/3		A	W-22	4層	内面なで
	149	VI B	深鉢？	底部	無文	灰黄褐10YR6/2		A	X-24	4層	内面なで？
	150	VI B	深鉢？	底部	L～R縄文、底面磨き	にぶい橙5YR6/4		A			内面なで？
	151	VI B	深鉢？	底部	L～R縄文、底面無文	暗褐7.5YR3/3	s s		V-22	3層	内面なで？
	152	VI B	深鉢？	底部	L～R縄文、底面無文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	V-23	1層	内面なで
	153	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	V-23	3層	内面なで
	154	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		V-23	3層	内面なで
	155	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底面無文	暗褐7.5YR3/3	s s		X-20	2層	内面なで？底面なで
	156	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底面無文	灰黄褐10YR6/2		A	X-22	3層	内面なで
	157	VI B	深鉢？	底部	R～L縄文、底面無文	灰黄褐10YR6/2	s s				内面なで
	158	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		V-23	3層	内面なで
	159	VI B	深鉢？	底部	L～R縄文、底面無文	にぶい橙5YR6/4	s s	A	V-25	3層	内面なで
	160	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	針		Y-15	5層	内面なで
	161	VI B	深鉢？	底部	縄文磨耗	黒褐7.5YR2/2	s s	A	W-23	5層	内面磨き
	162	VI B	深鉢？	底部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		W-22	3層	内面なで
	163	VI C	台付鉢か 高坏	台部	なで、無文	にぶい橙5YR6/4	s s		V-23	3層	内面なで？
	164	VI C	台付鉢か 高坏	底～台部	底部L～R縄文、台部無文	にぶい橙5YR6/4		A	W-22	4層	台部内面磨き
	165	VI C	台付鉢か 高坏	台部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		W-21	5層	内面なで
	166	VI C	台付鉢か 高坏	底～台部	なで、無文	灰黄褐10YR6/2	s s		W-22	3層	内面なで
	167	VI C	高坏？	台部	上位1条、下位1条の横位沈線	赤褐5YR4/6	針		U-23	3層	内面なで
	168	VI C	台付鉢か 高坏	底～台部	R～L縄文？他は無文	灰黄褐10YR6/2		A	S-23	3層	内面磨き？
	169	VI C	高坏？	底～台部	無文	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-22	3層	内面なで
	170	VI C	高坏？	底部	無文	赤褐5YR4/6	s s		W-23	3層	内面風化
	171	VII	ミニチュ ア土器	完形	なで、無文	にぶい黄褐10YR6/2		A	S-25	5層	内面なで、有機物 (漆?)付着。
	172	VII	ミニチュ ア土器	完形	なで、無文	灰白10YR7/1		A	V-21	5層	内面磨き
	173	VII	ひしゃく 型土製品	腕部	なで、無文	暗褐7.5YR3/3		A	W-22	3層	内面なで、酸化鉄付着

表8 A区出土弥生土器(1)

種図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
84	1	I	壺	口縁～頸部	平坦口縁、平行沈線、口縁内面3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-22	4層	内外面磨き
	2	I	壺	胴部	R-L縄文地に平行沈線、沈線上に2個1対の粘土粒貼付け	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-22	3層	内面磨き
	3	I	壺	肩部	R-L縄文地に上位工字文、その下3条の横位沈線	にぶい黄褐10YR6/2	針	A	V-23	3層	内面磨き?
	4	I	壺	肩部	平坦口縁、平行沈線、工字文	灰黄褐10YR6/2		A	W-23	3層	内面なで、穿孔有り
	5	I	壺?	肩部	平坦口縁、平行沈線、工字文	灰黄褐10YR6/2		A	W-22	3層	内面なで
	6	I	壺?	肩部	平行沈線、変形工字文、内面3条の	黒褐7.5YR2/2		A	X-19	4層	内面磨き
	7	I	壺	胴部	R-L縄文地に平行沈線、沈線上に2個1対の粘土粒貼付け痕	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面磨き
	8	II	鉢(台付)	口縁部	波状口縁、R-L縄文地に平行沈線、変形工字文、工字文、内面2条の沈線	灰黄褐10YR6/2		A	W-22	3層	内面なで
	9	II	台付鉢か高坏	台部	4条の横位沈線、5条のV字状沈線、交点に2個1対の粘土粒貼付け、台下端は波状	灰黄褐10YR6/2	針	A	W-23	3層	三角状の穿孔有り、内面なで、透し彫り
	10	III A	壺	口縁～頸部	平坦口縁、口唇、口縁部R-L縄文地に3条の横位沈線、頸部2条、1条の横位沈線、沈線間2列の列点文2a類	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
11	III A	壺	口縁～頸部	平坦口縁、口唇、口縁R-L縄文、頸部列点文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-23	4層	内面磨き	
12	III A	壺	口縁～頸部	平坦口縁、L-R縄文、頸部横位のなで	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-22	3層	内面磨き	
13	III A	壺	口縁部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L縄文地、上位1条、下位1条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き	
14	III A	壺	口縁部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L縄文地、上位2条、中位2条、下位1条の横位沈線、中位沈線間に1列の列点文	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-22	3層	内面磨き	
15	III A	壺	口縁部	平坦口縁、R-L縄文地に上位1条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-23	3層	内面磨き	
16	III A	壺	頸～肩部	R-L縄文地に、上位2列の列点文、1条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き	
17	III A	壺	頸部	R-L縄文?地に2条の横位沈線、挟むようにそれぞれ1列の列点文	灰黄褐10YR6/2	針	A	W-23	4層	内面磨き	
85	18	III A	壺	口縁～頸部	平坦口縁、口唇なで、全体R-L縄文地に口縁部1条、頸部3条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-23	4層	内面なで
	19	III A	壺	口縁～頸部	平坦口縁、口唇から全体にかけてR-L縄文、口縁上位1条の横位沈線、頸部より小円形の列点文、下位2条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-21	3層	内面磨き
	20	III A	壺	口縁～肩部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L縄文地、口縁部1条の横位沈線、頸部2条の横位沈線、間に1列の列点文	灰黄褐10YR6/2	針	A	W-23	3層	内面磨き?

表8 A区出土弥生土器（2）

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
85	21	III A	壺	口縁～肩部	平坦口縁、口唇から全体R-L縄文、口縁上位に1条の横位沈線、頸部より2条の横位沈線、沈線間2列の列点文	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	4層	内面磨き？
	22	III A	壺	口縁～肩部	口唇部欠損、R-L縄文地に頸部4条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内外面磨き
	23	III B	壺	口縁～頸部	平坦口縁、R-L縄文地に口縁部1条の横位沈線、頸部1条の横位沈線を挟んで2列の列点文	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き
86	24	III A	壺	口縁～胴部	平坦口縁、R-L縄文地に頸部3列の列点文、胴部中位に3条の横位沈線		針	A			内面磨き
	25	III B	壺	胴部	L-R縄文	暗褐7.5YR3/3	s s	A	W-23	3層	内面粗い磨き、酸化鉄付着
	26	III B	壺	胴部	R-L縄文地に2条の横位沈線、沈線間1列の列点文	黒褐7.5YR2/2	針	A	X-22	3層	内面磨き
	27	III B	壺	頸～胴部	R-L縄文地に頸部3条の横位沈線、沈線間にそれぞれ1列の列点文	暗褐7.5YR3/3	針	A	S-22	2層	内面磨き
	28	III B	壺	胴部	R-L縄文地に2列の列点文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-23	3層	焼成前に空けた穿孔有り、内面磨き
	29	III B	壺	胴部	R-L縄文地に上位2列の列点文	にぶい橙5YR6/4	針	A	V-24	2層	内面磨き？
	30	III B	壺	胴部	R-L縄文、頸部横位のなで	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	4層	内面磨き
	31	III B	壺	胴部	無文	灰黄褐10YR6/2		A	X-21	4層	内面なで？
	32	III B	壺	胴部	3条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	U-23	3層	内面磨き
	33	III B	壺	胴部	3条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	U-23	3層	内面磨き
87	34	III C	鉢（台付？）	口縁部	小波状口縁、R-L縄文地に上位2条、中位2条の横位沈線、内面上位3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面みがき
	35	III C	鉢（台付？）	口縁部	山形突起、突起頂部切込み、口唇刻目、R-L縄文地に内外面山形突起に沿って1条の沈線、その下内外面2条の横位沈線、表下位に1条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3		A	V-23	3層	内面磨き
	36	III C	鉢（台付？）	口縁部	小波状口縁、R-L縄文地に上位2条、中位2条、下位2条の横位沈線、内面上位3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き
	37	III C	鉢（台付？）	口縁～胴部	山形突起、突起頂部切込み、口唇刻目、R-L縄文地に内外面山形突起に沿って1条の沈線、頸部下の横位沈線上には2個1対の粘土粒貼付け	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き
	38	III C	鉢（台付？）	口縁～肩部	平坦口縁、R-L縄文地に口縁部2条の横位沈線、頸部3条の横位沈線、内面上位に2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面磨き
	39	III C	鉢（台付？）	口縁部	山形突起、突起頂部切込み、口唇刻目、R-L縄文地に内外面山形突起に沿って1条の沈線、その下表裏2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面磨き
	40	IV C	壺	口縁～肩部	平坦口縁、口縁部内外面3条の横位沈線、頸部より下4条の横位沈線、変形工字文？工字文区画内刺突文で充填	赤褐5YR4/6	針	A	W-23	3層	内面磨き

表8 A区出土弥生土器（3）

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
87	41	IV A	甕	口縁部	平坦口縁、R-L繩文地に内外面 上位に2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	42	IV A	甕	口縁部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地、内外面上位に2条の横位 沈線、下位に列点文？	黒褐7.5YR2/2	針	A	V-23	3層	内面磨き？
	43	IV A	甕	胴部	R-L繩文地に上位2条の横位沈 線、沈線上下にそれぞれ長円形状 の列点文？	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-23	3層	内面磨き？
	44	IV B	長頸甕	口縁～頸部	R-L繩文地に横位沈線、波状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-21	3層	内面磨き、有機物 付着
	45	IV B	長頸甕	口縁～胴部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地に横位沈線、波状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-21	4層	内面磨き
	46	IV C	壺	胴部	2条1単位の沈線で方形状に区画 、区画間多数の刺突文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-22	4層	内面磨き
	47	IV C	壺？	胴部	平行沈線、沈線間刺突文充填、下 位はR-L繩文地に平行沈線	黒褐7.5YR2/2	針	A	V-23	3層	内面磨き
	48	IV D	ミニチュ ア土器	ほぼ完形	口縁部欠損、頸部より下R-L繩 文地に4条の横位沈線、底面無文	黒褐7.5YR2/2		A	V-23	4層	内面なで
	49	IV E	蓋	蓋	外側2条の沈線、沈線内「く」字 状の沈線多数	黒褐7.5YR2/2		A	W-25	3層	内面磨き
	50	IV E	蓋	蓋	粘土紐の貼付けにより十字に4区 画、粘土紐上刻目、中心粘土粒の 貼付け、区画内は「く」字状の粘 土紐、沈線で充填、側縁には2条 、3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	3層	内面磨き、2個1 対の穿孔有り
88	51	V A	甕	口縁～頸部	平坦口縁、口唇から頸部R-L繩 文、3条の横位沈線、1条の鋸歯 状文、頸部より下4条、3条の横 位沈線、間に刻目	暗褐7.5YR3/3		A	W-23	4層	内面磨き
	52	V A	甕	口縁部	平坦口縁、口唇刻目、R-L繩文 地に上位3条、下位3条の横位沈 線、沈線間1条鋸歯状文、内面上 位3条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-21	4層	内面磨き？酸化鉄 付着
	53	V A	甕	口縁～肩部	平坦口縁、口唇刻目、口縁部R-L 繩文地に4条、3条の横位沈線 、沈線間1条の鋸歯状文、内面4 条の横位沈線、頸部より下8条、 2条の横位沈線、沈線間多数の刺 突文	黒褐7.5YR2/2	針	A	X-22	3層	内面磨き、酸化鉄 付着
	54	V A	甕	口縁	平坦口縁、口唇口縁部R-L繩文 地に2条の横位沈線、1条の鋸歯 状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	55	V A	甕	口縁部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地、3条の横位沈線、1条の 鋸歯状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	56	V A	甕	口縁～肩部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地、口縁部3条の横位沈線、 1条の鋸歯状文、頸部4条の横位 沈線、沈線間刻目	暗褐7.5YR3/3		A	W-23	3層	内面磨き
	57	V A	甕	口縁～肩部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地に、口縁部3条の横位沈線 、1条鋸歯状文、頸部4条横位沈 線、沈線間刻目	暗褐7.5YR3/3		A	W-23	3層	内面磨き、モミ痕 ？

表8 A区出土弥生土器(4)

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
88	58	V A	甕	口縁～肩部	平坦口縁、口唇刻目、R-L繩文 ？地に上位2条の横位沈線、1条 の鋸歯状文、下位1条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面磨き
	59	V A	甕	口縁部	平坦口縁、口唇を含む全体R-L 繩文地、3条、1条の横位沈線、 沈線間鋸歯状文	暗褐7.5YR3/3		A	V-23	3層	内面磨き
	60	V A	甕	口縁～頸部	平坦口縁、R-L繩文地に口縁部 1条の横位沈線、頸部1条の横位 沈線それぞれ1列の列点文	黒褐7.5YR2/2	針	A	W-22	3層	内面磨き
	61	V A	甕	頸～胴部	R-L繩文地に上位2条、2条の 横位沈線、沈線間1列の列点文、 その下1条の鋸歯状文	黒褐7.5YR2/2		A	V-23	3層	内面磨き
	62	V A	甕	胴部	R-L繩文地に1条、3条、3条 の横位沈線、沈線間上位多數の刺 突文、下位鋸歯状文1類	黒褐7.5YR2/2		A	W-22	4層	内面磨き？
	63	V A	甕	胴部	R-L繩文地に4条、7条の横位 沈線、間と下位にそれぞれ鋸歯条 文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	4層	内面磨き？
	64	V B	長頸甕	口縁～肩部	山形突起、突起頂部切込み、口縁 部R-L繩文地に3条の横位沈線 、下頸部R-L繩文地に2条の横 位沈線、波状工字文？	黒褐7.5YR2/2		A	V-21	砂層 上	内面なで？
	65	V B	長頸甕	口縁～頸部	小波状口縁、R-L繩文地に上位 5条、下位3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	S-2	2層	内面磨き？
	66	V B	長頸甕	口縁部	山形突起、突起頂部切込み、口唇 刻目、L-R繩文地に上位3条、 下位1条、内面2条の横位沈線、	暗褐7.5YR3/3		A	X-22	3層	内面磨き？
	67	V B	長頸甕	口縁部	山形突起、突起頂部切込み、口唇 刻目、R-L繩文地に3条の横位 沈線、内面2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面磨き
89	68	V B	長頸甕	口縁部	平坦口縁、口唇R-L繩文、5条 の横位沈線	暗褐7.5YR3/3		A	W-23	3層	内面磨き？
	69	V B	長頸甕	口縁～頸部	山形突起、口唇刻目、R-L繩文 地に頸部より下4条横位沈線、内 面、山形に沿って2条の沈線、そ の下2条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面なで？
	70	V B	長頸甕	頸部	5条の横位沈線、1条の縦位沈線 (工字文?)	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面なで、有機物 、酸化鉄付着
	71	V B	長頸甕	口縁部	平坦口縁、口唇R-L繩文、5条 の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	72	V B	長頸甕	肩部	R-L繩文地に波状工字文	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面なで？
	73	V B	長頸甕	肩部	R-L繩文地に波状工字文？	黒褐7.5YR2/2		A	X-22	3層	内面なで？
	74	V B	長頸甕	口縁～頸部	口唇部欠損、R-L繩文地に頸部 上位4条の横位沈線、逆三角形状 の沈線文(連係菱形文?)、内面 2条の横位沈線	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-20		内面磨き？
	75	V B	長頸甕	頸部～肩部	上位R-L繩文地に、三角状の沈 線文、中位3条の横位沈線、頸部 長円形状の列点文、下位3条の横 位沈線	灰黄褐10YR6/2	s s	A	W-21	4層	内面磨き？
	76	V B	長頸甕	肩部	R-L繩文地に波状工字文？粘土 粒の貼付け	暗褐7.5YR3/3		A	X-22	3層	内面なで？

表8 A区出土弥生土器（5）

挿図	番号	分類	器形	部位	文様	色調	胎土	焼成	グリッド	層位	備考
89	77	V C	壺	胴部	R-L縄文地に上位3条横位沈線、下位1条の鋸歯状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-19	4層	内面磨き
	78	V C	壺	肩部	R-L縄文？地に3条、2条、4条の横位沈線、それぞれ間に1列の列点文、下位に1条の鋸歯状文	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	79	V C	壺	肩部	R-L縄文地に上位4条、中位2条の横位沈線、中位沈線の上下それぞれ1条の鋸歯状文	暗褐7.5YR3/3	針	A	W-23	4層	内面磨き
	80	V C	壺	肩～胴部	R-L縄文地に上位から1条、4条の横位沈線、沈線間に2列の列点文、1条の鋸歯状文、中位3条の横位沈線	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面磨き
	81	V D	鉢（台付？）	口縁～肩部	平坦口縁、口縁部R-L縄文地に3条、1条の横位沈線、間に鋸歯状文、内面3条の横位沈線、頸部より下4条、3条の横位沈線、沈線間に工字文？粘土粒の貼付、他は長円形状の刺突文で充填	暗褐7.5YR3/3		A	W-21	4層	内面磨き
	82	V D	台付鉢か高坏	台部	5条の横位沈線、下位刻目	にぶい橙5YR6/4	針	A	W-23	3層	内面なで？
	83	V D	台付鉢か高坏	台部	上位大きめの粘土粒貼付け、粘土粒頂部切込み、その下3条の横位沈線、下位刻目	にぶい黄褐10YR6/2	針	A	V-23	3層	内面磨き
	84	V D	台付鉢か高坏	台部	5条？の横位沈線	灰白10YR7/1		A	W-22	3層	内面なで？
	85	V D	鉢（台付？）	台部	下位3条の横位沈線	明赤褐色2.5YR5/6	s s	A	U-24	3層	内面磨き？
	86	VII	甕	胴～底部	R-L縄文地に下位2条の横位沈線	暗褐7.5YR3/3		A	W-22	4層	内面磨き
90	87	VII	長頸甕	口縁～頸部	平坦口縁、縄文磨耗、1条の横位沈線下、変形工字文（波状？）	黒褐7.5YR2/2		A	P-R1 8~22	1層	内面なで？
	88	VII	甕	口縁～頸部	小波状口縁、口唇刻目縄文磨耗、2条、1条の沈線間、1条の鋸歯状文	灰黄褐10YR6/2		A	V-24	3層	内面なで
	89	VII	台付鉢？	底部	無文	にぶい橙5YR6/4		A	V-23	3層	内面なで
	90	VII	甕か壺	胴部	R-L縄文	黒褐7.5YR2/2	針	A	X-22	3層	内面磨き
	91	VII	甕？	胴～底部	R-L縄文、下位のなでにより無文、底面無文（磨き？）	暗褐7.5YR3/3	針	A	V-23	3層	内面磨き
	92	VII	甕？	胴～底部	R-L縄文、底面無文	にぶい橙5YR6/4	針	A	W-22	4層	有機物付着
	93	VII	甕？	底部	R-L縄文、底面無文	暗褐7.5YR3/3	針	A	V-23	4層	内面磨き
	94	VII	甕？	底部	R-L縄文、底面無文	黒褐7.5YR2/2		A	V-23	3層	内面磨き、酸化鉄付着
	95	V D	台付鉢？	口縁～頸部	波状口縁、R-L縄文地に口縁部1条の横位沈線、内面2条の横位沈線、頸部3条の横位沈線、その下波状工字文？	灰黄褐10YR6/2		A	W-22	3層	内面磨き
	96	V D	鉢か台付鉢	胴部	平行沈線、列点文、変形工字文？	黒褐7.5YR2/2		A	W-23	3層	内面粗い磨き
97	V D	鉢か台付鉢	胴部	平行沈線、列点文、R-L縄文地に工字文	灰黄褐10YR6/2		A	W-22	4層	内面なで	

表9 A区出土土師器(1)

挿図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	グリッド	層位	備考
91	1	壺	半完形	(12.2)	4.9	4.6	wr	にぶい黄褐10YR5/3	A	50	U-24	3層	底面ヘラケズリ
	2	壺	口縁部	(13.8)	<5.1>	-	r針	黄橙7.5YR7/8		40	S-42		
	3	壺	口縁部	(13.2)	<4.9>	-	wr	浅黄橙10YR8/4		40	U-25	4層	
	4	壺	口縁部	(14.3)	<4.9>	-	r針	にぶい黄褐10YR5/3	A	40	S-43		
	5	壺	口縁部	(12.8)	<4.6>	-	wb	灰白10YR8/2	A	40	W-23	3層	
	6	甕	口縁部	(12.8)	<5.1>	-	wc	浅黄橙10YR8/4		40	S-24	3層	
	7	壺	口縁部	(13.2)	<4.9>	-	rs	浅黄橙10YR8/4		30	W-23	4層	
	8	壺か椀	胴・底部	-	<5.2>	6.6	wb	にぶい黄橙10YR6/3	A	60	U-24	3層	底面回転糸切り、外面火櫻痕、刻字？
	9	壺	底部	-	<2.1>	4.3	wr	にぶい黄橙10YR6/3	A	60	W-23	3層	底面回転糸切り、墨痕？付着
	10	壺	口縁部	(11.6)	<4.7>	-	bw	にぶい黄橙10YR6/3		40	S-23	4層	墨書、
	11	甕	底部	-	<1.5>	9.0	ws	浅黄橙10YR8/4		40	V-25		
	12	壺	底部	-	<2.3>	(7.1)	ws	浅黄橙10YR8/4	A	40	W-23	3層	底面回転糸切り、墨書、内黒
	13	壺	胴部	-	<4.9>	-	w針	にぶい黄橙10YR6/3		20	W-22	4層	刻字、内黒
92	14	壺か椀	半完形	(12.8)	5.9	5.6	w針	にぶい黄橙10YR6/3	A	60	U-23	3層	底面回転糸切り、内黒
	15	壺か椀	口縁部	(12.6)	<5.4>	-	rb	にぶい黄褐10YR5/3	A	40	W-23	3層	内黒
	16	壺	口縁部	(13.2)	<5.4>	-	r針	にぶい黄橙10YR6/3		50	V-23	3層	内黒
	17	壺	口縁部	(13.4)	<3.8>	-	rc	橙5YR6/6		40	U-24	3層	内黒
	18	壺	口縁部	(11.8)	<6.2>	-	wb	にぶい黄橙10YR6/3	A	50	T-25	3層	内黒
	19	壺	半完形	(8.8)	3.9	1.8	wb	浅黄橙10YR8/4		40	S-43		底面ハケメ、内黒
	20	壺	半完形	(11.6)	3.3	3.2	bc	浅黄橙10YR8/4		40	S-44		胴部下位沈線有り、内黒
	21	壺	半完形	(10.8)	3.9	(5.8)	wb	にぶい黄橙10YR6/3		40	V-25	3層	内黒
	22	壺	底部	-	<3.1>	(6.2)	bs	明赤褐5YR5/6		40			内黒
	23	壺	底部	-	<2.1>	4.8	b針	暗褐10YR3/3		30	S-21	3層	内黒
	24	壺か椀	半完形	(11.8)	5.4	(5.6)	rs	橙5YR6/6		40	V-42		
	25	壺	口縁部	(12.3)	<4.3>	-	bs	明赤褐5YR5/6		40	V-23	2層	
	26	壺	半完形	(11.8)	4.9	5.8	rc	橙5YR6/6		50			底面木葉痕、内面スヌ状付着物
	27	壺	口縁部	(13.2)	<4.0>	-	rc	黄橙7.5YR7/8	A	40			
	28	壺	口縁部	(13.2)	<4.1>	-	wr	浅黄橙10YR8/4		40	U-51		
	29	壺	口縁部	(12.1)	<5.3>	-	rs	黄橙7.5YR7/8	A	40	V-42		
	30	壺	口縁部	(10.4)	<3.9>	-	rs	黄橙7.5YR7/8		40	U-45		

表9 A区出土土師器(2)

掲図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	グリッド	層位	備考
92	31	壺	底部	-	<4.6>	(5.8)	bs	暗褐10YR3/3		40	W-25		胴部下位沈線有り、内黒
93	32	壺	口縁部	(17.6)	<9.3>	-	rb	明赤褐5YR5/6		50	V-25	3層	口縁部、肩部沈線有り
	33	壺	口縁部	(15.8)	<7.2>	-	br	暗褐10YR3/3		50	W-25	3層	口縁部、肩部沈線有り
	34	壺	口縁部	(12.8)	<5.9>	-	bs	黄橙7.5YR7/8		60	V-25	3層	口縁部、肩部沈線有り
	35	壺	ほぼ完形	14.8	15.1	5.8	rs	にぶい黄橙10YR6/3		70			
	36	壺	口縁部	(22.6)	<5.7>	-	rs	明赤褐5YR5/6		40	V-35		
	37	壺	口縁部	(22.1)	<7.8>	-	rs	橙5YR6/6		40	U-43		
	38	壺	口縁部	(18.6)	<5.3>	-	rs	浅黄橙10YR8/4		40	S-39		
	39	壺	口縁部	(18.2)	<6.3>	-	wr	浅黄橙10YR8/4		40	V-42		外面輪積痕顯著
	40	壺	口縁部	(13.6)	<6.2>	-	rs	橙5YR6/6		40	V-35		内面輪積痕顯著
	41	壺か椀	口縁部	(12.2)	<4.1>	-	wr	にぶい黄褐10YR5/3		30			
94	42	壺	口縁部	(23.2)	<8.0>	-	rs	明赤褐5YR5/6		40	S-39		
	43	壺	口縁部	(16.8)	<6.1>	-	ws	にぶい黄橙10YR6/3		30	V-25	3層	
	44	壺	口縁部	(22.8)	<6.7>	-	r針	黄橙7.5YR7/8		40	S-31		
	45	壺	口縁部	(14.6)	<5.8>	-	wb	にぶい黄橙10YR6/3	A	30	S-37		内面輪積痕顯著
	46	壺	口縁部	(19.6)	<9.2>	-	ws	にぶい黄橙10YR6/3		40	S-24	3層	外面有機物付着
	47	壺	口縁部	(17.4)	<5.5>	-	rc	にぶい黄褐10YR5/3		30	S-41		
	48	壺	胴・底部	-	<9.9>	(8.6)	rs	にぶい黄褐10YR5/3		40	W-23	4層	
	49	壺	底部	-	<6.3>	8.8	ws	黄橙7.5YR7/8		30	V-42		底部粘土貼付？
	50	壺	底部	-	<2.6>	8.6	rs	明赤褐5YR5/6		30	S-41		

表10 A区出土須恵器

挿図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	グリッド	層位	備考
95	1	壺	口縁～底部	(14.6)	3.6	(9.0)	bs	灰N4/0	A	30	W-23	3層	
	2	壺	口縁部	(11.4)	<3.9>	-	r針	オリーブ黒10Y3/1	A	40	U-23	3層	
	3	壺	口縁～底部	(12.8)	<4.7>	(5.2)	ws	灰白10YR8/2	A	30	V-23	3層	底面回転糸切り
	4	壺	口縁部	(13.2)	<5.1>	-	r針	明赤褐5YR5/6	A	40	T-20	2層	外面火襷痕
	5	壺	底部	-	<2.2>	(5.8)	wb	灰白10YR8/2	A	40	R-24	3層	底面回転糸切り
	6	壺	底部	-	<2.2>	5.1	r針	灰N4/0	A	50	U-24	3層	底面回転糸切り
	7	大甕	口縁部	(46.3)	<7.6>	-	r針	灰N4/0	A	30	W-25	3層	
	8	大甕	口縁部	(46.2)	<7.1>	-	bs	オリーブ黒10Y3/1	A	30	T-20	3層	
	9	大甕	口縁部	(39.8)	<5.1>	-	r針	灰赤2.5YR4/2	A	30	U-24	3層	
	10	大甕	口縁部	(28.2)	<6.3>	-	wb	灰N4/0	A	30	U-20	4層	胎土分析サンプル 4
96	11	長頸壺	口縁～肩部	(27.8)	<9.9>	-	bc	灰N4/0	A	40	V-26	3層	胎土分析サンプル 3、外面タタキ痕、酸化鉄付着
	12	長頸壺	口縁部	(19.2)	<5.0>	-	wr	オリーブ黒10Y3/1	A	30	U-23	3層	胎土分析サンプル 9、自然釉
	13	短頸壺	口縁部	(18.4)	<6.7>	-	rs	灰N4/0	A	30	U-25	3層	胎土分析サンプル 10、自然釉
	14	鉢？	口縁部	(15.6)	<2.1>	-	r針	灰N4/0	A	30	S-44 ~45		線刻
	15	短頸壺	口縁部	(13.2)	<5.2>	-	br	オリーブ黒10Y3/1	A	40	T-20	2層	胎土分析サンプル 8
	16	長頸壺	口縁部	(15.8)	<2.8>	-	b針	オリーブ黒10Y3/1	A	30	R-18 ~22	3層	胎土分析サンプル 7
	17	長頸壺	口縁部	(12.6)	<5.3>	-	r針	オリーブ黒10Y3/1	A	40	U-44		
	18	長頸壺	口縁部	(11.4)	<3.3>	-	b針	灰N4/0	A	40	V-45		
	19	長頸壺	口縁部	(10.6)	<3.5>	-	b針	灰N4/0	A	30	U-23	3層	
	20	長頸壺	口縁部	(10.1)	<2.7>	-	r針	灰赤2.5YR4/2	A	30	V-45		
	21	壺？	底部	-	<3.7>	(9.6)	r針	オリーブ黒10Y3/1	A	30	T-24	3層	底面菊花状調整
	22	壺？	底部	-	<2.9>	(7.0)	rs	灰赤2.5YR4/2	A	40	S-25	3層	胎土分析サンプル 6、底面ケズリ痕
	23	壺？	底部	-	<4.2>	9.4	r針	オリーブ黒10Y3/1	A	50	U-44		胎土分析サンプル 5、底面ケズリ痕
97	24	甕	胴部	-	-	-	br	明青灰5PB7/1	A	30	T-24	3層	外面タタキ痕、内面青海波文
	25	甕	胴部	-	-	-	br	灰N4/0	A	30			外面タタキ痕、内面青海波文
	26	甕	胴部	-	-	-	br	明青灰5PB7/1	A	30	R-24	3層	外面タタキ痕、内面青海波文
	27	甕	胴部	-	-	-	br	明青灰5PB7/1	A	30	R-24	3層	外面タタキ痕
	28	短頸壺	頸～肩部	-	-	-	r針	灰赤2.5YR4/2	A	40	U-24	3層	胎土分析サンプル 2、外面タタキ痕
	29	大甕	胴部	-	-	-	b針	灰N4/0	A	30	U-20	4層	外面タタキ痕
	30	大甕	胴部	-	-	-	br	明青灰5PB7/1	A	30	S-25	3層	胎土分析サンプル 1、外面タタキ痕、内面ミガキ・ヘラナデ、自然釉
	31	大甕	胴部	-	-	-	b針	灰赤2.5YR4/2	A	30	Q-25	3層	外面タタキ痕
98	32	大甕	胴部	-	-	-	r針	灰N4/0	A	30	S-25	3層	外面タタキ痕
	33	壺？	胴部	-	-	-	rc	オリーブ黒10Y3/1	A	30	V-25	3層	外面タタキ痕、内面ハケメ
	34	大甕	胴部	-	-	-	r針	灰赤2.5YR4/2	A	30	S-24	3層	外面タタキ痕、内面酸化鉄付着
	35	大甕	胴部	-	-	-	rb	灰赤2.5YR4/2	A	30	V-41		外面タタキ痕
	36	大甕	胴部	-	-	-	wr	灰赤2.5YR4/2	A	30	V-35		外面タタキ痕
	37	大甕	胴部	-	-	-	rc	灰赤2.5YR4/2	A	30	Y-19	5層	外面タタキ痕
	38	大甕	胴部	-	-	-	ws	灰N4/0	A	30	T-35		外面タタキ痕
	39	不明	胴部	-	-	-	b針	灰N4/0	A	30	S-49		
	40	不明	口縁部	-	<5.3>	-	ws	明青灰5PB7/1	A	30	T-24	3層	3条1単位の波状の沈線有り

表11 A区出土木製品（1）

挿図	番号	名 称	グリッド等	層位	長:cm	幅:cm	厚:cm	残存	木取り	加工	備考
72	1	栓	SK03		18.90	4.00	3.00	完形	柾目	先端が四角錐、断面は四角形である。	
99	1	火鑽板	T-23	3	17.60	2.70	1.00	下折損	柾目	切欠き（火おこし穴）6ヶ所あり。	
99	2	縦櫛	U-20	2	8.10	4.30	0.36	下折損	柾目	側縁に連続した加工あり。削り加工痕あり。	櫛歯2本残存
99	3	椀（漆器）	R-20	2	7.00	2.20	2.00	底部	横木取り	内面に朱漆を、外面に黒漆を施している	底部直径5.9cm
99	4	皿	R-25	4	12.30	7.20	1.00	1/2残存	横木取り		
99	5	皿	W-23	3	12.50	8.30	0.70	口縁欠損	横木取り		
100	6	曲物	P-14・15		24.50	5.30	0.50	側板	柾目	補修孔5ヶ所、内2ヶ所に木栓が残る。 幅5~7mmの間隔で8本の野引きあり。	側板
100	7	曲物	U-25	3	14.20	5.66	11.00	1/2残存	柾目	表面に切痕あり。	底板
100	8	曲物	S-21	2	19.00	4.86	0.84	破片	柾目	幅1.2~1.5cm間隔で21本の野引きあり。	側板
100	9	曲物	S-21	2	20.10	6.50	0.70	破片	柾目	幅1.2~1.5cm間隔で21本の野引きあり。	側板
100	10	曲物	V-23	1	4.40	3.80	0.80	破片	柾目	幅1.1cm間隔で3本の野引きあり。	側板
100	11	曲物	V-22	5	11.00	6.96	0.60	破片	柾目	幅6~9cm間隔で14本の野引きあり。	側板
100	12	曲物	S-21	2	10.72	4.18	0.80	破片	柾目	幅1.2~1.5cm間隔で11本の野引きあり。	側板
100	13	曲物	S-21	2	9.20	3.50	0.40	破片	柾目	幅1.2~1.5cm間隔で21本の野引きあり。	側板
101	14	下駄	S-23	4	21.80	7.30	2.80	片側折損	柾目	鼻緒孔2ヶ所あり。	連歛下駄
101	15	下駄	U-24	3	16.70	5.10	6.10	下・両側 縁折損	柾目	鼻緒孔1ヶ所あり。	連歛下駄
101	16	加工材	S-21	3	11.50	6.10	2.60	上下折損	板目	裏面を平坦に加工。	
101	17	加工材	S-21	3	10.40	8.06	2.80	上折損	板目	裏面を平坦に加工。	
101	18	加工材	V-25	3	12.20	5.24	2.50	上下折損	板目	裏面を平坦に加工。	
102	19	大足	T-18	2	52.40	8.20	2.50	片側折損	板目	穿孔2ヶ所と平坦面をもつ抉り2ヶ所あり。	
102	20	大足	S-22	3	47.40	15.90	2.40	完形	板目	左右対称となる抉り6ヶ所あり。両端部を平坦に切截。	
103	21	大足	S-22	2	43.20	11.00	2.20	完形	板目	穿孔5ヶ所。左右対称の抉り4ヶ所。	
103	22	大足	S-21	3	39.40	15.20	2.70	上折損	板目	穿孔3ヶ所。抉り4ヶ所。下端部を水平に切截。	
103	23	大足	S-23		25.50	6.04	2.20	上下折損	柾目	穿孔1ヶ所。	
104	24	箸状木製品	V-23	1	20.20	0.80	0.64	上折損	柾目	中央炭化。下端部を尖端に加工。	
104	25	箸状木製品	V-23	1	16.70	1.34	0.80	下折損	板目	先端を2面削り。	箸未製品
104	26	箸状木製品	S-21	3	14.40	1.40	1.00	上折損	板目	下端部を削り加工。	箸未製品
104	27	箸状木製品	P・Q-21~2 3	2	13.86	1.10	1.00	上折損	板目	先端部を平らに加工。	
104	28	箸状木製品	U-20	2	13.80	0.60	0.60	下折損	柾目	上端部を水平に切截。	
104	29	箸状木製品	T-21	2	12.70	0.80	0.56	上下折損	柾目	表面加工丁寧。	
104	30	箸状木製品	W-24	1	12.00	0.62	0.55	上折損	板目	尖端加工。	
104	31	箸状木製品	V-23	1	11.20	0.80	0.46	上下折損	板目	断面形は楕円形である。	
104	32	箸状木製品	W-24	1	9.30	0.90	0.60	上折損	板目	下端部を尖端加工。	
104	33	箸状木製品	V-23	1	9.20	1.10	0.72	下折損	板目	未貫孔1ヶ所あり。下端部を2面削り。	箸未製品
104	34	箸状木製品	V-23	1	9.00	0.80	0.70	上下折損	柾目	断面形は台形である。	
104	35	箸状木製品	W-24	1	8.60	0.66	0.45	上折損	板目	尖端加工。	
104	36	箸状木製品	W-24	1	8.26	0.64	0.55	上下折損	柾目	先端に向かって細く加工。	
104	37	箸状木製品	V-23	1	8.00	0.62	0.45	上下折損	板目	断面形は円形である。	
104	38	箸状木製品	W-24	1	8.00	0.58	0.52	上折損	柾目	下端部を丸く加工。	
104	39	箸状木製品	W-24	1	7.92	0.60	0.45	上折損	板目	尖端加工。	
104	40	箸状木製品	W-24	1	7.70	0.68	0.46	上下折損	柾目	先端に向かって細く加工。	
104	41	箸状木製品	W-24	1	7.60	0.56	0.40	上下折損	柾目	断面形は楕円形である。	
105	42	箸状木製品	W-24	1	7.40	0.62	0.45	上下折損	柾目		

表11 A区出土木製品（2）

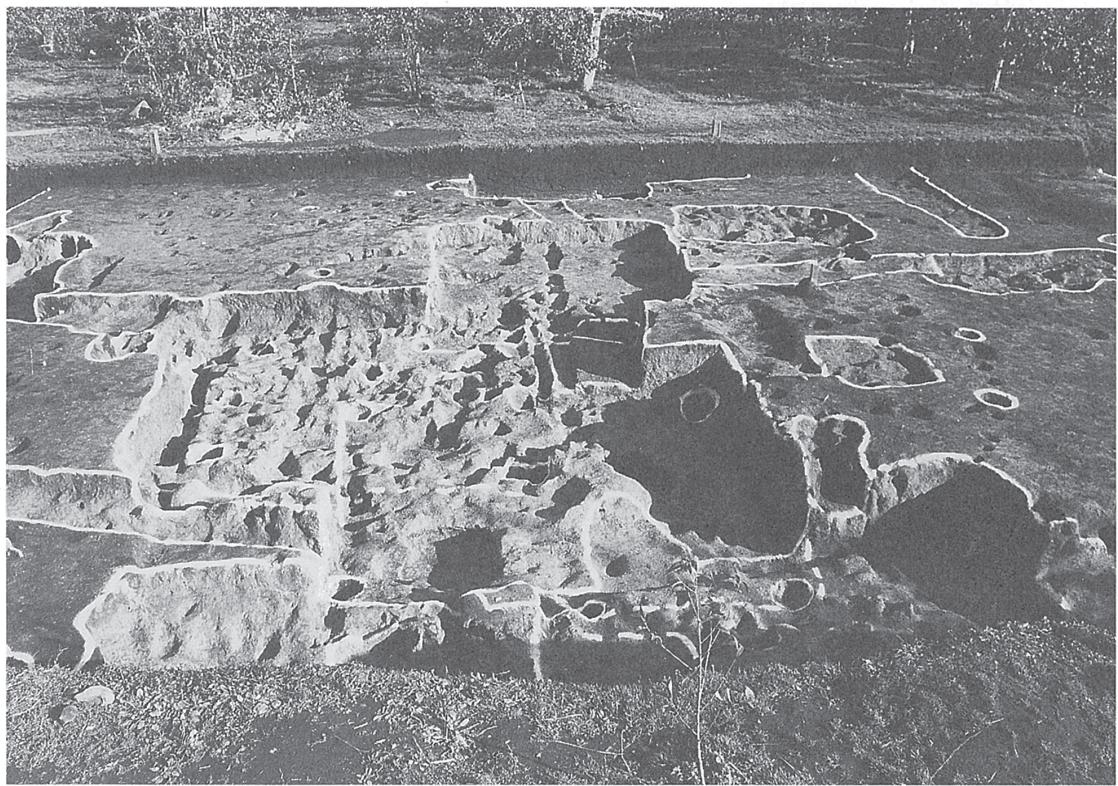
番号	名 称	グリッド等	層位	長:cm	幅:cm	厚:cm	残存	木取り	加工	備考
105	43 箸状木製品	V-23	1	7.30	0.70	0.44	上下折損	柾目	断面形は半円形である。	
105	44 箸状木製品	V-23	1	7.30	0.60	0.55	上下折損	板目	表面に抉り加工あり。	
105	45 箸状木製品	W-24	1	7.12	0.62	0.46	上下折損	板目		
105	46 箸状木製品	W-24	1	7.00	0.60	0.50	上下折損	板目	先端に向かって細く加工。	
105	47 箸状木製品	V-23	1	6.80	0.64	0.45	上下折損	柾目	断面形は円形である。	
105	48 箸状木製品	V-23	1	6.64	0.60	0.40	上下折損	板目	下端部を1面削り。	
105	49 箸状木製品	V-23	1	6.60	0.70	0.66	上下折損	柾目	断面形は三角形である。	
105	50 箸状木製品	V-23	1	5.50	0.56	0.30	上下折損	柾目	断面形は橢円形である。	
105	51 箸状木製品	W-24	1	5.44	0.50	0.35	上下折損	板目	断面形は円形である。	
105	52 箸状木製品	V-23	1	5.40	0.84	0.50	下折損	板目	上端部を水平に切截。	
105	53 箸状木製品	W-24	1	5.40	0.66	0.33	上下折損	板目	先端に向かって細く加工。	
105	54 箸状木製品	V-23	1	5.14	0.56	0.35	下折損	柾目	下端部を尖端加工。	
105	55 箸状木製品	V-23	1	4.70	0.54	0.58	上下折損	柾目	断面形は方形である。	
105	56 棒状木製品	S-24	4	73.10	4.70	4.40	上下折損	丸木		
106	57 棒状木製品	S-22	3	42.00	2.70	2.00	完形	板目	上端部を水平に加工。下端頭部を3面削り。	
106	58 棒状木製品	S-22	2	41.60	3.22	3.60	下折損	板目	上端部を水平に切截。平坦面をもつ抉り加工。	大足の横木？
106	59 棒状木製品	W-24	一括	39.80	3.30	1.46	上折損	板目	下部を把手状に加工。下端部を平坦に加工。	
106	60 棒状木製品	U-22	4	35.10	2.90	1.46	下折損	柾目	上部に連続した削り加工あり。側縁に4ヵ所の削り。	大足の横木？
106	61 棒状木製品	W-24	1	20.80	1.56	1.40	上折損	柾目	下端部を斜めに加工。	箸未製品？
106	62 棒状木製品	P·Q-21~2 3	2	21.16	2.20	1.56	上折損	板目	断面は菱形である。	
106	63 棒状木製品	V-22	5	23.40	2.54	1.64	下折損	柾目	両面上端部炭化。	
106	64 棒状木製品	P·Q-21~2 3	2	23.50	2.40	1.40	上下折損	板目	断面形は台形である。	
107	65 棒状木製品	P-17		32.40	3.40	1.30	上下折損	板目		
107	66 棒状木製品	W-24	1	31.60	1.90	1.36	完形	柾目	貫孔5ヵ所あり。内上の4ヵ所は木栓で塞がれている。	
107	67 棒状木製品	S-21	3	27.90	2.86	1.86	完形	板目	両端部を3面加工。表面下部に削り加工痕2面あり。	
107	68 棒状木製品	W-24	1	26.60	1.68	1.18	完形	板目	下端部を尖端に加工。	
107	69 棒状木製品	W-24	1	20.30	1.80	1.72	上下折損	板目	一部炭化。	
107	70 棒状木製品	R-21	3	19.66	1.58	1.16	上折損	柾目	中央部炭化。下端部を丸く加工。	
107	71 棒状木製品	S-21	2	19.60	1.04	0.66	上下折損	板目	穿孔1ヵ所。下端部に削り加工痕あり。	
107	72 棒状木製品	V-22	5	15.76	2.92	1.80	上折損	板目	下端部を平坦に加工。	
107	73 棒状木製品	T-20	2	14.20	2.76	1.50	下折損	板目	上端部を斜めに加工。	
107	74 棒状木製品	V-22	5	16.82	4.50	1.97	上下折損	1/2割	裏面を平坦に加工。	
108	75 棒状木製品	V-23	1	13.70	2.00	2.30	上下折損	丸木		
108	76 棒状木製品	V-23	1	11.80	1.26	0.74	上下折損	柾目		
108	77 棒状木製品	W-24	1	11.40	1.60	1.16	上下折損	板目	右側縁に削り加工あり。	
108	78 棒状木製品	W-24	1	11.00	1.38	1.32	上下折損	丸木		
108	79 棒状木製品	W-24	1	10.00	0.74	0.60	上下折損	柾目		
108	80 棒状木製品	W-24	1	90.70	0.72	0.55	上下折損	柾目		
108	81 棒状木製品	V-25	3	9.00	2.16	0.90	完形	板目	抉り加工あり。	
108	82 棒状木製品	T-20	2	9.00	0.70	0.44	上下折損	柾目	右側縁に削り加工あり。	
108	83 棒状木製品	W-24	1	8.40	1.00	0.92	上下折損	柾目		
108	84 棒状木製品	W-24	1	7.70	0.68	0.50	上下折損	板目		

表11 A区出土木製品（3）

掲図	番	名 称	グリッド等	層位	長:cm	幅:cm	厚:cm	残存	木取り	加工	備考
108	85	棒状木製品	W-24	1	7.60	0.70	0.48	上下折損	柾目	断面形は円形である。	
108	86	棒状木製品	W-24	1	7.06	0.70	0.46	上下折損	柾目	先端に向かって細く加工。	
108	87	棒状木製品	W-24	1	7.06	0.80	0.60	上下折損	柾目		
108	88	棒状木製品	V-23	1	6.80	1.10	0.96	上下折損	柾目	断面は三角形である。	
108	89	棒状木製品	W-24	1	6.56	0.80	0.60	上下折損	板目		
108	90	棒状木製品	W-24	1	6.14	0.70	0.44	上下折損	板目		
108	91	棒状木製品	W-24	1	5.62	0.60	0.50	上下折損	柾目		
108	92	棒状木製品	W-24	1	5.30	0.70	0.76	上下折損	柾目		
108	93	棒状木製品	V-25	3	4.76	1.36	0.90	上下折損	板目	中央に抉り加工。	こもつち？
108	94	棒状木製品	W-24	1	3.80	6.00	0.50	上下折損	板目		
108	95	棒状木製品	S-21	3	3.50	0.70	0.70	折損	柾目	断面が三角形である。	
109	96	板状木製品	U-20	4上	32.40	5.50	2.30	完形	柾目	両端部を平坦に切截。	
109	97	板状木製品	S-21		29.00	2.40	0.60	下折損	柾目	斜めの抉り加工あり。上端部を水平加工	
109	98	板状木製品	S-22	2	29.60	8.00	1.50	上折損	柾目	下端部を平坦に加工。	
109	99	板状木製品	S-21	3	30.90	2.90	1.00	上折損	柾目	下端部を丸く加工している。	
109	100	板状木製品	U-20	4上	27.20	4.50	1.00	完形	柾目	左側縁炭化。	
109	101	板状木製品			21.20	3.60	0.70	下折損	柾目	抉り有り。	大足の横木？
109	102	板状木製品	V-25	3	19.80	4.96	1.04	上下折損	板目	下端部炭化。	
110	103	板状木製品	T-21	3	18.80	4.60	0.60	下折損	板目	上端部を三角形に加工。	
110	104	板状木製品	V-22	5	16.60	5.40	1.20	上下折損	板目	表面加工丁寧。	
110	105	板状木製品	W-24	1	14.40	3.16	1.74	完形	板目	下端部を水平に切截。上端部に切込みあり。	
110	106	板状木製品	S-22	2	13.90	4.80	0.60	折損	柾目	右側縁に抉りあり。	
110	107	板状木製品	V-23	1	12.00	1.84	0.62	上折損	柾目	下端部を斜めに加工。	
110	108	板状木製品	T-21	2	8.16	5.20	0.50	破片	柾目	表面加工粗い。	
110	109	板状木製品	T-21	2	10.00	6.80	2.80	下折損	柾目	上端部を平坦に削り加工。	
110	110	板状木製品	V-23	1	7.90	2.00	0.78	下折損	柾目	下端部を斜めに加工。上端部を平坦に切截。	
110	111	板状木製品	V-23	1	3.00	2.80	0.54	上下折損	板目		
111	112	角材	T-21	2	23.40	12.50	4.60	完形	柾目	両端部を階段状に加工。	
111	113	角材	S-21	3	24.00	4.10	3.90	完形	柾目	断面形が平行四辺形である。	
111	114	角材	T-24	4	16.60	6.70	4.40	完形	板目	断面は平行四辺形である。	
111	115	角材	T-20	2	12.60	8.70	4.20	完形	板目	左側縁に抉り（仕口）あり。	
112	116	板材	T・U-20	3	272.50	8.80	5.20	完形	板目	表面に削り加工痕顯著（手斧）。平坦面をもつ抉り加工3ヶ所。	
112	117	板材	T-20	2	183.40	12.80	3.20	完形	板目	下端部に抉り加工。下端部炭化。上端部を水平に加工。	
112	118	板材	U-20	2	176.20	28.00	4.40	下折損	板目	抉り加工3ヶ所あり。	分解が顯著である
112	119	板材	T-20	3	176.60	16.00	2.00	完形	板目	上部に削り加工痕あり（鉋？）。	
113	120	板材	V-20	3	161.00	14.20	3.80	完形	板目	角孔1ヶ所あり。上端部を平坦に切截。	
113	121	板材	T-21	3	159.00	16.00	2.20	下折損	板目	角孔1ヶ所あり。上端部を加工。	
113	122	板材	U-22	4	136.00	15.70	2.50	上下折損	板目		劣化顯著
113	123	板材	S-21	3	135.20	16.00	2.20	左側縁折損	板目	貫孔1、未貫孔1ヶ所あり。上端部を水平に加工。	年輪年代サンプル
114	124	板材	S-24	4	122.20	7.50	3.00	右側縁折損	柾目	下端部と中央部に切痕顯著。右側縁平坦面を持つ抉り2ヶ所あり。両端部を水平に切截。	
114	125	板材	S-21	3	93.30	12.40	2.60	右側縁折損	板目	右側縁に深い切痕あり。平坦面をもつ抉り加工4ヶ所あり。裏面に加工痕（手斧？）あり。	井戸枠？

表11 A区出土木製品（4）

挿図	番号	名称	グリッド等	層位	長:cm	幅:cm	厚:cm	残存	木取り	加工	備考
114	126	板材	T-20	2	99.20	14.10	6.60	完形	板目	平坦面を持つ抉り5ヵ所あり。両端部削り加工。	井戸枠？
114	127	板材	S-21	3	114.00	12.60	4.40	完形	板目	左右対称な平坦面をもつ抉り加工4ヵ所。下端部を段状に加工。上端部を水平に切截。	井戸枠？
115	128	板材			86.20	16.20	8.00	完形	板目	上部に削り加工痕あり。両側縁にナタによる加工痕あり。平坦面を持つ抉り4ヵ所。	井戸枠？
115	129	板材		4	109.00	15.20	2.90	下折損	柾目	平坦面をもつ抉りあり。上端部を斜めに加工。	井戸枠？／年輪年代サンプル
115	130	板材	T-23	4	109.40	13.20	3.40	上端部・右側縁折損	板目	下端部を直径2.8cmの棒状に加工。	戸板
116	131	板材			112.90	12.70	3.50	下折損	板目	上端部に削り加工痕あり。上部は角孔部から折損。	
116	132	板材	U-19	3	113.30	11.60	2.20	上・左側縁折損	柾目	下端部を平坦に加工。	
116	133	板材	T-24	4	107.20	15.60	4.00	下折損	柾目	左側縁に切痕2ヵ所あり。上端部を平坦に加工。	
116	134	板材			103.20	8.00	2.30	上下折損	柾目	断面形は平行四辺形である。	年輪年代サンプル
117	135	板材	S-20・21	3	98.80	17.40	3.60	上下折損	板目	両面とも上部に切痕が顕著である（鋸？）。	
117	136	板材	T-U-23	4	87.60	9.80	4.30	上下折損	柾目	右側縁下端部に削り加工痕あり。	
117	137	板材	T-21	3	70.80	8.00	4.60	両側縁折損	板目	両端部を水平に加工（ナタまたはオノ使用）。表面に削り加工痕あり。	129木と同一個体
117	138	板材	T-21	4	69.80	5.30	3.10	両側縁折損	板目	両端部を水平に加工。	108木と同一個体
117	139	板材	T-24	4	64.00	14.80	2.90	上下折損	板目	上部側縁を階段状に加工。両側縁に深い切痕4ヵ所あり。上端を水平に切截。	大足の足板？
118	140	板材	S-22	2	96.00	17.40	4.20	下折損	柾目	上端部を平坦に加工。	虫喰い・劣化顕著
118	141	板材	T-23	4	81.60	16.00	3.00	上下折損	板目	右側縁に加工痕2ヵ所あり。	
118	142	板材	T-20	3	63.60	19.60	5.20	下折損	板目	上端部を平坦に加工。表面に加工痕あり	劣化顕著
119	143	板材	S-22	3	89.60	3.30	2.60	下折損	板目	直径3mmの未貫孔が3ヵ所。右側縁に加工あり。	
119	144	板材	T-20	4	69.20	4.20	2.40	左側縁折損	板目	表面に2本・裏面に1本の野引あり。両端部を平坦に加工（鋸？）。裏面下部に削り加工痕（手斧？）あり。	135木と接合
119	145	板材	T-21	3	69.90	2.80	2.20	左側縁折損	板目	表面に1本の野引きあり。両端部を平坦に加工（鋸？）。下部に削り加工痕あり	130木と接合
119	146	板材	S-23	一括	69.10	4.40	1.80	上下折損	板目	左側縁を斜めに加工。	
119	147	板材	S-23	4	66.20	6.20	4.20	下・右側縁折損	板目	上端部は階段状に削り加工（ナタまたはオノを使用）。	
119	148	板材	U-19	3	50.80	2.80	2.50	下折損	板目	上端部を平坦に加工。	
119	149	板材	U-19	3	64.40	11.10	2.80	下折損	板目	円孔1ヵ所あり。上端部を平坦に加工。	
119	150	板材	T-25	3	67.00	14.70	3.20	上下折損	柾目	右側縁に浅い抉り加工あり。	劣化顕著



第23号住居跡周辺掘り方

第IV章 五輪野遺跡B区

第1節 B区の概要

B区はA区の南側に位置する。A区は低湿地であったのに対し、B区は段丘の上にあたる。調査区は段丘の北縁付近で、眼下にA区を臨むことになる。段丘上からは、東方に黒森山、八甲田山、北方に梵殊山、西方に岩木山、南方に阿闍羅山など県内の著名な山を一望することができる。

B区は現町道によって分断されているが、町道以北は攪乱や削平の影響を大きく受けている。町道以南は遺構の遺存状態は比較的良好である。

B区からは堅穴住居跡53件、土坑39基、溝跡9条が検出されている。これらは奈良・平安時代の物と思われる。A区からは繩文時代、弥生時代の遺物も出土しているが、B区からはそれらの遺構、遺物は検出されていない。

検出された遺構、遺物の中で特に注目されるのは第32、33号住居跡から出土した仏具であろう。特に鉄製の鏡は、発掘例としては県内はもとより、全国的に見ても希有な存在である。

また、土師器の底部に簾状圧痕を有する例が非常に多いのも本調査区の特徴である。

第2節 遺構の配置

単独で検出された遺構は少なく、他の遺構と重複する例が非常に多い。平面的に重複する例ばかりではなく、同じ場所でレベル差をもって立体的に重複している例も散見される。

特に重複するのはW～X-32～36グリッド付近、T～V-38～40グリッド付近、U～V-41～43グリッド付近、T～V-44～46グリッド付近などである。これらのグリッドでは重複が激しいため新旧関係が非常に捉え難い場合も少なくない。

仏具が出土した第32、33号住居跡も重複しているが、どちらの住居跡も北東角付近に張り出し部が認められる。これは他の住居跡には見られない特徴であり、仏具とのなんらかの関連が予想されるものである。

第3節 住居跡

第1号住居跡

[位置] V-29～30グリッド付近において確認されている。

[重複] 第2号、第4号住居跡と重複している。両住居跡より本住居跡の方が新しいものと思われる。

[平面形・規模] 住居跡の西側は調査区外にかかり、住居跡北東側は攪乱されているため全体の平面形、規模は不明確である。主軸方向はN-109°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 住居跡南辺の西側で確認されている。

[柱穴・ピット] 小ピットが11検出されているが、柱穴になるか否かは明確ではない。

[カマド] 確認されていない。調査区外または攪乱部分にあった可能性が考えられる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

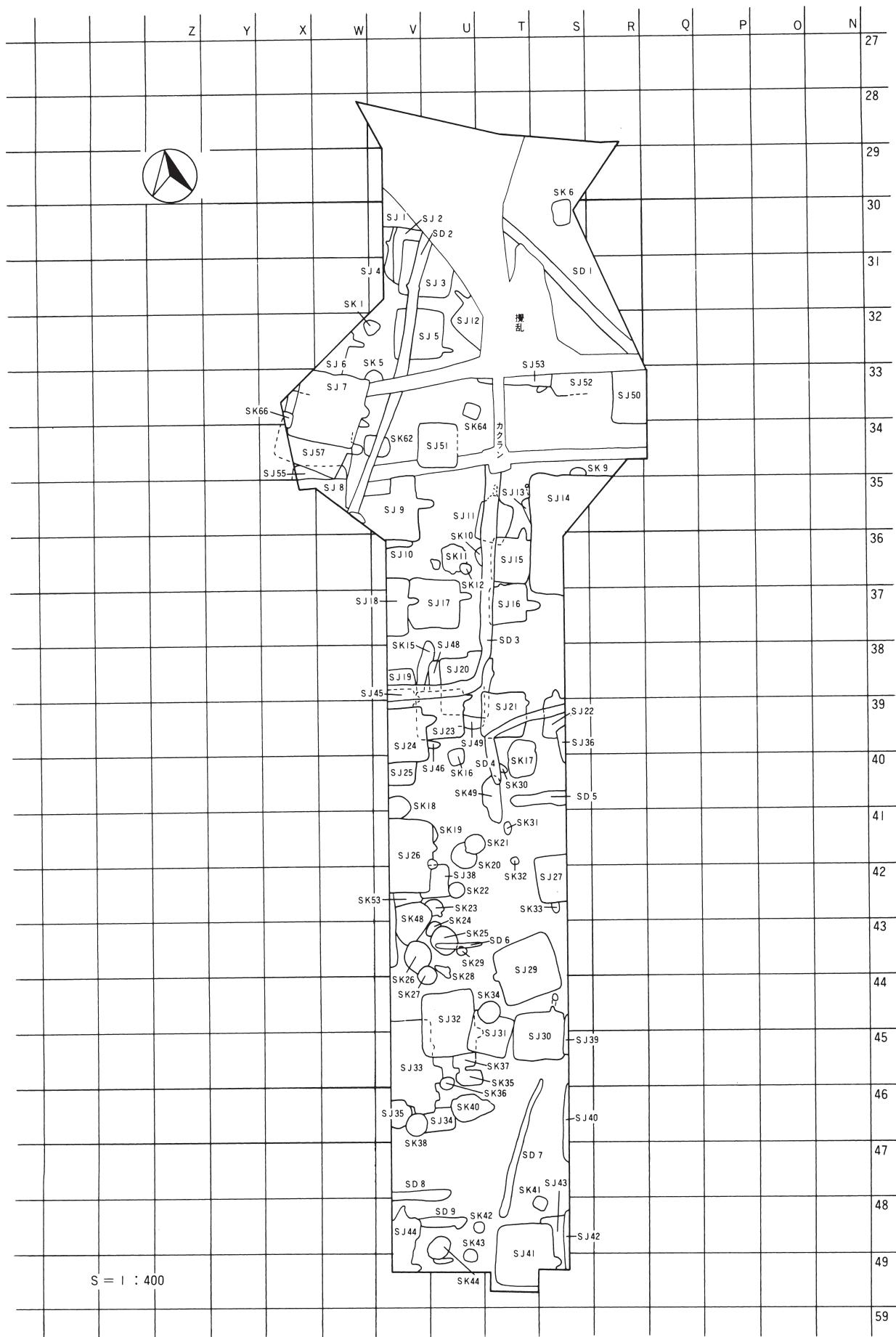


図120 B区遺構配置図

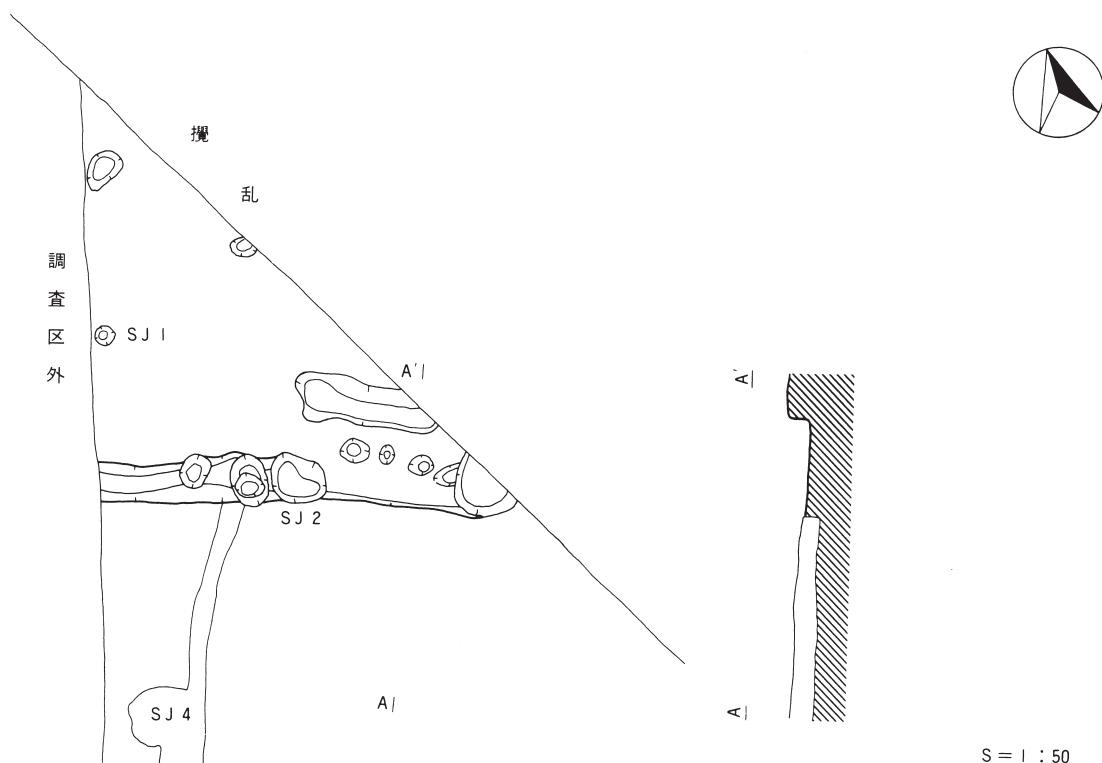


図121 第1号住居跡

第2号住居跡

[位置] V-30~31グリッド付近において確認されている。

[重複] 第1号、第3号、第4号住居跡、第2号溝跡と重複している。本住居跡は第4号住居跡よりは新しく、第1、第3号住居跡、第2号溝跡よりは古いものと思われる。

[平面形・規模] 他の住居跡との切り合いのため大きさは不詳であるが方形になるものと思われる。主軸方向はN-104°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 確認されなかった。

[柱穴・ピット] 確認されなかった。

[カマド] 確認されなかった。第3号住居跡の北東角付近の床面に焼土が確認されているが、位置的にみて本住居跡のカマドの残骸の可能性も考えられる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

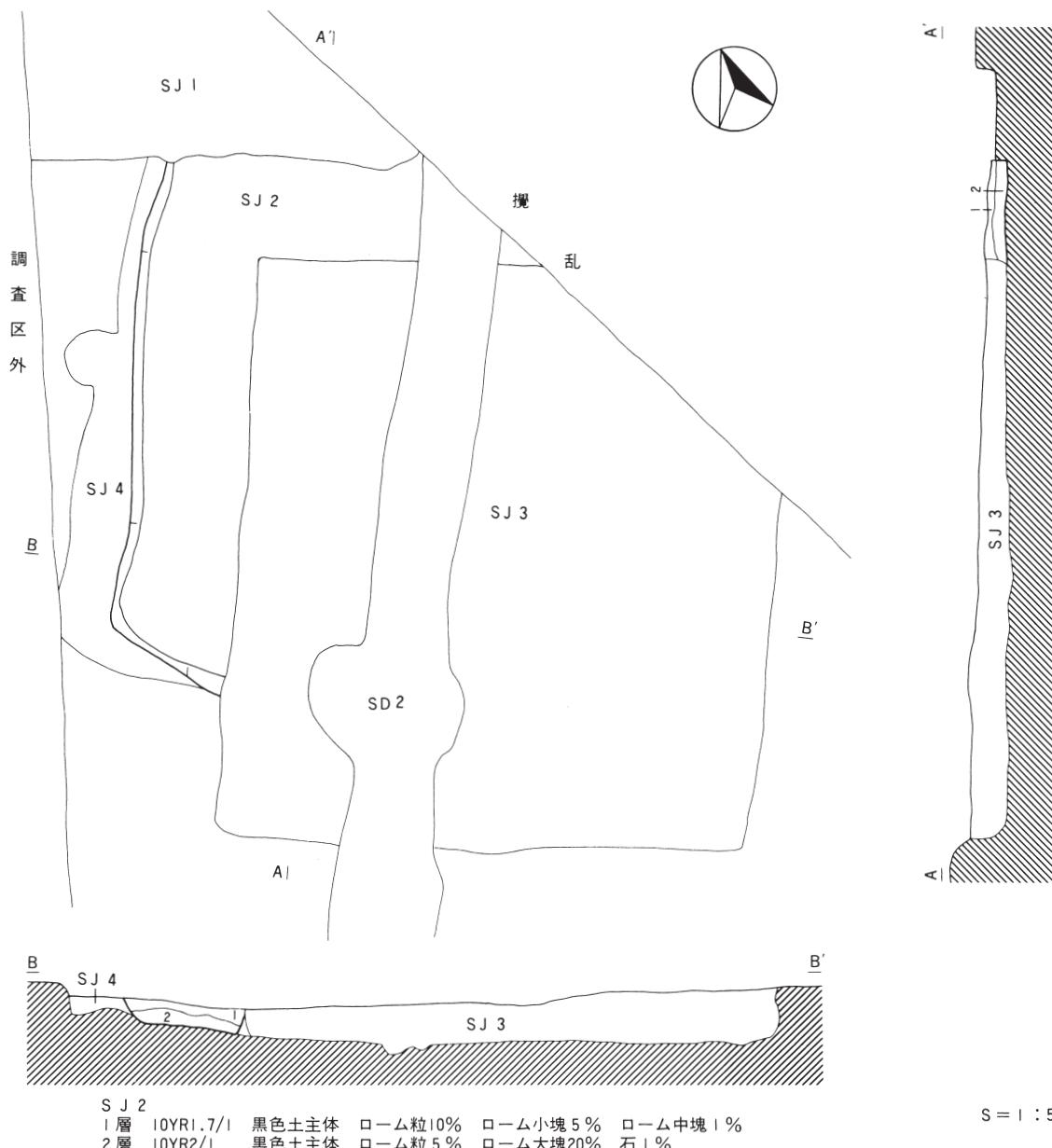


図122 第2号住居跡

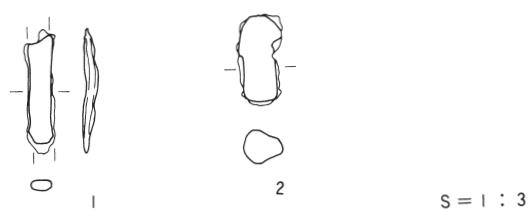


図123 第2号住居跡出土遺物

第3号住居跡

[位置] U～V-30～31グリッド付近において確認されている。

[重複] 第2号、第4号住居跡、第2号溝跡と重複している。本住居跡は第2号溝跡より古く、他の遺構よりは新しい。

[平面形・規模] 住居跡北東角付近が第2号溝跡と攪乱の影響で不明確であるが、一辺約3.8m程度の方形である。主軸方向はN-107°-Eである。

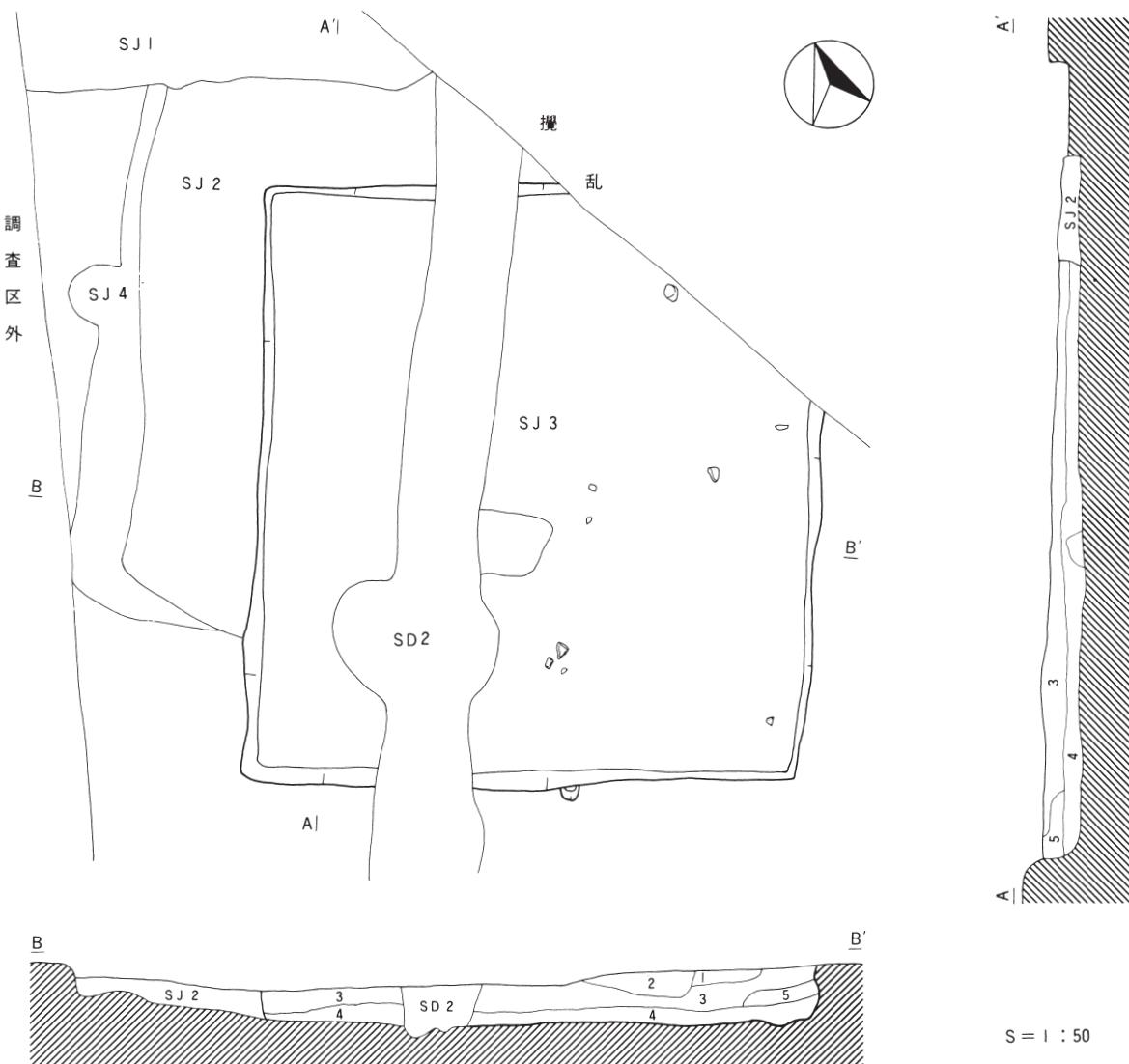
[壁・床面] 床面は平坦でほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 確認されていない。

[柱穴・ピット] 確認されていない。

[カマド] 確認されていないが他の遺構との重複部分か攪乱部分に存在した可能性が考えられる。

[遺物] 土器類は図示できるものは出土していない。土器以外には鉄製の鎌、軽石製の勾玉が出土している。



S J 3								
1層	I0YR2/3	黒褐色土主体	I0YR3/2	黒褐色土20%	ローム粒20%	ローム小塊1%	炭化物小塊1%	小石1%
2層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒10%	炭化物粒1%	小石5%	焼土粒1%		
3層	I0YR2/1	黒褐色土主体	I0YR3/2	黒褐色土20%	ローム粒5%	ローム小塊1%	炭化物粒1%	小石1% 焼土粒1%
4層	I0YR3/2	黒褐色土主体	I0YR1.7/1	黒褐色土10%	3/3暗褐色土10%	ローム粒10%	ローム小塊5%	ローム中塊1% 炭化物5% 焼土1%
5層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒20%	ローム中粒5%	ローム中塊1%	炭化物粒1%	焼土粒1%	小石5%

図124 第3号住居跡

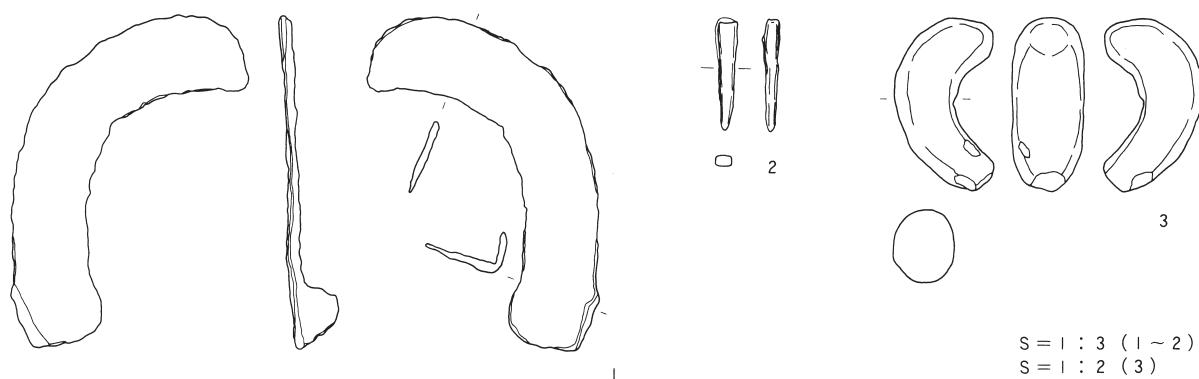
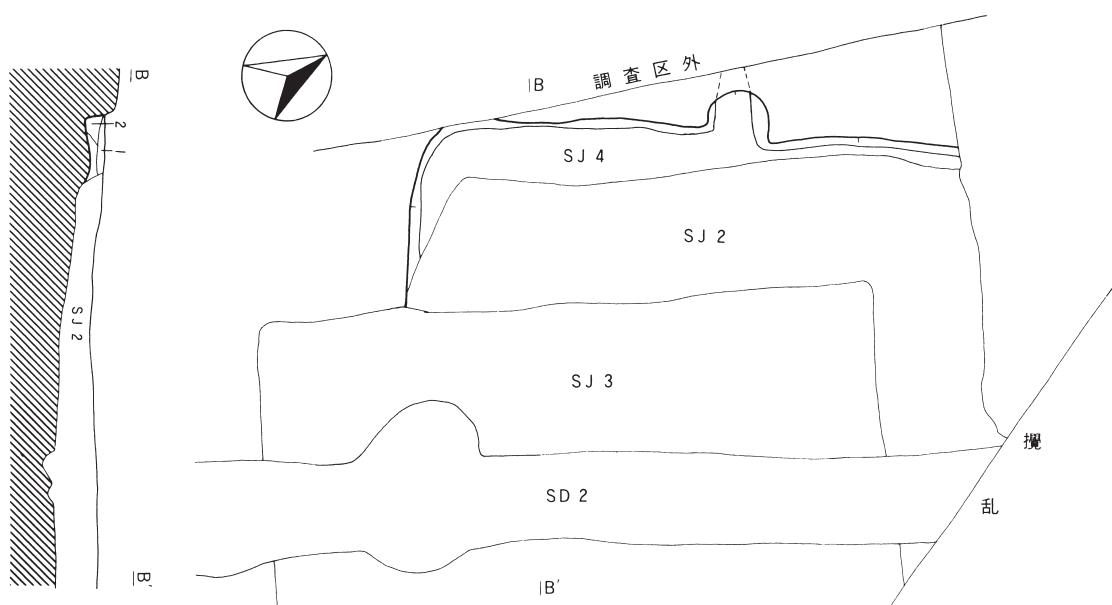


図125 第3号住居跡出土遺物

第4号住居跡

- [位置] V-30~31グリッド付近において確認されている。
- [重複] 第1号~第3号住居跡、第2号溝跡と重複しているが、それらのいずれよりも古い。
- [平面形・規模] 住居跡東側の大半が他の遺構に切られているため規模は不詳であるが、方形になるものと思われる。主軸方向はN-73°-Wである。
- [壁・床面] 床もほとんどが失われているが、壁はほぼ垂直に立ち上がっていたようである。
- [周溝] 確認されていない。
- [柱穴・ピット] 確認されていない。
- [カマド] 遺存状態は悪いが、住居跡西辺で検出された。地下式の煙道部の一部が残存している。調査区外で開口していたものと思われる。
- [遺物] 図示できるものは出土していない。

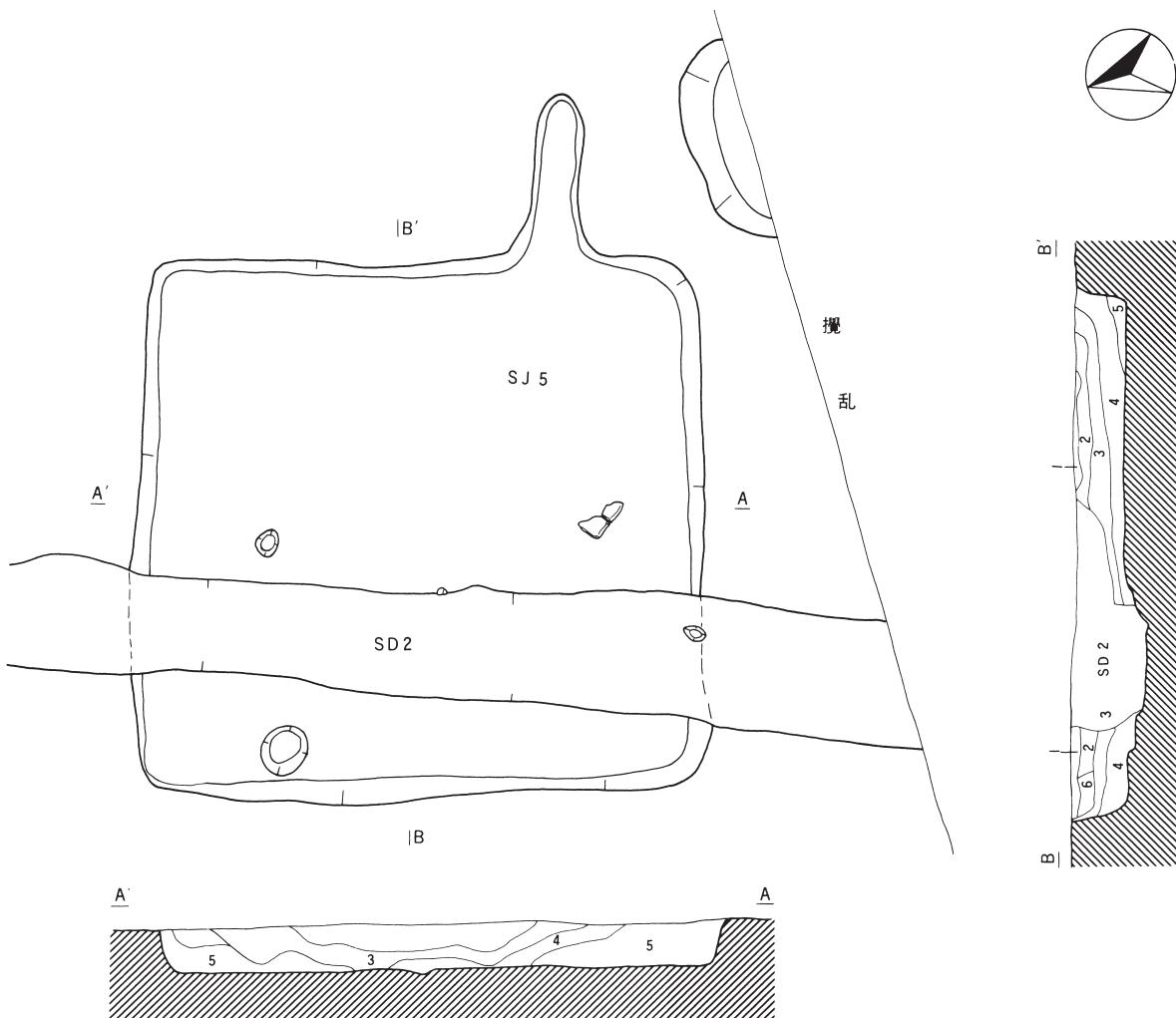


S J 4
1層 10YR1.7/1 黒色土主体 ローム粒10% ローム中粒1%
2層 10YR2/1 黒色土主体 ローム粒40% ローム中粒1%

図126 第4号住居跡

第5号住居跡

- [位置] U～V-31～32グリッド付近において確認されている。
- [重複] 第2号溝跡と重複している。本住居跡は第2号溝跡より古く、第4号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 一辺約3.7mのほぼ方形である。主軸方向はN-104°-Eである。
- [壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [周溝] 確認されていない。
- [柱穴・ピット] 2ヵ所で小ピットが検出されているが、柱穴としてよいかは不明確である。
- [カマド] 住居跡東辺で検出されているが、カマド周辺は上部がかなり削平されており遺存状態は悪い。地下式の煙道が部分的に残存している。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。



S J 5						
1層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム小粒10%	ローム小塊5%		
2層	I0YR2/I	黒色土主体	1.7/1黒色土5%	ローム小粒30%	ローム小塊10%	小石1% 炭化物粒1% 烧土小塊1% (5 YR4/8)
3層	I0YR2/2	黒褐色土主体	3/3暗褐色土20%	ローム小粒30%	ローム中塊10%	ローム大塊1%
4層	I0YR2/I	黒色土主体	1.7/1黒色土5%	ローム小粒20%	ローム小塊5%	ローム中塊1% 炭化物粒1%
5層	I0YR2/I	黒色土主体	3/3暗褐色土	ローム小粒10%	ローム小塊5%	ローム中塊1% ローム大塊1% 小石1%
6層	I0YR1.7/I	黒色土主体	3/2黒褐色土10%	ローム小粒1%		

S = 1 : 50

図127 第5号住居跡

第6号住居跡

[位置] W～X-32～33グリッド付近において確認されている。

[重複] 第7号住居跡と重複している。本住居跡の方が古い。

[平面形・規模] 住居跡西は調査区外で、南側は第7号住居跡に切られているため規模は不明であるが、ほぼ方形になるものと思われる。主軸方向はN-110°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

[周溝] 住居跡東辺で確認されている。

[柱穴・ピット] 確認されなかった。

[カマド] 住居跡東辺北寄りに検出されたが、一部は調査区外にかかる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

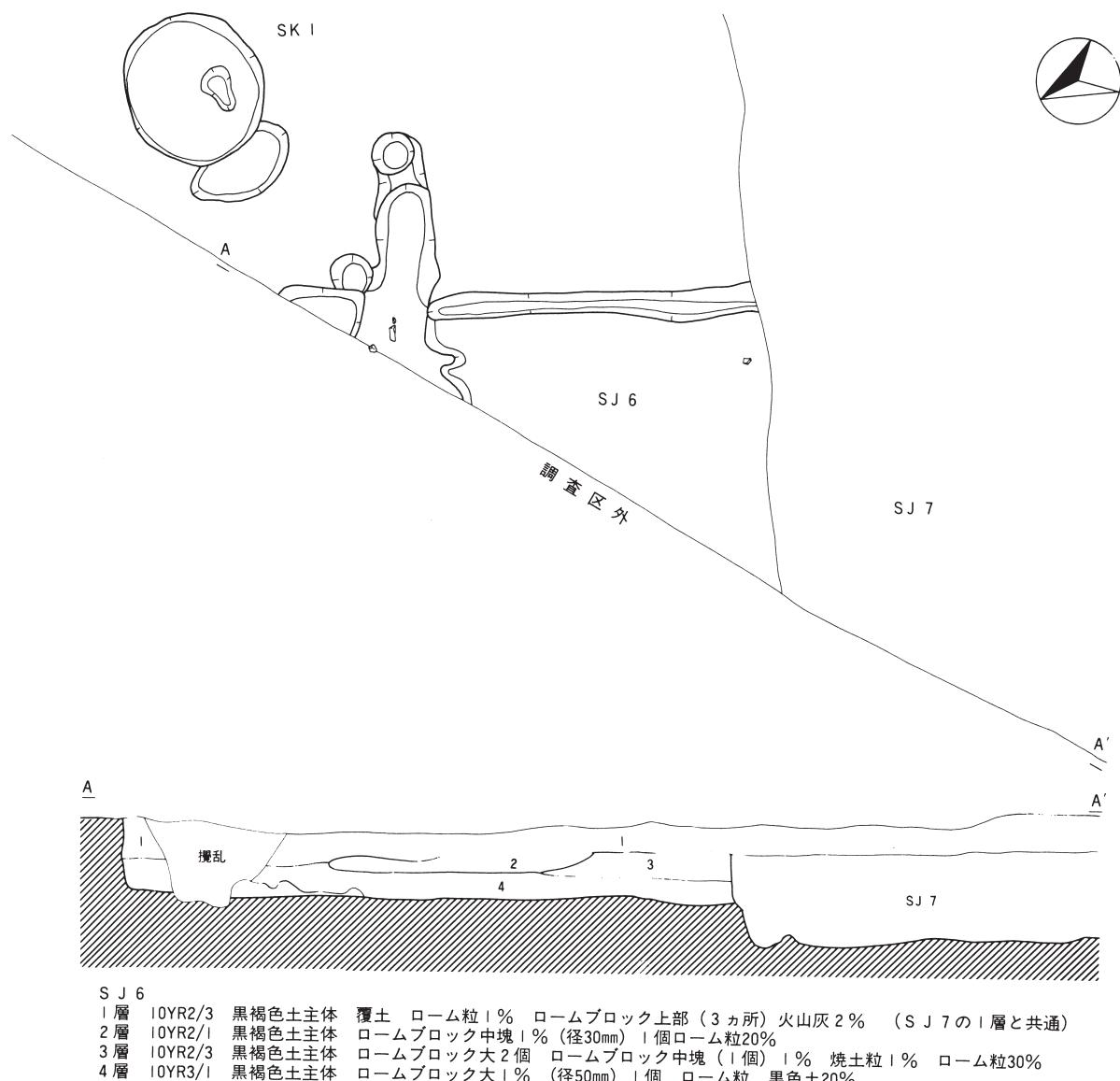


図128 第6号住居跡

第7号住居跡

[位置] V～W-33グリッド付近において確認されている。

[重複] 第6、55、57号住居跡及び、第5、66号土坑と重複している。第66号土坑のみ本住居跡より新しく、それ以外の遺構は全て本住居跡より古い。

[平面形・規模] 住居跡西側は調査区外にかかるため規模は不明確である。主軸方向はN-110°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。住居の北側の一部を除いて現町道建設により大半が削平されている。床面は辛うじて遺存している。

[周溝] ほぼ全周に巡っている。

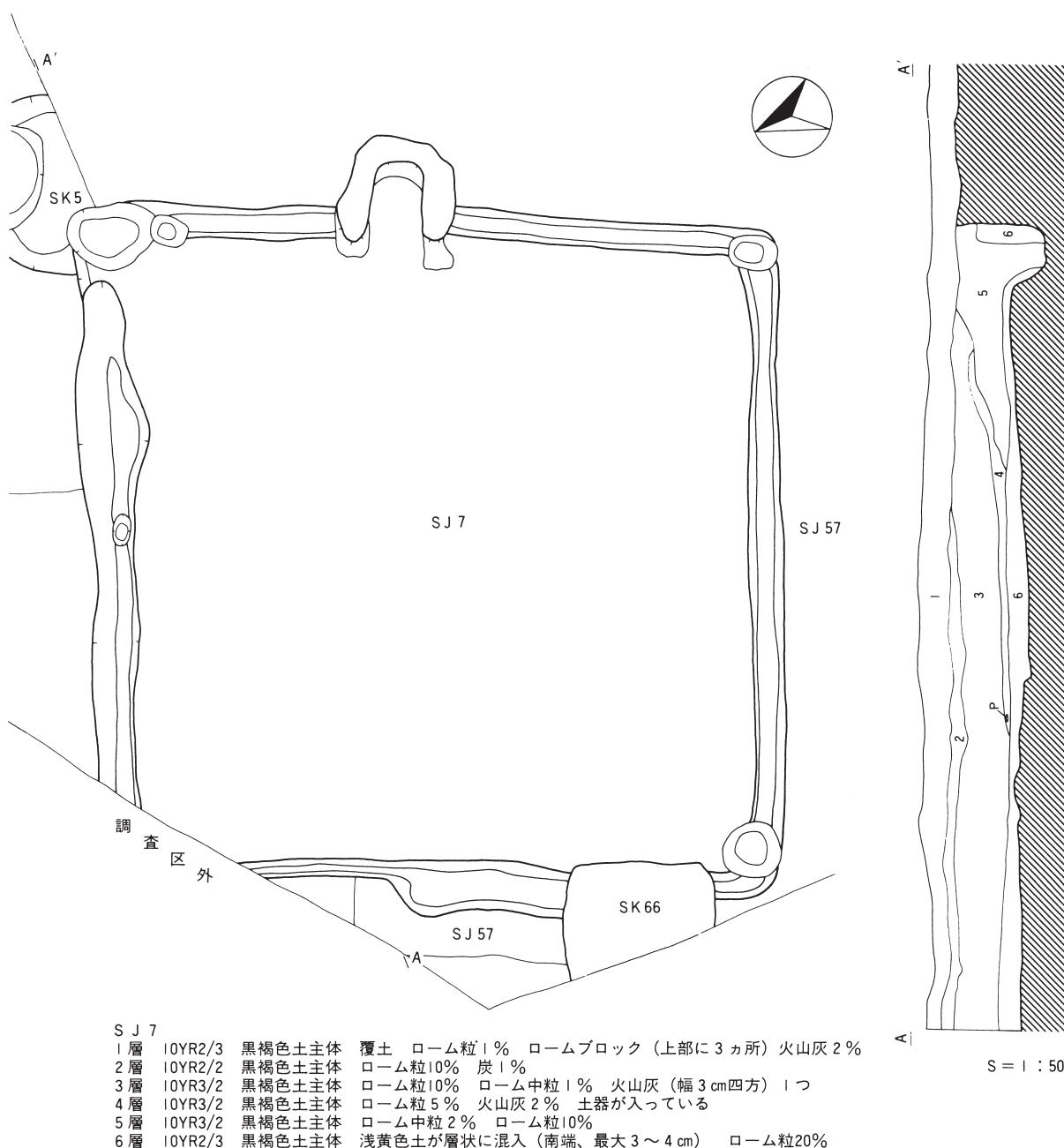


図129 第7号住居跡

[柱穴・ピット] 住居跡北西角は調査区外にかかるため検証できないが、各角に柱穴が認められる。

[カマド] 住居跡東辺で検出されたが、削平により遺存状態は極めて悪い。

[遺物] 図示できる土器は出土していない。他に棒状鉄製品等が出土している。

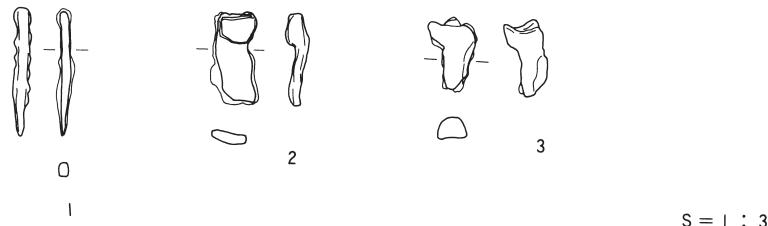


図130 第7号住居跡出土遺物

第8号住居跡

[位置] W-35グリッド付近において確認されている。

[重複] 第55、57号住居跡及び第2号溝跡と重複している。本住居跡は第55、57号住居跡より古い。第2号溝跡は本住居跡より新しい。

[平面形・規模] ほとんどが調査区外であるため全貌は不詳であるが、一辺3.9m程度の方形だったものと思われる。主軸方向はN-110°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。住居の北側は現町道により上部が削平されており、辛うじて周溝が確認できる程度である。

[周溝] ほぼ全周に巡っていたようである。

[柱穴・ピット] 住居北東角と北西角で確認されている。南東角と南西角にも遭った可能性が高いが調査区外であるため検証できない。

[カマド] カマドの存在は住居東壁で確認できたものの、東側は第2号溝跡に切られ、南側は調査区外にかかるため全貌は把握できない。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

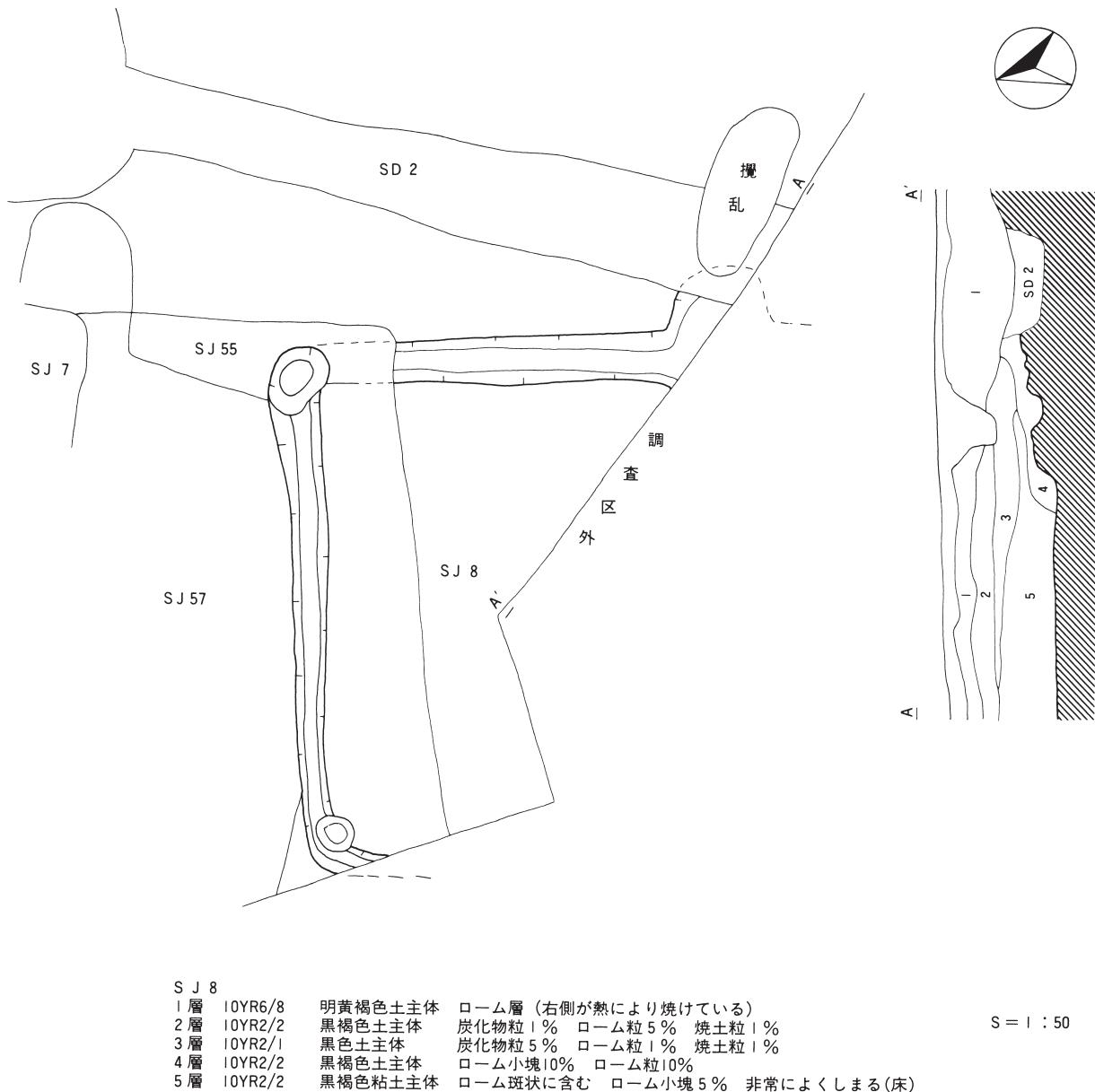


図131 第8号住居跡

第9号住居跡

[位置] V～W-35～36グリッド付近において確認されている。

[重複] 第10号住居跡、第2号溝跡と重複している。本住居跡は第2号溝跡よりは古く、第10号住居跡よりは新しい。

[平面形・規模] 第2号溝跡との重複や部分的に調査区外にかかるため全貌は不詳であるが、一边約3.7m程度の方形になるものと思われる。住居跡東辺北側には本住居跡に付随すると思われる張り出し部が認められる。主軸方向はN-93°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 柱穴状の小ピットも認められるが、規則性をもつものはない。

[カマド] 住居跡東辺やや北寄りから検出された。カマドの構築材だったと思われる赤化した礫なども出土している。

[遺物] 土師器坏、土玉などの他に、馬の歯と思われる動物歯が出土したが遺存状態は悪い。

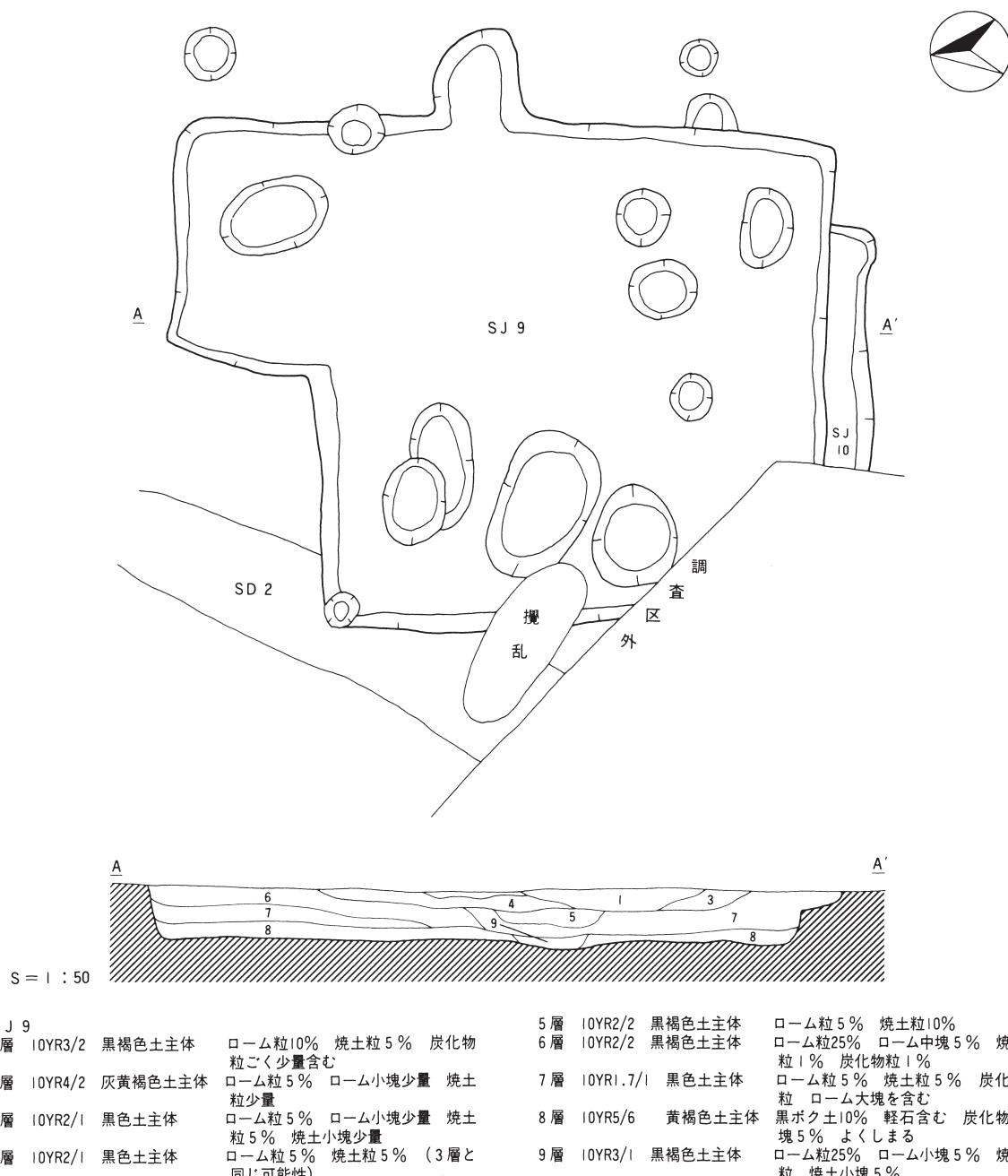


図132 第9号住居跡

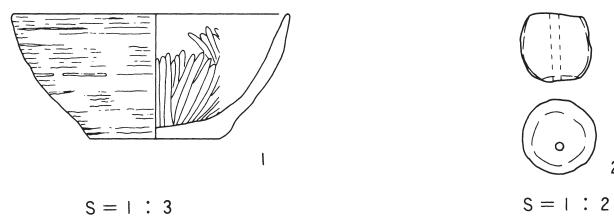


図133 第9号住居跡出土遺物

第10号住居跡

[位置] V-36グリッド付近において確認されている。

[重複] 第9号住居跡と重複している。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかり、北側は第9号住居跡と重複するため規模は不明確である。第9号住居跡とは切り合い関係が不明瞭であることから、第9号住居跡の張り出し部である可能性も考えられる。主軸方向はN-98°-Eである。

[壁・床面] 残存部が少ないため不明瞭であるが、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第11号住居跡

[位置] T-U-35~36グリッド付近において確認されている。

[重複] 第15号住居跡、第3号溝跡と重複している。その両者より本住居跡の方が古い。

[平面形・規模] 一辺約2.4mのほぼ方形である。他の住居跡に比べると小型であるが、カマドが認められる。主軸方向はN-25°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、一面に焼土が検出された。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 柱穴状の小ピットが検出されたが不明確である。

[カマド] 住居跡北辺のやや東よりに地下式の煙道が確認された。

[遺物] 図示できるものはないが土師器壊などが出土している。

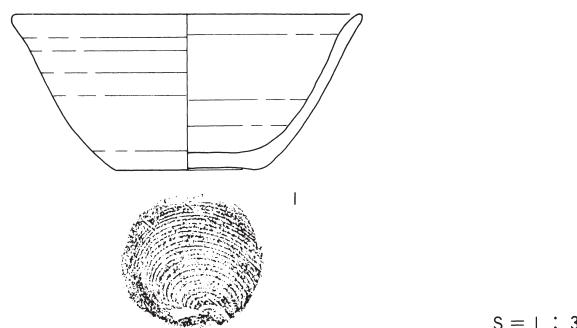


図134 第11号住居跡出土遺物

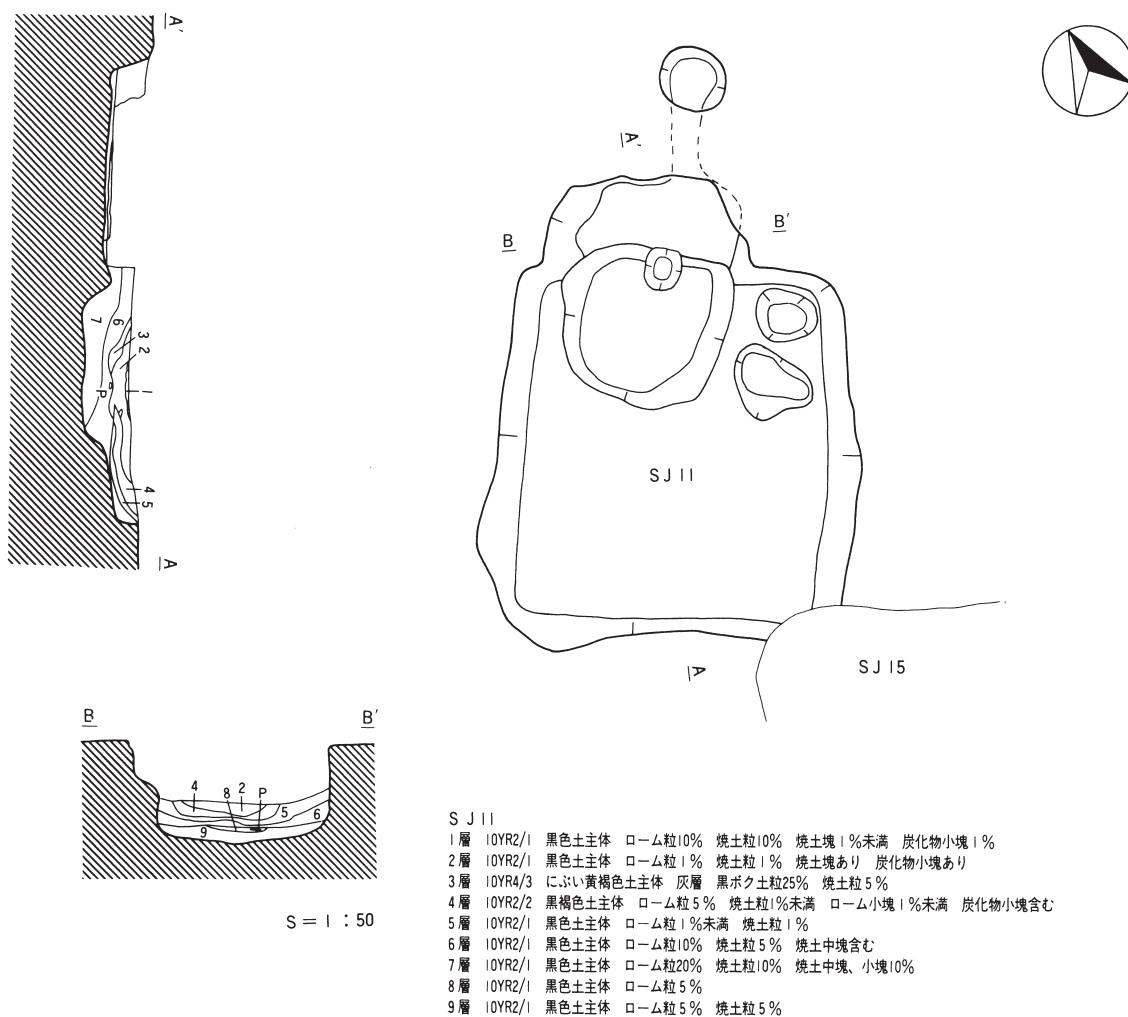


図135 第11号住居跡

第12号住居跡

[位置] U-31～32 グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 住居跡の東側の大半が攪乱を受け、残った部分も上部が削平されているため遺存状態は良くなく、規模は不明確であるが、ほぼ方形の平面形だったとおもわれる。主軸方向はN-45°-Wである。

[壁・床面] 床面は残存しているが、壁面はほとんど削平されている。

[周溝] 確認されていない。

[柱穴・ピット] 柱穴は確認されていない。カマドの西側にピットが検出されている。

[カマド] 住居跡北壁で確認されている。上部が削平されているため遺存状態は悪いが地下式の煙道をもつようである。

[遺物] カマドとピットの間からほぼ完形に復元できる甕が出土している。

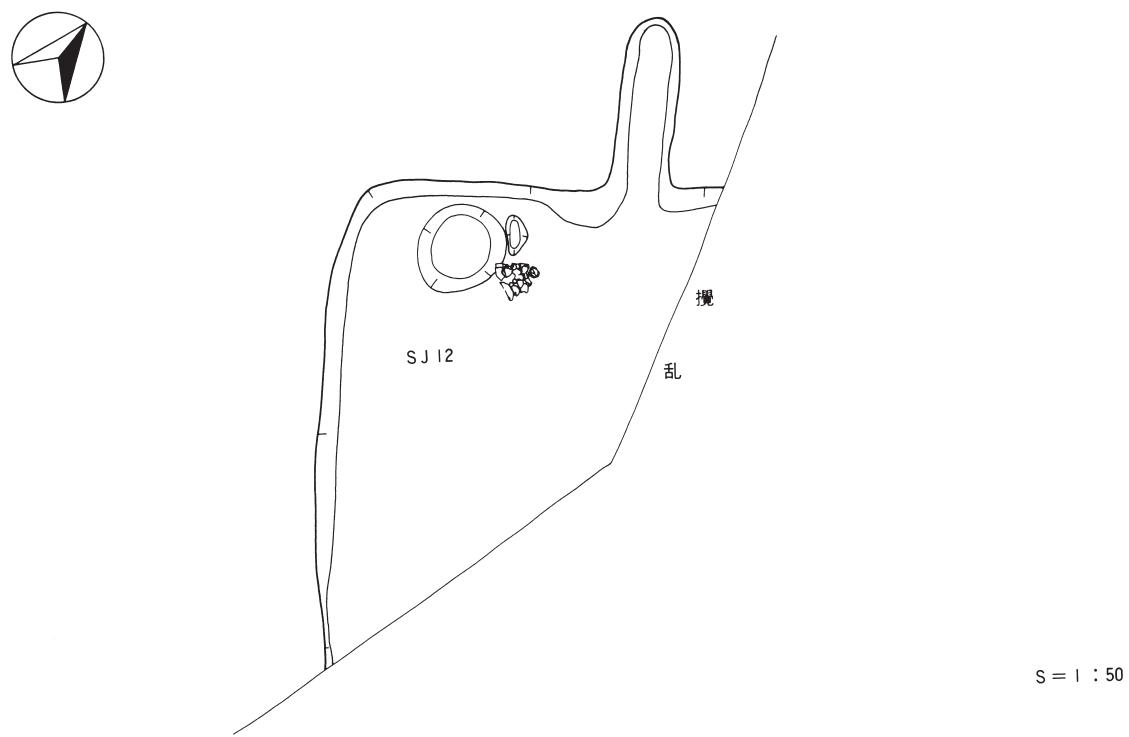


図136 第12号住居跡

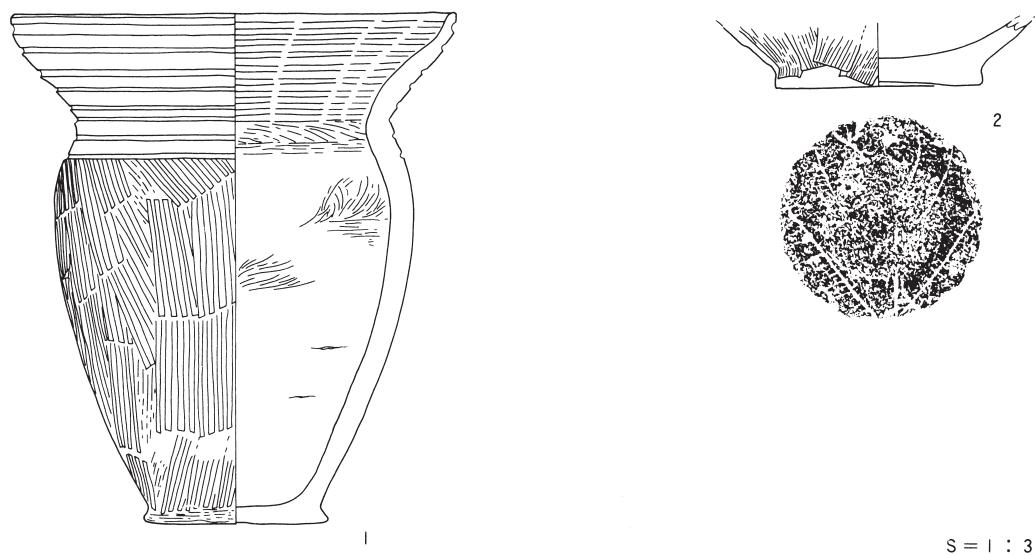


図137 第12号住居跡出土遺物

第13号住居跡

[位置] T-35グリッド付近において確認されている。

[重複] 第14、15号住居跡、第9号土坑と重複している。それらのいずれよりも本住居跡の方が古いものと思われる。

[平面形・規模] 大半が第14号住居跡に切られているため規模等は不詳である。主軸方向はN-19°-Wである。

[壁・床面] ほとんど遺存していないが、壁はほぼ垂直に立ち上がっていたようである。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 明確なものは確認されなかった。

[カマド] 住居跡北壁にあったようである。カマド本体は第14号住居跡構築によって失われたようであるが、地下式の煙道部およびその開口部が検出されている。

[遺物] 出土していない。

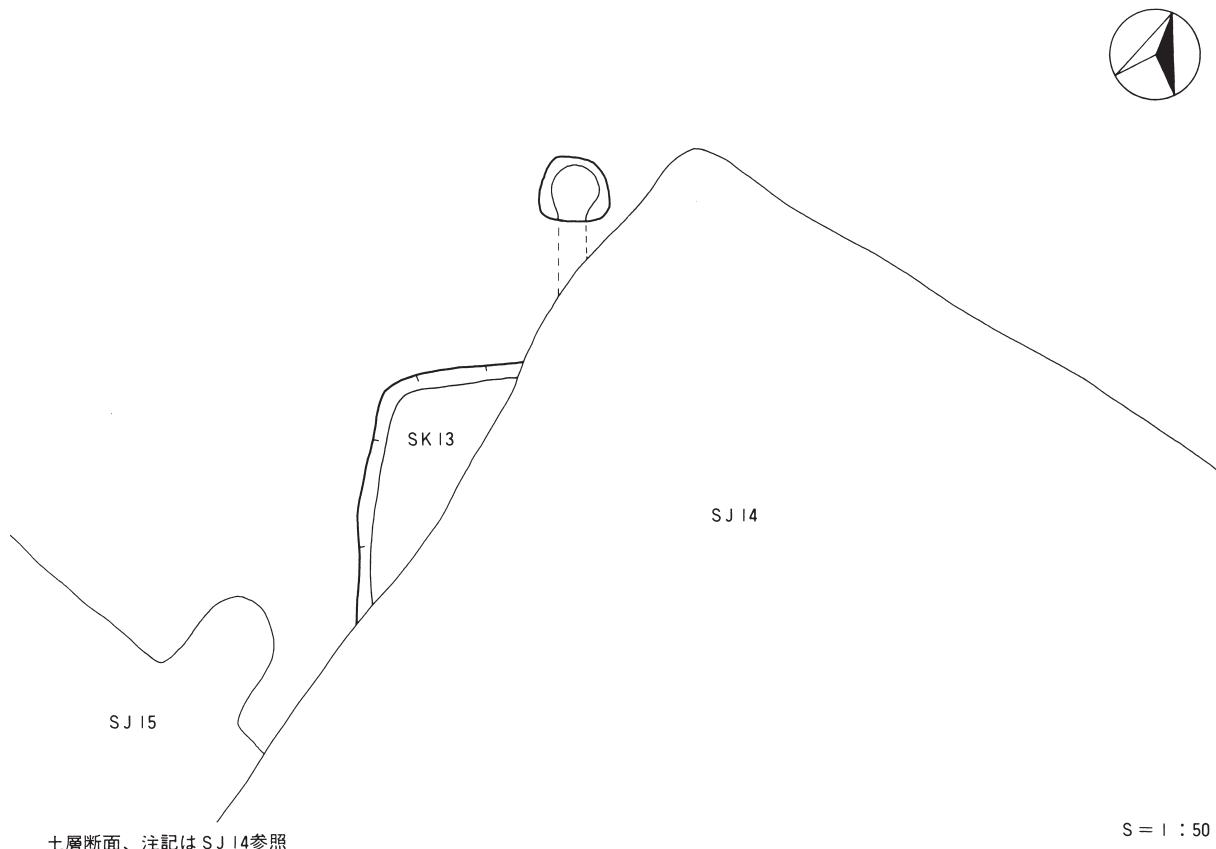


図138 第13号住居跡

第14号住居跡

[位置] R～T-34～37グリッド付近において確認されている。

[重複] 第13号住居と重複している。本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 東側が調査区外にかかっているため全貌は不詳であるが、一辺9.5m程度の方形だったものと思われる。主軸方向はN-105°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 確認された範囲内ではほぼ全周に巡っている。

[柱穴・ピット] 小ピットは検出されているが、柱穴になるかどうかは不明である。

[カマド] 確認されなかった。調査区外にあるものと思われる。

[遺物] 土師器壺、甕などが出土地している。

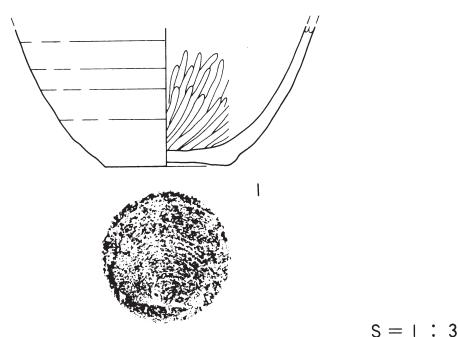


図139 第14号住居跡出土遺物



図140 第14号住居跡

第15号住居跡

[位置] T-35~36グリッド付近において確認されている。

[重複] 第11、14、16号住居跡、第3号溝跡と重複している。第3号溝跡は本住居跡より新しいのは明確であるが、他の住居跡との切り合いはいずれも住居跡の縁辺同士が重複しているため、切り合いを判読するのは困難である。第16号住居跡との切り合い関係も断言はできないが本住居跡の方が新しいようである。

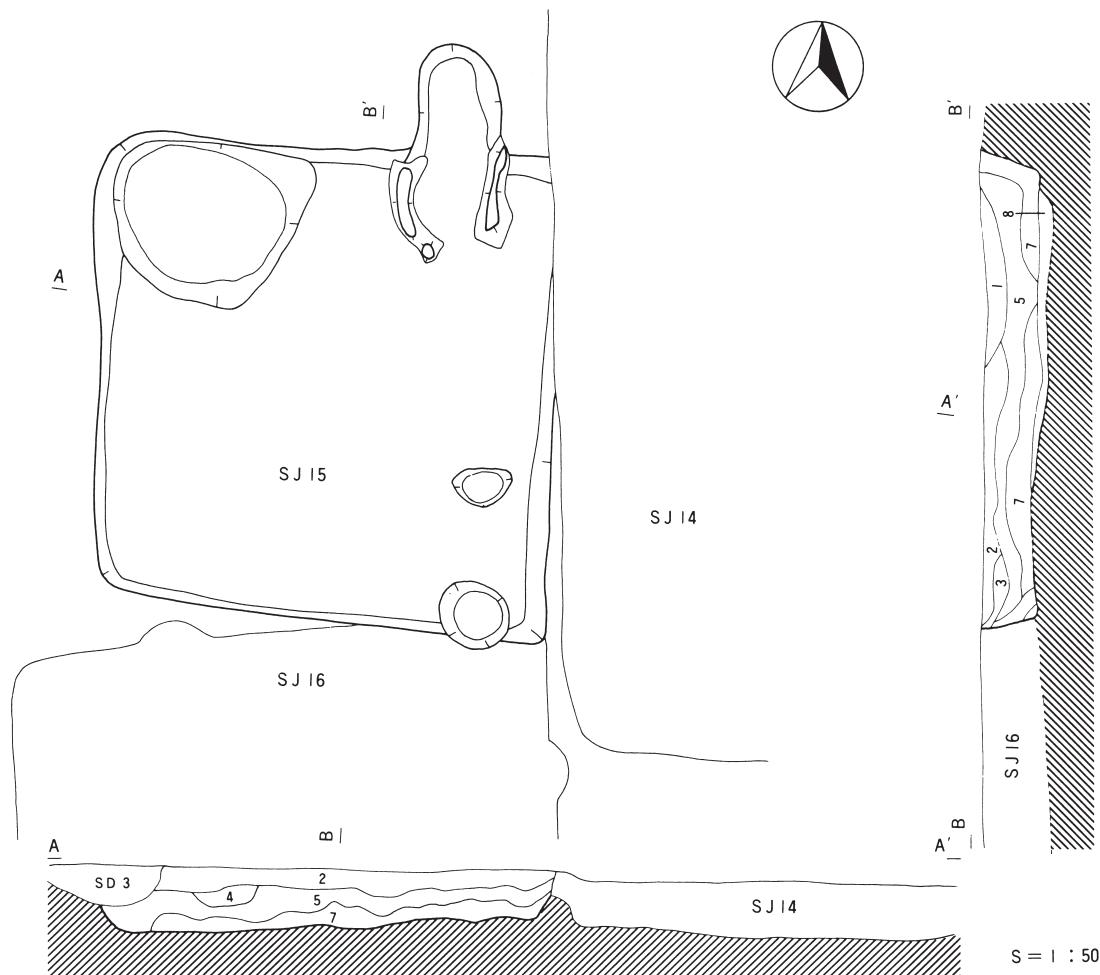
[平面形・規模] 一辺約3.1m程度の方形のようである。主軸方向はN-16°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 小ピットが検出されたが柱穴かどうかは不明確である。

[カマド] 住居跡北辺東よりで検出されている。粘土で構築されたソデ部分、火床面が確認されている。



SJ 15				
1層 10YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒 5%	ローム中粒 1%	焼土(径30mm)
		1個と(径2mm)	1個	炭(50×5mm) 1個と(径2mm) 2%
2層 10YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒20%	ロームブロック(径100mm)	1個
		炭化物粒0.1%	ローム中粒 1%	
3層 10YR5/6	黄褐色ローム主体	黒褐色土20%		
4層 10YR2/1	黒色土主体	ローム粒 1%		
5層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒40%	ロームブロック(径15mm)	1個、(径10mm) 1% 炭化物粒 1% ローム中粒 1%
6層 10YR2/1	黒色土主体	ローム粒 5%	焼土(径0mm)	1個
7層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒20%	ロームブロック(径10mm)	3個
8層 10YR5/6	黄褐色ローム主体	炭化物粒 1%	炭化物(10×3mm)	1個
9層 10YR5/6	黄褐色ローム主体	黒褐色土 40%	ローム中粒 1%	
		黒褐色土 1%	炭化物粒 0.5%	(幅5mmが上層に薄く覆うように混入)

図141 第15号住居跡

[遺物] 土師器甕、壺等の他に鉄製の紡錘車が出土している。

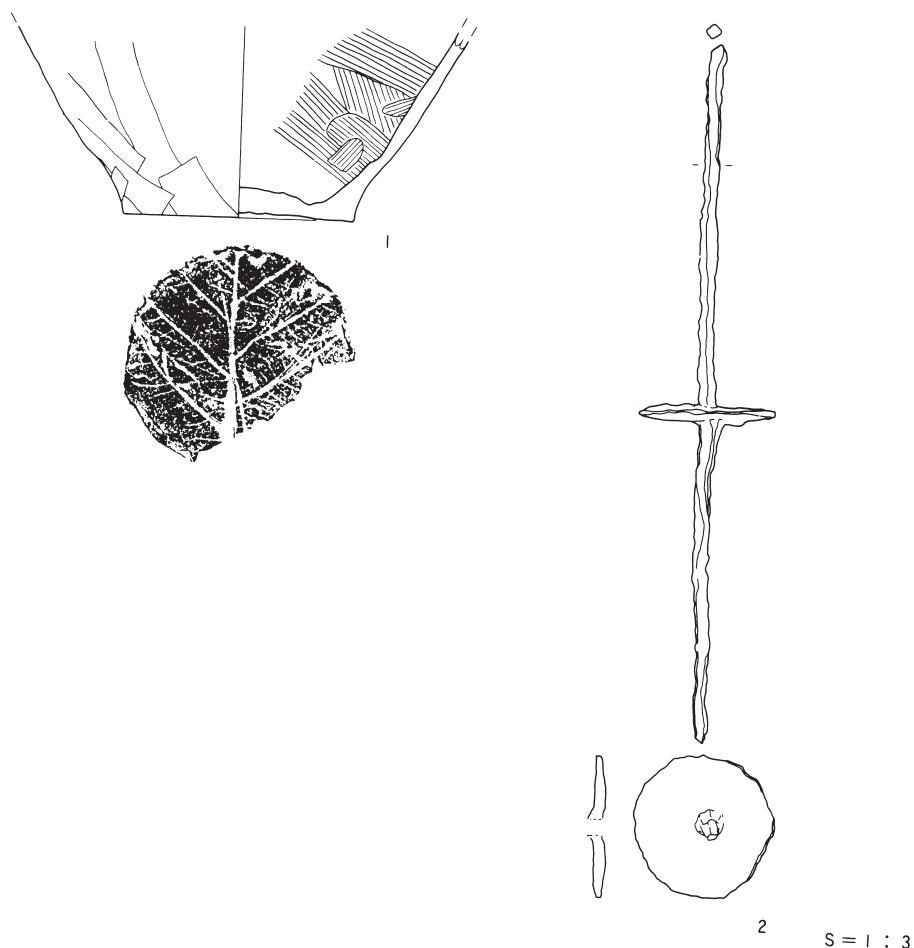


図142 第15号住居跡出土遺物

第16号住居跡

[位置] T-36~37グリッド付近において確認されている。

[重複] 第15号住居跡、第3号溝跡と重複している。先述したように本住居跡の方が第15号住居跡よりは古そうであるが明確ではない。第3号溝跡との関係は本住居跡の方が古い。

[平面形・規模] 一辺3.5m程度の方形である。主軸方向はN-104°-Eである。

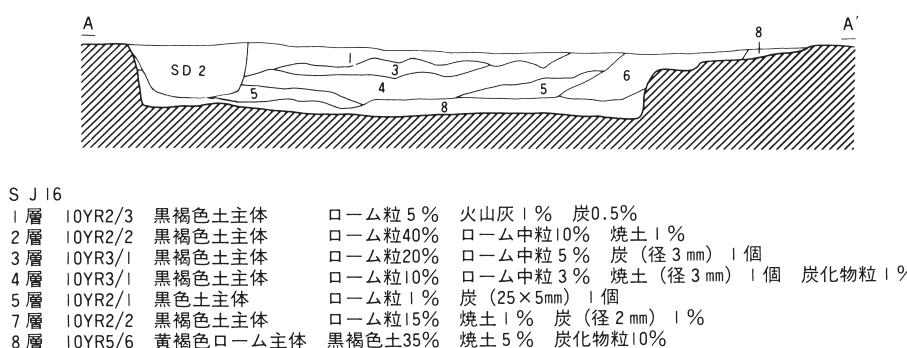
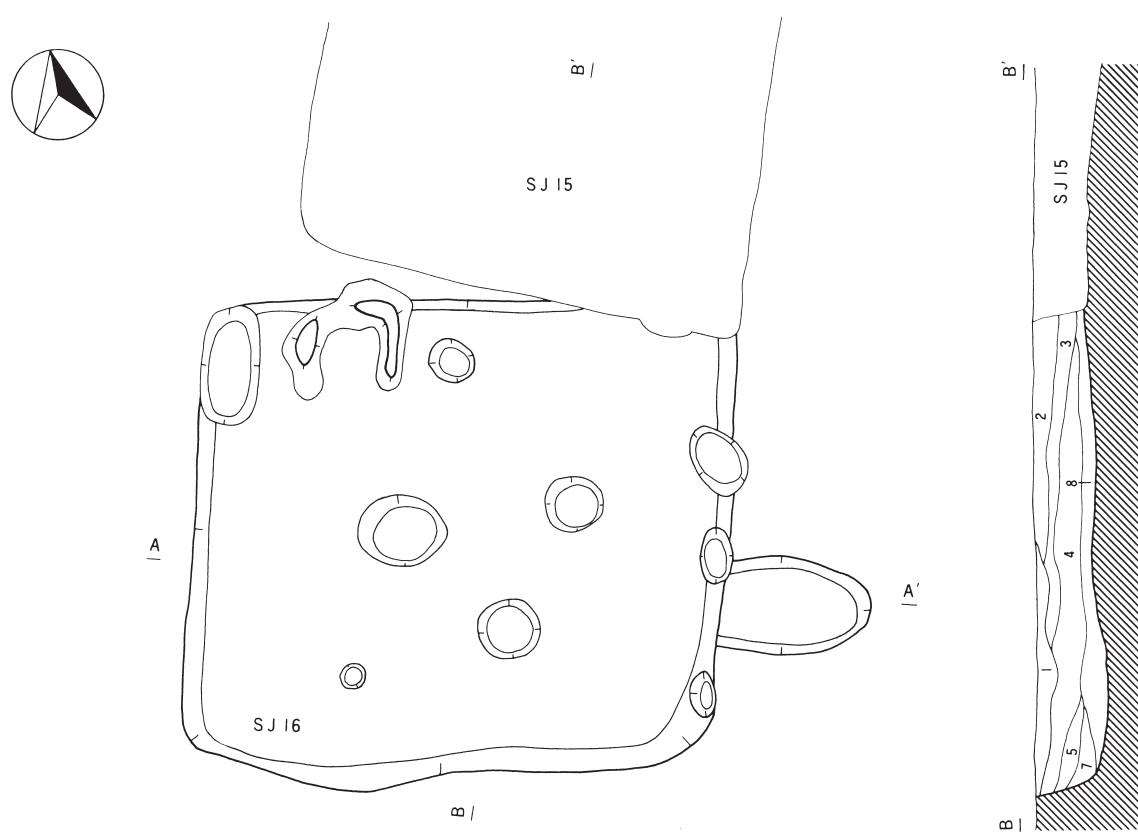
[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 複数の小ピットが検出されている。カマドの両脇にある小ピットは柱穴であった可能性が高い。

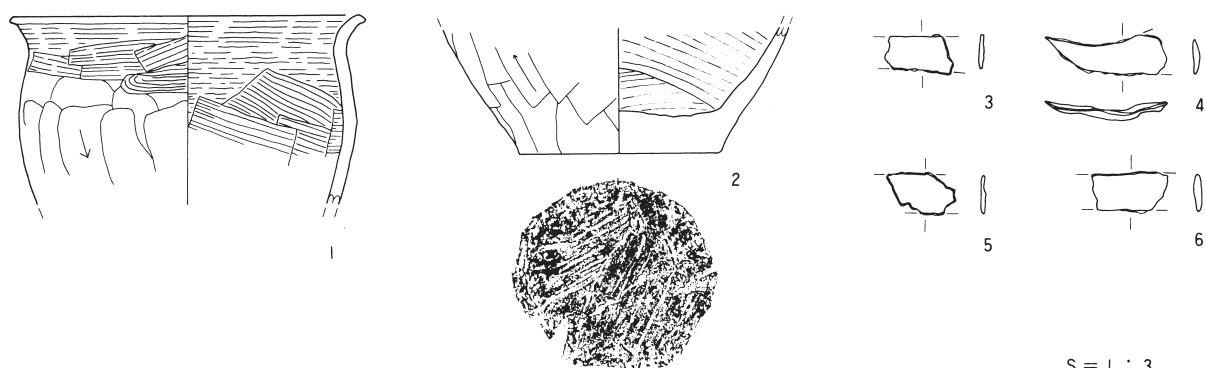
[カマド] 住居跡東辺で検出されている。第3号溝跡により上部が削平されているため遺存状態はあまり良くない。

[遺物] 土師器の甕、壺などの破片が出土している。遺存状態は良くないが、馬歯と思われる動物歯も出土している。



S = 1 : 50

図143 第16号住居跡



S = 1 : 3

図144 第16号住居跡出土遺物

第17号住居跡

[位置] U～V-36～37グリッド付近において確認されている。

[重複] 第18号住居跡と重複している。本住居跡の方が古いものと思われる。

[平面形・規模] 一辺約3.5mの方形である。主軸方向はN-104°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 明確な柱穴は検出されなかった。

[カマド] 住居跡東辺やや北寄りに確認されている。遺存状態は良好で、粘土で構築されたソデ、火床面が検出されている。

[遺物] カマド内およびその周辺から土師器甕、壺、鉄製紡錘車、刀子が出土している。

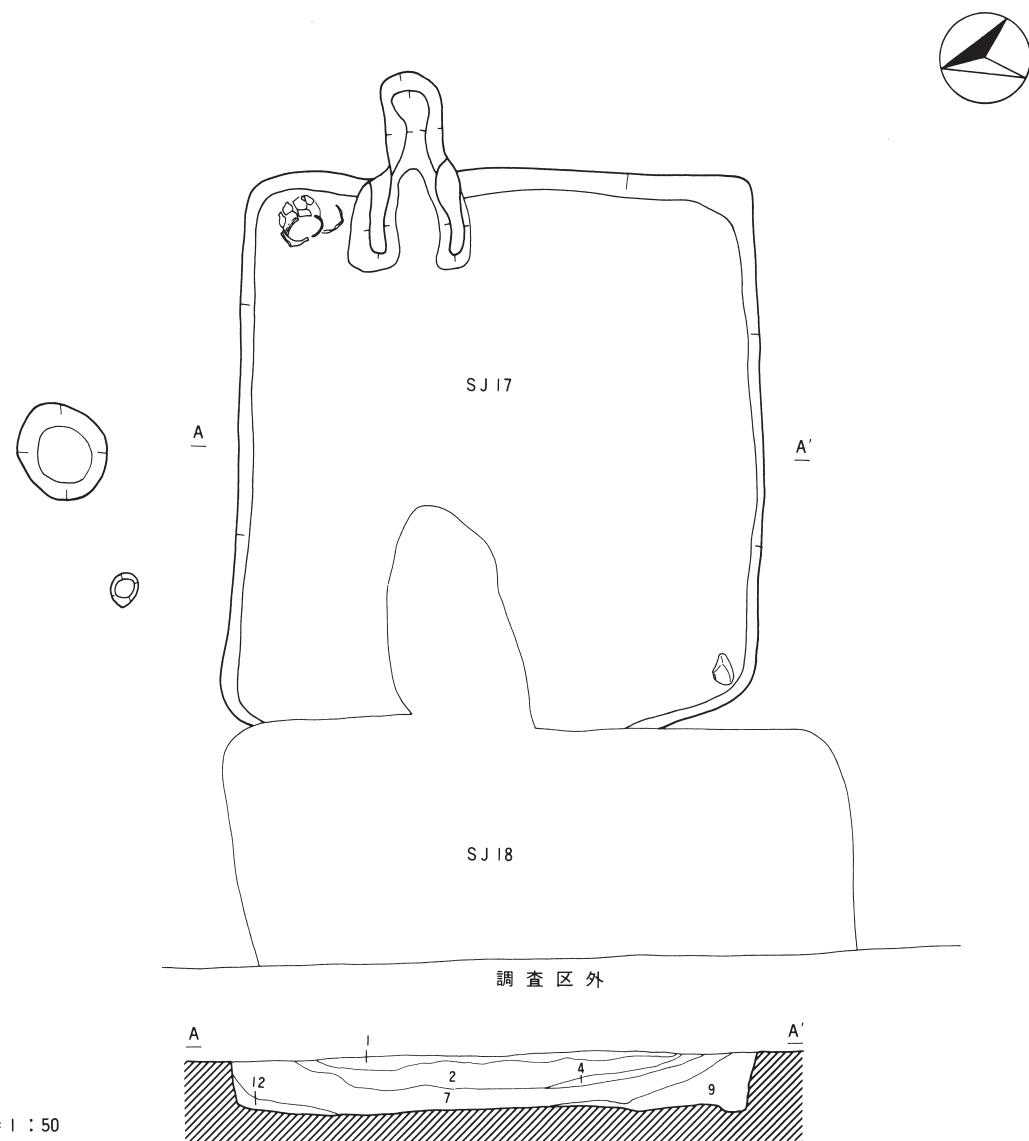


図145 第17号住居跡

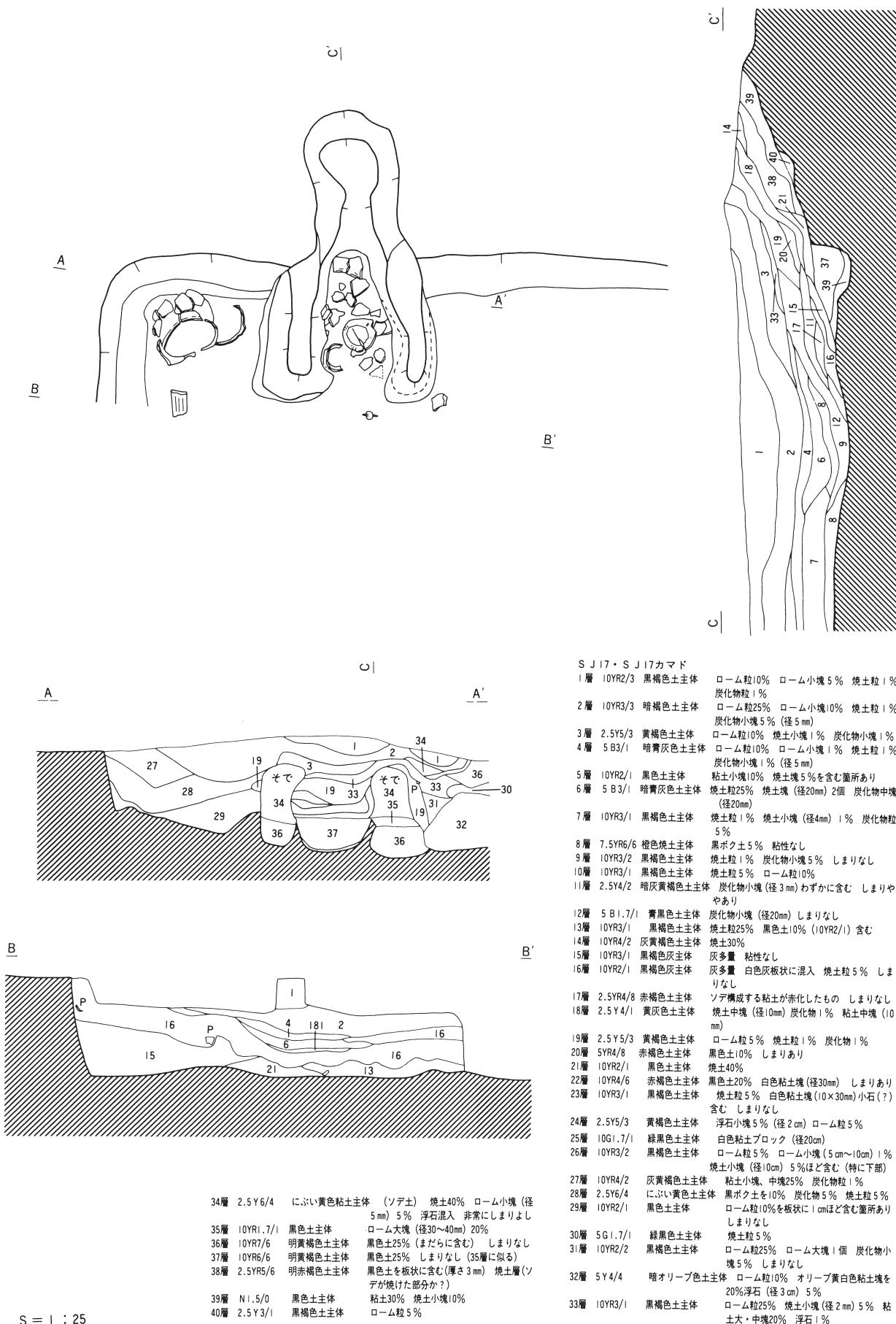


図146 第17号住居跡カマド

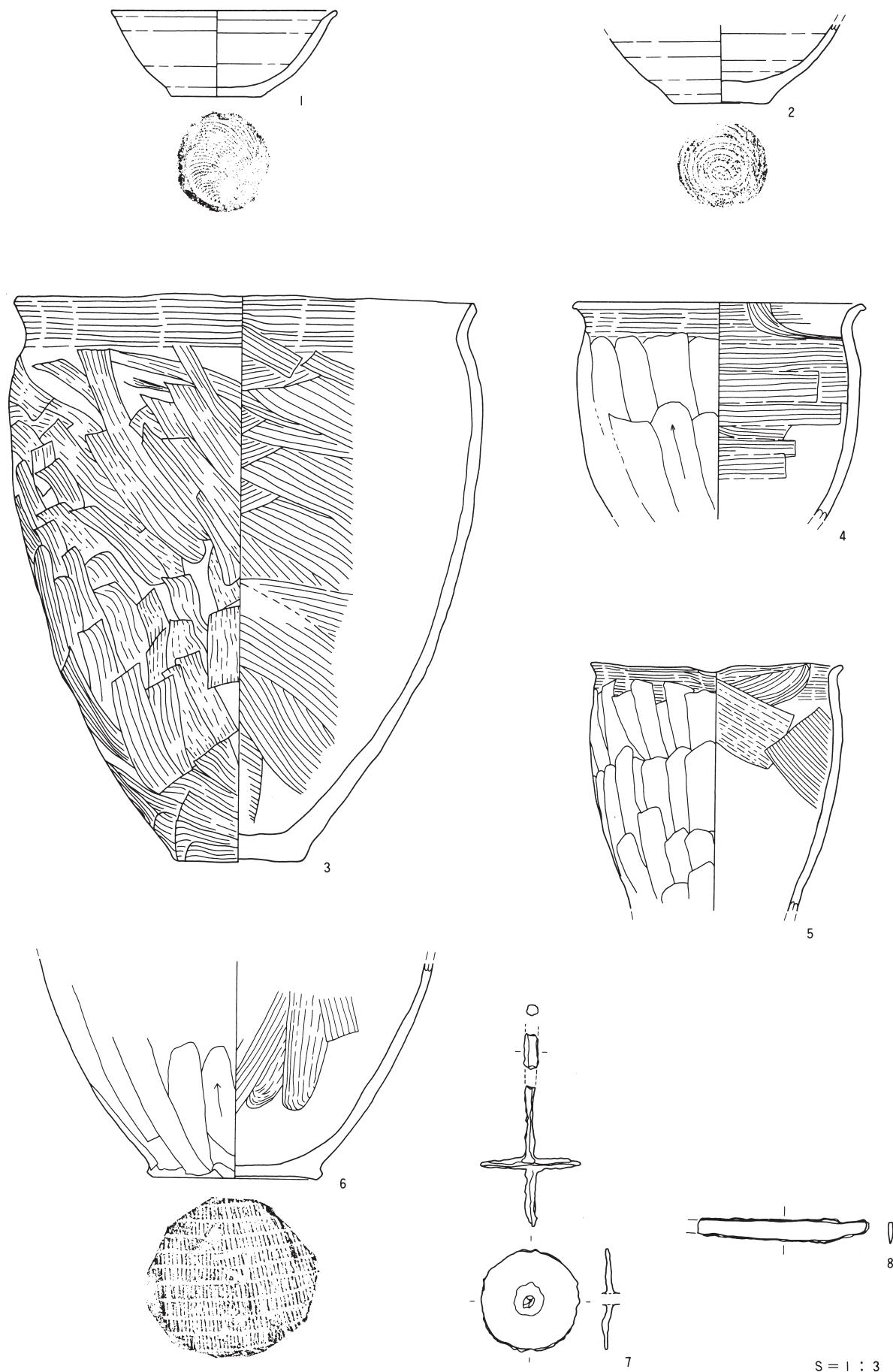


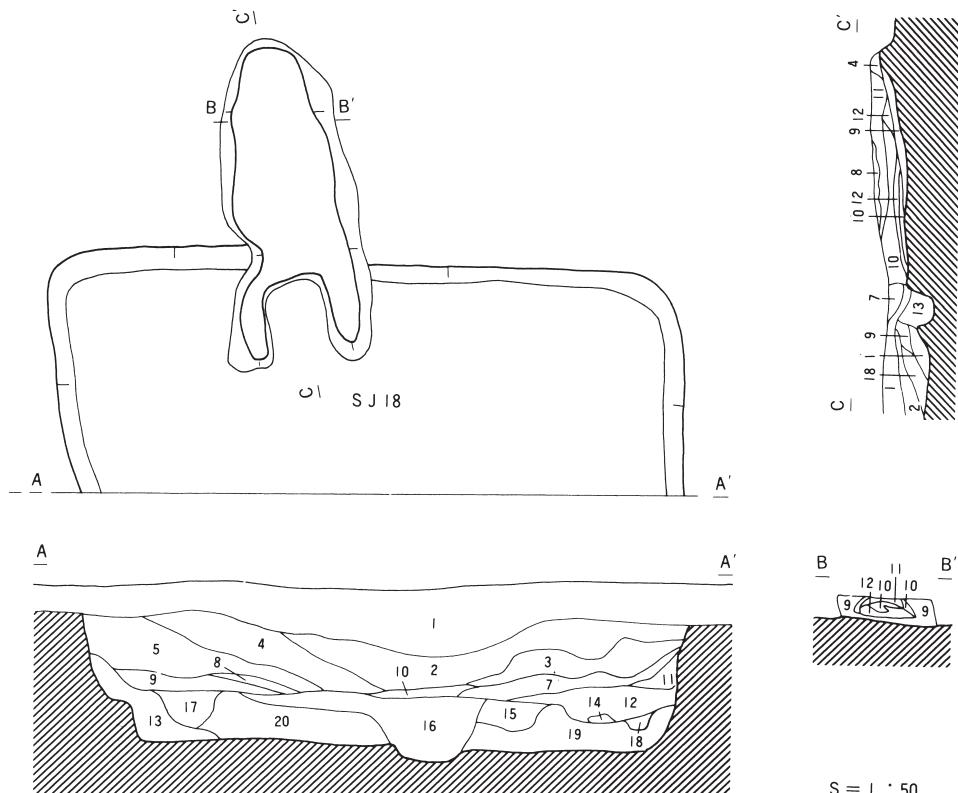
図147 第17号住居跡出土遺物

第18号住居跡

[位置] V-37グリッド付近において確認されている。

[重複] 第17号住居跡と重複している。本住居跡の方が新しいものと推定される。

[平面形・規模] 住居跡の西側は大半が調査区外にかかっているため全貌は明らかではないが、一辺約4.1m程度の方形のようである。主軸方向はN-101°-Eである。



S J 18 (A - A')

1層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒1% 岩化物粒1% 浮石粒1% ローム大粒1%
2層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊1% ローム粒5% ローム中粒1% 岩化物粒1% 岩化物大粒1% I0YR6/2灰黄褐色土小粒1% 大粒1%
3層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒5% ローム中粒5% ローム大粒1% 岩化物粒1% 烧土粒1% I0YR6/2灰黄褐色土中粒1%
4層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム大塊5% ローム大粒1% ローム粒10% 岩化物粒1% 烧土粒1%
5層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム小塊1% ローム中粒5% ローム粒5% 岩化物中粒1% I0YR6/2灰黄褐色土粒ごく微量
6層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒1%
7層	5 YR5/8	明赤褐色土主体	I0YR5/2灰黄褐色土板状に混入 ローム中粒1%とでもサラサラしている。
8層	I0YR2/2	黒褐色土主体	I0YR5/2灰黄褐色土粒ごく微量 ローム中粒1% ローム粒1% ローム大粒1%
9層	I0YR1.7/1	黒褐色土主体	ローム粒1% ローム大粒1%
10層	I0YR2/1	黒色土主体	I0YR5/2灰黄褐色土粒ごく微量混入
11層	7.5YR5/6	黒褐色土主体	I0YR5/2灰黄褐色土粒ごく微量混入
12層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム大粒5% ローム粒5% 岩化物粒1% I0YR5/4にぶい黄褐色土中粒1% (粘土質)
13層	I0YR5/6	黒褐色土主体	浮石粒1% I0YR2/2黒褐色土混入
14層	I0YR5/8	黒褐色土主体	浮石粒1% とてもしまりがある
15層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム小塊5% ローム大粒5% ローム中粒1% ローム粒1%
16層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム大塊1% ローム小塊10% ローム中粒1% ローム粒5%
17層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒1%
18層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊1%
19層	I0YR5/4	にぶい黄褐色土主体	I0YR2/1黑色土少量混入
20層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム大粒1% ローム中塊5% 1% ローム粒10% ローム中粒50% ローム粒1%

S J 18 カマド (B - B', C - C')

1層	I0YR3/2	黒褐色土主体	炭化物中粒5% ローム中塊25% 浮石大粒1% 火山灰中粒(I0YR6/3にぶい黄褐色)1%
2層	I0YR2/1	黒色土主体	炭化物中粒10% ローム中粒10% I0YR1.7/1黒色土25%
3層	7.5YR5/6	明褐色焼土主体	黒褐色土粒40% 灰10% (I0YR5/2)
4層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒5% 烧土が斑状に存在する(厚さ2~5mm)
5層	I0YR2/2	黒褐色土主体	炭化物粒(約2mm) 烧土粒5%
6層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒5% しまりなし
7層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒10% 烧土粒を含む
8層	I0YR1.7/1	黒色土主体	ローム粒20% 烧土粒を含む
9層	I0YR5/6	黒褐色土主体	粘土層 烧土粒1%
10層	5 YR6/8	橙色土焼土層	黄褐色土30% 褐色土10% 炭化物3%
11層	I0YR3/4	暗褐色土主体	粘土粒10% 烧土粒10% 炭化物粒10%
12層	2.5YR3/3	暗オリーブ褐色灰90%	灰層だと思われる 烧土粒1%
13層	I0YR3/3	暗褐色土主体	烧土粒5% 粘土粒10% ローム粒3%
14層	I0YR4/4	褐色土主体	烧土粒2%
15層	5 YR5/8	明赤褐色土主体	火床面 しまり非常にあり
16層	I0YR4/6	褐色土主体	炭化物1% 烧土粒1%
17層	2.5YR3/2	黒褐色土主体	灰90% (灰の層だと思われる) 烧土粒1%
18層	I0YR5/4	にぶい黄褐色土	ローム粒30% 炭化物3% 烧土粒2%

図148 第18号住居跡

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 住居跡東辺やや北寄りで検出されている。遺存状態は非常に良好である。カマドソデから煙道にかけてを粘土で構築している。

[堆積土] 調査区境界にかかる土層断面を観察すると、床面と思われる部分が2面識別できる。大半が調査区外であるため断定できないが、床面を貼り直したか、本住居跡の下にもう1軒他の住居があつた可能性も考えられる。

[遺物] 土師器甕などが出土している。

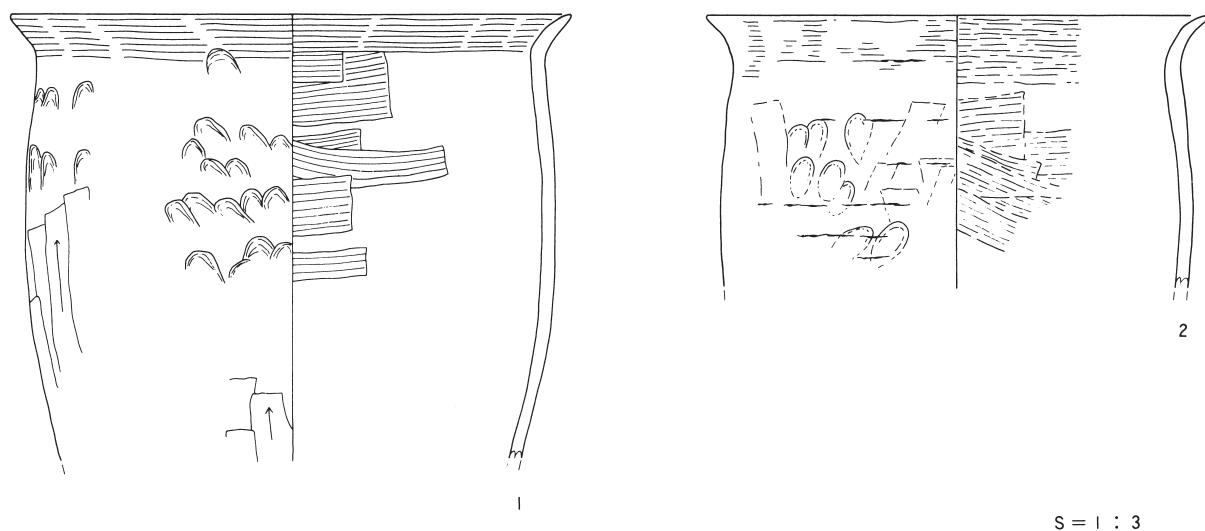


図149 第18号住居跡出土遺物

第19号住居跡

[位置] V-38グリッド付近において確認されている。

[重複] 第23号、45号住居跡、第3号溝跡と重複している。本住居跡は第3号溝跡、第23号住居跡よりは古く、第45号住居跡よりは新しい。周辺は遺構が密集しており切り合いが激しい。第23号、第24号住居跡とも重複していたものと思われるが、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 西側が調査区外、南側が切り合いにかかるため全貌は不明であるが、平面形は方形と思われる。主軸方向はN-101°-Eである。

[壁・床面] 残存部で見ると床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[遺物] 図示できるものは出土しなかった。

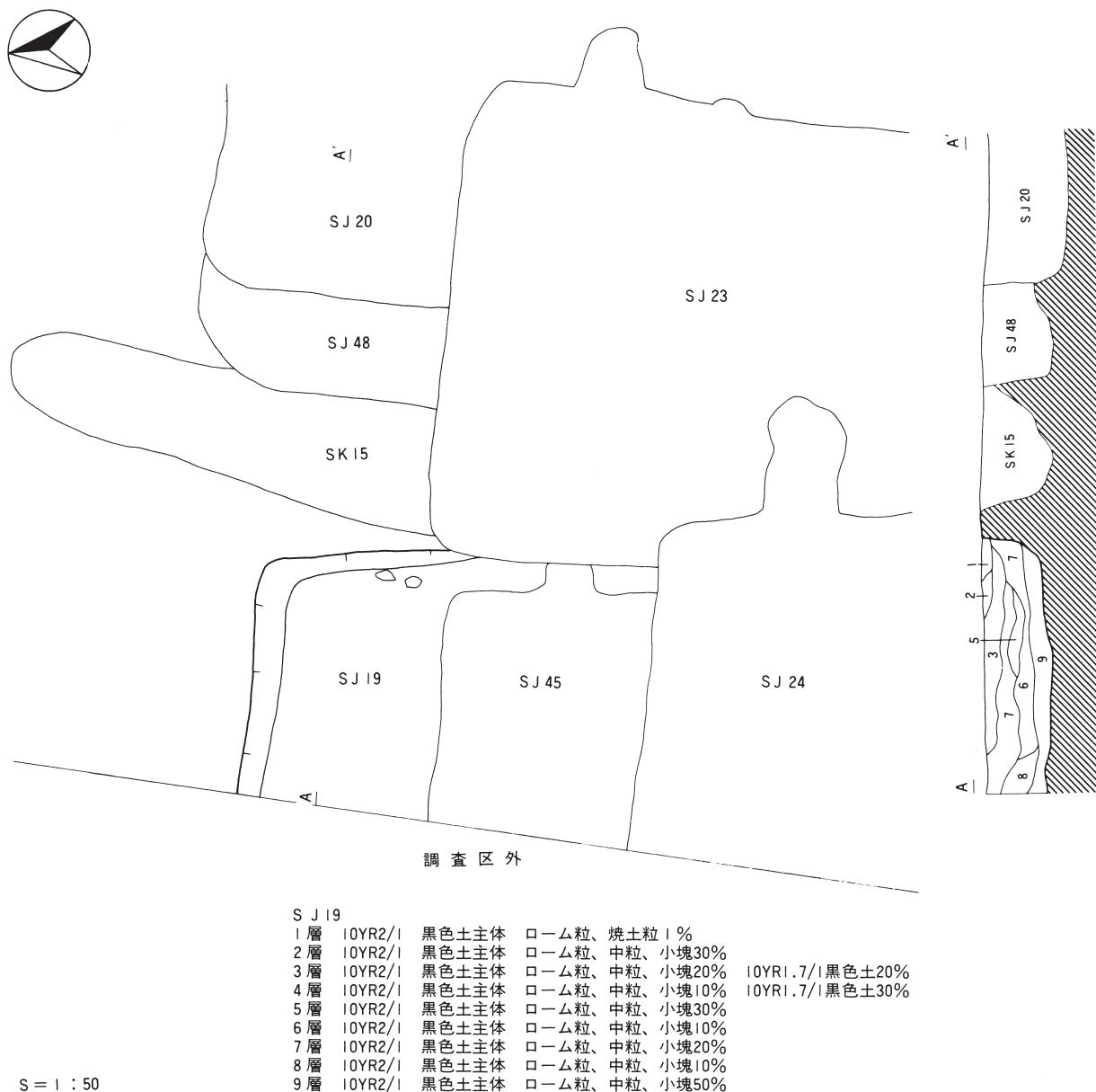


図150 第19号住居跡

第20号住居跡

[位置] T～U-38グリッド付近において確認されている。

[重複] 第21、23、48、49号住居跡、第3号溝跡と重複している。本住居跡は第21、23号住居跡及び第3号溝跡よりは古く、第48、49号住居跡よりは新しい。

[平面形・規模] 他の遺構との重複のため一部不明の部分もあるが、東西約3.7、約南北4.2m程度の長方形になるものと思われる。主軸方向はN-101°-Eである。

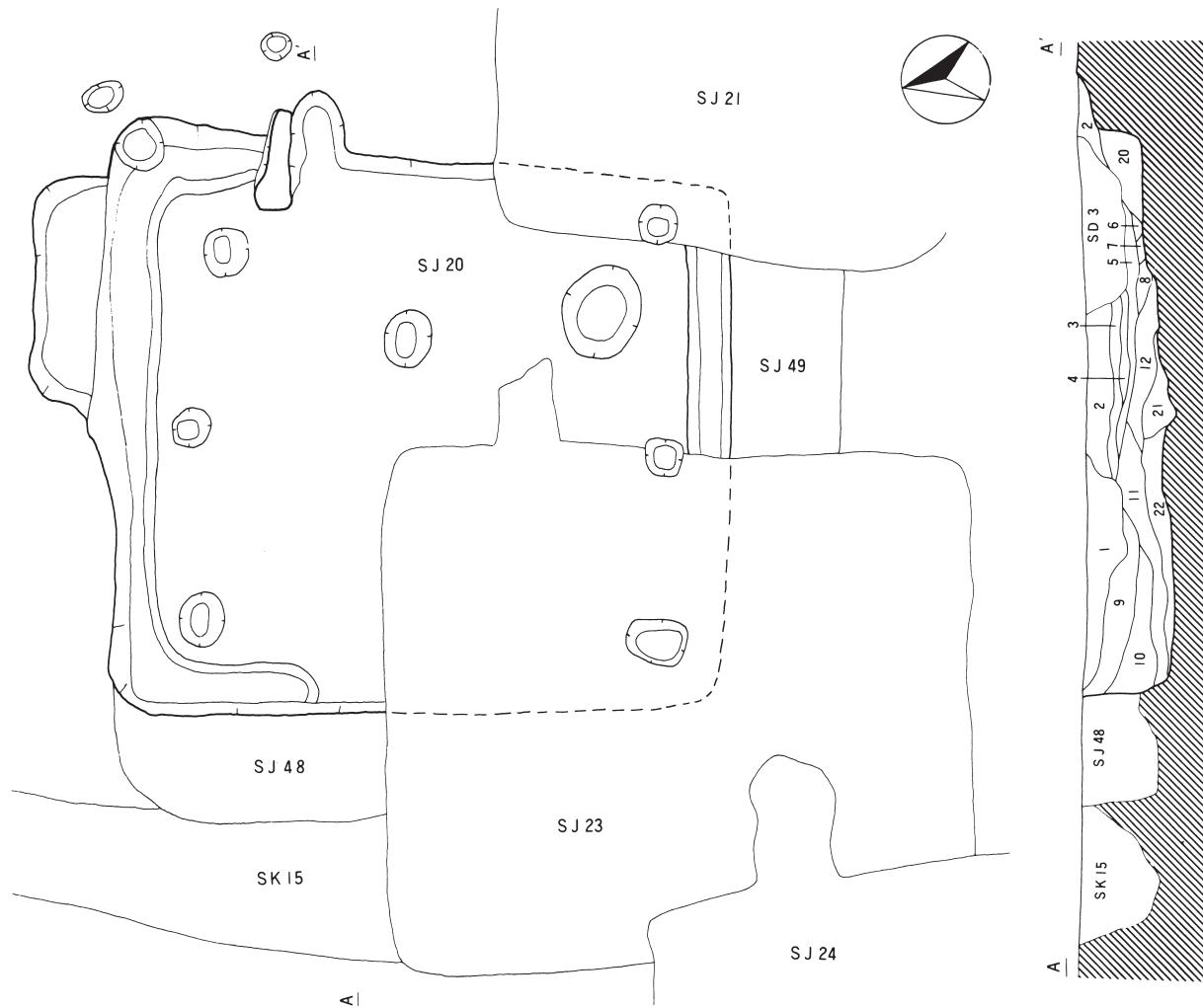
[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 住居北壁、南壁で確認されている。

[柱穴・ピット] 住居の北壁に並行に3本、南壁に並行に3本確認されている。他にも柱穴状の小ピットは確認されているが、本住居跡に伴う柱穴かどうかは不明である。

[カマド] 住居東壁のやや北寄りから検出されている。

[遺物] 土師器甕等が出土している。



S J 20			
1層	I0YR2/2 黒褐色土主体	焼土粒 1% ローム粒 10%	
2層	I0YR2/2 黒褐色土主体	I0YR1.7/1 ローム粒 5%	
3層	I0YR2/2 黒褐色土主体	ローム中粒 20% 炭化物粒、焼土 5% ローム小塊 1個	
4層	I0YR3/1 黒褐色土主体	焼土 1% ローム粒 5%	
	I0YR3/2 黒褐色土塊 (30mm)	1個 しまりあり	
5層	I0YR1.7/1 黒色土主体	I0YR3/3 ローム層状に 20% 混入 炭化物 1% ローム部分は硬くしまっている	
6層	7.5YR3/4 暗褐色土主体	焼土 しまりあり	
7層	I0YR2/3 黒褐色土主体	焼土粒、ローム粒 5%	
8層	I0YR5/6 黄褐色土主体	ローム層 黑色土 10%	
9層	I0YR2/1 黑色土主体	焼土粒、炭化物粒 1% ローム小塊、中塊 2~3 個 ローム中粒 20%	
10層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒 5%	

11層	I0YR2/1	黒色土主体	焼土粒 1% ローム中粒 20%
12層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小、中塊と小、中粒 20%
13層	I0YR2/1	黒色土主体	焼土 1% ローム中塊 1個 ローム粒 30%
14層	I0YR2/1	黒色土主体	I0YR1.7/1 と 3/2 層状に 50% 混入 ローム粒 1%
15層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒 1%
16層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小、中塊 5%
17層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒 5%
18層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム小塊 ローム粒、中粒 30%
19層	I0YR1.7/1	黑色土	
20層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊、中塊 ローム粒、中粒 30%
21層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊、中塊 ローム粒、中粒 50%
22層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊、中塊 ローム粒 20%
23層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム小塊 20%

S = 1 : 50

図151 第20号住居跡

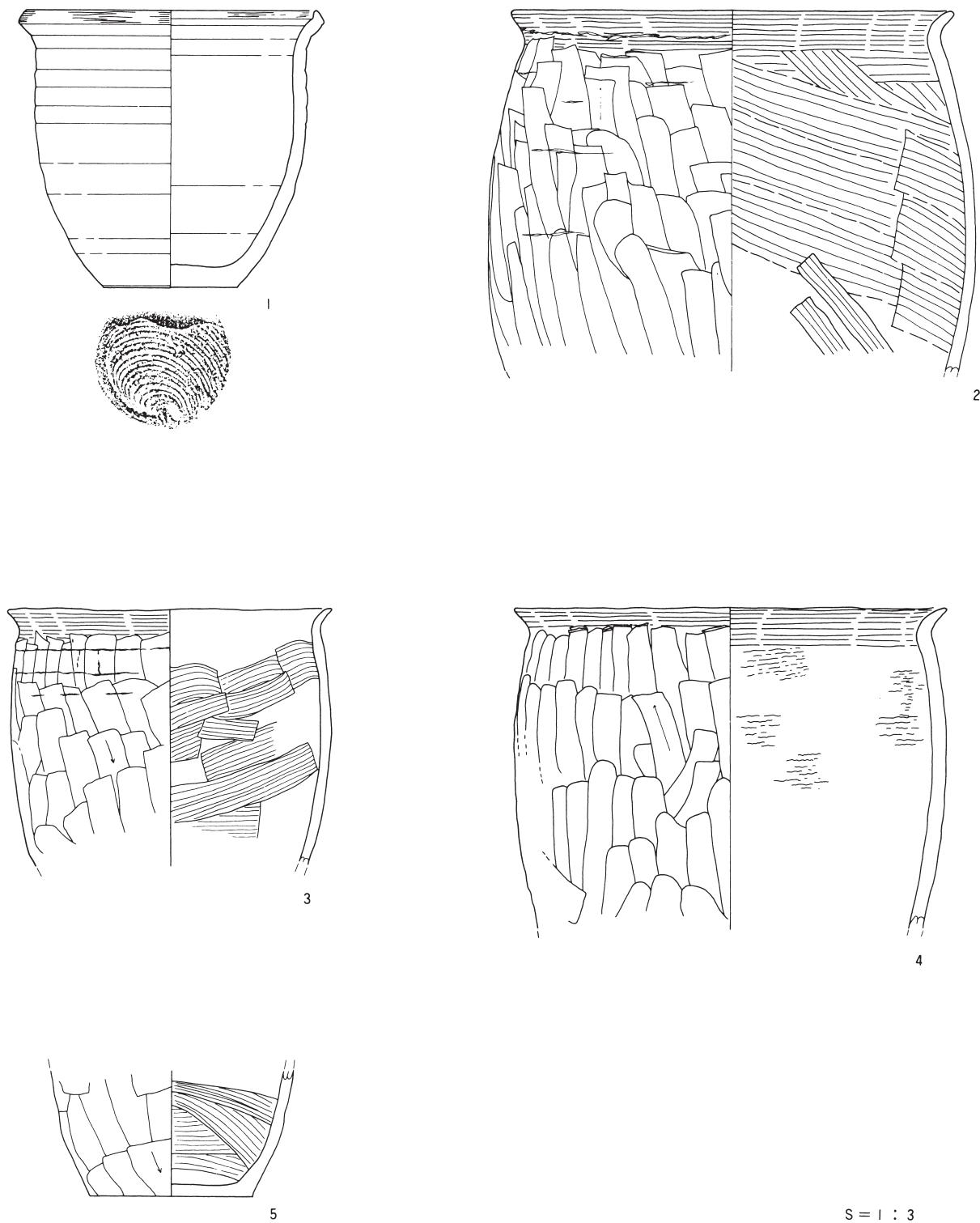


図152 第20号住居跡出土遺物

第21号住居跡

[位置] T-38~39グリッド付近において確認されている。

[重複] 第20、49号住居跡、第4号溝跡と重複している。本住居跡は第20、49号住居跡よりは新しく、第4号溝跡よりは古いものと思われる。

[平面形・規模] 一辺約3.1mのほぼ方形である。主軸方向はN-102°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 住居北西角を除く各角で柱穴が確認されている。

[カマド] 住居跡東壁やや北寄りで検出されている。遺存状態はあまりよくないが、構築材と思われる礫が出土している。

[遺物] 土師器壺等が出土している。

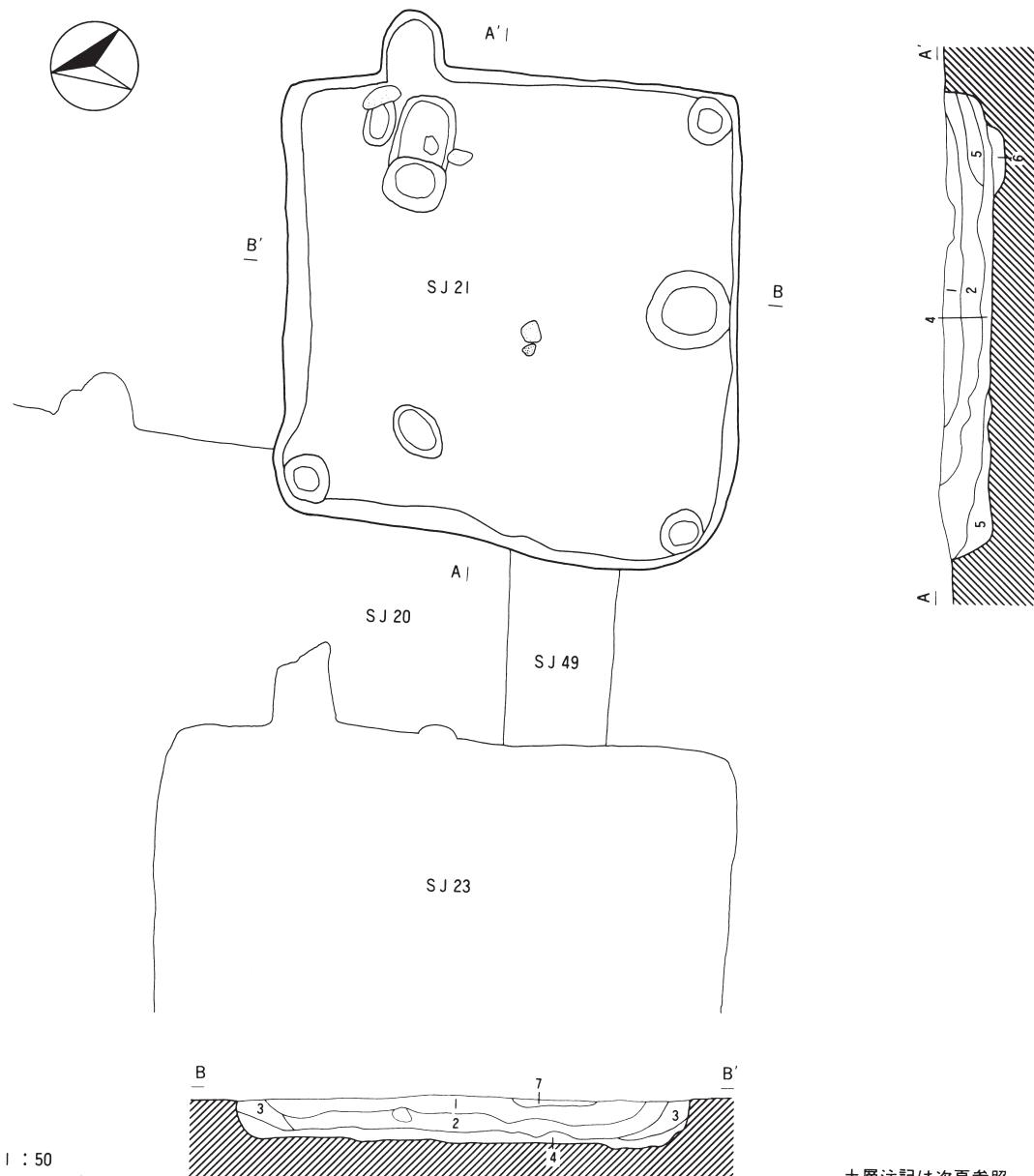


図153 第21号住居跡

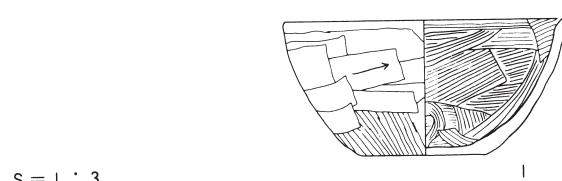


図154 第21号住居跡出土遺物

第22号住居跡

[位置] S-38~39グリッド付近において確認されている。

[重複] 第36号住居跡、第4号溝跡と重複している。本住居跡の方が両遺構より古い。

[平面形・規模] 住居跡の東側が調査区外にかかっているため全貌は不明であるが、一辺2.9m程度の方形になるようである。主軸方向はN-15°-Eである。

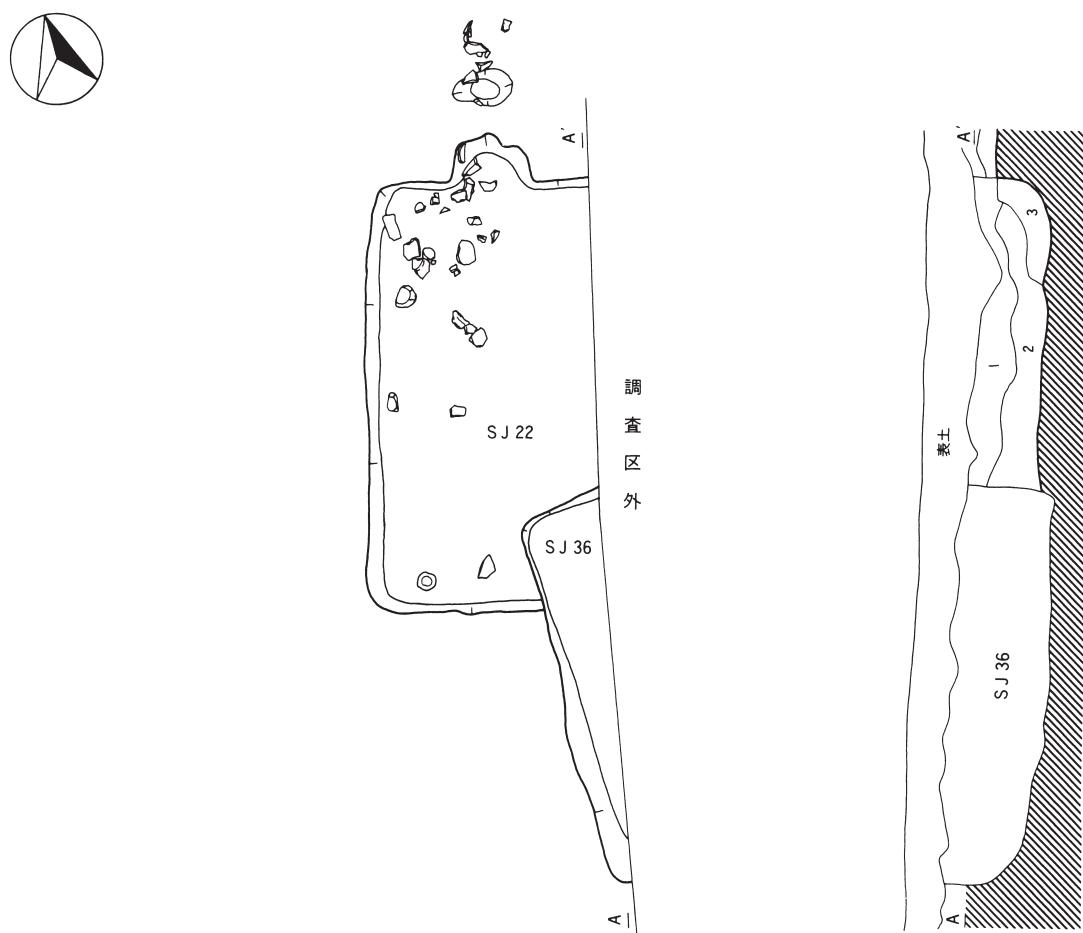
[壁・床面] 床面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 住居跡北辺で確認されている。カマドの構築材と思われる礫や粘土が検出されている。

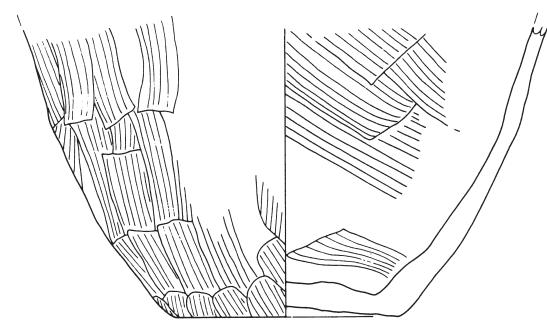
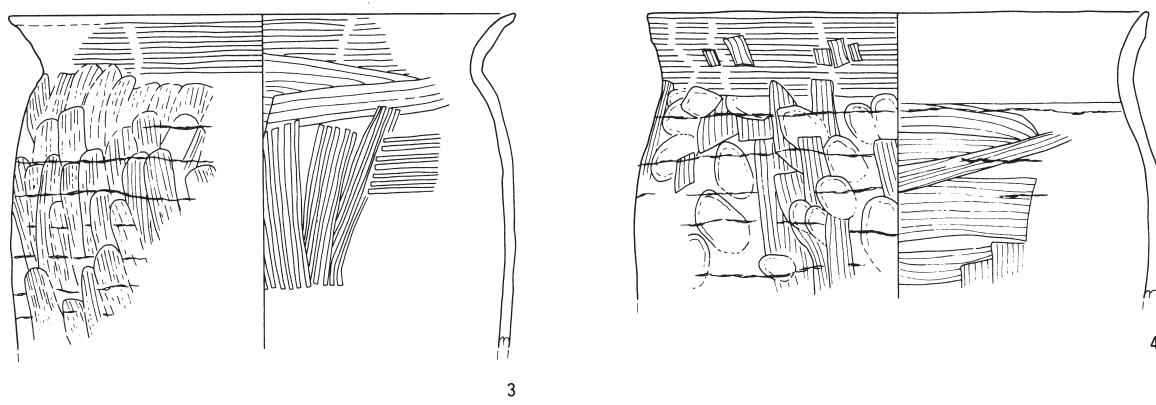
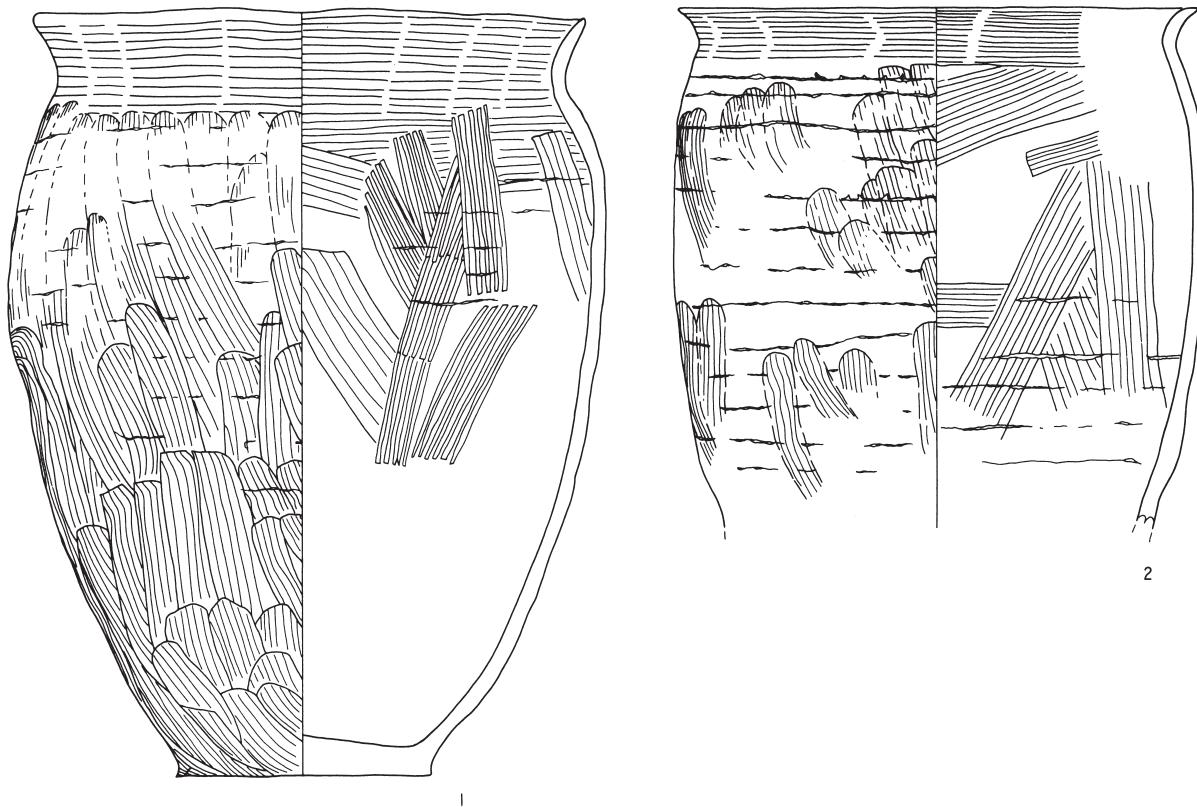
[遺物] カマド周辺を中心に土師器の甕、壺が出土している。



SJ 22	
1層	I0YR3/1 黒褐色土主体 ローム中粒10% ロームブロック(30mm) 1% 焼土中粒 5YR6/8 1%
2層	I0YR3/2 黒褐色土主体 ローム粒5% ロームブロック(径100mm) 1個 1%と(径30mm) 2~3個 1% 炭(20mm) 1個 炭化物粒 1% 烧土粒 1%
3層	I0YR2/1 黒色土主体 ローム粒 1%
4層	I0YR5/6 黄褐色ローム主体 黑色土20% 白色土層うすく層状に入る(5mm) 上部所々に20%

S = 1 : 50

図155 第22号住居跡



S = 1 : 3

図156 第22号住居跡出土遺物

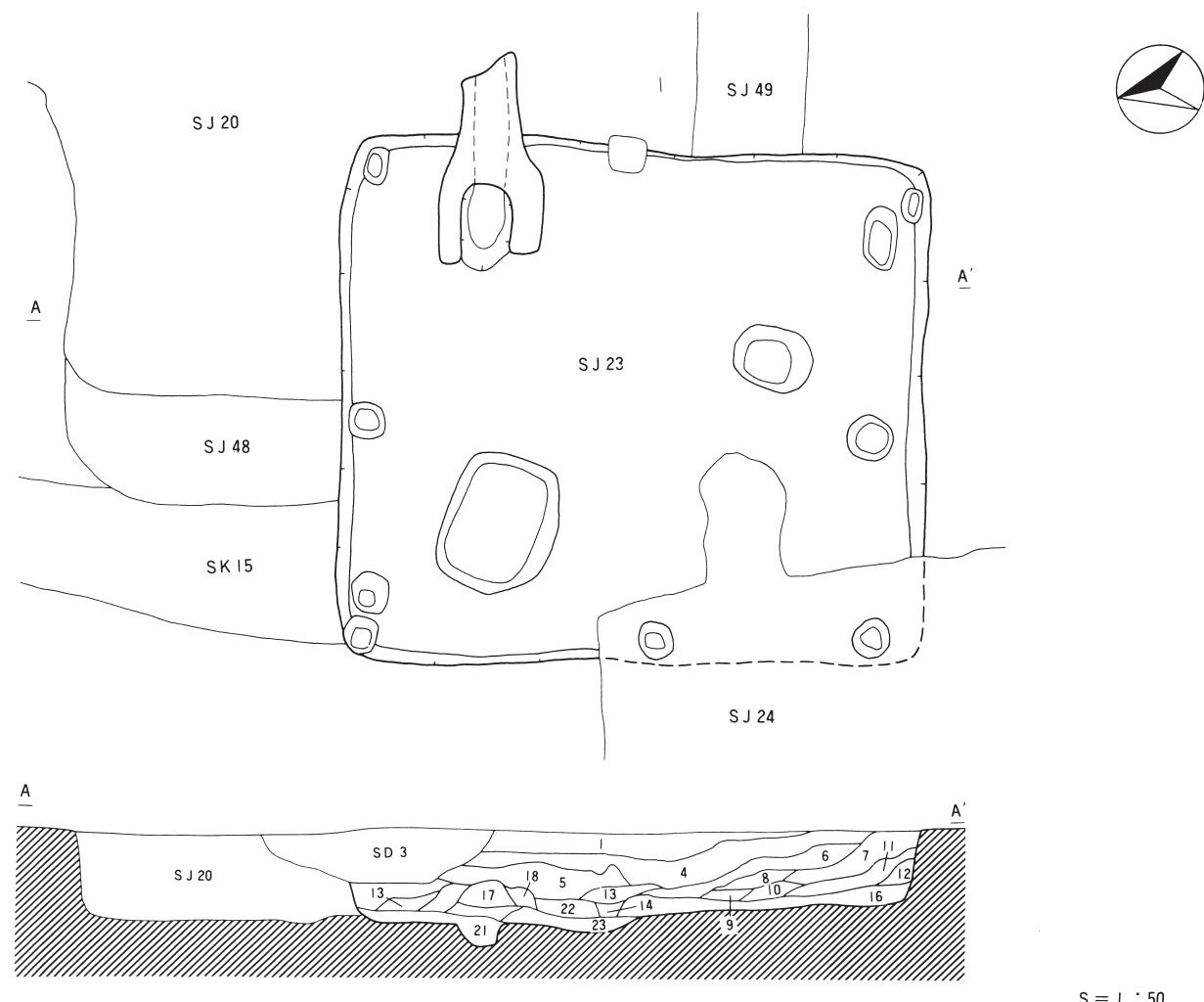
第23号住居跡

[位置] U-38~39グリッド付近において確認されている。

[重複] 第20、24、45、48、49号住居跡及び第15号土坑、第3号溝跡と重複している。第24号住居跡、第3号溝跡は本住居跡より新しく、他の遺構は本住居跡より古い。第15号土坑は本住居跡に向けて緩く傾斜し、第15号土坑の東端と本住居跡の床面のレベルがほぼ同一であることなどから本住居跡に伴う施設（出入口等）の可能性も考えられる。

[平面形・規模] 平面形は南北にやや長い方形で、規模は南北約3.8m、東西約3.5m、主軸方向はN-99°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。



S J 23							
1層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒20%	ローム中粒、小塊5%	焼土1%	12層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒5% ローム中塊2個1%
2層	I0YR2/2 黑褐色土主体	ローム中粒、小塊50%			13層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒10% 焼土粒1%
3層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒中粒20%	焼土粒5%	炭化物粒1%	14層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒1%
4層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム粒20%	ローム中粒、小塊10%		15層	I0YR7/6 明黄褐色土主体	I0YR2/1黑褐色土 20% ローム層
	I0YR1.7/I 1%				16層	I0YR6/4 にぶい黄褐色土主体	ローム粒10% I0YR2/1黒色土 5%
5層	I0YR2/1 黒色土主体	ローム中粒10%	I0YR3/2焼土粒1%		17層	I0YR4/4 黄褐色土主体	I0YR2/1ローム粒 5%
6層	I0YR5/4 にぶい黄褐色ローム主体	I0YR2/1ローム塊が濃集20%			18層	I0YR5/4 にぶい黄褐色土主体	I0YR2/1ローム粒 1% I0YR5/4と7.5YR6/6 10%
7層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒、中粒	ローム小塊、中塊50%	炭化物粒1%			%
8層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒、中粒	ローム小塊、中塊20%		19層	7.5YR3/3 暗褐色土主体	I0YR3/2黑褐色土 20% I0YR1.7/I 上方に薄く層状に堆積 7.5YR3/4 20%
9層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒、中粒	ローム小塊、中塊5%		20層	I0YR5/4 にぶい黄褐色土主体	7.5YR3/3 20% 炭化物1%
10層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒1%			21層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒、焼土粒5%
11層	I0YR2/2 黑褐色土主体	ローム粒、中粒、小塊10%			22層	I0YR4/3 にぶい黄褐色土主体	I0YR2/1ローム粒 1%
					23層	I0YR2/1 黑色土主体	ローム粒5%

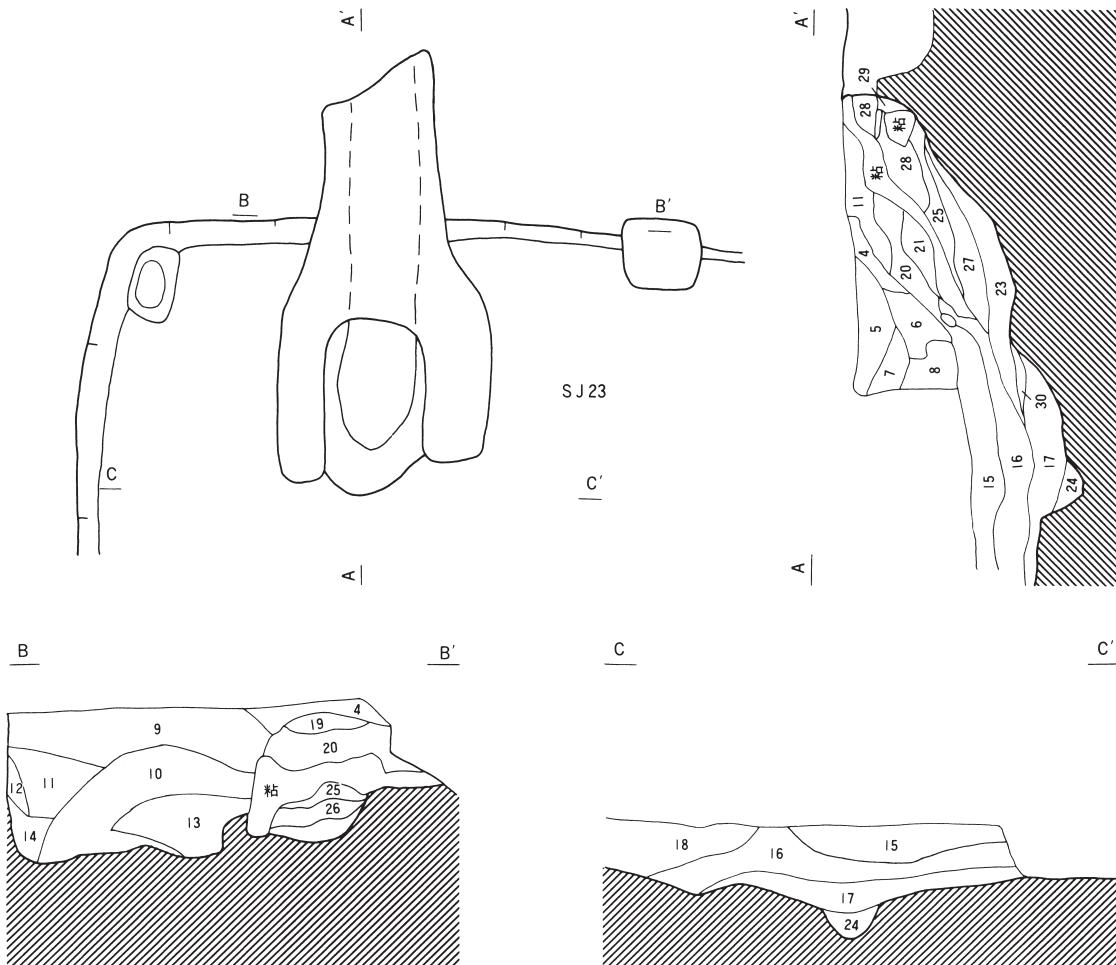
図157 第23号住居跡

[周溝] 確認されていない。

[柱穴・ピット] 住居の各角と各壁の中央付近に8本確認されている。他にも柱穴状の小穴が検出されている。

[カマド] 住居跡東壁の北寄りで確認されている。遺存状態は良好で袖から煙道にかけての粘土が良く遺存している。

[遺物] 土師器壊、甕等が出土している。



S J 23カマド			
1層 10YR2/1	黒色土主体	ローム粒 2% 炭化物 2%	ローム粒 1% ロームブロック中粒 3% 炭化物粒 1%
2層 10YR2/3	黒褐色土主体	ローム粒 3% 炭化物粒 3%	ローム粒 3% ロームブロック中粒 1% 炭化物粒 1%
3層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ロームブロック中粒 1% 炭化物粒 1%
4層 10YR2/3	黒褐色土主体	ローム粒 30% 炭化物粒 1%	ロームブロック中粒 2% 炭化物粒 1%
5層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 5% 炭化物粒 1%	ローム粒 1% 炭化物粒 1%
6層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 3% 炭化物粒 1%	ロームブロック大粒 (径80mm) 20%
7層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ローム粒 1% 炭化物粒 1%
8層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ロームブロック中粒 20% 炭化物粒 1%
9層 10YR2/3	黒褐色土主体	ローム粒 2% 炭化物粒 1%	ロームブロック小粒 2% 炭化物粒 1%
10層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 10% 炭化物粒 5%	ロームブロック大粒 40% 炭化物粒 5%
11層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ロームブロック小粒 1% 炭化物粒 1%
12層 10YR5/6	黄褐色土主体	黒褐色土20%	ローム粒 7% ロームブロック中粒 10% 炭化物粒 2%
13層 10YR2/1	黒色土主体		
14層 10YR2/3	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ローム粒 1% ロームブロック中粒 3% 炭化物粒 1%
15層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 3% 炭化物粒 3%	ローム粒 3% ロームブロック小粒 2% 炭化物粒 (径20mm)
16層 10YR4/2	灰黄褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ローム粒 7% ロームブロック中粒 7% 炭化物粒 1%
17層 10YR1.7/1	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ローム粒 1% ロームブロック大粒 7% 炭化物粒 1%
18層 10YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒 1% 炭化物粒 1%	ローム粒 5% ロームブロック中粒 5% 炭化物粒 1%
19層 10YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒 10% 炭化物粒 1%	ローム粒 10% 10YR5/3粘土ブロック(径5 mm) 灰 20%
20層 10YR4/2	灰黄褐色土主体	ローム粒 10% 黑色土 10%	ローム粒 10% 黑色土 10% 焼土粒 1%
21層 10YR3/3	暗褐色土主体	ローム粒 5% 烧土粒 1%	ローム粒 5% 烧土粒 1% 鉄滓
22層 10YR5/3	にぶい黄褐色土	黒ボク土 10%	黒ボク土 10% 粘土大塊 1個
23層 10YR2/1	黑色土主体	焼土粒 10%	焼土粒 10% 粘土大塊 1個
24層 5YR1.7/1	黑色土主体	焼土粒 2%	焼土粒 2%
25層 10YR3/3	暗褐色土主体	粘土粒 30%	粘土粒 30% ローム粒 10% 烧土粒 5%
26層 10YR2/3	黒褐色土主体	灰の層に粘土粒 3%	灰の層に粘土粒 3% ローム粒、炭化物 1%
27層 10YR2/3	黒褐色土主体	26層の灰層に粘土ブロック 20%	26層の灰層に粘土ブロック 20%
28層 10YR3/2	黒褐色土主体	粘土粒 5%	粘土粒 5% ローム粒 2% 灰 1%
29層 10YR3/1	黒褐色土主体	粘土ブロック 30%	粘土ブロック 30% ローム粒 10% 灰 2%
30層 10YR4/6	褐色土主体	火床面 しまりあり	火床面 しまりあり

S = 1 : 50

図158 第23号住居跡

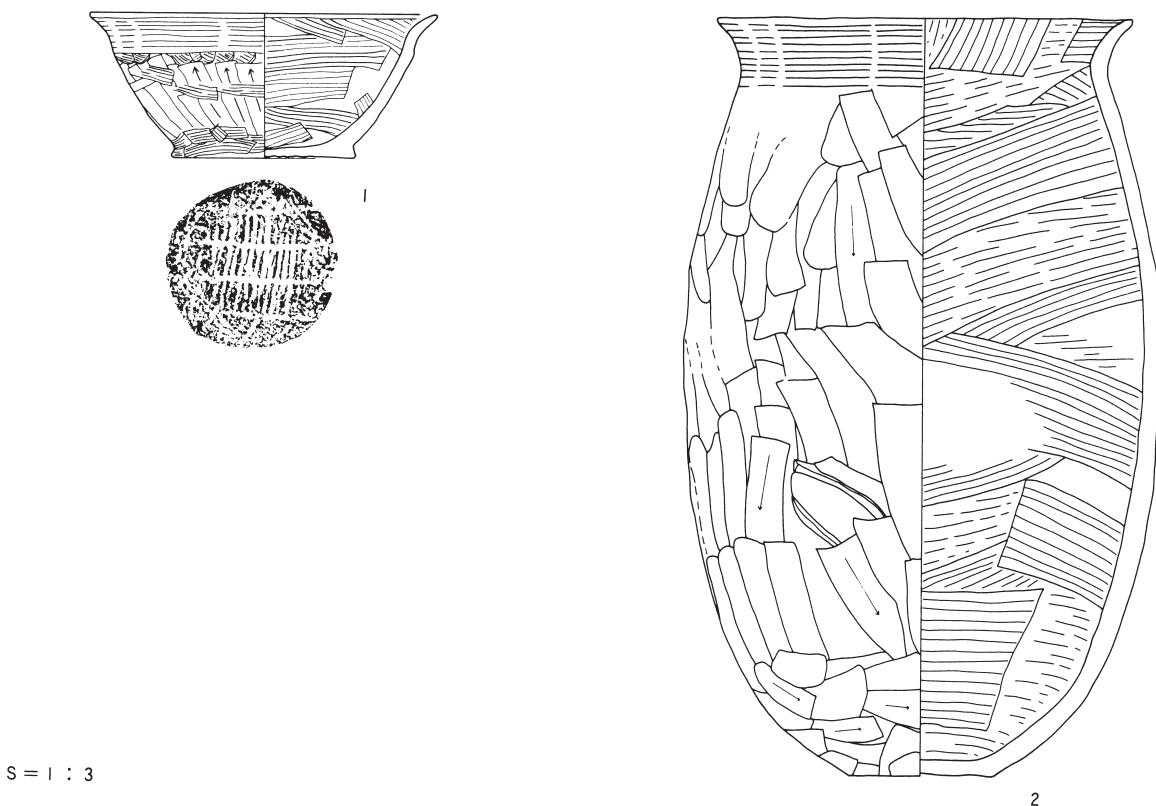


図159 第23号住居跡出土遺物

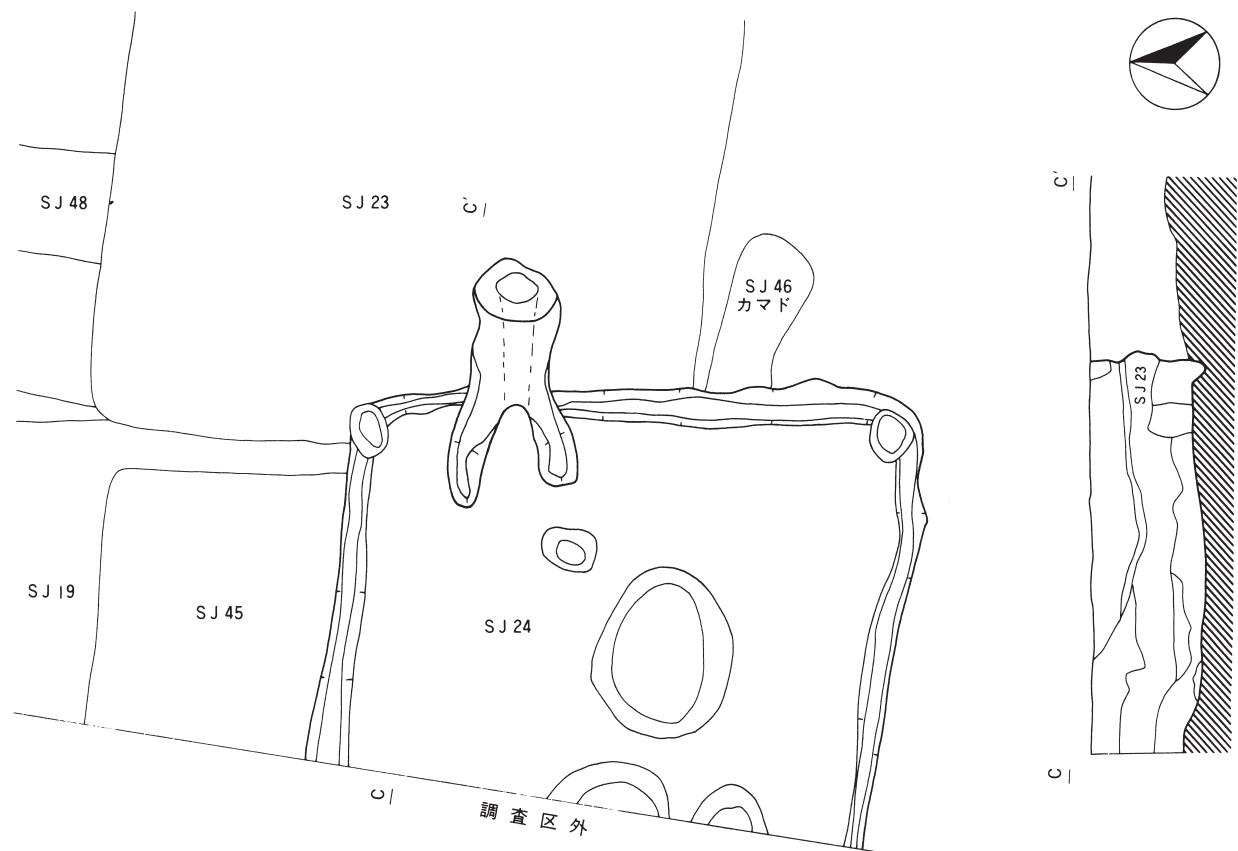
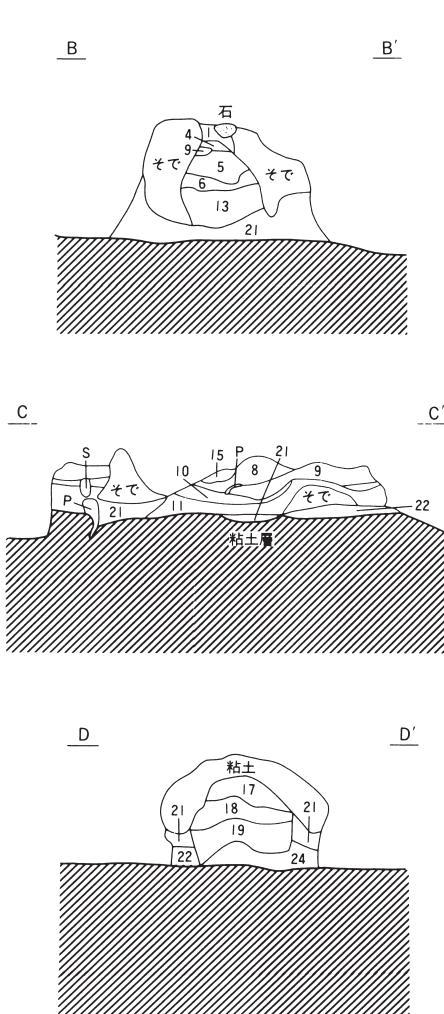
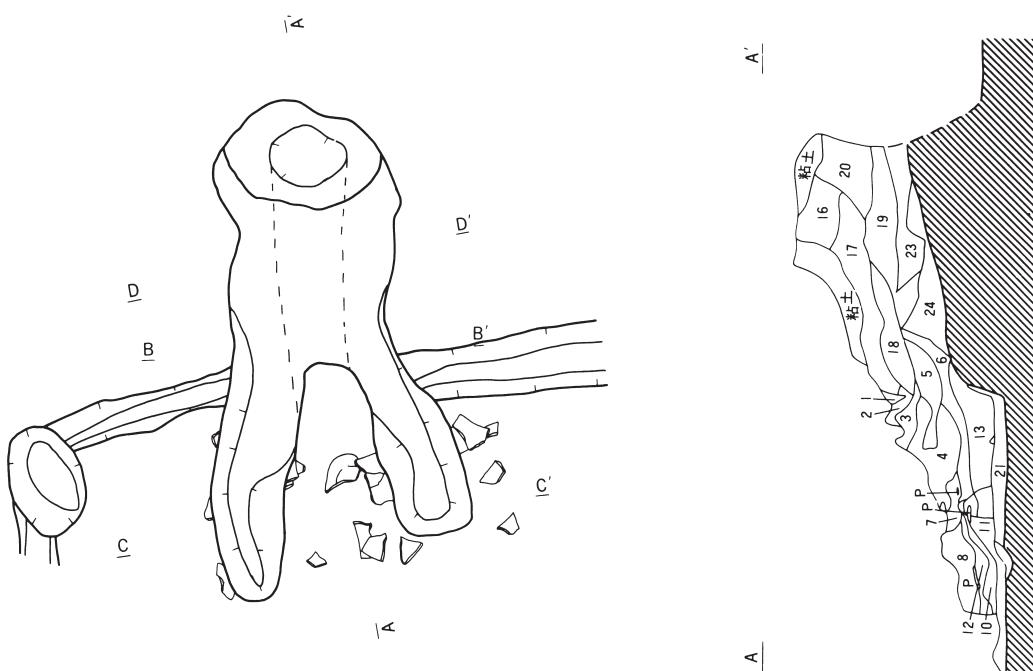


図160 第24号住居跡



S J 24カマド	
1層	2.5Y6/3 にぶい黄褐色土主体
2層	10YR3/1 黒褐色土主体
3層	10YR7/3 にぶい黄橙色土主体
4層	10YR4/1 褐灰色土主体
5層	5YR3/4 暗赤褐色土主体
6層	10YR2/1 黒色土主体
7層	2.5Y5/2 暗灰黄色土主体
8層	5B4/1 暗青灰色土主体
9層	10YR5/2 青灰褐色砂主体
10層	10YR6/4 にぶい黄褐色土主体
11層	5B2/1 青黑色土主体
12層	5B3/1 暗青灰色土主体
13層	10YR3/1 黑褐色土主体
14層	
15層	10YR6/3 にぶい黄橙色土
16層	10YR3/1 黑褐色土主体
17層	10YR2/3 黑褐色土主体
18層	10YR2/2 黑褐色土主体
19層	10YR2/1 黑色土主体
20層	10YR5/6 黄褐色土主体
21層	10YR1.7/1 黑色土主体
22層	7.5YR4/4 褐色土主体
23層	10YR3/3 暗褐色土主体
24層	10YR6/8 明黄褐色土主体
25層	10YR3/4 暗褐色土主体

S = 1 : 25

図161 第24号住居跡カマド

第24号住居跡

[位置] U～V-39～40グリッド付近において確認されている。

[重複] 第23、25、45、46号住居跡と重複している。それらの全ての遺構より本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 住居西側は調査区外にかかるため全貌は不詳であるが、一辺約3.7m程度の方形になるものと思われる。主軸方向はN-95°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 調査区外のため確認できない部分以外ではほぼ全周で確認されている。

[柱穴・ピット] 住居東壁の北端と南端で検出されている。調査区外にかかるため検証できないが、住居西壁の両端にも柱穴があったことが予想される。

[カマド] 住居跡東壁の北寄りで確認されている。遺存状態は非常に良好で、袖から煙道の開口部まで粘土で構築された状態が良く遺存している。開口部はほぼ円形である。

[遺物] 土師器の壺、甕の他に紡錘車の軸と考えられる棒状の鉄製品、刀子、やっこ？、土玉等が出土している。

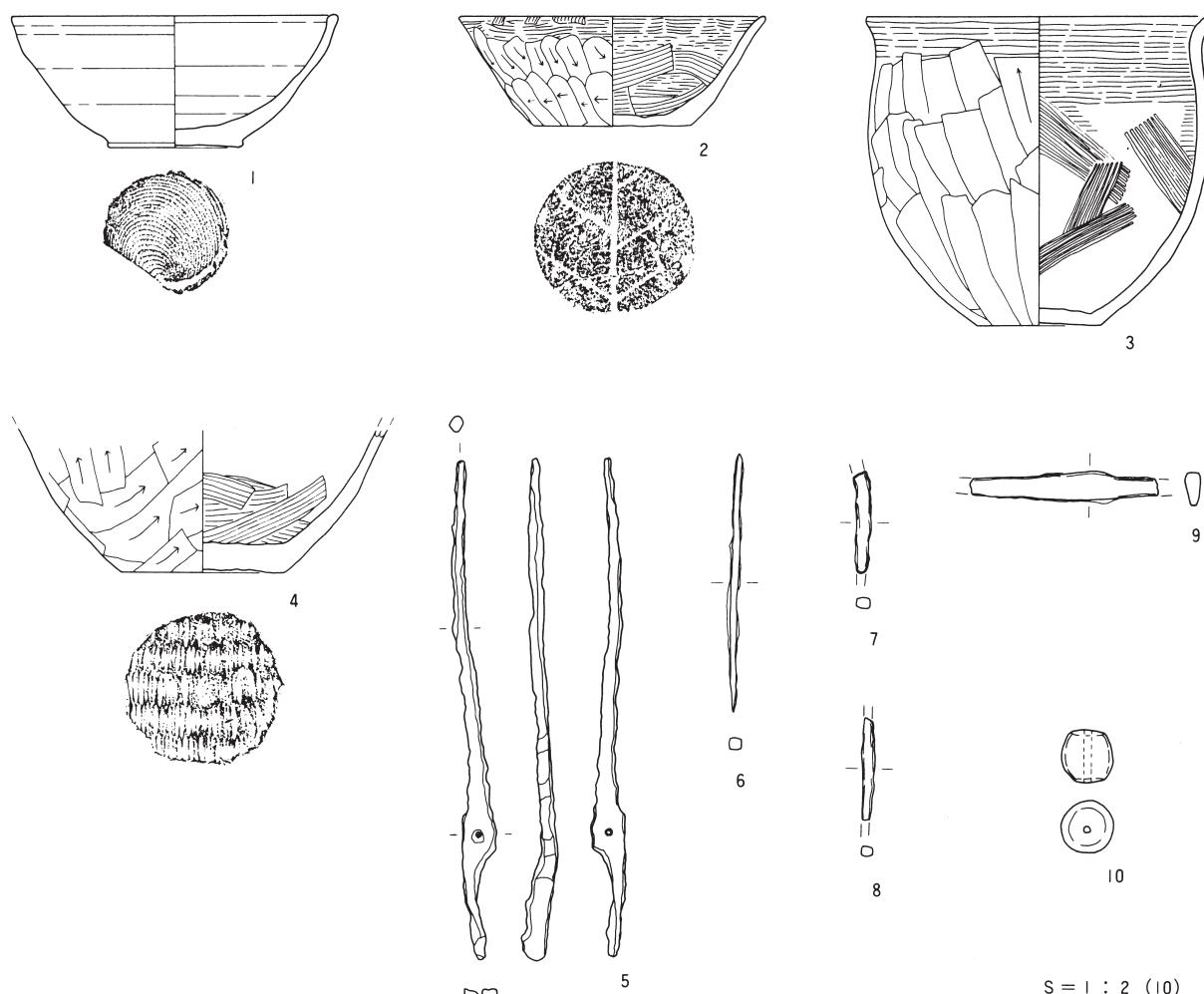


図162 第24号住居跡出土遺物

第25号住居跡

[位置] V-39~40グリッド付近において確認されている。

[重複] 第24号住居跡と重複している。本住居跡の方が古いものと思われる。

[平面形・規模] 住居跡の西側は調査区外にかかり、北側は第24号住居跡に切られるため全貌は不詳であるが、平面形は方形になるものと思われる。主軸方向はN-100°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[遺物] 図示できる遺物は出土しなかった。

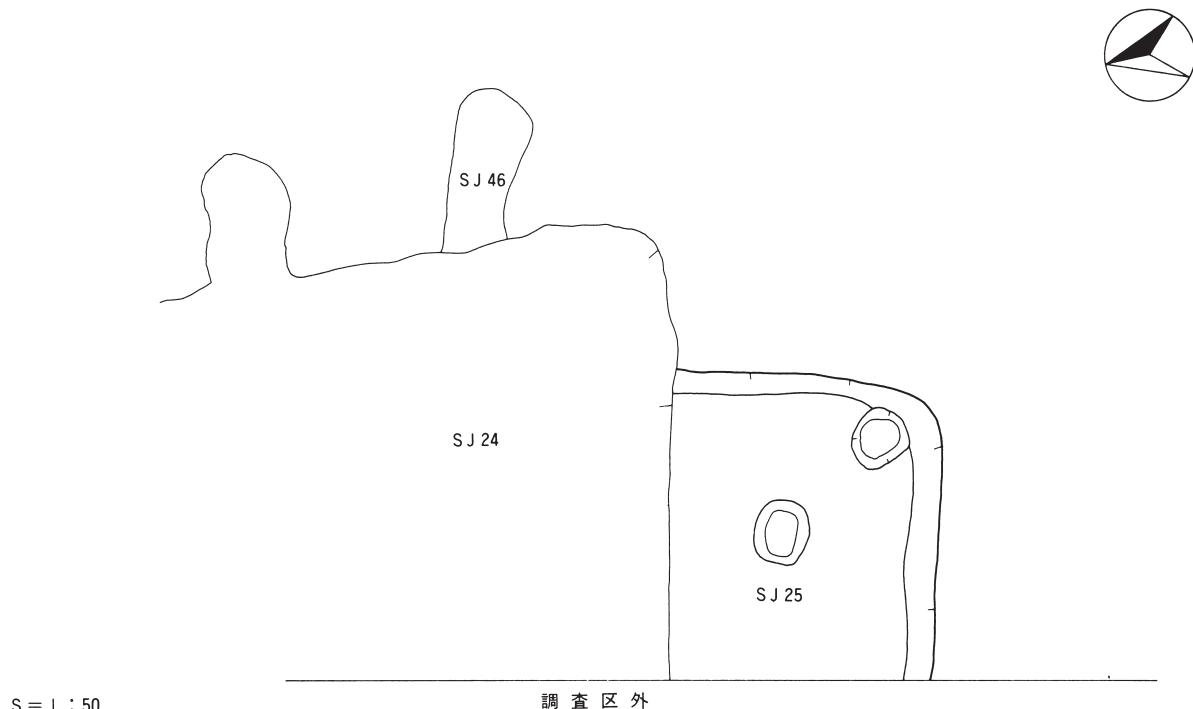


図163 第25号住居跡

第26号住居跡

[位置] U-V-41~42グリッド付近において確認されている。

[重複] 第38、47号住居跡、第18、19、53号土坑と重複している。本住居跡の方がいずれの遺構よりも新しいようである。

[平面形・規模] 住居跡の西側の大半は調査区外であるため全貌は明らかではないが、一辺5.2m程度の方形になるものと思われる。主軸方向はN-104°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 住居跡北壁で確認されている。

[柱穴・ピット] 柱穴状のピットは確認されなかったが、住居跡ほぼ中央付近に小穴が確認されている。

[カマド] 住居跡東壁のやや北寄りで確認されている。カマドソデの粘土、焼土が検出されている。

[遺物] 土師器甕の破片等が出土しているが図示できるものはない。

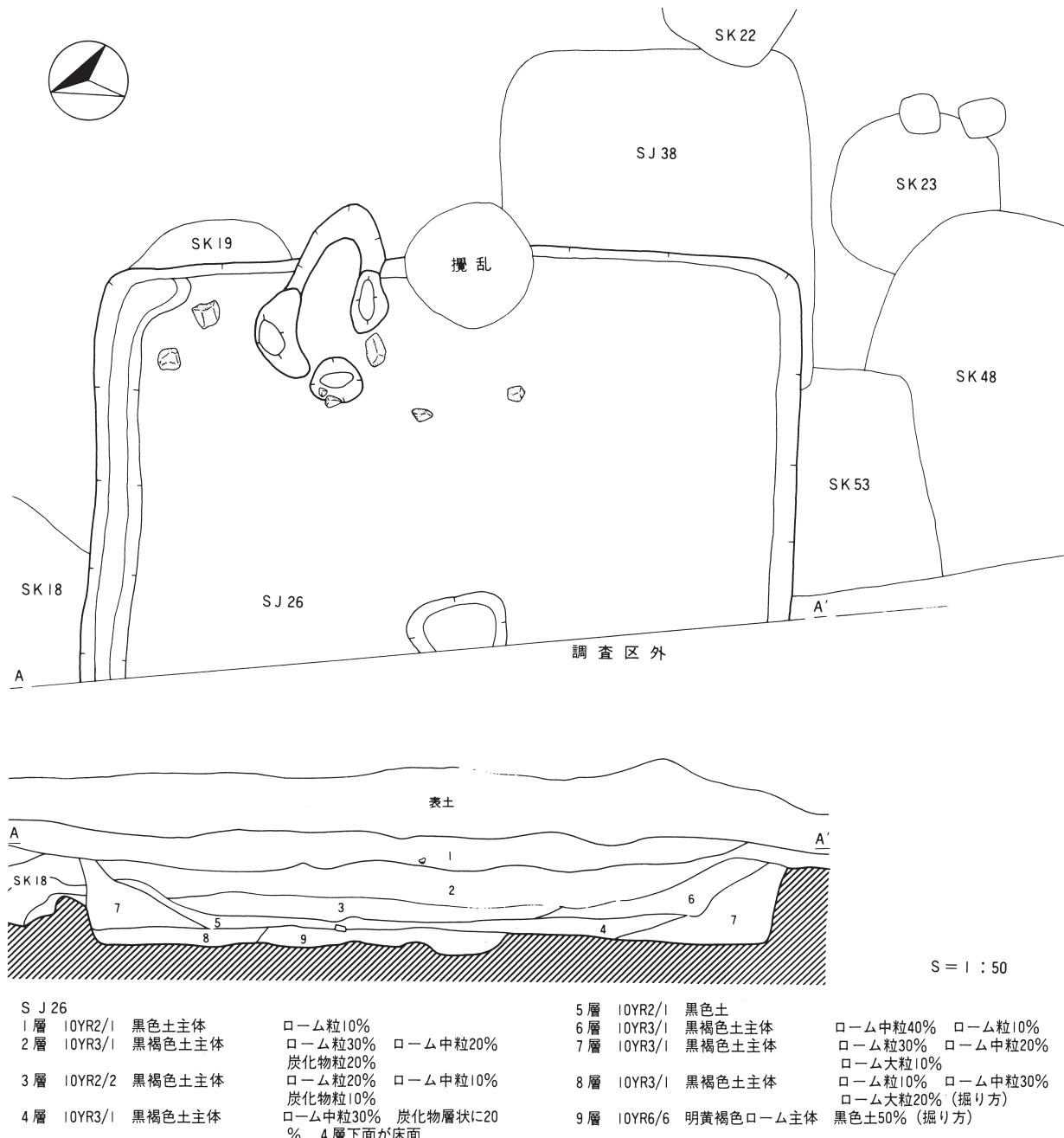


図164 第26号住居跡

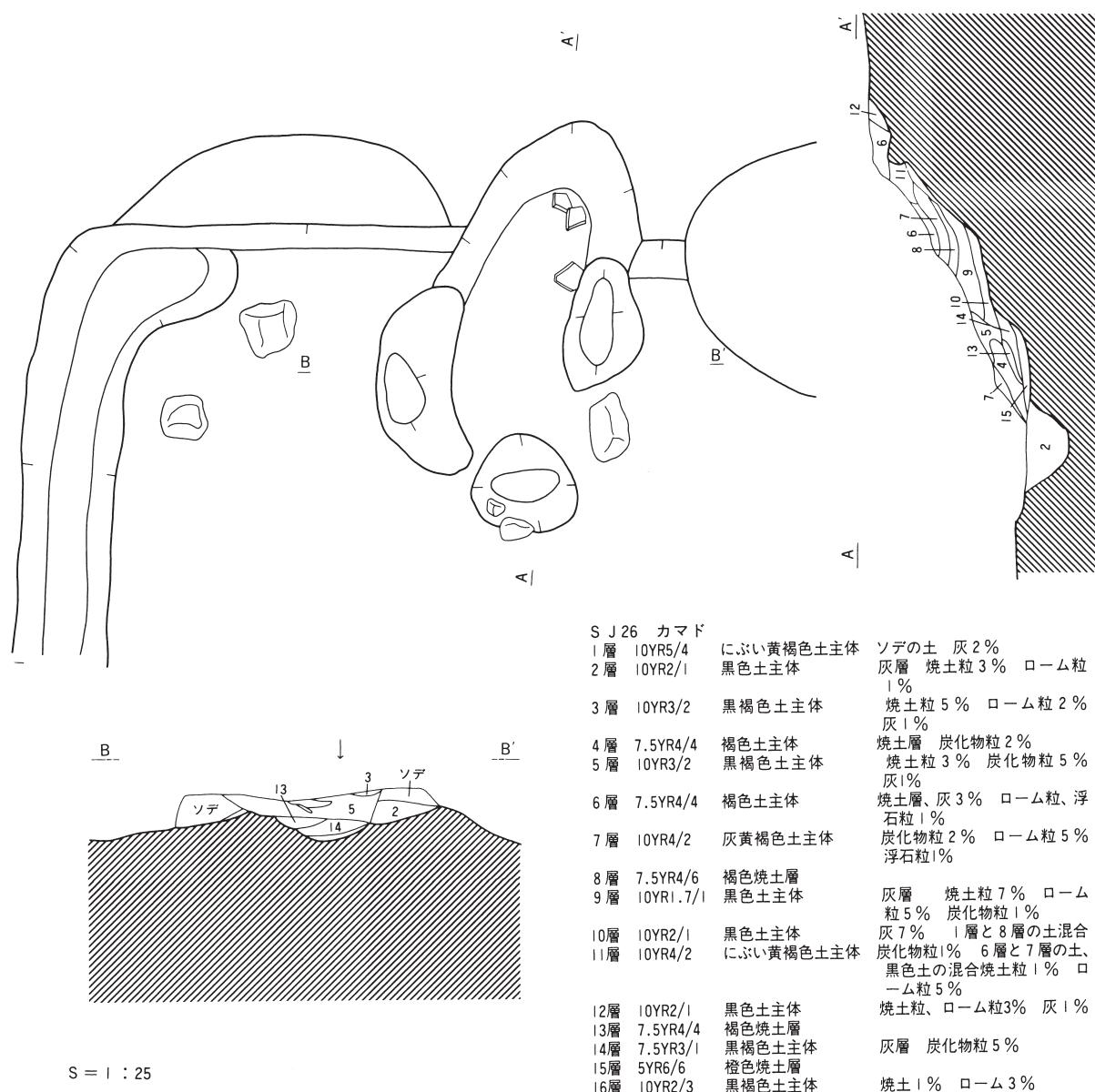


図165 第26号住居跡カマド

第27号住居跡

[位置] S-41~42グリッド付近において確認されている。

[重複] 第33号土坑と重複している。本住居跡の方が新しいものと思われる。

[平面形・規模] 住居跡の東側の大半が調査区外であるため全貌は不詳であるが、平面形は一辺約3.3mの方形であったものと思われる。主軸方向はN-94°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 調査区内で見る限り北西角以外ほぼ全周に巡っていたようである。

[柱穴・ピット] 柱穴状のピットは検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。調査区外にあるものと推定される。

[遺物] 土師器、壺、甕が出土している。住居中央付近からは多数の礫が出土している。

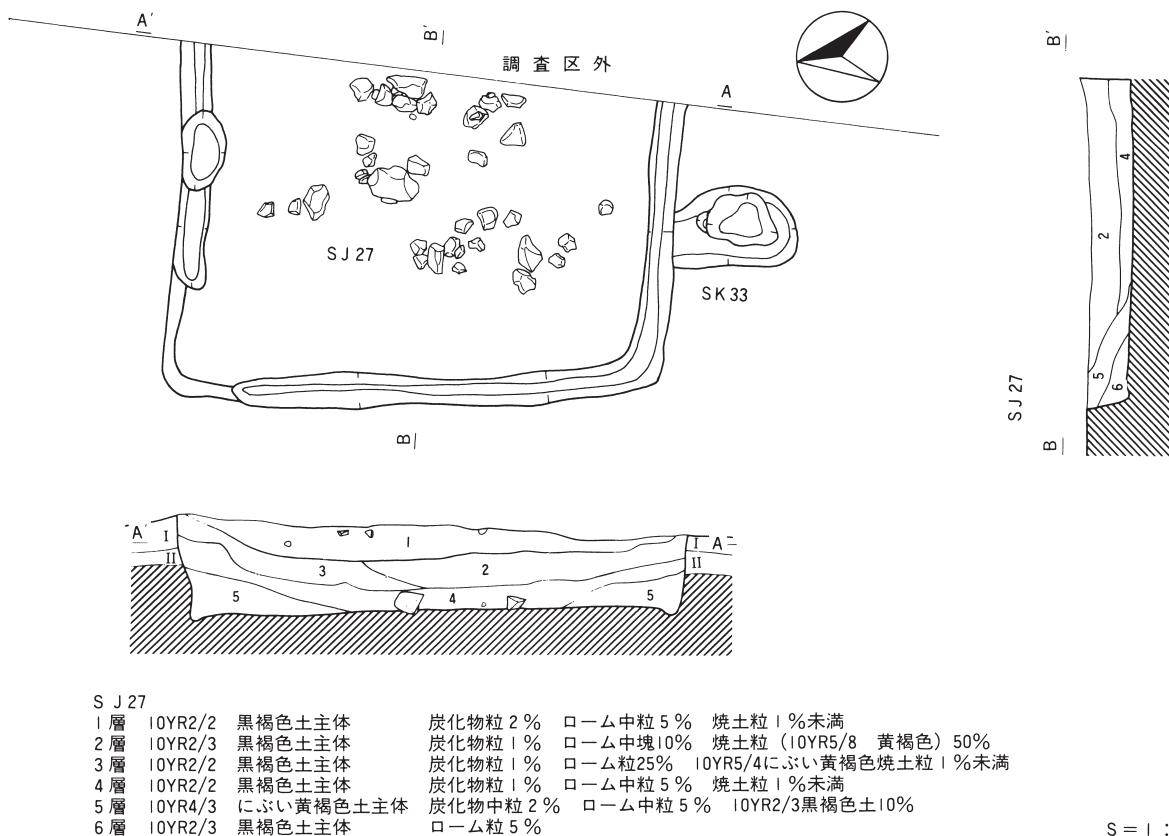


図166 第27号住居跡

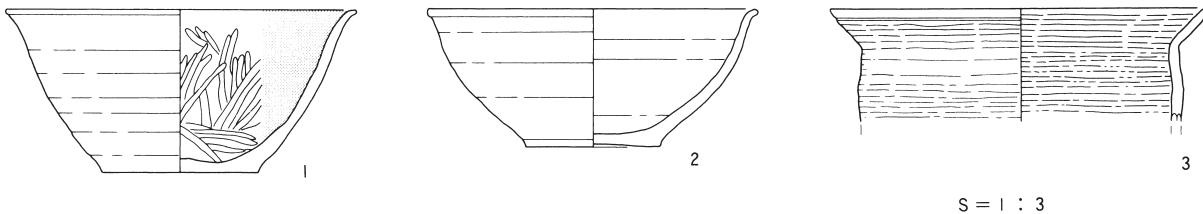


図167 第27号住居跡出土遺物

第29号住居跡

[位置] S～T-43～44グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 一辺4.1m程度のほぼ方形である。主軸方向はN-94°-Wである。

[壁・床面] 床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] カマドの両脇に周溝が認められるが全周には巡っていなかったようである。

[柱穴・ピット] 小ピットが多数検出されているが、住居跡東辺付近にあるPit1、Pit2が柱穴だとと思われる。

[カマド] 住居跡西辺に確認されている。粘土のソデ、火床面が確認されている。粘土中に埋め込まれた礫はカマドの芯材と思われる。カマドの南東から確認された人頭大の礫も本来カマドの構築材

だった可能性が考えられる。

[遺物] 土師器の甕、壺の破片が出土している。

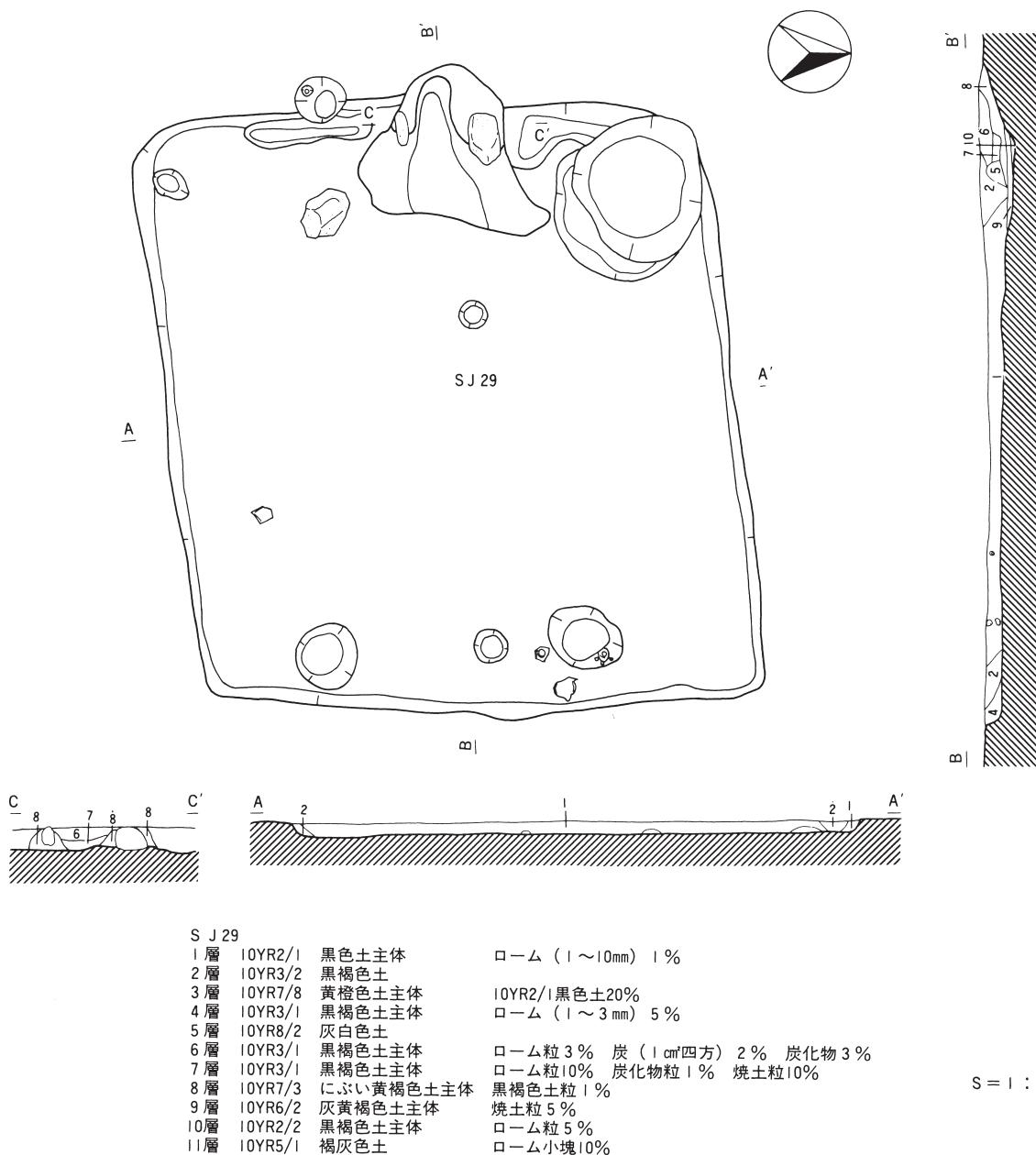


図168 第29号住居跡

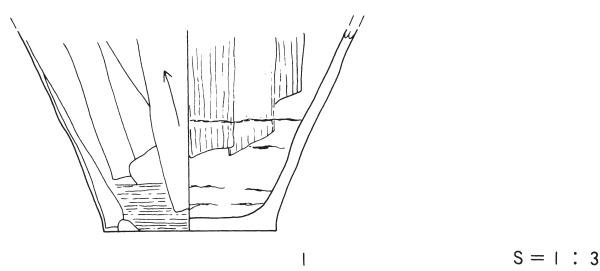


図169 第29号住居跡出土遺物

第30号住居跡

[位置] S～T-44～45グリッド付近において確認されている。

[重複] 第31号、第39号住居跡と重複している。本住居跡は第39号住居跡より古く、第31号住居跡よりは新しいものと推定されるが、第31号住居跡との関係は不明瞭である。

[平面形・規模] 東西にやや長い長方形で、長軸約3.8m、短軸約3.3mである。主軸方向はN-18°-Eである。

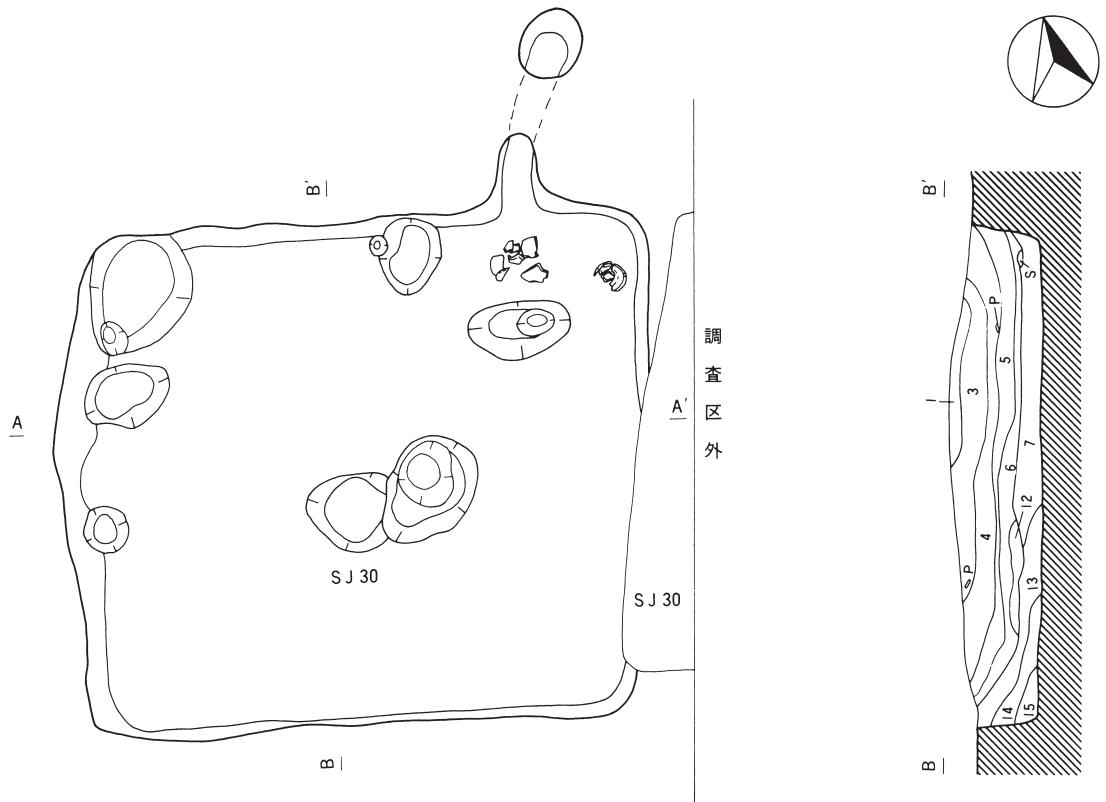
[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されていない。

[柱穴・ピット] 若干の小ピットは見られるが、柱穴状のものはない。

[カマド] 住居跡北辺で確認されている。ソデ等の遺存状態は良くないが地下式の煙道が検出されている。

[遺物] カマド周辺から土師器壺、甕が出土している。



S J 30	1層 I0YR4/2	灰黃褐色土主体	ローム (径1～20mm) 5%	8層 I0YR4/2	灰黃褐色土主体	ローム (径1～40mm) 1%
2層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム (径2～25mm) 1%	9層 I0YR4/1	褐灰色土主体	ローム (径20～60mm) 50%	
3層 I0YR2/1	黑色土主体	ローム (径1～20mm) 10%	10層 I0YR7/8	黄橙色土主体	I0YR2/1 黒色土が20%混入	
4層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム (径10～30mm) 25%	11層 I0YR8/6	黄橙色土主体	I0YR6/4にぶい黄褐色土が10%混入	
5層 I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム (径5～30mm) 5%	12層 5YR5/4	にぶい赤褐色土	ローム (径1～2mm) 1%	
6層 I0YR2/1	黑色土主体	ローム (径20～100mm) 25%	13層 I0YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム (径1～20mm) 50%	
7層 I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム (径5～50mm) 50%	14層 I0YR2/1	黑色土主体	ローム (径5～20mm) 5%	
			15層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム (径5～10mm) 1%	

図170 第30号住居跡

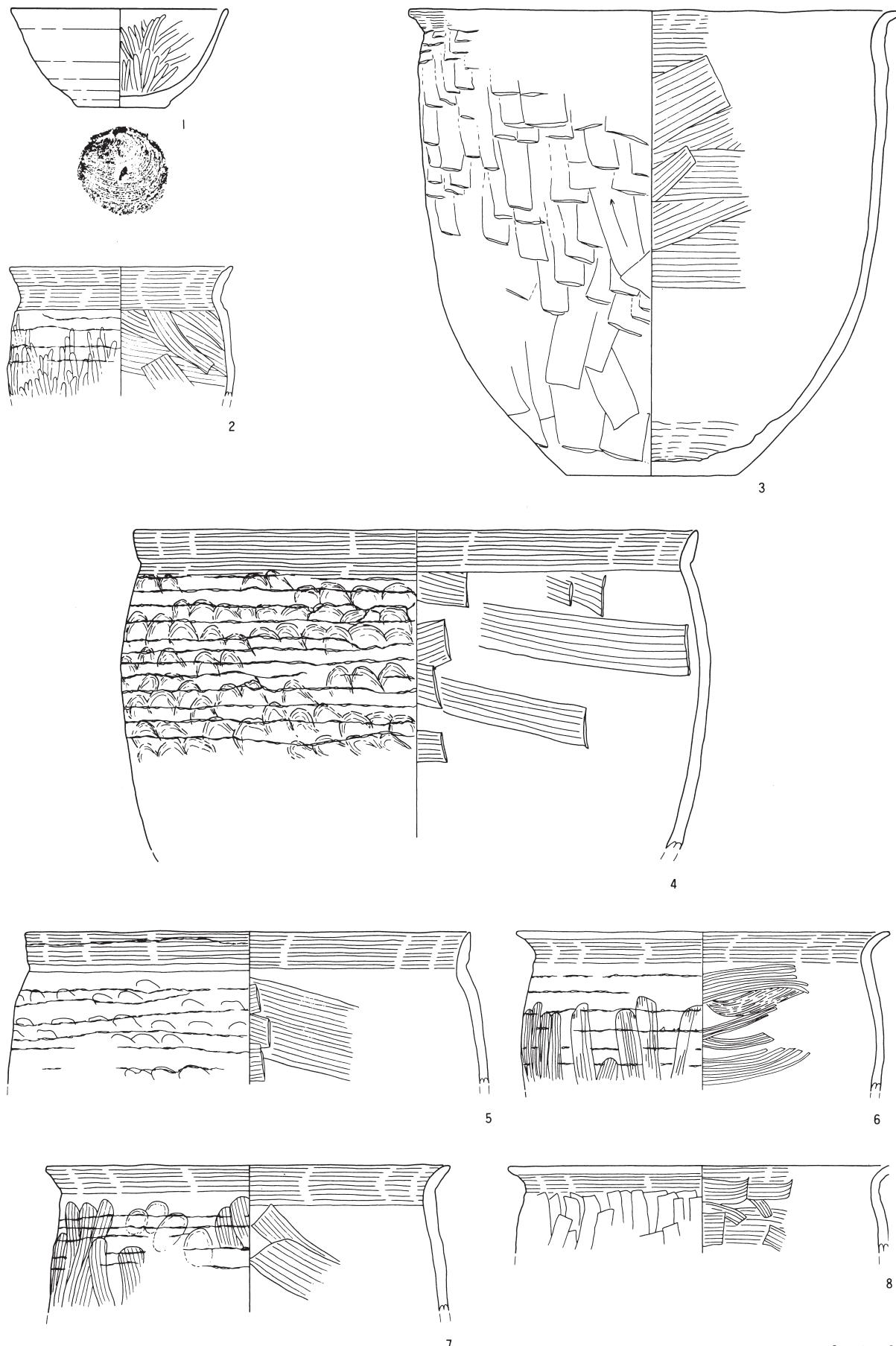


図171 第30号住居跡出土遺物（1）

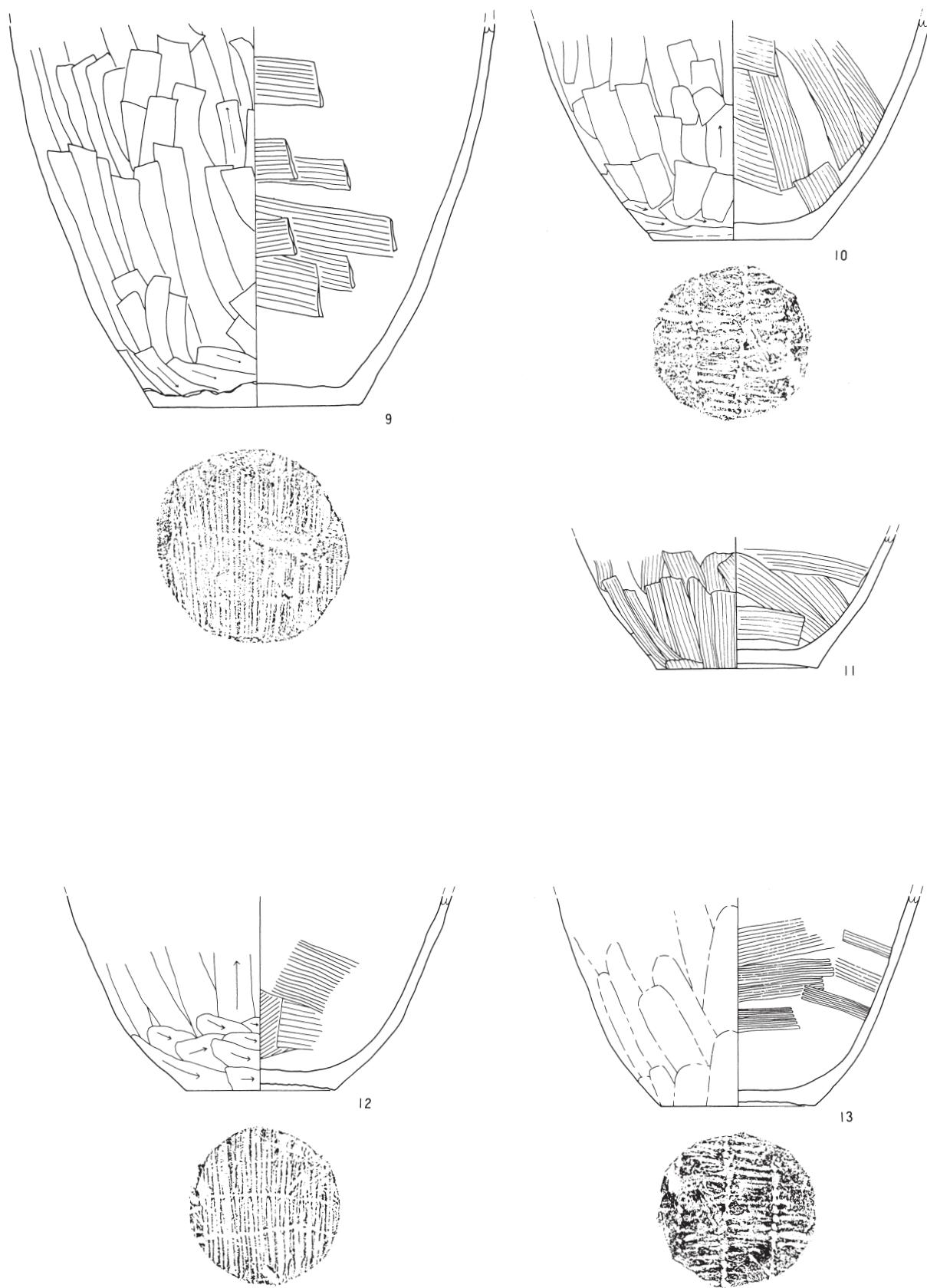


図172 第30号住居跡出土遺物（2）

第31号住居跡

[位置] T～U-44～45グリッド付近において確認されている。

[重複] 第30号、第32号住居跡、第34号土坑と重複している。本住居跡はそれらのいずれより古いものと思われるが、切り合い関係はあまり明瞭ではない。

[平面形・規模] 他の遺構と切り合っているため全貌は明らかではないが、平面形は一辺約2.9mの方形になるものと思われる。主軸方向はN-117°-Eである。

[壁・床面] 床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。他の遺構に比べると掘り込みは浅い。

[周溝] 検出されなかった。

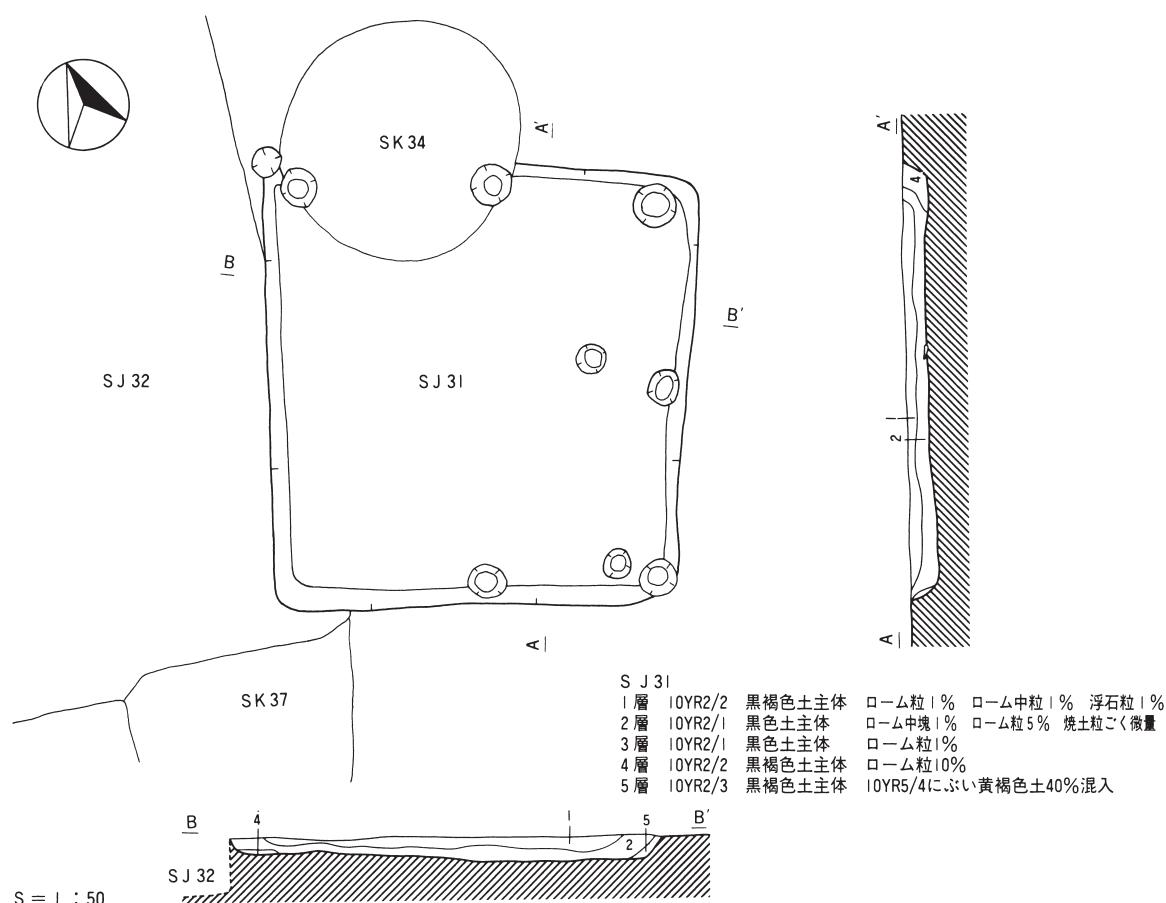


図173 第31号住居跡

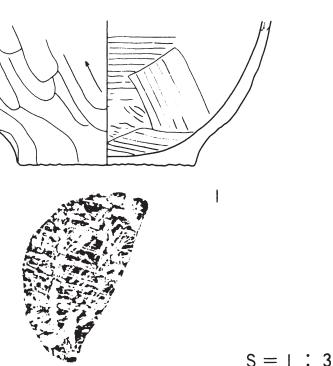


図174 第31号住居跡出土遺物

[柱穴・ピット] 住居の辺上の各角とその中間に柱穴が認められるが、他の遺構との重複により一部は検出できなかった。住居中央部にも径約1mのピットが認められる。その他にも小ピットがみとめられるが本住居にともなうものかどうかは定かではない。

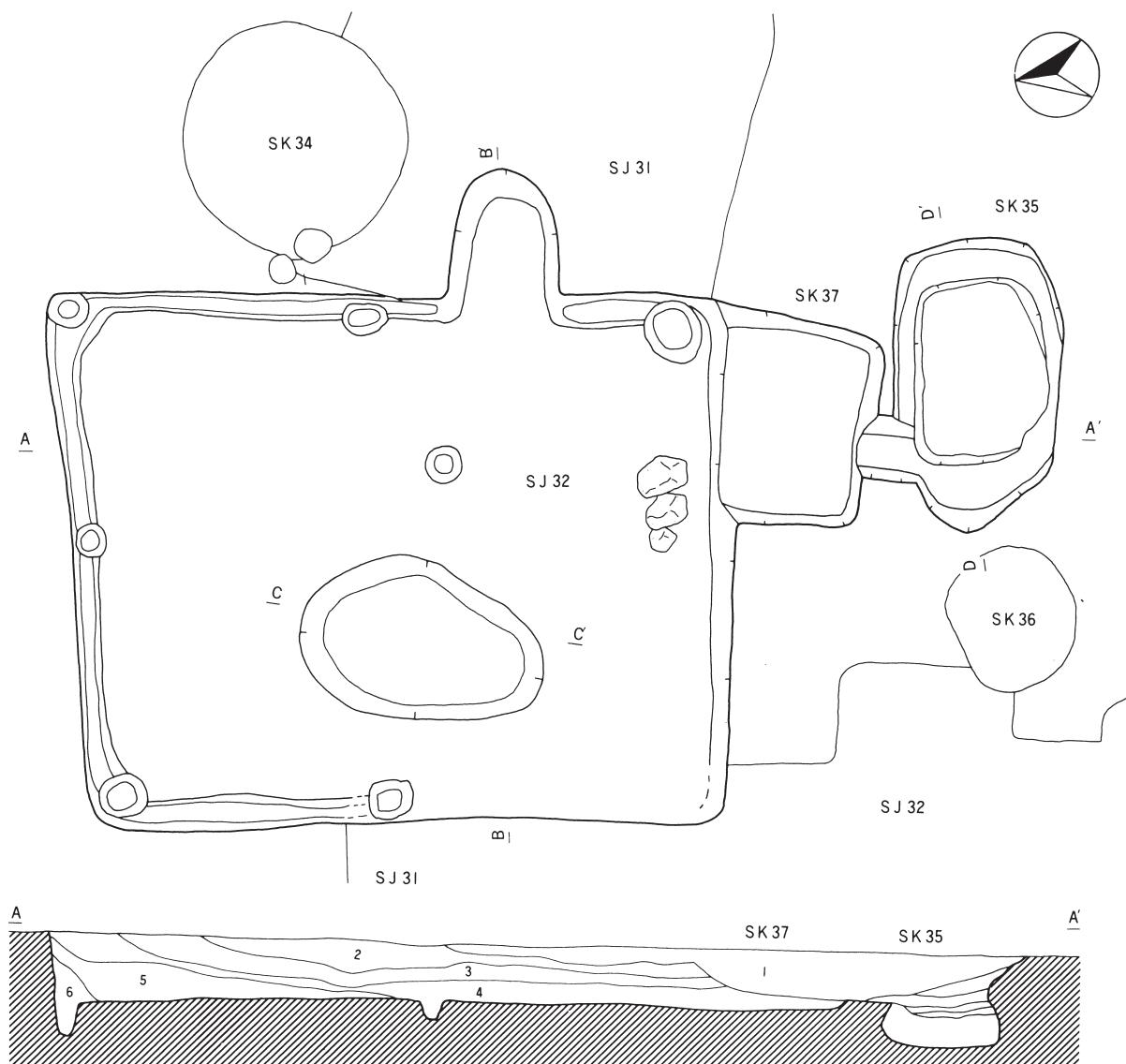
[カマド] 検出されなかった。

[遺物] 土師器甕等が出土している。

第32号住居跡

[位置] U～V-44～45グリッド付近において確認されている。

[重複] 第31号、第33号住居跡、第37号土坑と重複している。本住居跡は第31号住居跡よりは新しく、第33号住居跡よりは古いものと思われる。第37号土坑との切り合いは明瞭ではなく、本住居跡の張り出し部である可能性が高い。第37号土坑は第35号土坑と溝状の掘り込みによって繋がっているこ



S = 1 : 50

図175 第32号住居跡

とから、本住居跡を含めたこれらの遺構は一連のものであることも予想される。

[平面形・規模] 重複のため一部不明の部分もあるが、南北に長い長方形で、長軸約4.5m、短軸3.7mと思われる。主軸方向はN-97°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

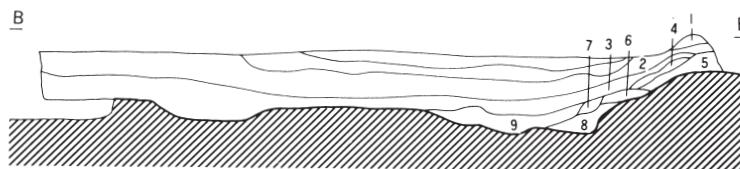
[周溝] 住居南壁を除く各壁で検出されているが、第32号住居跡との重複部分では確認できなかつた。

[柱穴・ピット] 第32号住居跡との重複のため住居南西角では検出できなかつたが、他の各角に柱穴が確認された。また、南壁を除く各壁の中央付近でも柱穴が確認された。

[カマド] 住居跡東辺で検出されているが遺存状態はあまり良好ではない。

[遺物] 土師器の壺、甕などの他に、鉄製の鏡の鏡体部、柄香炉の柄部（鉄製）、飾り部（銅製）、蓋部（銅製）が近接して出土している。柄香炉の柄部と飾り部は接するように出土し、銅製の飾り部

S J 32			
1層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム中粒20% ローム粒10% 焼土粒5% 炭化物粒5%
2層	I0YR1.7/1	黒色灰層	黒色土30% ローム粒20% 焼土粒10%
3層	I0YR3/2	黒褐色土主体	黒色灰20% ローム粒20% 焼土粒10% 焼土小塊、中塊含む
4層	I0YR3/3	暗褐色土主体	ローム粒30% ローム中粒20% ローム中塊10% 焼土粒10% 炭化物粒10%
5層	I0YR4/2	灰黄褐色土主体	ローム粒20% ローム中粒20%
6層	I0YR1.7/1	黒色土主体	炭化物粒起源と思われる粘性の黒色土層 ローム粒5%
7層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒20% ローム中粒30%
8層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒10%



S J 32 カマド			
1層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒30%
2層	I0YR5/4	にぶい黄褐色土主体	ローム層（下半分は焼けていて焼土化） 天井の崩落？ 黒褐色土5%
3層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム10% 烧土粒5%
4層	I0YR5/4	にぶい黄褐色土主体	2層とほとんど一緒だが焼土の割合が少し多い
5層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒5% 烧土粒10%
6層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒5% 烧土粒5%
7層	I0YR4/2	灰黄褐色土主体	焼土ブロックのような層 ローム5% 烧土粒5% 黑色土10%
8層	I0YR2/1	黒色土主体	ロームブロック小塊40% ローム粒10%
9層	I0YR1.7/1	黒色土主体	ローム粒5%



S J 32内ピット I			
1層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒5% ローム中粒1% 炭化物粒5% 赤色土が微量ある
2層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム大粒1% ローム中粒5% ローム粒5% 炭化物大粒1%
3層	I0YR2/2	黒褐色土主体	I0YR5/2/灰黄褐色土が板状にある

S = I : 50

S K 35			
1層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム（径I～20mm）5%
2層	I0YR3/3	暗褐色土主体	ローム（径10～50mm）25%→I0YR1.7/1 黒色土の灰混入
3層	I0YR2/3	黒褐色土主体	ローム（径5～80mm）50%
4層	I0YR2/1	黑色土主体	ローム（径0.1～0.5mm）1%
5層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム（径I～25mm）25%
6層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム（径10～30mm）25%
7層	I0YR2/1	黑色土主体	ローム（径I～5mm）1%
8層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム（径5～15mm）1%
9層	I0YR7/4	にぶい黄褐色土主体	焼土中粒1% I0YR2/3黒褐色土10%
10層	I0YR2/3	黒褐色土主体	ローム粒5% 浮石粒1%
11層	I0YR7/4	黄褐色土主体	5YR4/6赤褐色焼土20%

図176 第32号住居跡

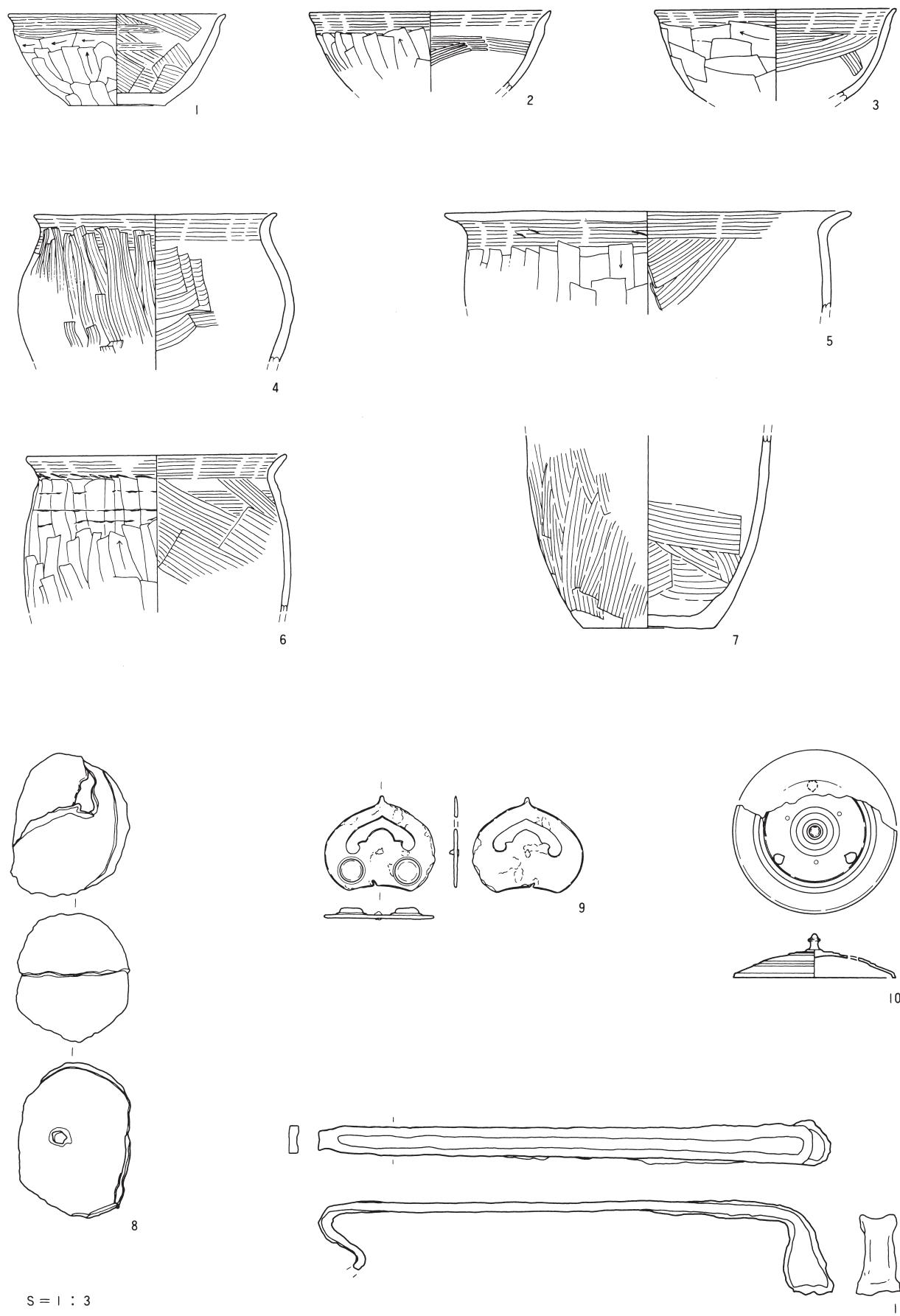


図177 第32号住居跡出土遺物

の裏面の中央付近に鉄鏽が付着していたことから、材質は異なるものの本来一体となっていたことが考えられる。隣接して出土した鉄製品は当初柄香炉の香炉部であることも予想されたが、鏽び落とし等の処理を施したところ、鏡の鈴体部であることが判明した。本例は潰れているが、本来の形態は第33号住居跡出土の鏡と共通するものと思われる。

これらの仏具は住居跡南東角付近から出土しているが、床面からは約30cm程度上位（確認面からは約10cm程度下位）で確認されている。遺物の西側から検出された人頭大の礫もほぼ同一レベルで確認されている。

第33号住居跡

[位置] U～V-44～46グリッド付近において確認されている。

[重複] 第32号、第34号、第35号住居跡、第36号土坑と重複している。本住居跡は第36号土坑よりは古く、それ以外の遺構よりは新しい。

[平面形・規模] 西側の大半は調査区外にかかるため東西方向の規模は不明であるが、南北方向は約5.7mを測る。北壁の一部と南壁の東端付近に長方形の張り出しが確認された。張り出し部1は、一旦貼床状の平坦部を形成した後、壁際に周溝を巡らせており、張り出し部2はロームを掘り残して段差が設けられている。主軸方向はN-98°-Eである。

[壁・床面] 床面は貼床で平坦に整形されている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

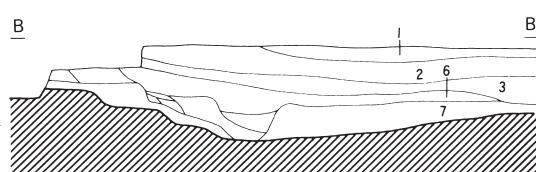
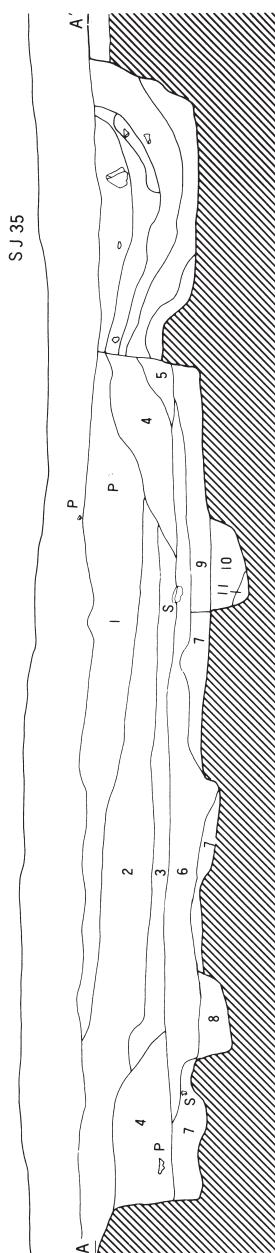
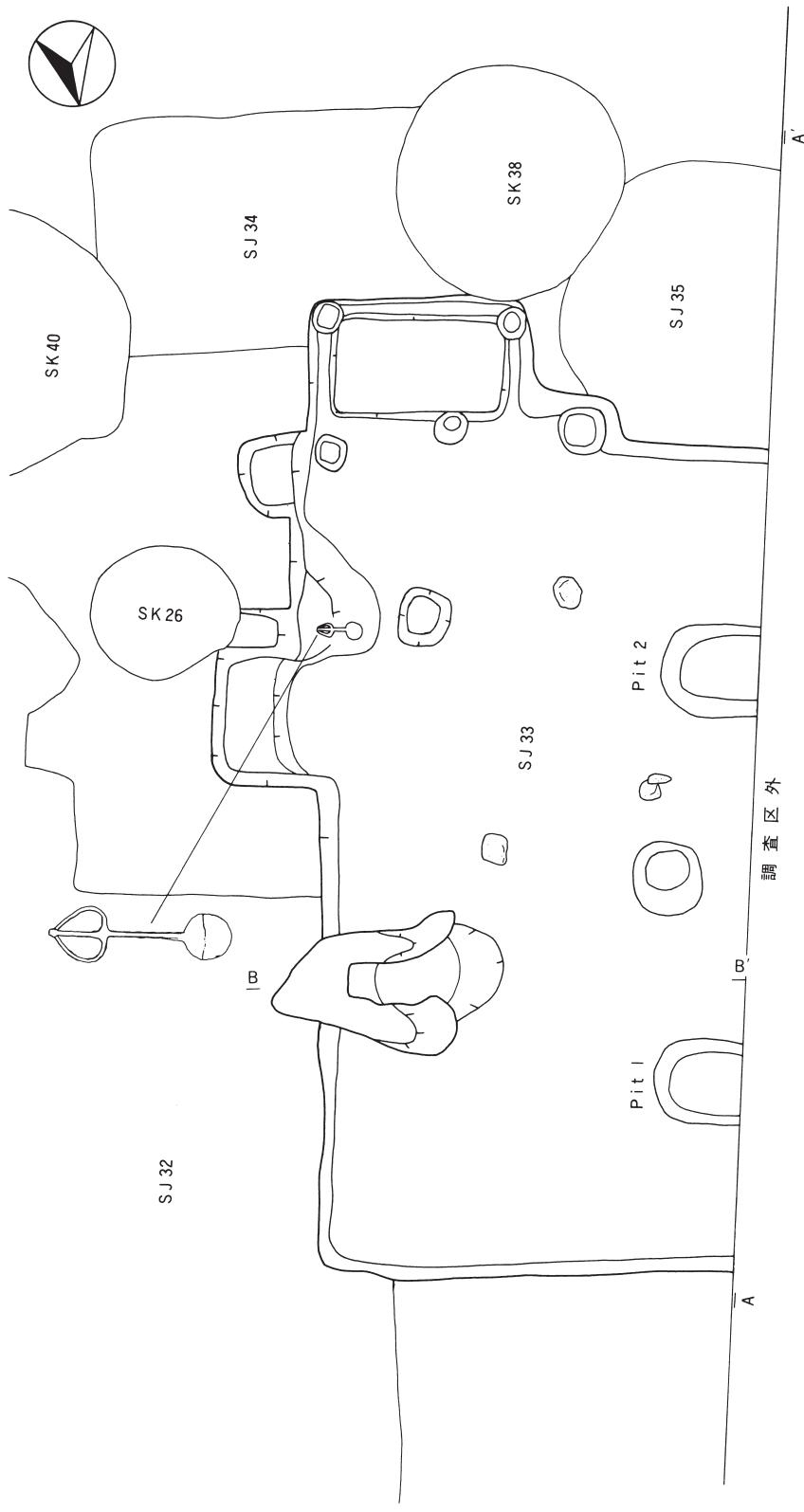
[周溝] 住居跡本体部では検出されていないが、南東角の張り出し部では壁沿いに周溝が巡る。

[柱穴・ピット] 住居西側の調査区外との境界付近にも平面形が隅丸長方形になるものと思われるPit1、Pit2が確認されたが、これらは床面を貼る以前に掘られたものようである。張り出し部1付近に柱穴状の小穴が認められる。

[カマド] 住居跡東辺の北寄りに確認されている。本カマドは第32号住居跡構築によって上半部が削平されているが、同住居跡の床面が本住居跡の床面に比べて高位にあるため、その床面下に削平され切らずに残ったカマドが検出されたものである。

[堆積土] 床面以上は自然堆積である。

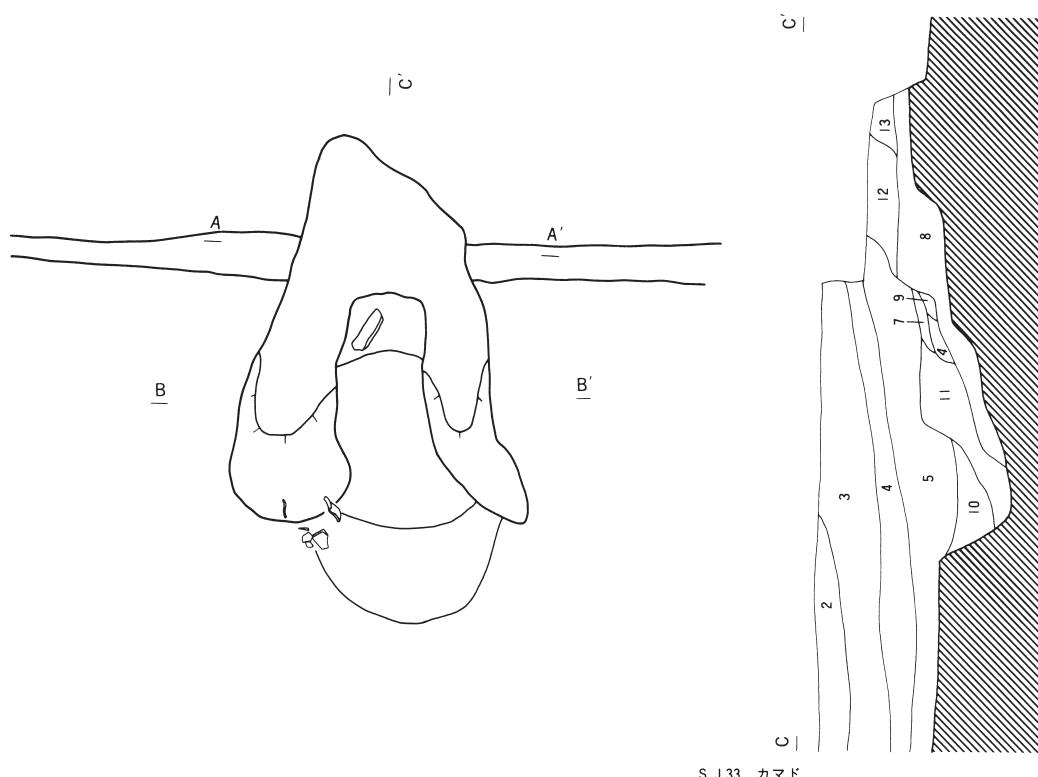
[遺物] 土師器の壺、甕の他に鉄製品が出土している。中でも注目されるのは鉄製の三鈷鏡である。第32号住居跡からも鏡の欠損品が出土しているが、本例は完形品で中に2個の丸が確認されている。出土位置は張り出し部2の南縁の西側である。床面からは浮いた状態であるが、付近は周辺に比べると床面が高くなっている。カマド内からは羽口の破片が出土したが支脚として転用されたものと思われる。球胴の甕はカマドの北西付近から出土している。壺類にはタール状の付着物が観察されるものも含まれる。灯明具として使用されたものであろう。



S = 1 : 30

図178 第33号住居跡

S J 33			
1層 黒色土	黒褐色土主体	ローム粒10%	7層 I0YR7/4 にぶい黄橙色土主体 (ロームらしい) I0YR3/1黒褐色土5%混入
2層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒1% 炭化物小粒1%	ローム粒5% ローム中粒10% →ピット2フク土
3層 I0YR1.7/1	黒色土主体	ローム粒10% ローム中粒25%	ローム粒30% ロームブロック10% 焼土粒5%
4層 I0YR3/3	暗褐色土主体	炭化物粒1%	ローム粒30% ロームブロック30%
5層 I0YR4/2	黒褐色土主体	ローム中粒20%	ローム粒20% ロームブロック5%
6層 I0YR4/3	暗褐色土主体	ローム粒30% ローム中粒20% 炭化物粒10%	
			8層 I0YR2/3 黒褐色土主体
			9層 I0YR3/3 暗褐色土主体
			10層 I0YR5/4 にぶい黄褐色土主体
			11層 I0YR3/2 黒褐色土主体



S J 33 カマド			
1層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒10% ローム中粒1% 浮石粒1% 焼土粒1%	
2層 I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒10% ローム中粒5% 浮石粒5% 焼土中粒1% 烧土粒1% 炭化物粒1%	
3層 I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム中粒10% ローム粒1% 炭化物粒1%	
4層 I0YR1.7/1	黒色土主体	焼土粒5% ローム粒3% 灰3%	
5層 7.5YR4/6	褐色土主体	粘土層	
6層 I0YR1.7/1	黒色土主体	灰層 烧土3% ローム粒2% 炭化物粒3% カマドソデと同じ土	
7層 I0YR6/6	明黃褐色土主体	炭化物粒1% 烧土粒1% ローム粒20% 灰2%	
8層 I0YR2/2	黒褐色土主体	灰層 4層の土5% 烧土層 烧土3% 炭化物粒7% 烧土粒1% ローム粒1% 灰10%	
9層 7.5YR4/6	褐色土主体	炭化物粒10% 烧土粒3% ローム粒5% 灰3%	
10層 I0YR1.7/1	黒色土主体	炭化物粒10% 烧土粒10% 粘土粒10% 烧土ブロック50% カマドのソデが焼けた部分	
11層 I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム層 カマドソデ残存部 外側の焼けていない部分	
12層 5YR5/6	明赤褐色土主体	ローム粒10% 炭化物粒1%	
13層 5YR5/6	黒褐色土主体	ローム層 烧土粒10% 灰5% 灰の層 烧土粒10% 粘土粒10%	
14層 I0YR6/4	にぶい黄褐色土主体	ローム層 烧土ブロック30% 烧土粒1% 炭化物粒1%	
15層 I0YR6/4	にぶい黄褐色土主体	ローム粒10% 炭化物粒1% ローム層 カマド天井残存部 ローム層 烧土10% 黑褐色土20%	
16層 I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム層 烧土粒1% 炭化物粒1%	
17層 I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム層 烧土粒1% 炭化物粒1%	
18層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム層 烧土粒1% 炭化物粒1%	
19層 I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム層 烧土粒1% 炭化物粒1%	
20層 I0YR3/3	暗褐色土主体	ローム層 烧土粒1% 炭化物粒1%	
21層 I0YR6/4	にぶい黄橙色土主体	ローム層 烧土5% カマド天井残存部 ローム層 烧土10% 黑褐色土20%	
22層 I0YR6/4	にぶい黄橙色土主体	カマド天井残存部 ローム層 烧土20%	

S = 1 : 25

図179 第33号住居跡カマド

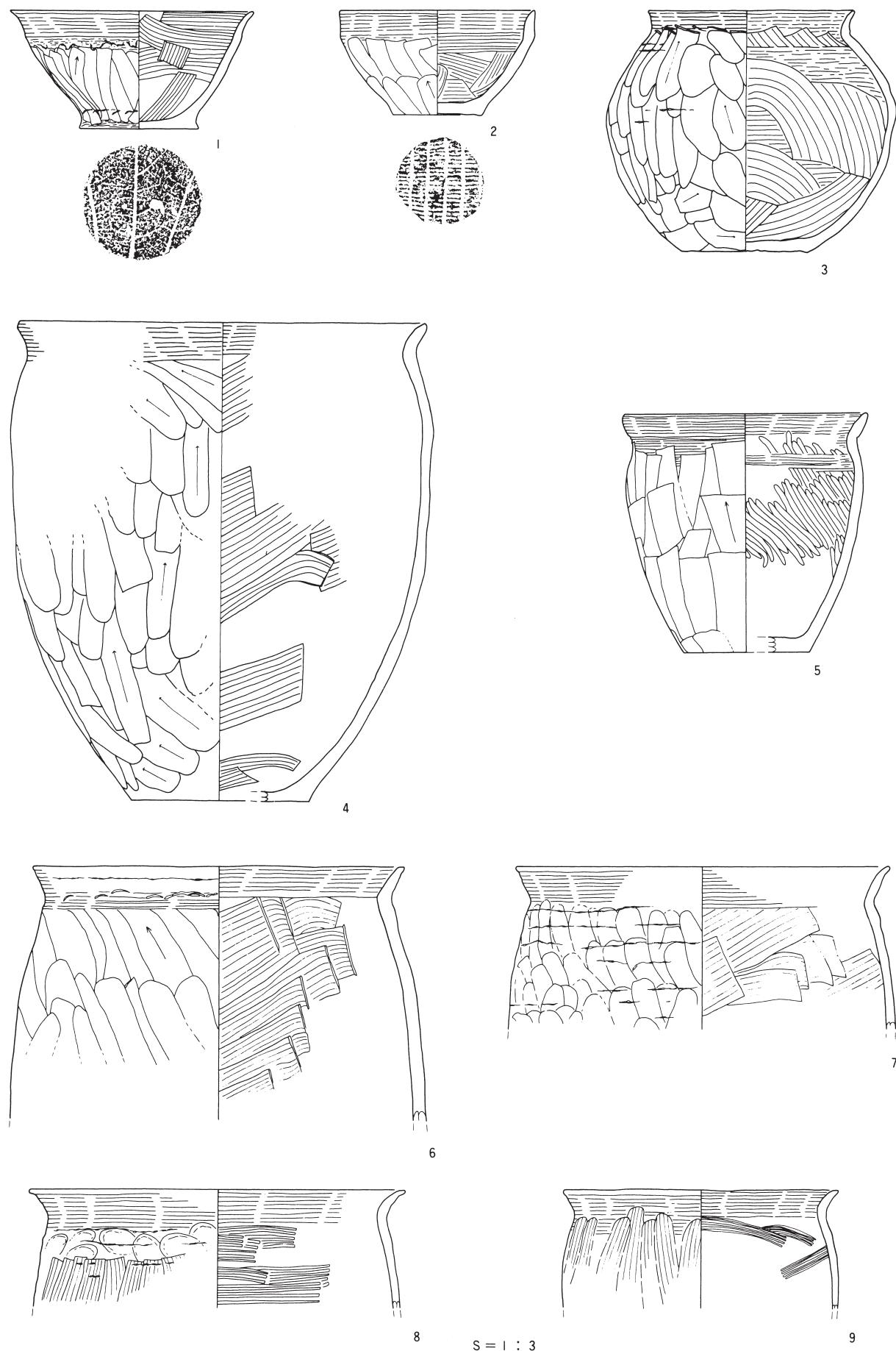


図180 第33号住居跡出土遺物（1）

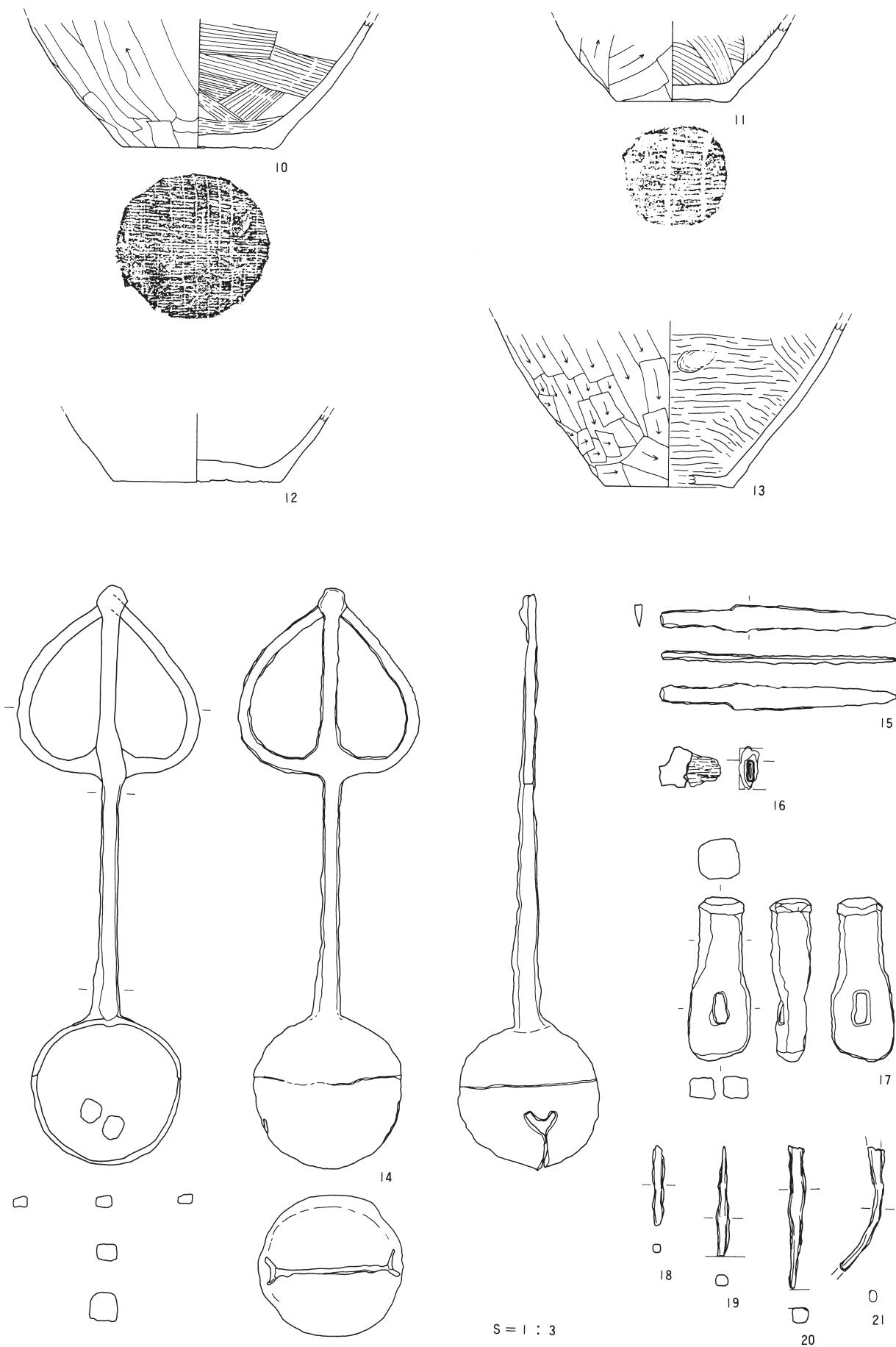


図181 第33号住居跡出土遺物（2）

第34号住居跡

[位置] U～V-46グリッド付近において確認されている。

[重複] 第33号住居跡、第38号、第40号土坑と重複している。本住居跡はそれらのいずれよりも古い。

[平面形・規模] 他の遺構との切り合いのため一部不明瞭であるが、3.0×1.7m程度の長方形になるものと思われる。便宜的に住居跡として区分したが、他の遺構である可能性も高い。主軸方向はN-97°-Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[遺物] 図示できるものは出土していない。

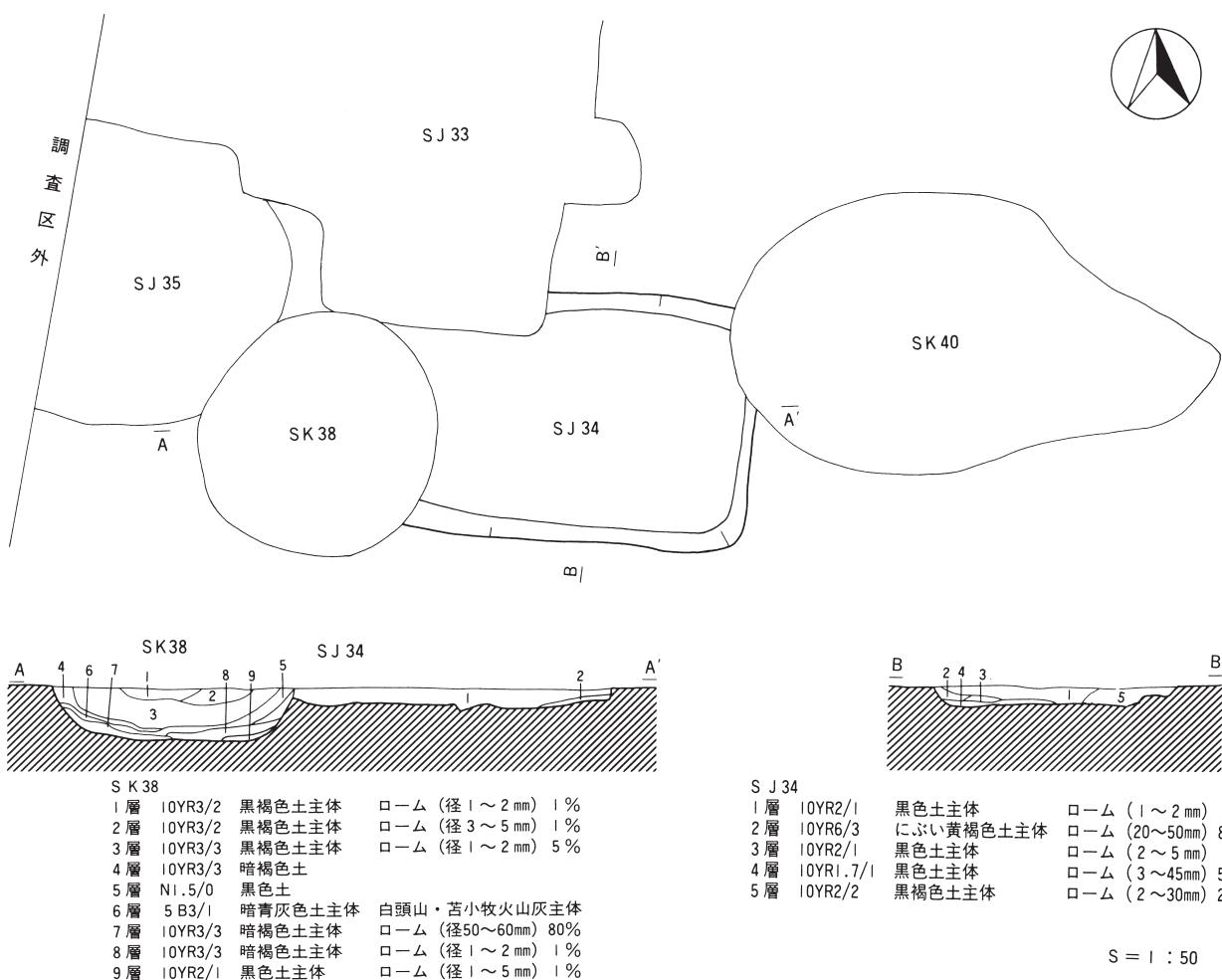


図182 第34号住居跡

第35号住居跡

[位置] V-46グリッド付近において確認されている。

[重複] 第33号住居跡、第38号土坑と重複するが、本住居跡の方がそれより古い。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかる上に他の遺構とも重複するため形状、規模は不明である。

便宜的に住居跡に区分したが、検出された部分から判断すると平面形は方形ではなく丸みを帯びているようなので、住居跡以外の遺構である可能性も考えられる。主軸方向はN-101°-Eである。

[壁・床面] 床面は一様ではなく壁の立ち上がりも緩やかである。

[周溝・柱穴・ピット・カマド] 検出されなかった。遺物は土師器甕が出土している。

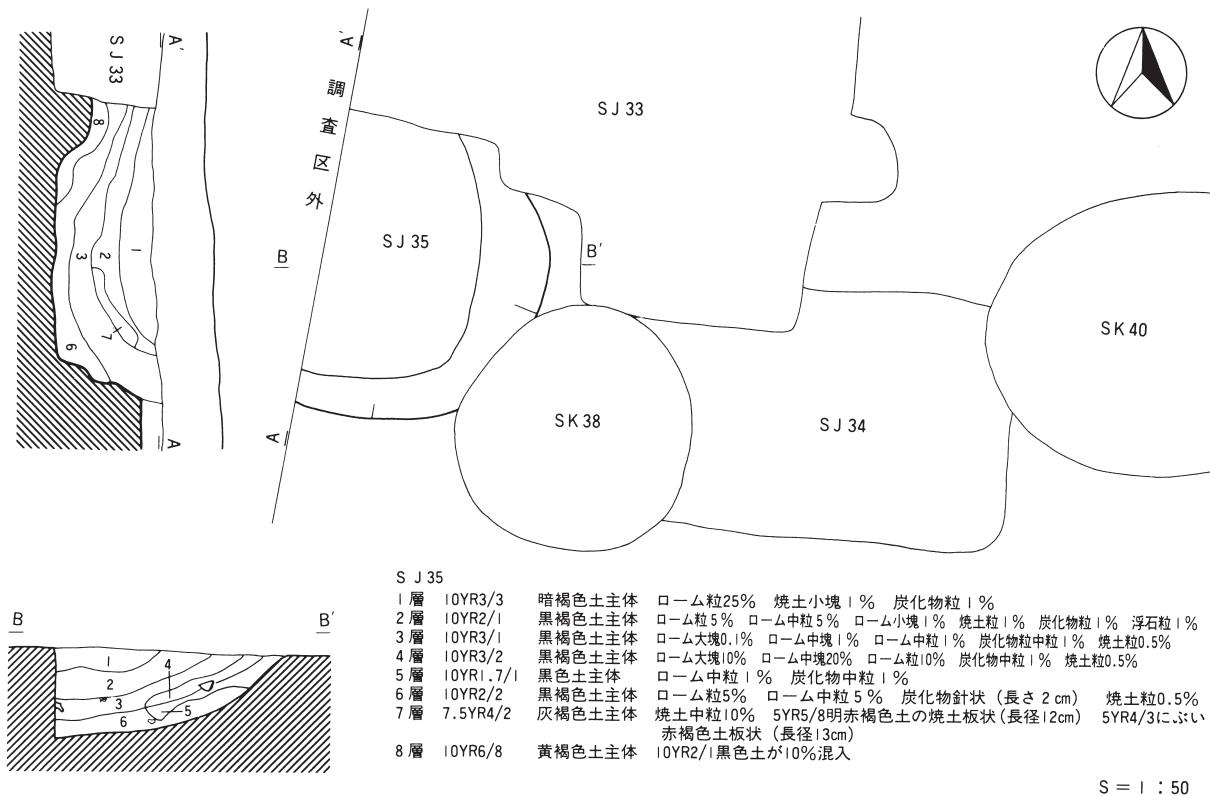


図183 第35号住居跡

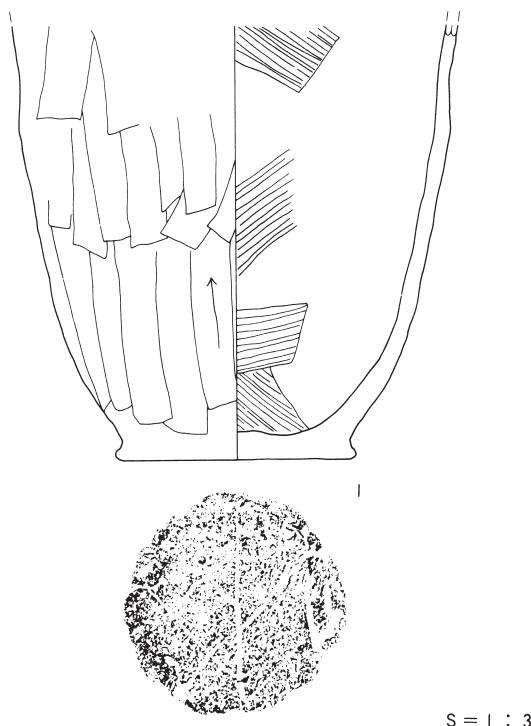


図184 第35号住居跡出土遺物

第36号住居跡

[位置] S-39 グリッド付近において確認されている。

[重複] 第22号住居跡と重複しているが本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 住居跡の大半が調査区外であるため全貌は不詳であるがほぼ方形になるものと思われる。西辺の長さは約2.5mである。主軸方向はN-88°-Eである。

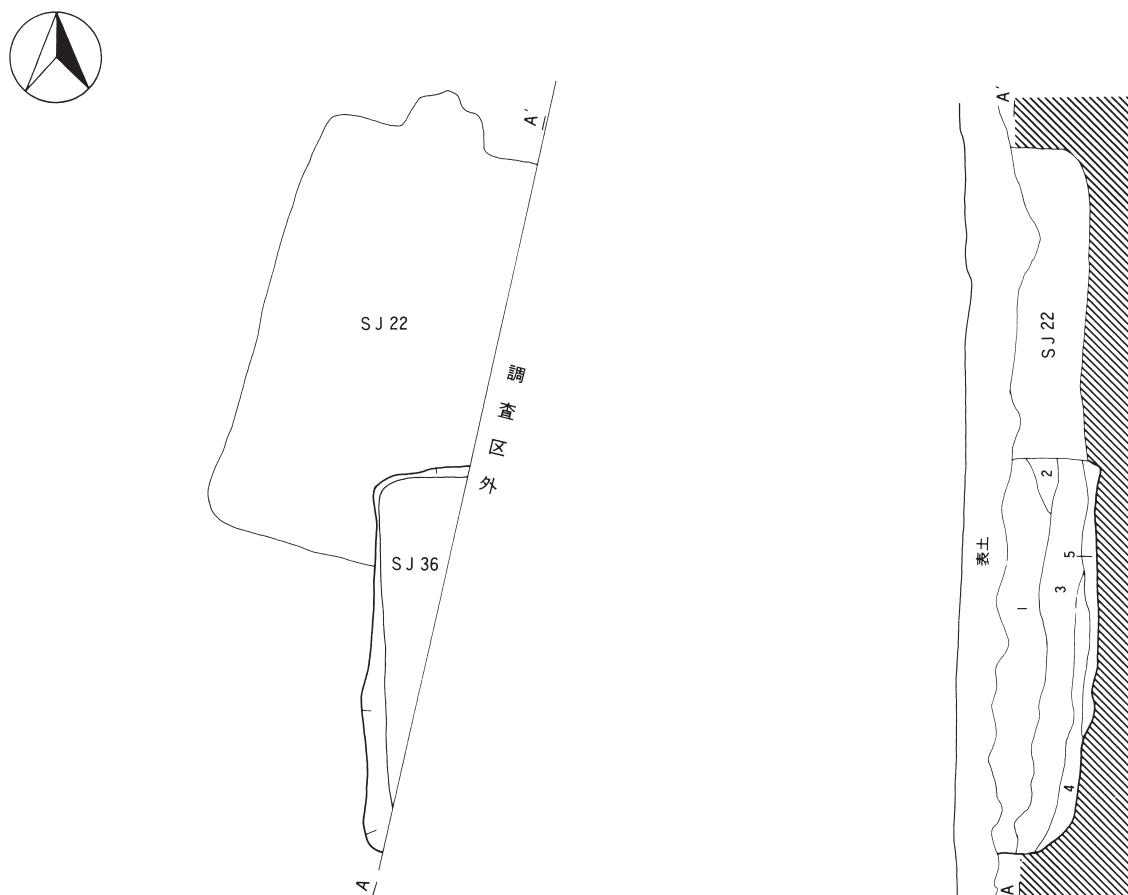
[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。調査区外にあるものと推定される。

[遺物] 出土していない。



S J 36			
1層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒中粒10% 焼土ブロック(20mm) 5YR5/6焼土粒5% 炭化物粒1%
2層	I0YR1.7/1	黒色土主体	ロームブロック(30mm) 2個1% 炭1% 焼土粒1% I0YR6/2火山灰1% ローム粒5%
3層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム中粒10% 炭5%
4層	I0YR1.7/1	黒色土主体	ローム粒5% ロームブロック(20mm) 1個1%
5層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒、中粒3% ロームブロック(径30mm) 3~4個5%

S = 1 : 50

図185 第36号住居跡

第38号住居跡

[位置] U～V-41～42 グリッド付近において確認されている。

[重複] 第26号住居跡、第22、53号土坑と重複している。本住居跡は第26号住居跡、第22号土坑より古く第53号土坑より新しいと思われる。

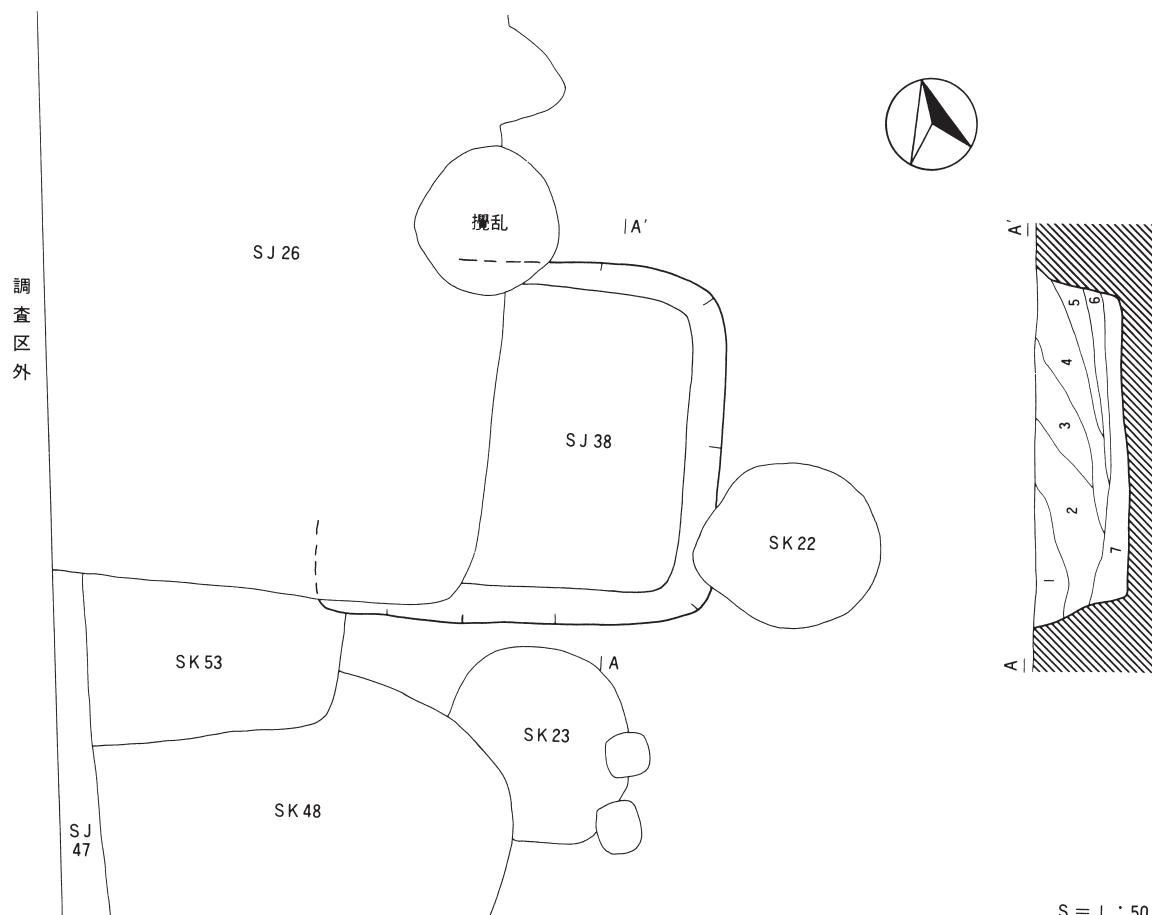
[平面形・規模] 他の遺構と重複しているため全体の形状は不明であるが長方形になるものと思われる。住居跡として番号を付したが他の遺構の可能性も考えられる。南北は約2.2mである。主軸方向はN-10°-Eである。

[壁・床面] 床面は平坦で、壁は緩く外傾して立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット・カマド・遺物] 検出されなかった。遺物は出土していない。

[堆積土] 埋め戻しのような状況を呈する。



S J 38	1層 I0YR3/2 黒褐色土主体	ローム粒10% ロームブロック(2cm四方、3cm四方)30% 炭(10×20mm)10% 炭化物粒30% 焼土(10mm四方)1個
	2層 I0YR3/1 黒褐色土主体	ローム粒50% ロームブロック(50mm四方)10% ローム中粒30% 炭化物粒5%
	3層 I0YR2/2 黒褐色土主体	ローム粒10% ロームブロック(30mm四方)3% ローム中粒2% 小石(20mm四方)1%
	4層 I0YR5/6 黄褐色ローム主体	I0YR3/1 黒褐色土が層全体に45%混入 ローム中粒30% 小石(4cm四方)1個と(5×20mm)1%
	5層 I0YR3/1 黒褐色土主体	ローム粒層状に混入(幅15mm)25% ローム中粒5% 小石(5~10mm)1%
	6層 I0YR3/1 黒褐色土	ローム粒層状に(幅1cm未満)薄く混入 ローム中粒1%
	7層 I0YR3/1 黒褐色土主体	ローム粒10% ロームブロック(30mm四方)1% ローム中粒1% I0YR4/2砂っぽい土の層が上部に層状に混入

図186 第38号住居跡

第39号住居跡

[位置] S-44~45グリッド付近において確認されている。

[重複] 第30号住居跡と重複しているが、本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 住居跡のほとんどが調査区外であるため、全貌は不明であるが、ほぼ方形になるものと思われる。住居跡西壁は約3m以上である。主軸方向はN-22°-Eである。

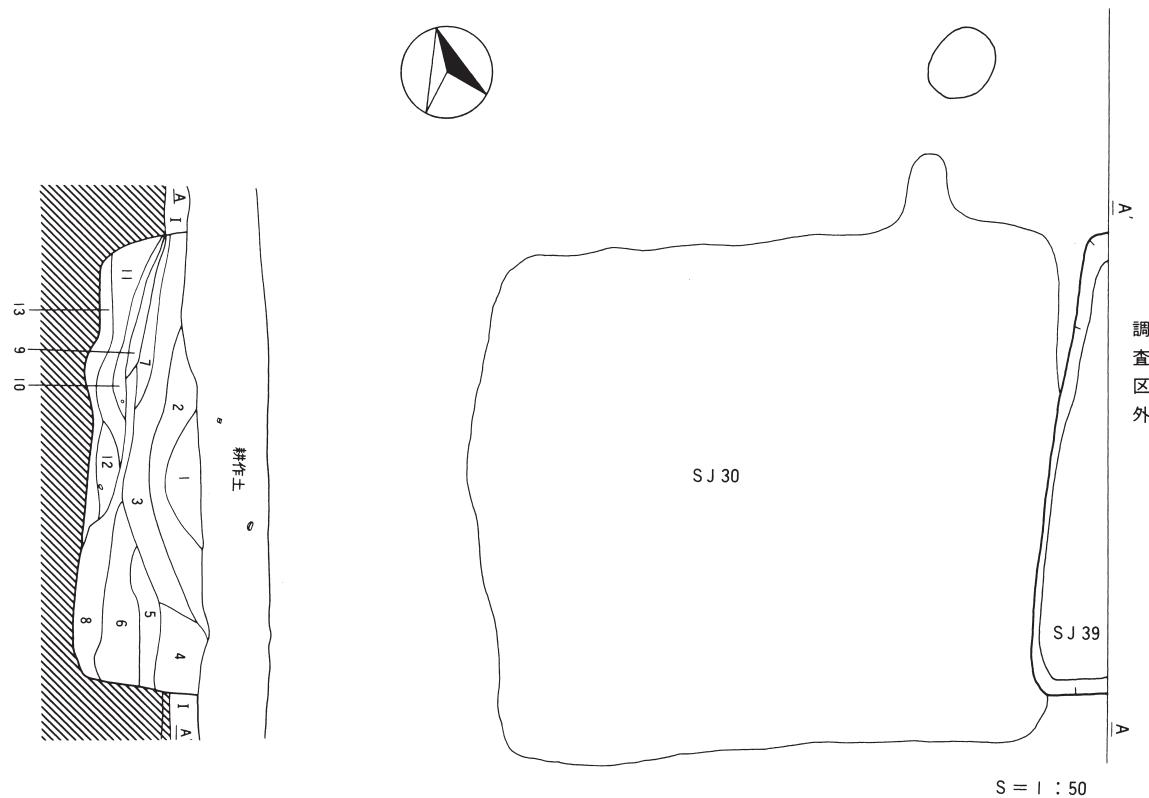
[壁・床面] 壁はほぼ垂直に立ち上がるが、住居跡のほとんどが調査区外となるため床面の状態は不明である。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかったが調査区外にあるものと推定される。

[遺物] 土師器片が出土しているが図示できるものはない。



S J 39		
I層	10YR2/1	黒色土主体
II層	10YR3/3	暗褐色土主体
I層	10YR3/1	黒褐色土主体
2層	10YR2/2	黒褐色土主体
3層	10YR2/2	黒褐色土主体
4層	10YR2/1	黒色土主体
5層	10YR3/1	黒褐色土主体
6層	10YR2/1	黒色土主体
7層	10YR2/1	黒色土主体
8層	10YR6/6	明黄褐色土主体
9層	10YR3/2	黒褐色土主体
10層	10YR1.7/1	黒色土主体
11層	10YR3/2	黒褐色土主体
12層	10YR2/1	黒色土主体
13層	10YR3/1	黒褐色土主体
		ローム中粒 5% 焼土粒 1% 未満
		ローム粒 2% 10YR2/1 黒色土 20%
		炭化物中粒 7% ローム中粒 10% 焼土粒 1% 未満
		炭化物粒 2% ローム大粒 20%
		炭化物中粒 3% ローム大粒 25% (所々に中粒含む) 焼土中粒 1% 10YR2/1 黒色土 10%
		ローム粒 2% 焼土粒 1% 浮石粒 1%
		炭化物粒 2% ローム大粒 20%
		炭化物中粒 1% ローム中粒 5%
		炭化物中粒 2% ローム大粒 5% 焼土粒 2% 黒灰色灰 50%
		ローム大粒 25% 10YR4/4 褐色土 15%
		炭化物粒 1% 10YR4/3 にぶい黄褐色土 30% 焼土中粒 30%
		10YR5/3 にぶい黄褐色土 10% 10YR5/1 褐灰色土 10% ローム粒 2% 焼土粒 (5YR4/6 赤褐色) 1% 灰 30%
		炭化物粒 2% ローム中粒 15% 焼土粒 1% 10YR2/1 黒色土 20%
		炭化物中粒 3% ローム大粒 5%
		炭化物中粒 3% ローム大粒 25%

図187 第39号住居跡

第40号住居跡

[位置] S-45~46グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 住居跡のほとんどが調査区外になるため全貌は不明であるが、住居跡西辺は5.7m以上である。主軸方向はN-15°-Eである。

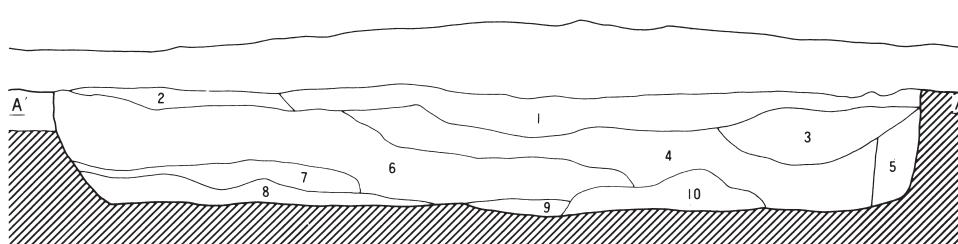
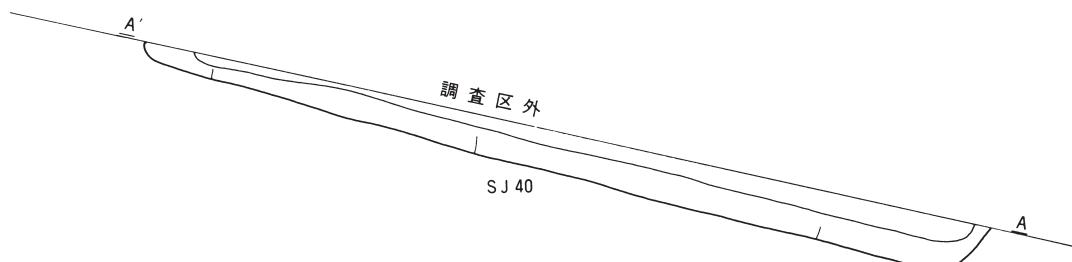
[壁・床面] 壁はほぼ垂直に立ち上がるが、床面のほとんどは調査区外である。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかったが調査区外にあるものと思われる。

[遺物] 出土していない。



S = 1 : 50

S J 40

表土	I0YR3/2	黒褐色土主体	草木根含む ローム粒1%
1層	I0YR2/3	黒褐色土主体	ロームブロック1% ローム粒5% 炭1%
2層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒5%
3層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒10% ローム中粒5% 炭1%
4層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム粒、中粒10%
5層	I0YR5/4	にぶい黄褐色土主体	黒色土30%含む 裹込め風の埋め戻し
6層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ロームブロック(30~50mm)10% ローム中粒10% ローム粒20%
7層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム中粒 ローム粒5%
8層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ロームブロック(50~100mm) ローム粒20%
9層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム中粒、ローム粒10% 黒色土5%
10層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ロームブロック(50~100mm) 10% ローム中粒、ローム粒3%

図188 第40号住居跡

第41号住居跡

[位置] S～T-48～49グリッド付近において確認されている。

[重複] 第43号住居跡と重複している。第43号住居跡よりは本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 一部攪乱の影響を受けているが一辺約4.3m程度の方形である。主軸方向はN-103°～Eである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。住居南側の床面に酸化鉄の沈着が認められたが攪乱部にある集水溝の影響が考えられる。

[周溝] 住居跡北辺から西辺にかけて検出されている。

[柱穴・ピット] 柱穴は確認できなかった。

[カマド] 住居跡の東辺で検出されている。ソデ、火床面が確認されている。

[遺物] カマド内を中心に土師器甕、壺などが出土している。

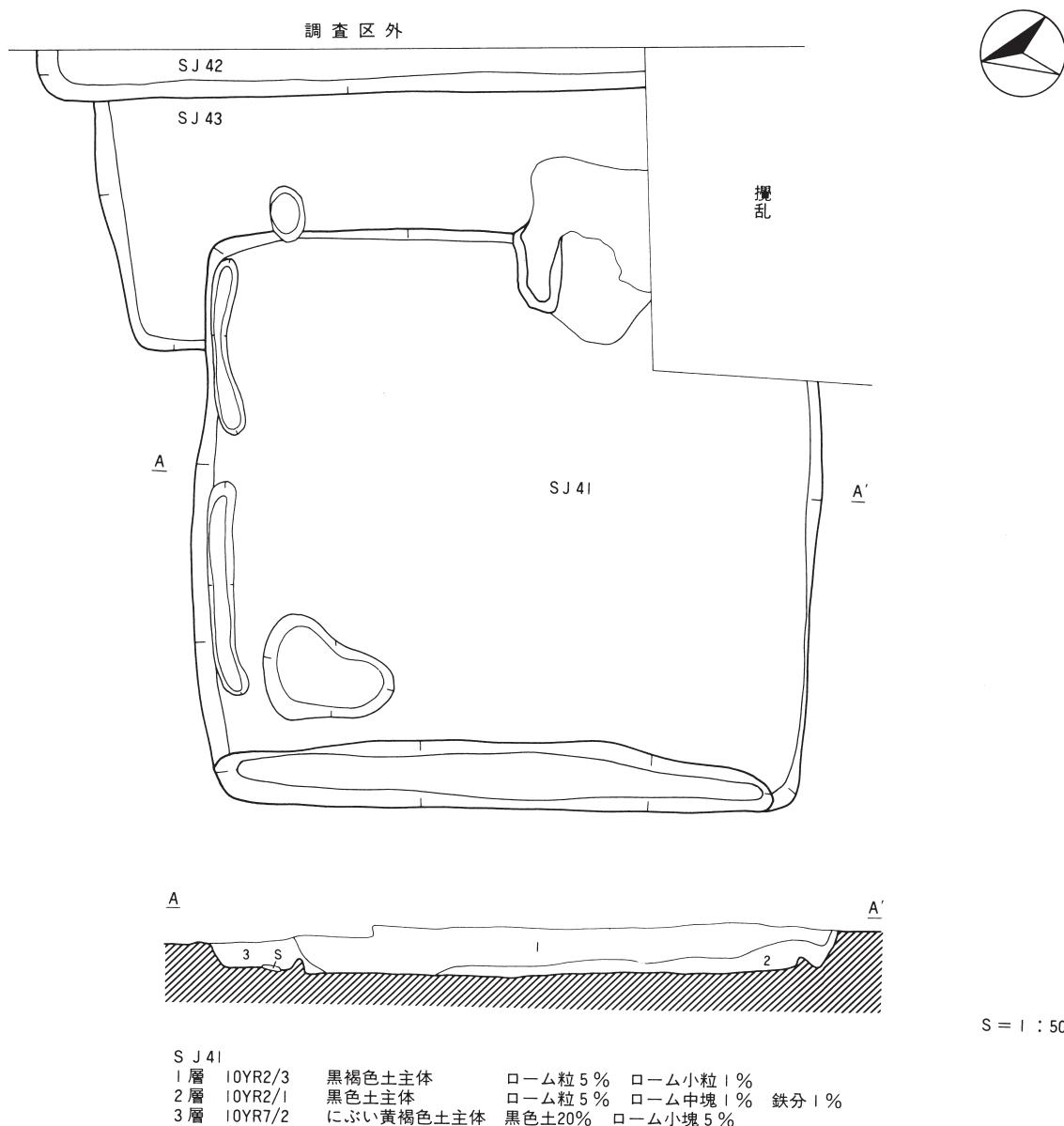
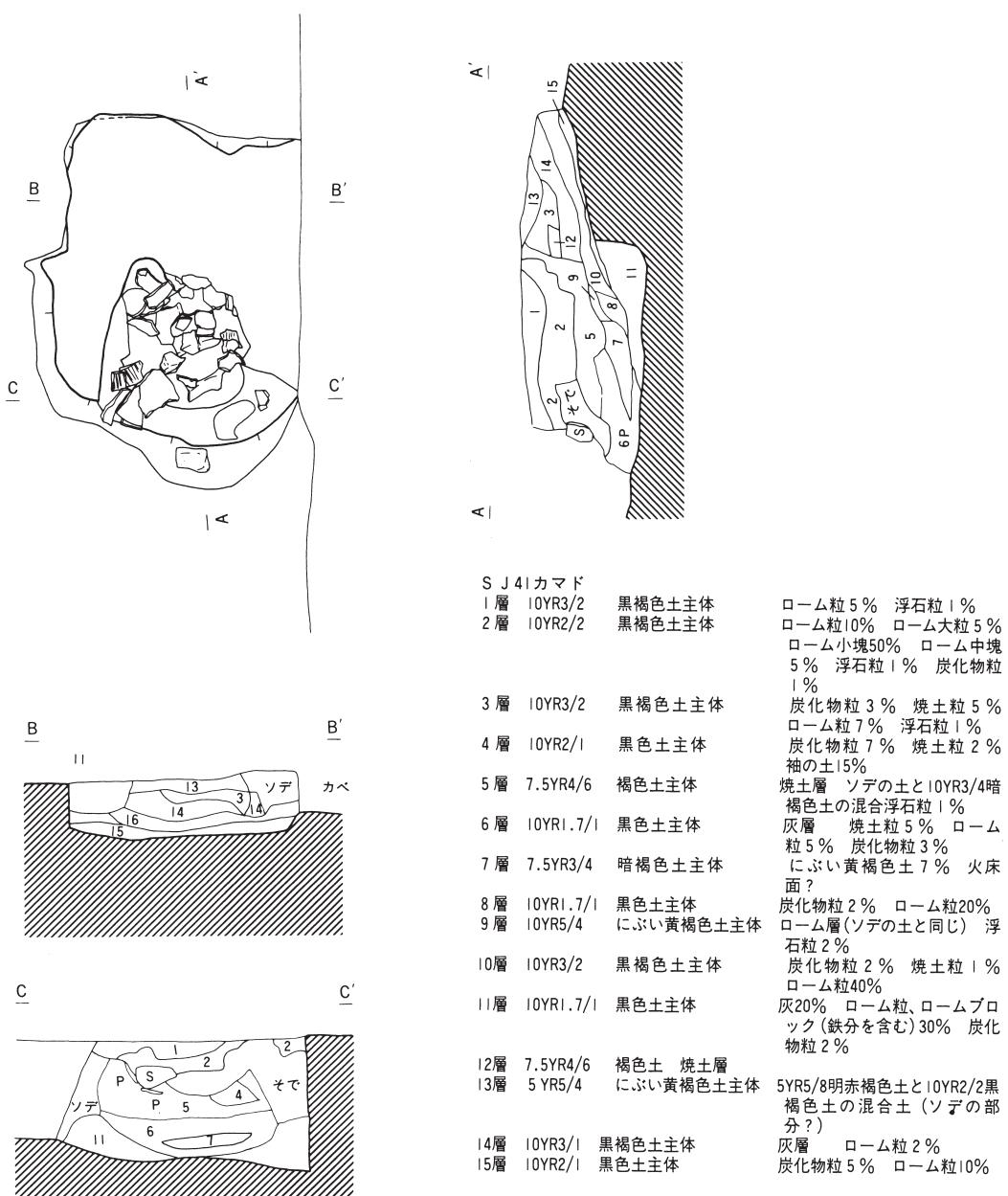


図189 第41号住居跡



S = 1 : 25

図190 第41号住居跡カマド

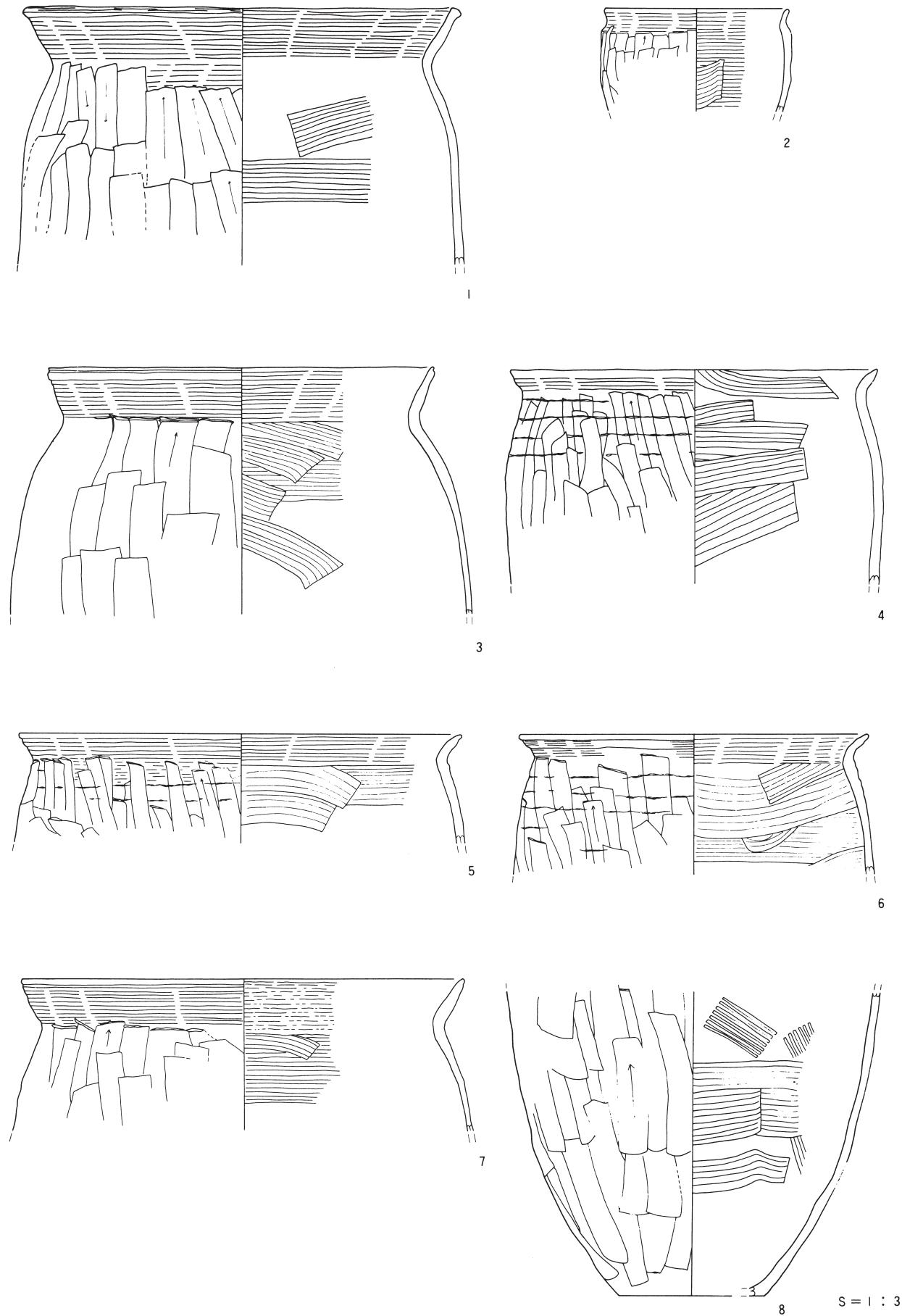


図191 第41号住居跡出土遺物

第42号住居跡

[位置] S-48~49グリッド付近において確認されている。

[重複] 第43号住居跡と重複している。第43号住居跡よりは本住居跡の方が新しい。

[平面形・規模] 住居跡の大半は調査区外および攪乱であるため全貌は不明であるが、平面形はほぼ方形だったものと思われる。西辺は現存部で4.2mを測る。主軸方向はN-13°-Eである。

[壁・床面] 壁面はほぼ垂直に立ち上がる。ほとんどが調査区外なため床面の状態は不明である。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかったが、調査区外に位置するものと思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

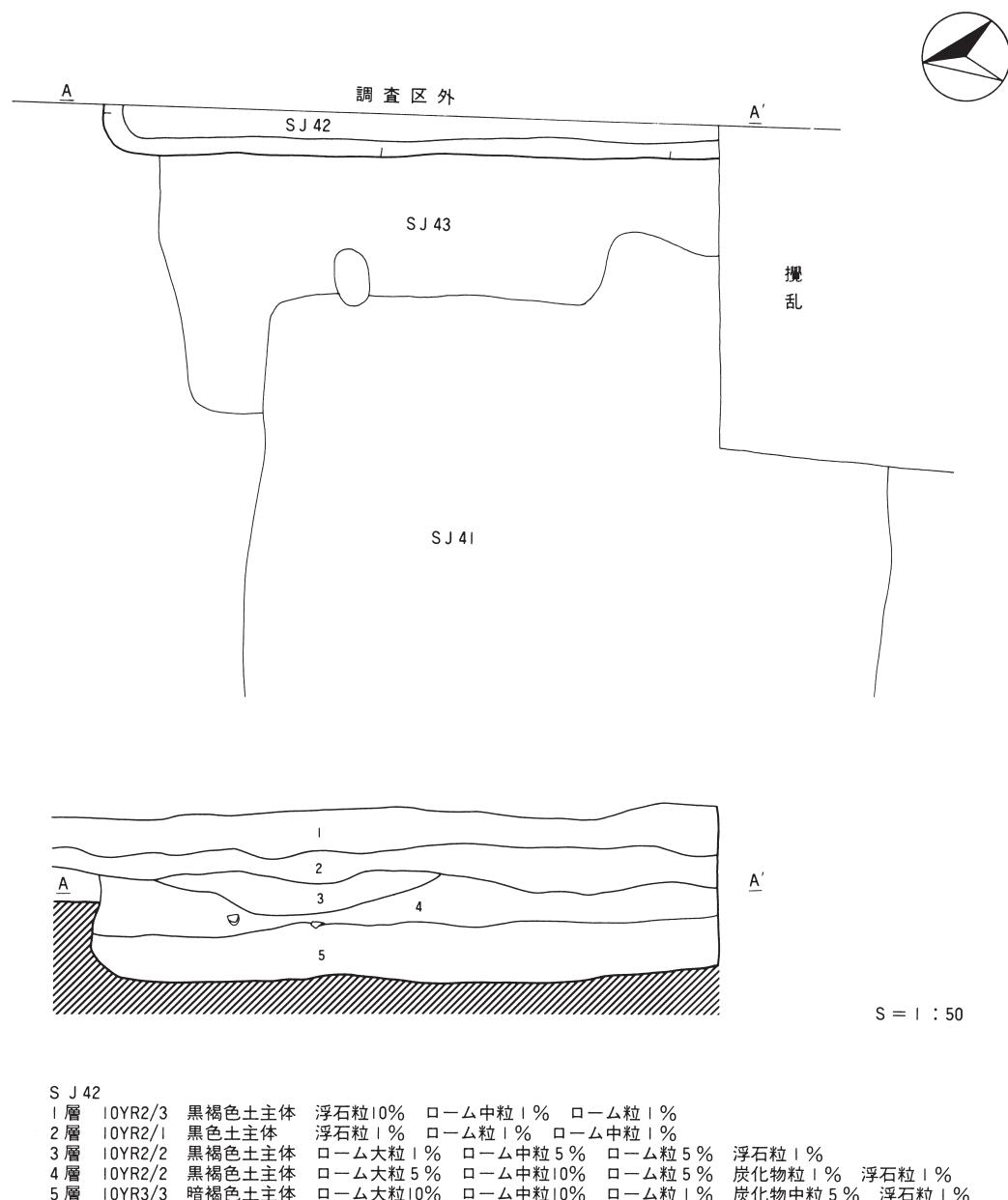


図192 第42号住居跡

第43号住居跡

[位置] S-48~49グリッド付近において確認されている。

[重複] 第41号、第42号住居跡に重複している。両者より本住居跡の方が古い。

[平面形・規模] 東西に他の遺構があり、南側は攪乱されているので全貌は不詳であるが、平面形はほぼ方形になるものと思われる。主軸方向はN-12°-Eである。

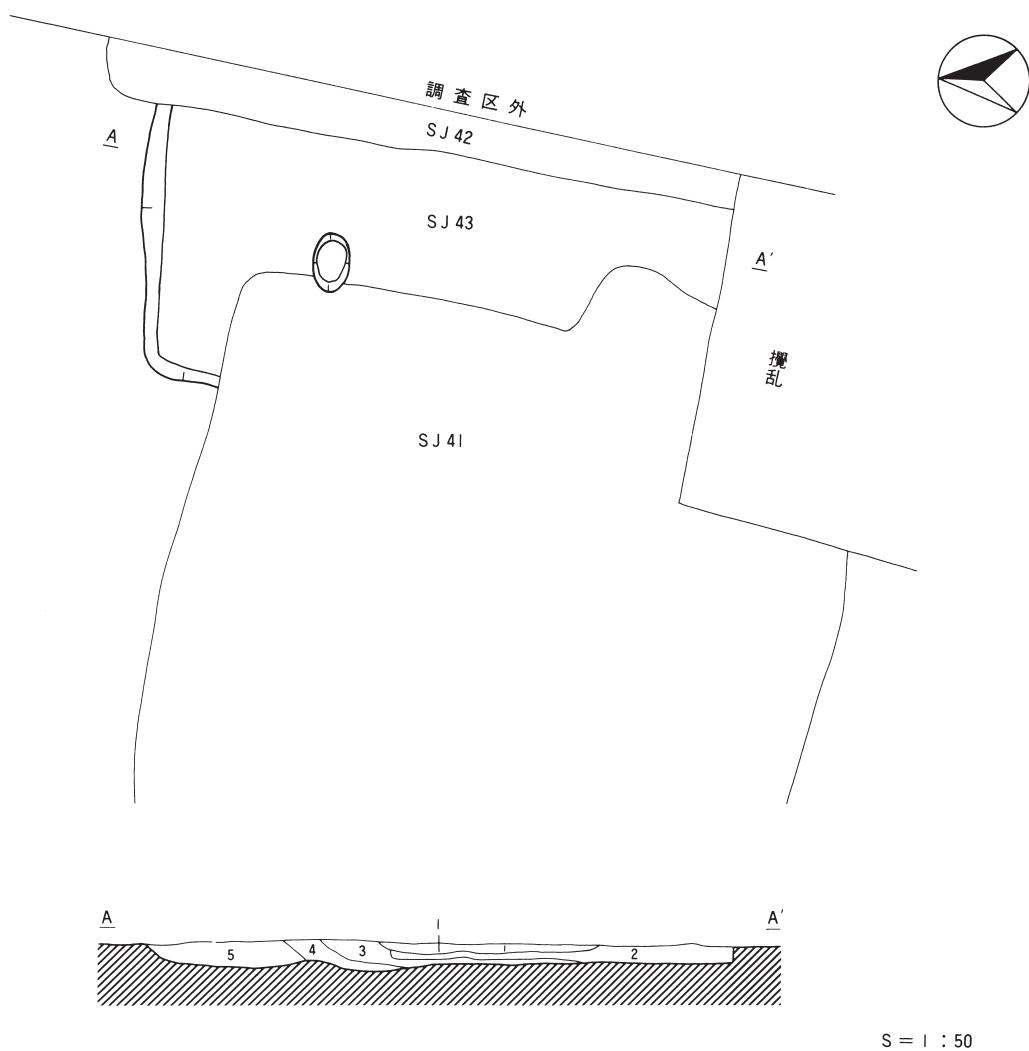
[壁・床面] 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 1基確認されているが、本住居跡に伴う柱穴か否かは明確ではない。

[カマド] 検出されなかった。他の遺構によって削平されたものと思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。



S J 43	
1層	I0YR2/I 黒色土主体 ローム粒 5% ローム中粒 1% 浮石 1% 焼土粒 1%
2層	I0YR2/I 黒色土主体 ローム粒 1% 炭化物中粒 1% I0YR8/I 灰白色土 1% 焼土粒 1%
3層	I0YR2/I 黒色土主体 ローム粒 10% 浮石 1% 黄褐色土が10%
4層	I0YR2/3 黑褐色土主体 ローム粒 5% ローム中粒 1% 暗褐色土粒 10%
5層	I0YR2/I 黒色土主体 ローム粒 1% 浮石 1%

図193 第43号住居跡

第44号住居跡

[位置] V-48~49グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

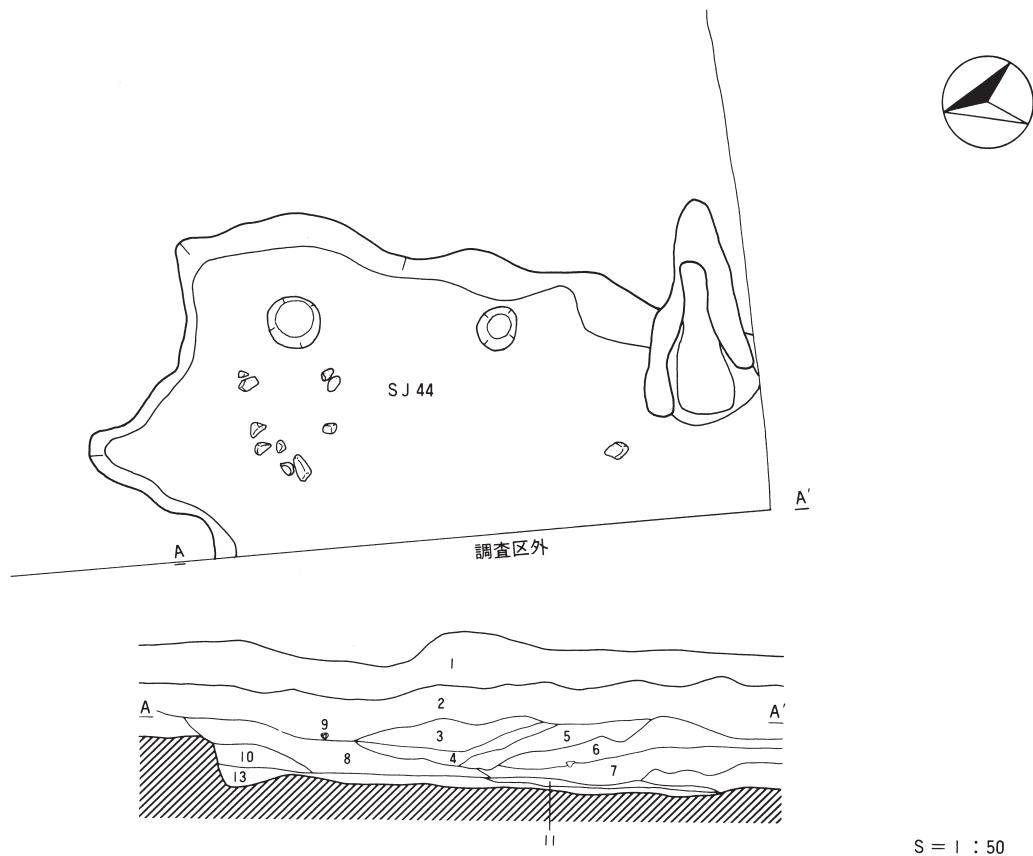
[平面形・規模] 住居跡の西側が調査区外にかかっているため全体は明らかではない。ほぼ方形に近い平面形になることが予想されるが、住居の東壁、北壁は直線的ではない。主軸方向はN-104°-Eである。

[壁・床面] 床面は比較的平坦である。壁は直線的ではなく崩落したような状態を呈する。

[周溝] 検出されていない。

[柱穴・ピット] ピットが2基確認されているが柱穴かどうかは定かではない。

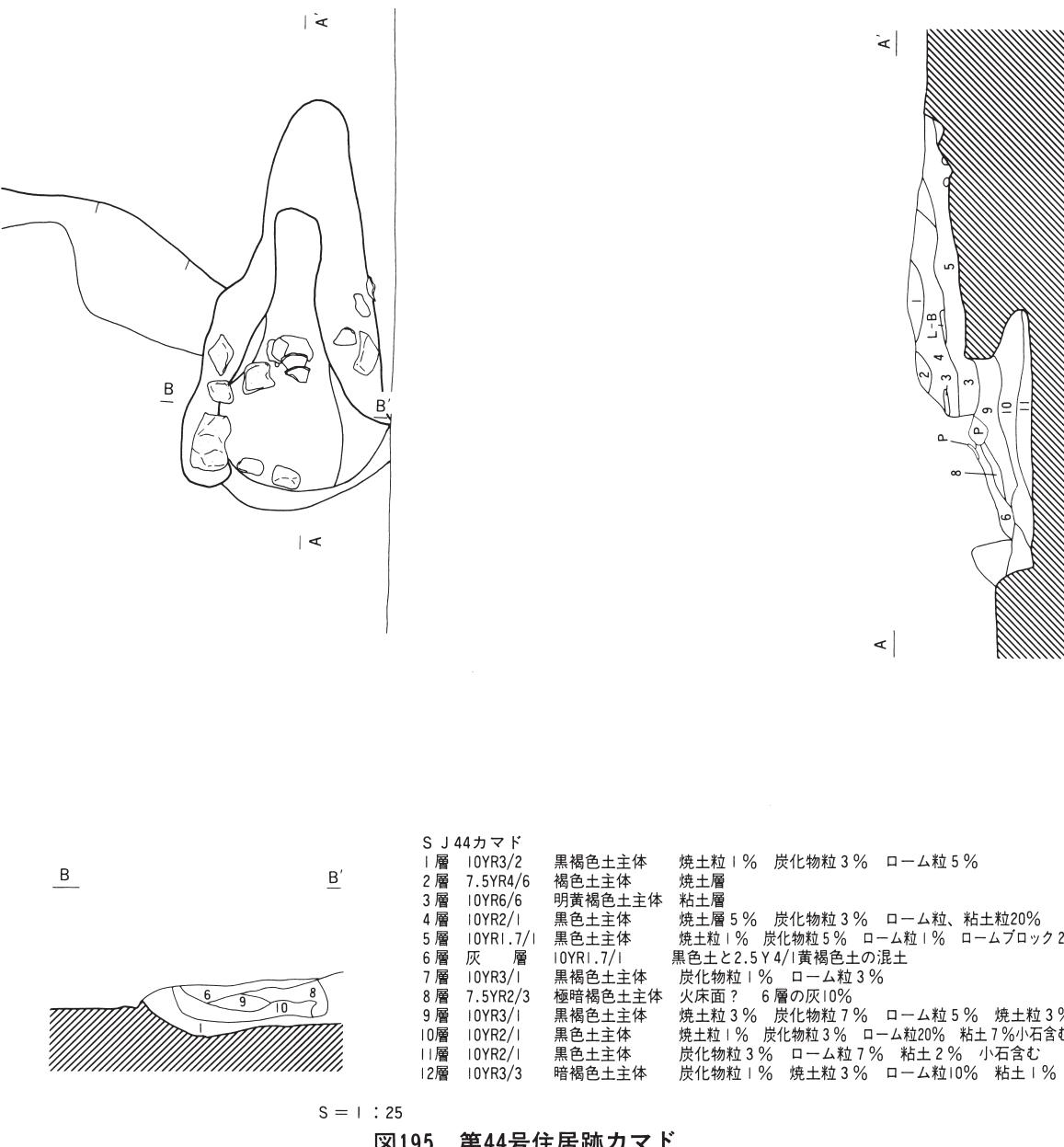
[カマド] 住居跡東壁で確認されている。粘土で構築された袖、火床面が残存している。



S J 44			
1層	I0YR2/2	黒褐色土主体	浮石粒10% ローム粒1%
2層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒、ローム中粒1% 浮石粒1%
3層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム大粒1% ローム中粒1% ローム粒5%
4層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム中粒1% ローム粒5% 浮石粒1%
5層	I0YR4/6	明黄褐色土主体	浮石粒10% 炭化物中粒1% I0YR2/1黒色土5%
6層	I0YR3/2	黒褐色土主体	ローム粒1% ローム中粒5% ローム小塊5% ローム中塊1% 浮石粒1% 炭化物中粒1%
7層	I0YR2/1	黒色土主体	ローム粒5% ローム中粒5% 浮石粒1%
8層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒10% 炭化物中粒1%
9層	I0YR6/6	明黄褐色土主体	I0YR3/2 黒褐色土50% しまりあり
10層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム大粒5% 炭化物粒1%
11層	I0YR3/2	黒褐色土主体	I0YR7/6明黄褐色土70%混入 浮石粒1% ローム粒10% しまりあり
12層	I0YR2/2	黒褐色土主体	ローム粒1% ローム中粒1% 焼土粒1%
13層	I0YR3/1	黒褐色土主体	ローム中粒10% ローム粒1% 焼土粒1% 浮石1%

図194 第44号住居跡

[遺物] カマド等から土師器の坏、甕が出土している。また、鉄斧等の鉄製品も出土している。6の鉄製品は出土時点では錆びのため解らなかったが、X線写真を撮影したところ一端が吊り鉤状を呈していることから、鉄鐸の舌である可能性も考えられる。



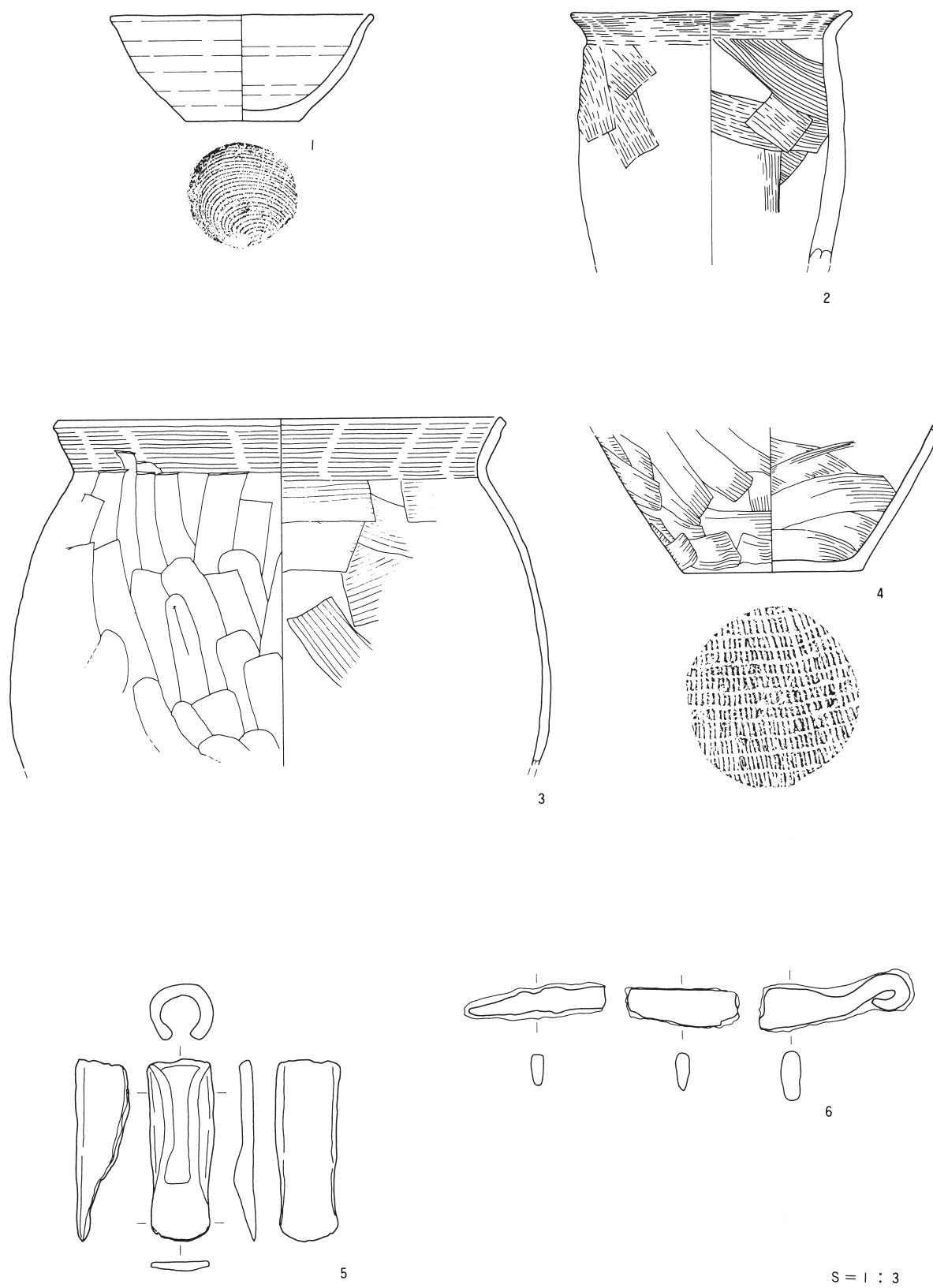


図196 第44号住居跡出土遺物

第45号住居跡

- [位置] V-39～39グリッド付近において確認されている。
- [重複] 第19号、23、24号住居跡、第3号溝跡と重複している。いずれの遺構よりも古い。第19号住居跡の床面下から検出されている。
- [平面形・規模] 住居跡西側が調査区外で南側は第26号住居跡に切られているため全貌は不詳であるが、平面形は方形のようである。主軸方向はN-99°-Eである。
- [壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [周溝] 検出されなかった。
- [柱穴・ピット] 検出されなかった。
- [カマド] 住居跡東壁で確認されたが、第19号住居跡の構築によってカマドの上半部が、第23号住居跡の構築によってカマドの東端付近が削平されている。
- [遺物] 土師器甕の破片等が出土している。

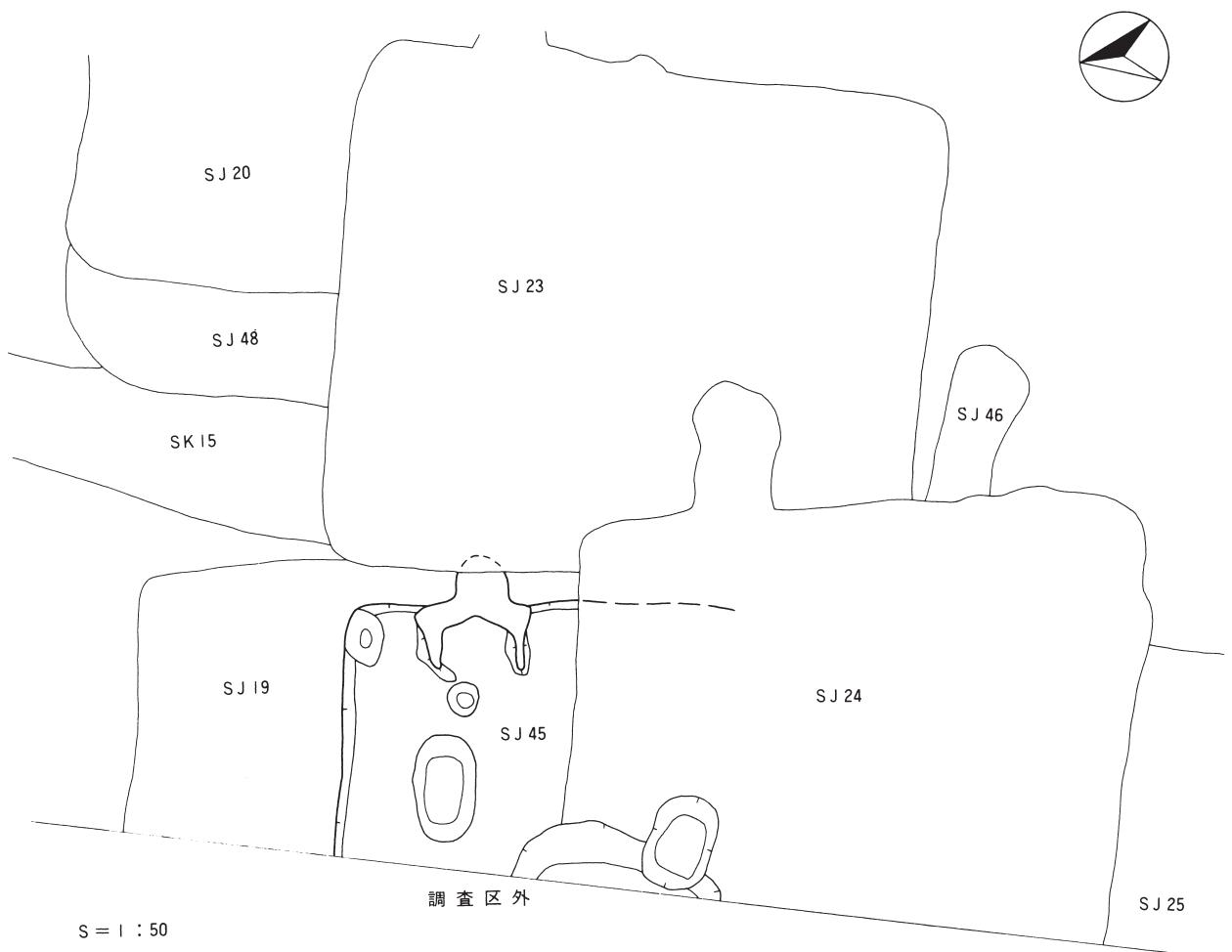


図197 第45号住居跡

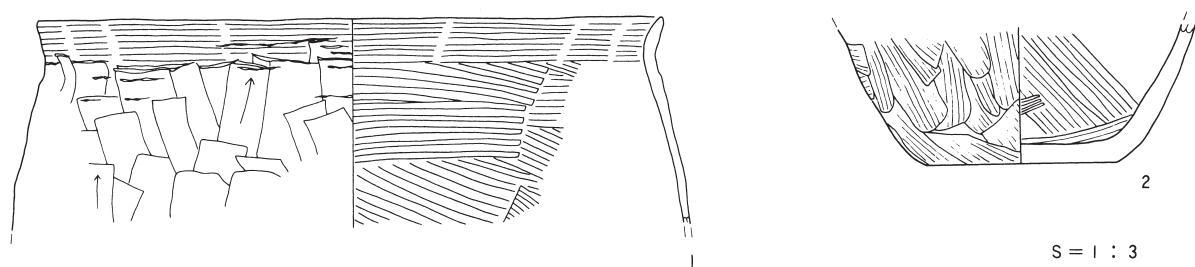


図198 第45号住居跡出土遺物

第46号住居跡

[位置] V-39グリッド付近において確認されている。

[重複] 第24号住居跡と重複している。

[平面形・規模] カマドの煙道部のみが残存している程度なので平面形、規模は不詳である。主軸方向はN-110°-Eである。

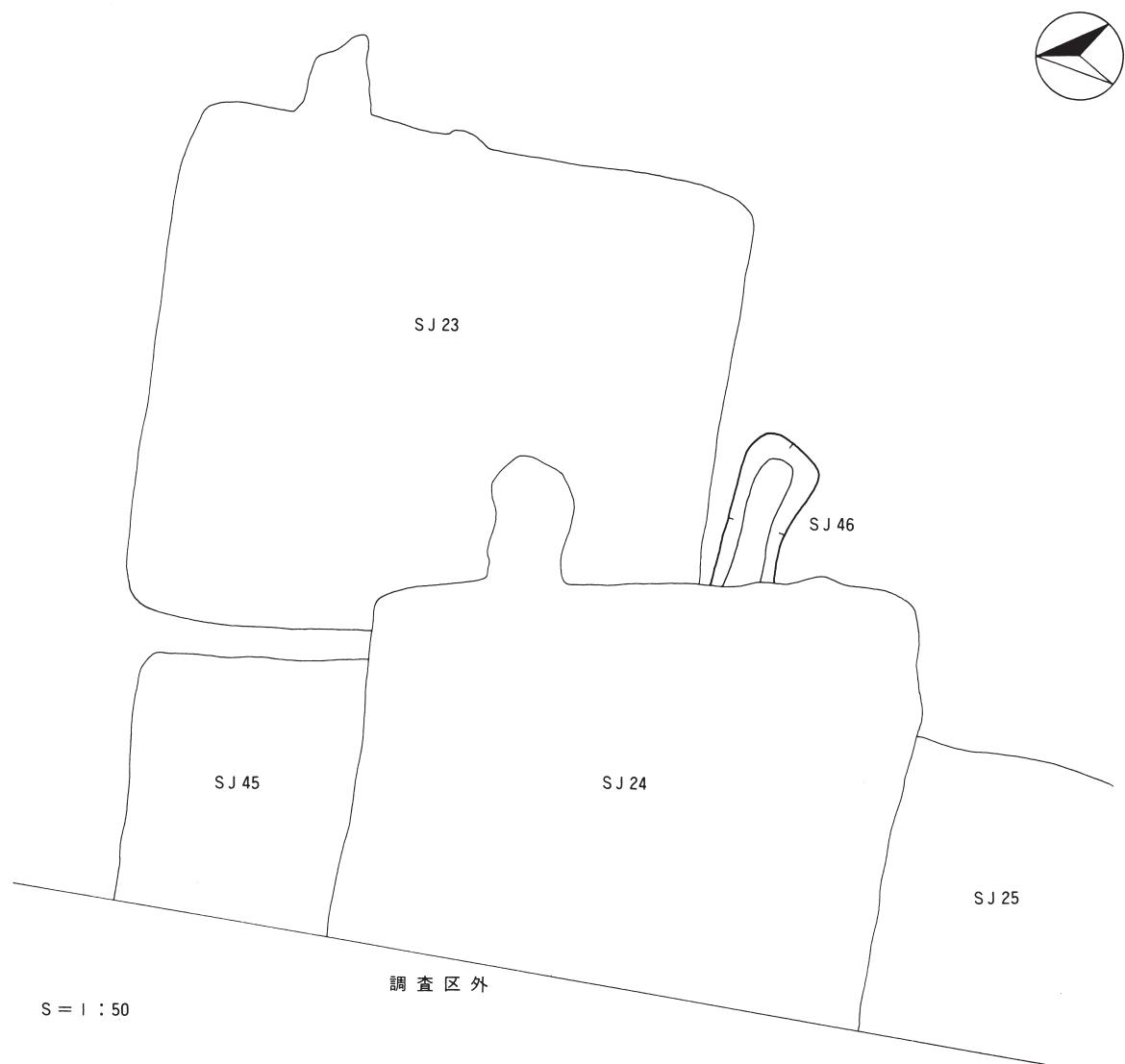


図199 第46号住居跡

[壁・床面・周溝・柱穴・ピット] 検出されていない。

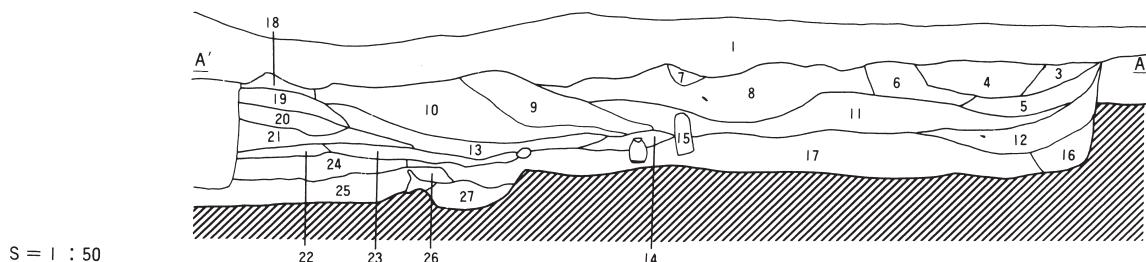
[カマド] 煙道部のみ確認されたが、住居東壁に位置していたものと思われる。焼土が若干確認されている。

[遺物] 出土していない。

第47号住居跡

[位置] V-42~43グリッド付近において確認されている。

[重複] 第26号住居跡、第26、48、53号土坑と重複している。土坑との切り合いは不明確であるが、第26号住居跡よりは古いようである。



SJ 47 1層 I0YR3/3	暗褐色土主体 浮石粒1% 炭化物中粒ごく微量 ローム粒1% 焼土粒ごく微量	I0YR2/2 黒褐色土主体 ローム小塊1% 岩板状30mm×幅2~2.5mmと30mm×幅2mm
2層 I0YR2/2	黒褐色土主体 I0YR5/6 黃褐色土5%混入 ローム中粒1% ローム小塊ごく微量 浮石粒ごく微量	I0YR2/2 黒褐色土主体 ローム中粒1% 焼土粒ごく微量
3層 I0YR2/3	黒褐色土主体 燒土中粒ごく微量 ローム粒1% 焼土粒1% ローム大粒1%ローム中粒1% 烧土粒ごく微量	I0YR3/4 暗褐色土主体 ローム大粒1% ローム中粒1% 焼土粒ごく微量
4層 I0YR2/3	黒褐色土主体 燒土粒ごく微量 浮石粒ごく微量	I0YR5/6 黃褐色土主体 白色ローム中粒ごく微量
5層 I0YR2/2	黒褐色土主体 ローム小塊ごく微量 ローム大粒10% ローム中粒5% ローム粒10% 浮石粒ごく微量	I0YR3/3 暗褐色土主体 ローム粒10% ローム中粒1% 焼土粒ごく微量
6層 I0YR2/2	黒褐色土主体 ローム粒1% 浮石粒ごく微量 炭化物粒ごく微量 燒土粒ごく微量	I0YR3/3 暗褐色土主体 ローム大粒10% ローム粒5% 炭化物粒ごく微量
7層 I0YR3/3	暗褐色土主体 ローム大粒ごく微量 炭化物粒ごく微量 燒土粒ごく微量	I0YR2/2 黒褐色土主体 ローム大塊1% ローム粒5% 炭化物5%
8層 I0YR3/3	暗褐色土主体 ローム大粒1% ローム中粒5% ローム粒10% 燒土粒1% 炭化物中粒1% 烧土中粒ごく微量	I0YR8/3 浅黃橙色土主体 ローム大塊1% ローム大粒5% 炭化物5%
9層 I0YR3/3	暗褐色土主体 ローム中粒1% 烧土中粒ごく微量 炭化物粒1% 烧土中粒1% 炭化物中粒1%	I0YR2/2 黒褐色土主体 燒土大塊3つ ロームブロック1つ ローム粒20%
10層 I0YR3/1	黒褐色土主体 ローム大粒1% ローム中粒10% ローム粒5% 燒土中粒1% 炭化物中粒1% 烧土中粒ごく微量	I0YR2/2 黒褐色土主体 ローム粒20% 烧土粒10% 炭化物10%
11層 I0YR3/4	暗褐色土主体 ローム大粒10% ローム小塊1% ローム中塊10% ローム粒5% 烧土粒ごく微量	I0YR6/1 褐灰色土主体 燒土粒30% 黑褐色土10%
		I0YR3/4 暗褐色土主体 ローム粒10% ローム中塊1% ローム小塊5%

図200 第47号住居跡

[平面形・規模] 大半が調査区外であることと、他の遺構との切り合いが激しいため全貌は不詳である。主軸方向はN-100°-Eである。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 平面で確認することはできなかったが、調査区境界の断面にカマドの構築材と思われる粘土が観察されることから、カマドは住居跡東辺にあったものと推測される。

[遺物] カマド周辺からほぼ完形の土師器甕が出土している。

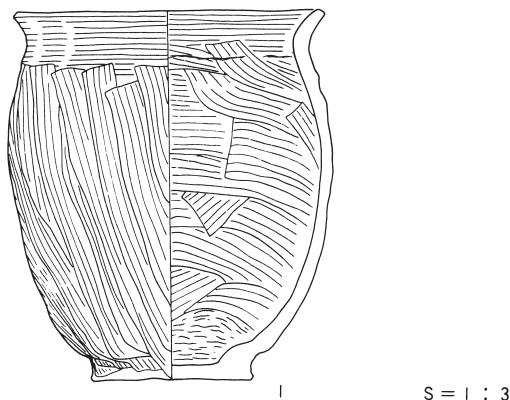


図201 第47号住居跡出土遺物

第48号住居跡

[位置] U-38グリッド付近において確認されている。

[重複] 第20、23号住居跡、第15号土坑、第3号溝跡と重複している。本住居跡はそれより古いものと思われる。

[平面形・規模] 住居北西角付近が確認されている程度なので規模は不詳であるが、ほぼ方形であったようである。主軸方向はN-10°-Eである。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。他の遺構構築時に削平されたものと思われる。

[遺物] 出土していない。

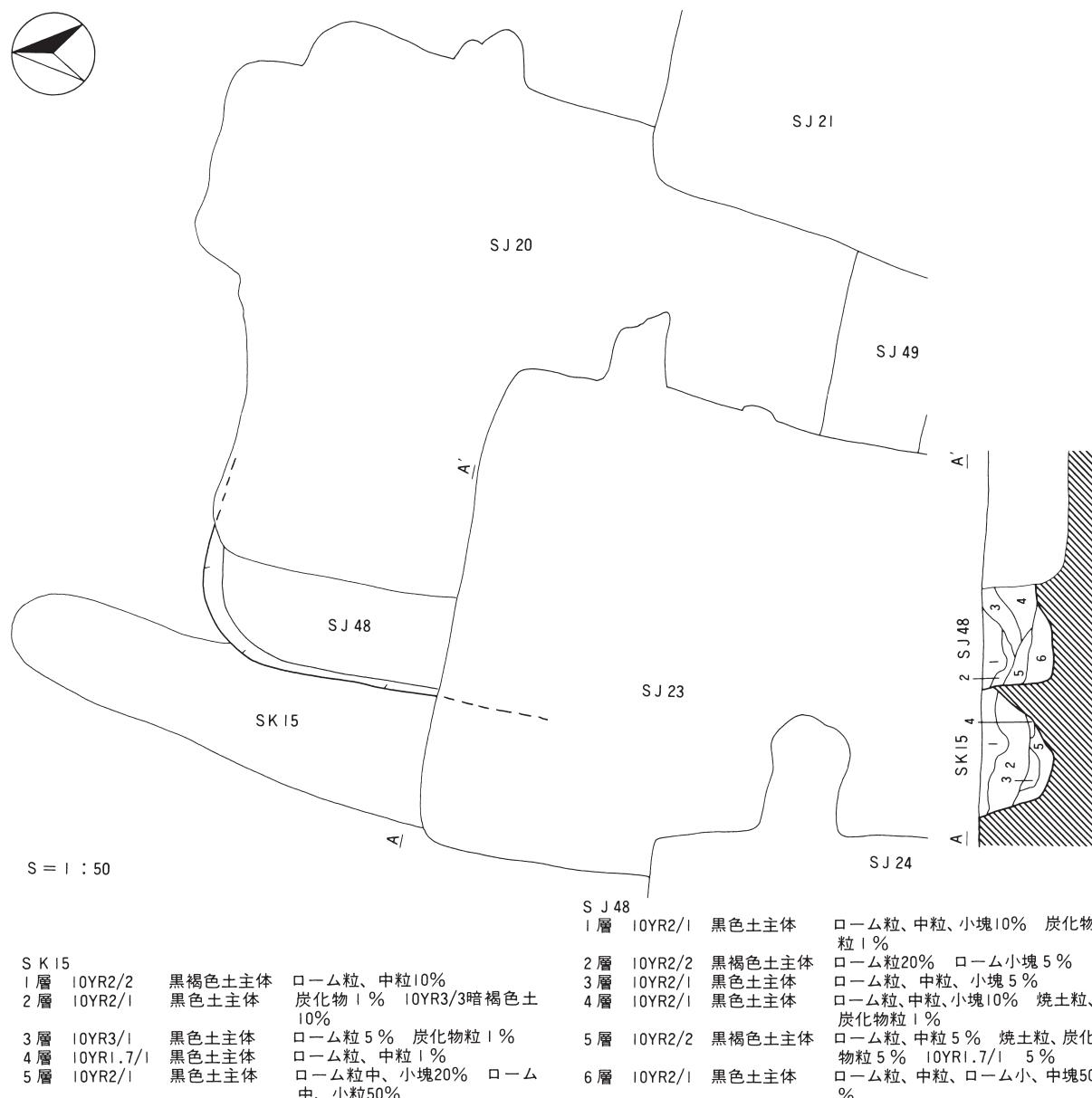


図202 第48号住居跡

第49号住居跡

- [位置] U-39グリッド付近において確認されている。
- [重複] 第20、21、23号住居跡と重複している。本住居跡の方がそれらのいずれよりも古い。
- [平面形・規模] 他の遺構と重複しているため全貌は不詳であるが、平面形はほぼ方形であったものと思われる。主軸方向はN-104°-Eである。
- [壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [周溝] 検出されていない。
- [柱穴・ピット] 検出されていない。
- [カマド] 検出されていないが他の遺構構築時に削平されたものと思われる。
- [遺物] 出土していない。

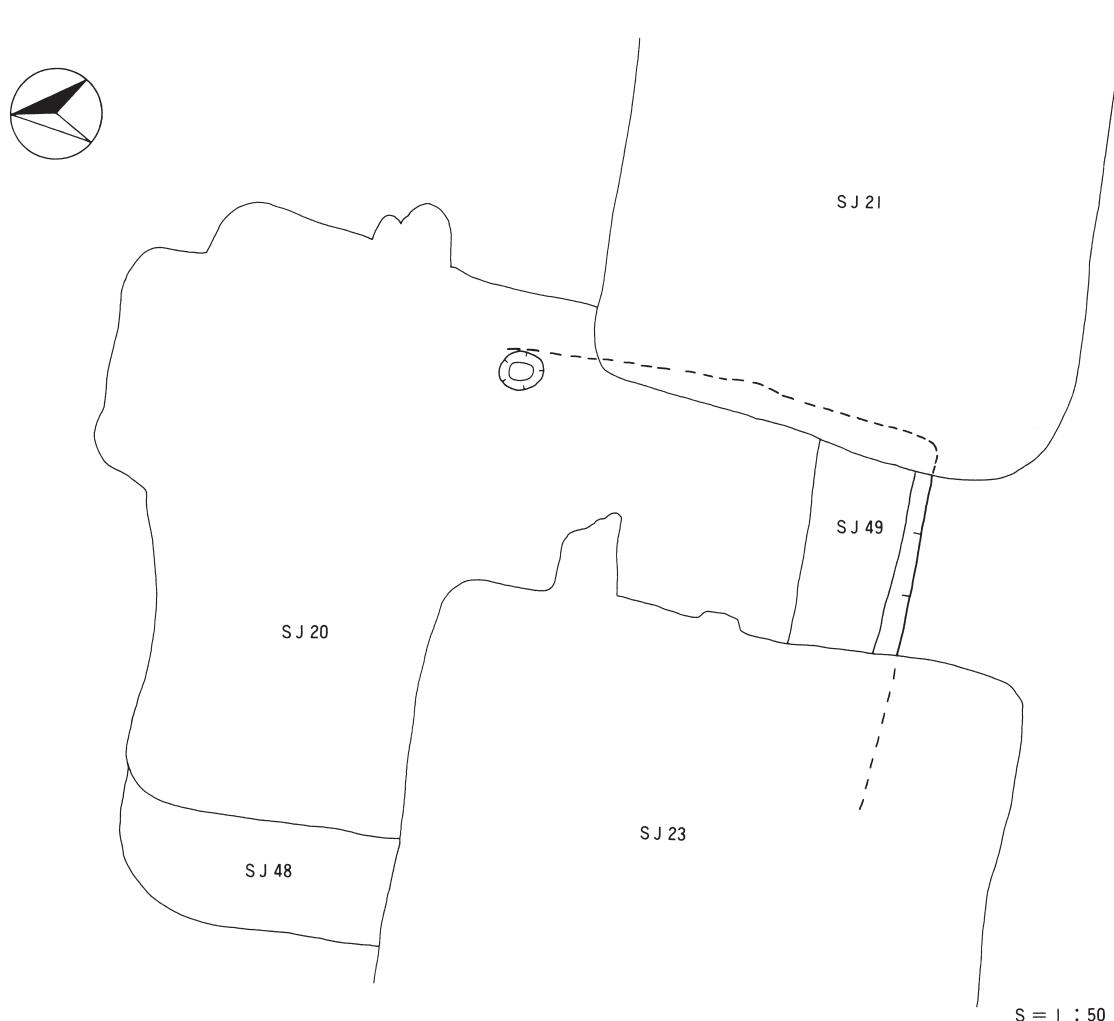


図203 第49号住居跡

第50号住居跡

[位置] R-33グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 北側は攪乱、東側は調査区外であるため規模は不詳であるが、平面形は方形と思われる。

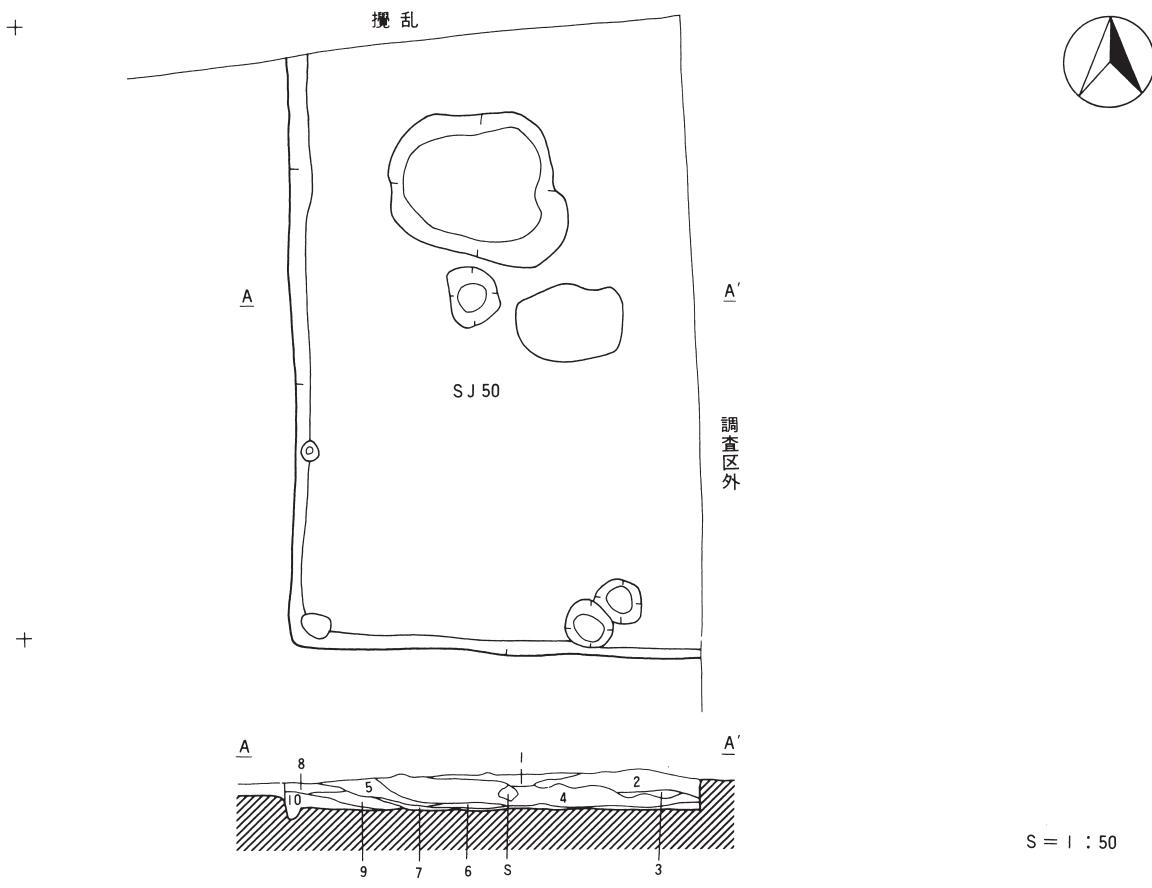
[壁・床面] 現町道の直下に位置するため著しく削平されており、幸うじて床面が残存している程度である。

[周溝] 検出されていない。

[柱穴・ピット] 数基の小穴が確認されているが、柱穴か否かは不明確である。

[カマド] 確認されていないが、調査区外または攪乱部にあったことが予想される。

[遺物] 木質部が残る刀子と思われる鉄製品が出土している。



S J 50
 1層 I0YR2/3 黒褐色土主体 ローム粒1% 小レキ(3~5mm) 1%
 2層 I0YR2/2 黒褐色土主体 ローム小塊10% ローム中塊5% I0YR1.
 7/I 黒色土大塊 30%
 3層 I0YR3/4 暗褐色土主体 ローム小塊5% 炭化物1% ローム粒5% I0YR1.7/I 黑色土粒1%
 4層 I0YR3/2 黒褐色土主体 ローム粒10% ローム小塊10% ローム中塊5% ローム大塊20%
 I0YR1.7/I 黑色土大塊 5% 7.5YR3/4暗褐色焼土小塊1%
 5層 I0YR3/3 暗褐色土主体 ローム粒10% 7.5YR3/4暗褐色焼土粒1%

6層 I0YR3/2 黒褐色土主体 ローム粒50% I0YR1.7/I 黑色土粒 5%
 7層 I0YR2/1 黒色土主体 ローム粒10% ローム小塊10% 7.5YR5/6
 明黄褐色焼土 小塊1%
 8層 I0YR2/3 黒褐色土主体 ローム粒10% I0YR1.7/I 黑色土粒 5%
 9層 I0YR3/3 暗褐色土主体 ローム粒10% I0YR1.7/I 黑色土粒 5%
 10層 I0YR3/2 黑褐色土主体 ローム粒10% I0YR1.7/I 黑色土粒10%
 ローム小塊 5% 5 YR3/6暗赤褐色焼土粒1%

図204 第50号住居跡

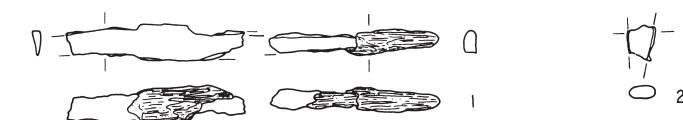


図205 第59、60号住居跡出土遺物

第51号住居跡

[位置] U～V-34グリッド付近において確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は長方形で南北約3.3、東西2.8mを測る。

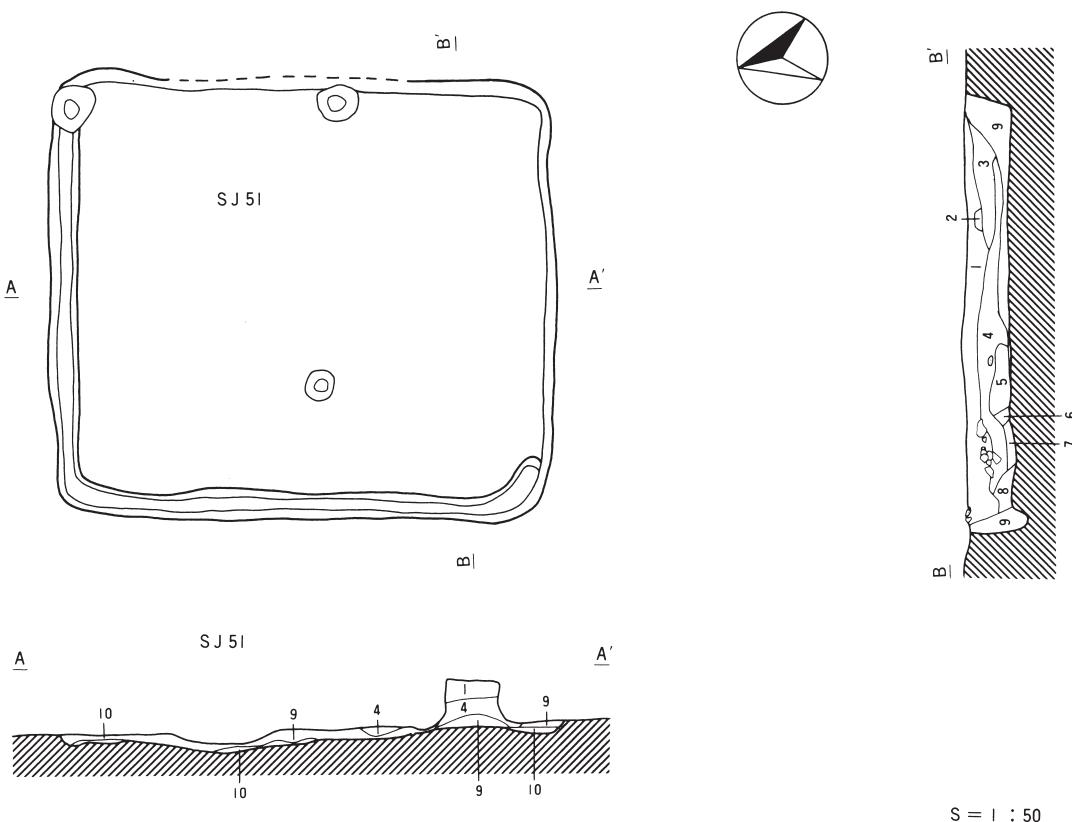
[壁・床面] 現町道およびその側溝の直下に位置するため削平が顕著である。町道部分と側溝部分の間がベルト状に遺存しておりそこから遺物が出土している。そこ以外は床面が辛うじて残存している程度である。場所によっては壁が確認できない。

[周溝] 住居跡北壁から西壁にかけて確認されている。他の壁にも周溝が巡っていたことが予想されるが削平のため確認できない。

[柱穴・ピット] 柱穴状の小穴が3基確認されている。

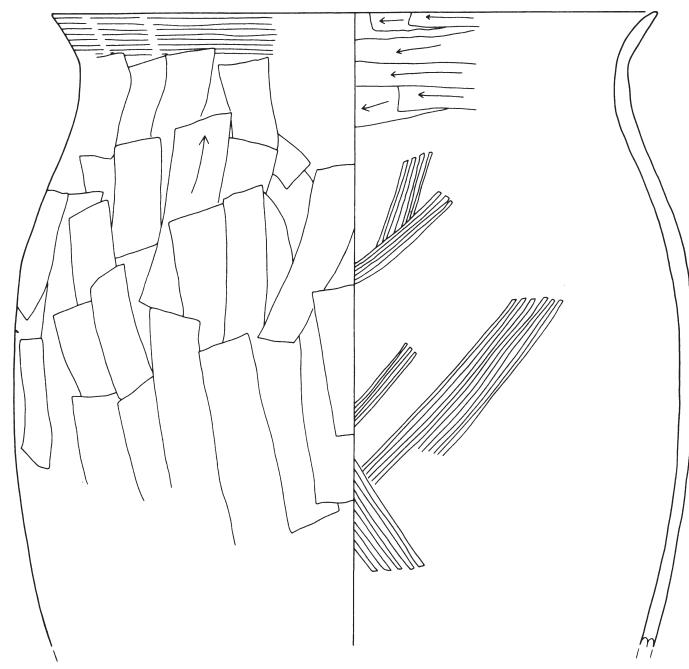
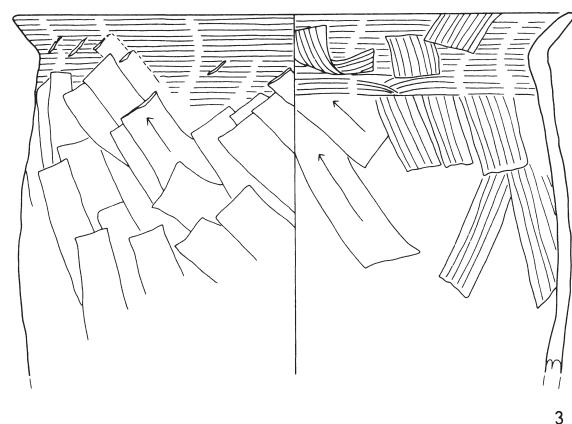
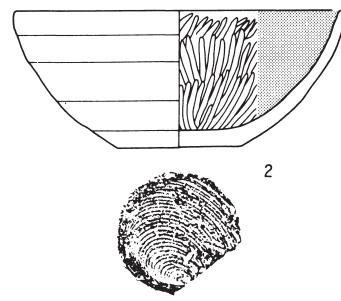
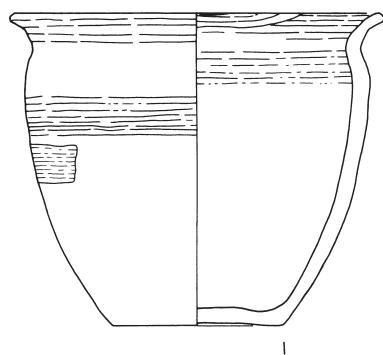
[カマド] 確認されていない。住居東壁の削平部分にカマドがあった可能性が高い。

[遺物] 土師器甕等が出土している。



S J 51		
1層	I0YR2/2 黒褐色土主体	ロームブロック、ローム粒20% 炭化物、焼土粒1%
2層	I0YR1.7/I 黒色土主体	ローム粒2%
3層	I0YR2/2 黒褐色土主体	ローム粒50% ロームが層状に混入 炭化物2% 焼土粒5% 小レキ2
4層	I0YR3/4 黒褐色土主体	ローム粒5% 炭化物5% 焼土粒10%
5層	7.5YR4/6 褐色焼土主体	I0YR2/I黒色土5%混入 焼土塊1% 炭化物1%
6層	I0YR2/3 黑褐色土主体	ローム粒10% 炭化物1% 焼土粒1%
7層	I0YR2/3 黑褐色土主体	40%は砂質土 焼土粒1%
8層	I0YR1.7/I 黒色土主体	ローム粒1% 9層 I0YR2/2 黑褐色土主体 ローム粒25% 炭化物1% 焼土粒1%

図206 第51号住居跡



4

S = 1 : 3

図207 第51号住居跡出土遺物

第52号住居跡

[位置] S-33グリッド付近において確認されている。

[重複] 第53号住居跡と重複する。本住居跡の方が古いものと思われる。

[平面形・規模] 現町道およびその側溝の直下に位置するため、攪乱、削平の影響で規模は不詳であるがほぼ方形になるものと思われる。

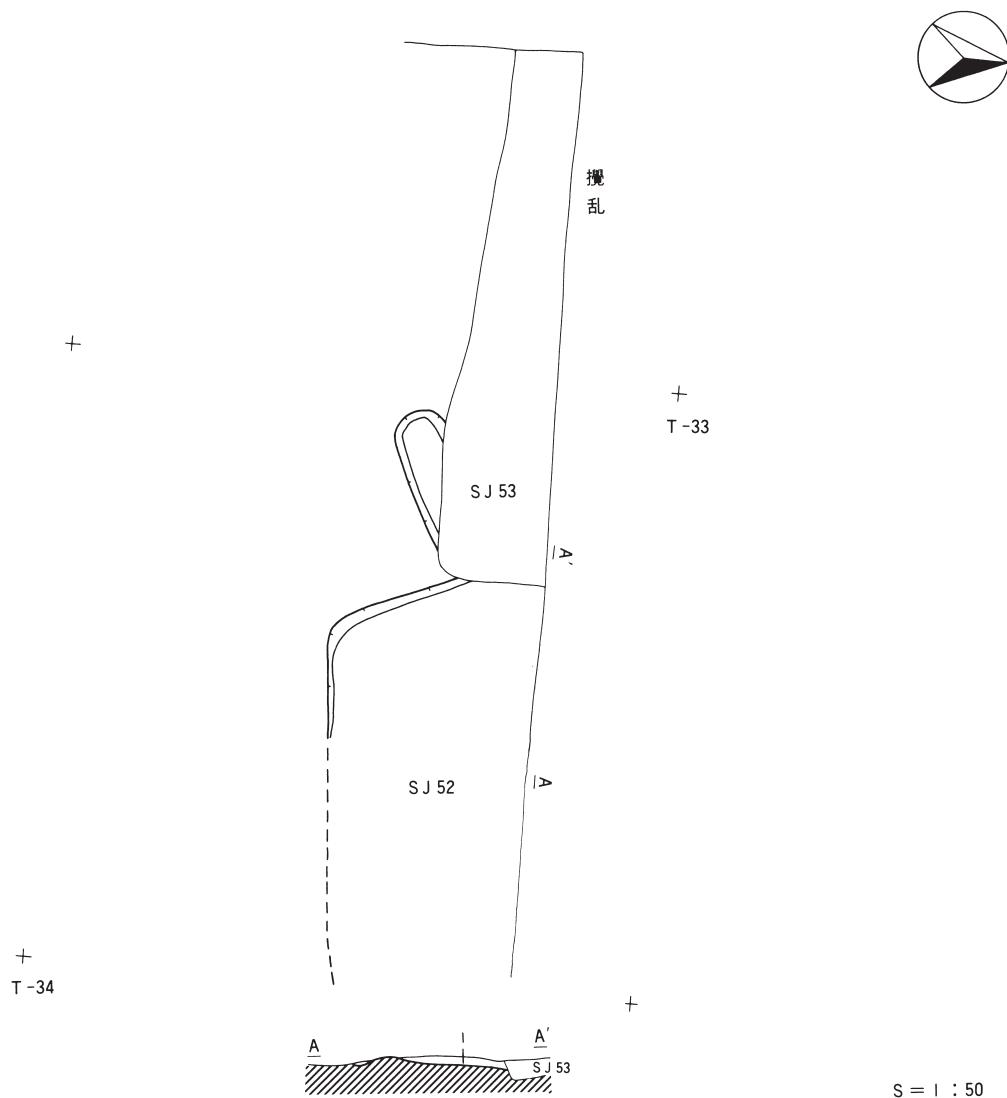
[壁・床面] 床面が部分的に識別できる程度で全体的に遺存状態は極めて悪い。

[周溝] 検出されなかった。

[柱穴・ピット] 検出されなかった。

[カマド] あまり明確ではないが住居西壁に煙道部が認められる。

[遺物] 出土していない。



S J 52
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土主体 ローム中粒40% ローム粒20% 黒色土20% ローム小塊10%

図208 第52号住居跡

第53号住居跡

[位置] S～T-33グリッド付近において確認されている。

[重複] 第52号住居跡と重複している。本住居跡の方が新しいものと思われる。

[平面形・規模] 現町道およびその側溝の直下に位置するため、攪乱、削平の影響で規模は不詳であるが、一辺約5.5m程度のほぼ方形になるものと思われる。

[壁・床面] 床面というよりも掘り方で住居の範囲が識別された。従って本来の床面、壁面の状態は不明である。

[周溝] 検出されていない。

[柱穴・ピット] 検出されていない。

[カマド] 検出されていない。攪乱部分にあったものと思われる。

[遺物] 出土していない。

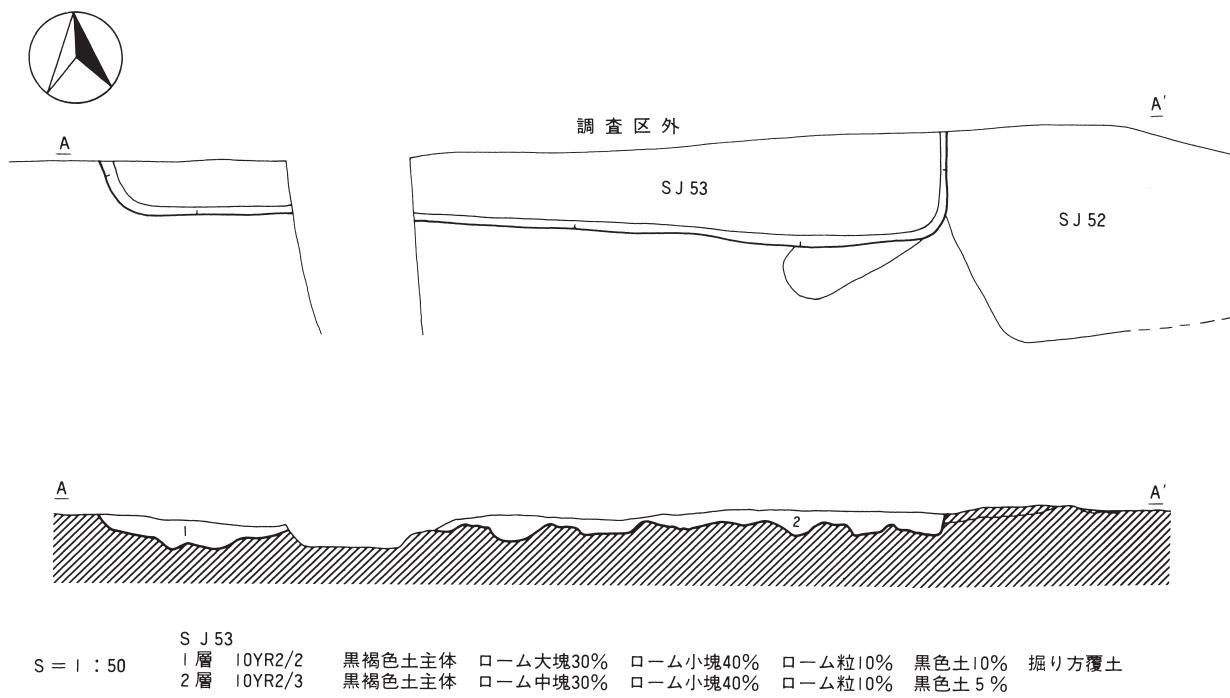


図209 第53号住居跡

第55号住居跡

[位置] W～X-34グリッド付近において確認されている。

[重複] 第7、8、57号住居跡と重複している。本住居跡は第8、57号住居跡より新しく、第7号住居跡より古い。

[平面形・規模] 西側は調査区外にかかり、北側は他の住居跡と重複しているため全貌は不明であるが、ほぼ方形になるものと思われる。

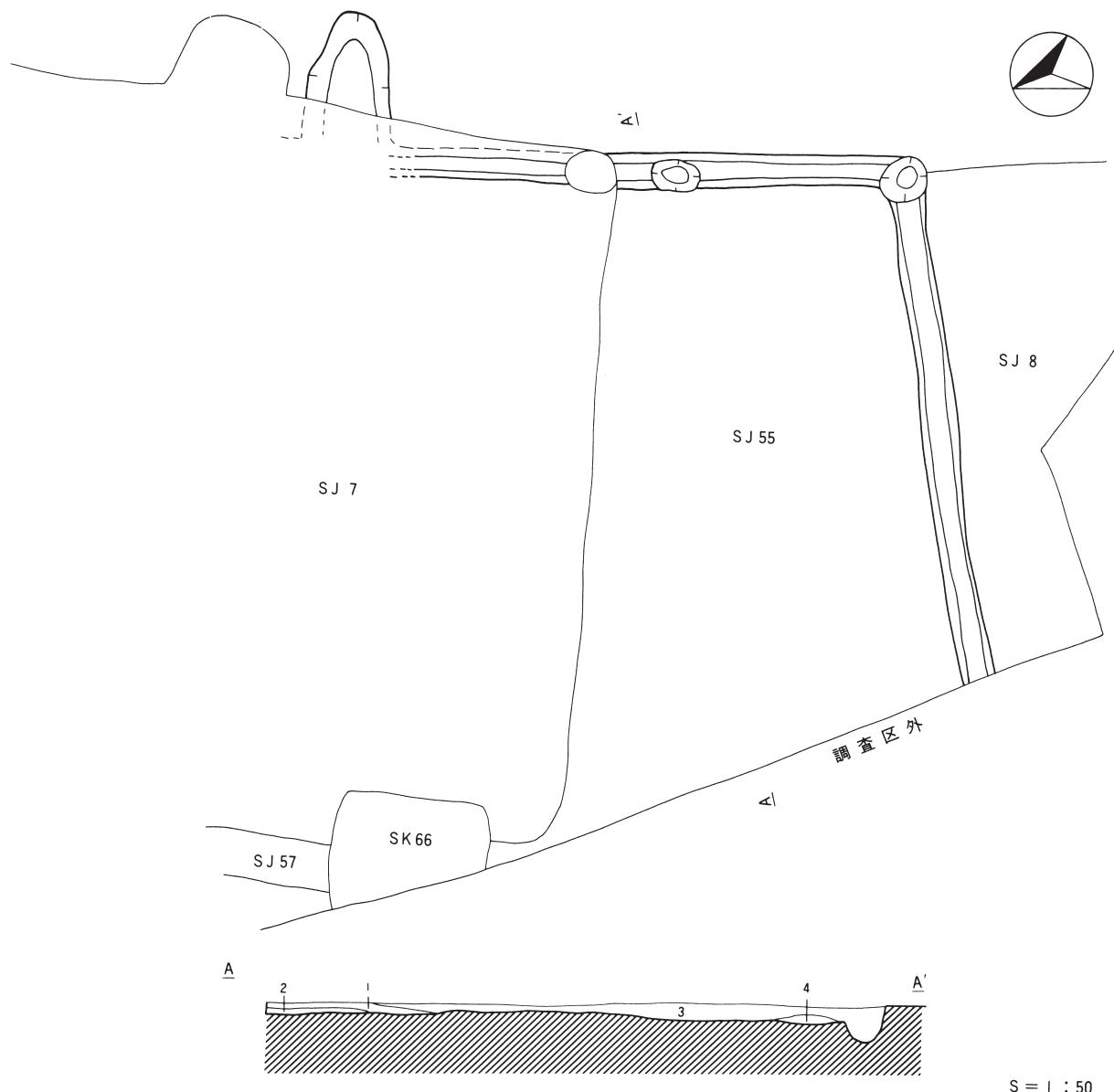
[壁・床面] 現町道による削平と、他の住居跡との重複により遺存状態は極めて悪く、周溝とカマドの存在によって住居跡が識別された。

[周溝] 住居跡が検出できた範囲内で確認されていることから、ほぼ全周に巡っていたものと類推される。

[柱穴・ピット] 住居南東角から検出されていることから、各角に柱穴が配置されていたことが予想される。

[カマド] 住居東壁で確認されているが、西側が第7号住居跡に切られ、上部は現町道によって削平されているため遺存状態は悪い。

[遺物] 土師器壺、甕、鉄製品等が出土しているが、遺構の重複が激しいため、本住居跡に伴うものかどうかは必ずしも明らかではない。



S J 55
 1層 I0YR6/2 灰黄褐色土
 2層 I0YR3/2 黒褐色土主体 ローム粒 5% ローム小塊 10% 焼土粒 1%
 3層 I0YR2/1 黒色土主体 ローム粒 5% 浮石小塊 (径 3mm) 炭化物小塊 (径 5mm) 1% 焼土粒 1%
 4層 I0YR2/2 黒褐色土主体 粘土を板状に含む (厚さ 5~10mm) 焼土小塊 (径 5mm) 1% 粘土部分よくしまる (貼床か?)

図210 第55号住居跡

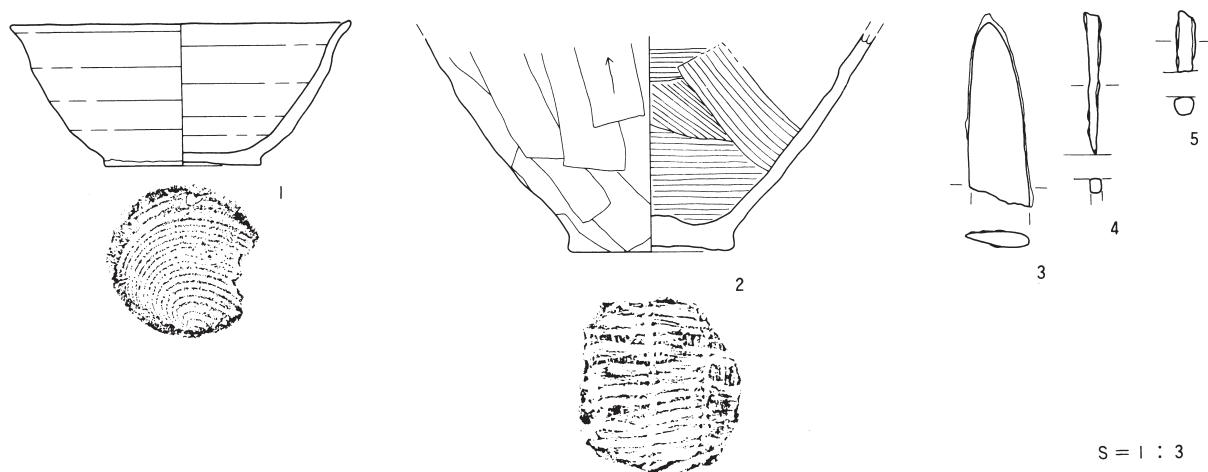


図211 第55号住居跡出土遺物

第57号住居跡

[位置] W～X-33～24グリッド付近において確認されている。

[重複] 第7、8、55号住居跡及び第66号土坑と重複している。本住居跡は第8号住居跡より新しく、第7、55号住居跡、第66号土坑よりは古い。

[平面形・規模] 本住居跡は北側が第7号住居跡に切られ、西側が調査区外にかかるため、検出できたのは住居南東側と、北西角付近のみであるが、一辺約5.1m程度の方形になるようである。

[壁・床面] 他の遺構との重複や現町道による削平のため、壁、床面とも遺存状態は悪く、住居の範囲は周溝とカマドの存在で確認できた。

[周溝] 検出された範囲から類推してほぼ全周に巡っていたものと思われる。

[柱穴・ピット] 住居北西角で確認されている。南東角では確認できなかったが、各角に柱穴が配置されていた可能性がある。

[カマド] 住居跡東壁で確認されているが、他の遺構との重複や現町道の削平により遺存状態は悪い。

[遺物] 土師器壺、甕の他に刀子、鉄塊などが出土している。

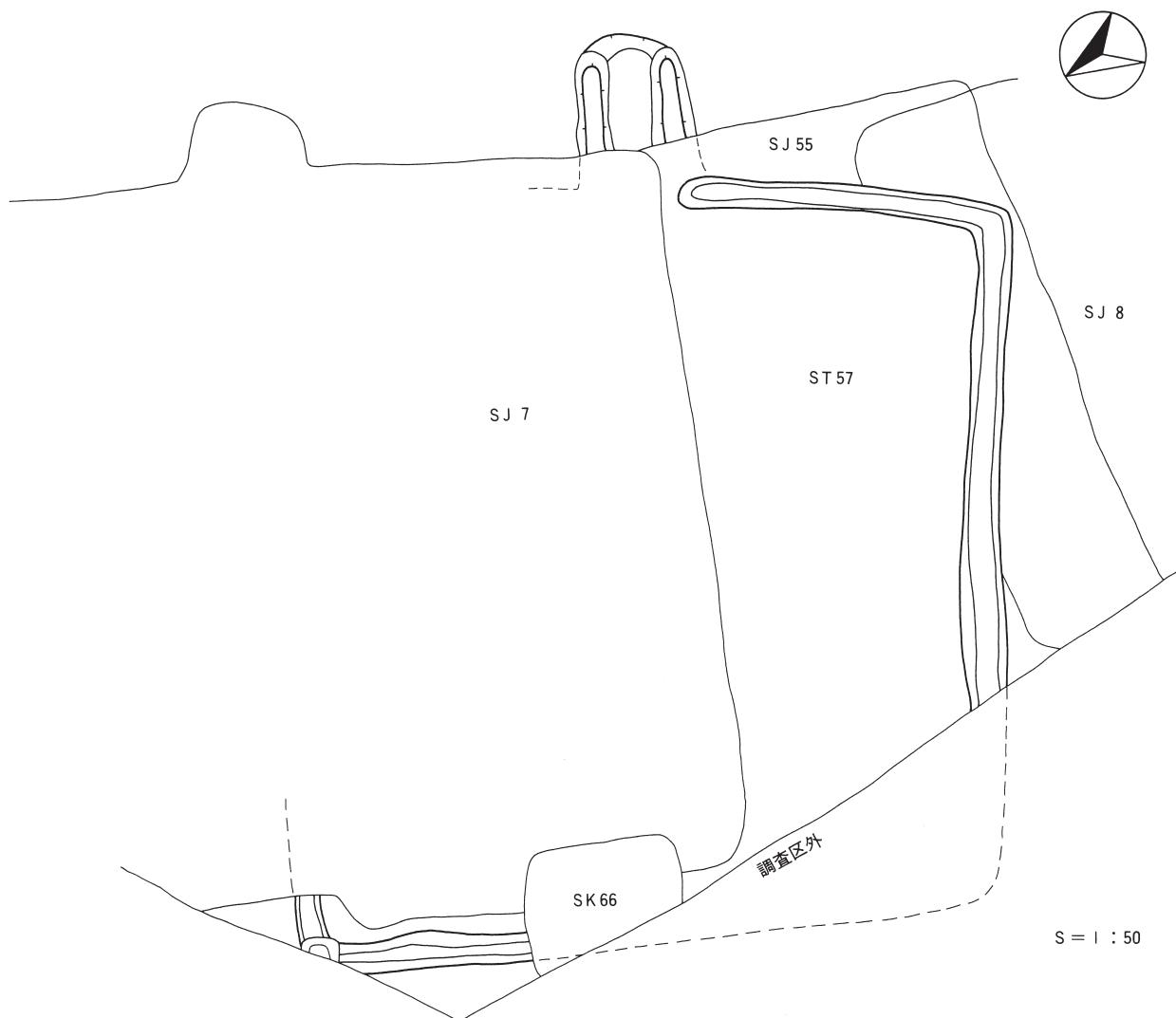


図212 第57号住居跡

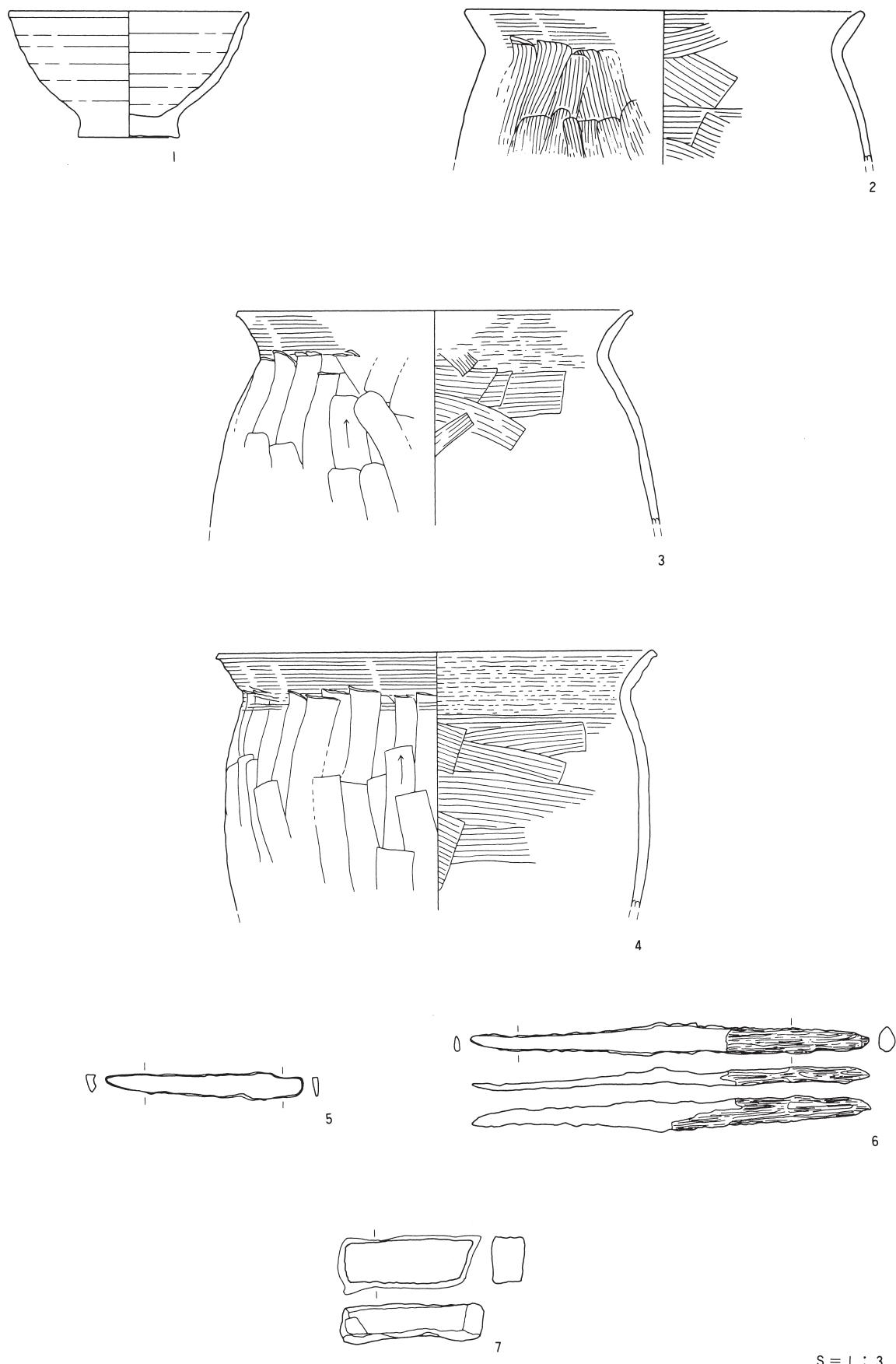


図213 第58号住居跡出土遺物

第4節 土 坑

1号土坑

- [位置] V～W-32グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 方形に近い平面形で長軸約1.2m である。深さは最深部で約20cmを測る。
- [壁・床面] 掘り込みは浅く、床面は安定していない。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第5号土坑

- [位置] V～W-33グリッドで確認されている。
- [重複] 第7号住居跡と重複している。本土坑のほうが古い。
- [平面形・規模] 攦乱の影響を受けているが、ほぼ方形の平面形だと思われる。一辺約1.2mである。深さは最深部で約120cmを測る。
- [壁・床面] 床面は凹凸があるが、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第6号土坑

- [位置] S-30グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整形であるが、長軸は約2mである。深さは最深部で約30cmを測る。
- [壁・床面] 床面は比較的平坦で壁は緩く立ち上がる。
- [堆積土] 確認面以上は耕作による攢乱を受けている。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第9号土坑

- [位置] S-34グリッドで確認されている。
- [重複] 第14号住居跡と重複している。本土坑のほうが古い。
- [平面形・規模] ほぼ橢円形の平面形で長径約1.5mである。
- [壁・床面] 掘り込みは浅く壁の立ち上がりは緩やかである。
- [堆積土] 自然堆積。
- [遺物] 出土していない。

第10号土坑

- [位置] T～U-36グリッドで確認されている。
- [重複] 第3号溝跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第3号溝跡に切られているために形、規模は不明瞭であるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。

[深さ] 深さは最深部で約20cmを測る。

[壁・床面] 床面、壁面ともに遺存状態はよくない。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第11号土坑

[位置] U-36グリッドで確認されている。

[重複] 第12号土坑跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 方形に近い不整形で、長軸が約2.1mである。深さは最深部で約105cmを測る。

[壁・床面] 床面には平坦部も見られるが、部分的に深い掘り込みがある。壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。覆土中に白頭山・苦小牧火山灰と思われる火山灰が確認されている。

[遺物] 土師器甕などの他に苧引き金と思われる鉄製品も出土している。

第12号土坑

[位置] U-36グリッドで確認されている。

[重複] 第11号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 径約0.8mのほぼ円形である。深さは最深部で約80cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁はやや内湾ぎみに立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第15号土坑

[位置] U～V-37～38グリッドで確認されている。

[重複] 第19号住居跡・第48号住居跡、第3号溝跡と重複している。第48号住居跡、第3号溝跡より本土坑の方が古い。第19号住居跡との切り合い関係が不明瞭であることなどから両者は同時存在した可能性も考えられる。本土坑は北側から第19号住居跡に向けて緩く傾斜している。双方が接する付近で床面の高さがほぼ同じになることから、本土坑は第19号住居跡に関連する施設であることも予想される。

[平面形・規模] 溝状の平面形で、深さは最深部で約110cmを測る。

[壁・床面] 床面は北から南へ緩く傾斜している。

[堆積土] 自然堆積である。土層断面図は図202参照。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第16号土坑

- [位置] U-39~40グリッドで確認されている。
- [重複] なし
- [平面形・規模] 方形に近い不整形で一辺約1.1mである。
- [壁・床面] 床面は比較的平坦で壁は緩く立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第17号土坑

- [位置] T-39~40グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 長方形に近い不整形で約2.6×2mである。深さは最深部で約20cmを測る。
- [壁・床面] 床面はほぼ平坦である。掘り込みが浅いため壁面は不明瞭である。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第18号土坑

- [位置] V-40~41グリッドで確認されている。
- [重複] 第26号住居跡と重複している。本土坑の方が古い。
- [平面形・規模] 南側は第26号住居跡に切られ、西側は調査区外にかかるため平面形、規模は明確ではない。深さは最深部で約90cmである。
- [壁・床面] 床面は凹凸があり一定しない。壁はやや外傾して立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 土師器壺、甕などが出土している。

第19号土坑

- [位置] U-41グリッドで確認されている。
- [重複] 第26号住居跡と重複している。本土坑の方が古い。
- [平面形・規模] 西側が第26号住居跡に切られているため、平面形は不明瞭である。
- [壁・床面] 床面から壁面にかけては緩く外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第20号土坑

- [位置] U-41、42グリッドで確認されている。
- [重複] 第21号土坑と重複している。本土坑の方が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整形であるが、長径は約1.6mである。深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第21号土坑

[位置] T～U-41グリッドで確認されている。

[重複] 第20号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形であるが、長軸は約1.8mである。深さは最深部で約84cmを測る。

[壁・床面] 底は鍋底状で壁は緩く立ち上がるが、部分的に内湾する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第22号土坑

[位置] U-42グリッドで確認されている。

[重複] 第38号住居跡と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] ほぼ円形で径約1.1mである。深さは最深部で約80cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第23号土坑

[位置] U～V-42グリッドで確認されている。

[重複] 第48号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] ほぼ円形で径約1.5mである。深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第24号土坑

[位置] U～V-42～43グリッドで確認されている。

[重複] 第25号土坑と重複している。本土坑の方が古いようにも見えるが、同時期のものと考えられる。

[平面形・規模] 平面形は不整形であるが、長軸は約1.3mである。深さは最深部で約40cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第25号土坑

[位置] U-43グリッドで確認されている。

[重複] 第24号土坑跡・第6号溝跡と重複している。本土坑は第24号土坑とは同時期で、第6号溝跡よりは古いものと思われる。

[平面形・規模] 楕円形に近い平面形で、長径は約2mである。深さは最深部で約80cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器の壺、甕等が出土している。床面からは多量の礫が検出されている。

第26号土坑

[位置] U-V-43グリッドで確認されている。

[重複] 第27号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形はいびつな楕円形で、長径は約2.2mである。深さは最深部で約70cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していないが、第25号土坑同様床面から礫が多量に検出されている。

第27号土坑

[位置] U-V43~44グリッドで確認されている。

[重複] 第26号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 平面形はいびつな円形である。長軸は約1.6mである。深さは最深部で約60cmを測る。

[壁・床面] 西側が深く、東側に向けて緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器の甕等が出土している。

第28号土坑

[位置] U-43グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形であるが長軸は約1.5mである。深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・床面] 床面は不整形で壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第29号土坑

[位置] U-43グリッドで確認されている。

[重複] 第6号溝跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 平面形はややいびつなだ円形である。長径は約0.7mである。深さは最深部で約20cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけては外傾しながら緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 鉄製品が1点出土している。

第30号土坑

[位置] T-40グリッドで確認されている。

[重複] 第4号溝跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第4号溝跡に切られており平面形は不明瞭である。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第31号土坑

[位置] T-41グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長径約0.9mのほぼ橢円形である。深さは最深部で約24cmを測る。

[壁・床面] 底面から壁面にかけて緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積である。

[遺物] 出土していない。

第32号土坑

[位置] T-41グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 径約0.5mのほぼ円形である。深さは最深部で約20cmを測る。

[壁・床面] 床面から壁面にかけて緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第33号土坑

[位置] S-42グリッドで確認されている。

[重複] 第27号住居跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 北側が第27号住居跡に切られているため平面形は不明瞭であるが、ほぼ橢円形だと思われる。

深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 短軸方向で見ると壁面から床面にかけて緩いU字形となる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第34号土坑

[位置] T～U-44グリッドで確認されている。

[重複] 第31号住居跡と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 径約1.3mのほぼ円形である。深さは最深部で約150cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、約60cmほど上位で屈曲し、外傾しながら緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器の壺、甕の他に羽口片も出土している。

第36号土坑

[位置] U-45～46グリッドで確認されている。

[重複] 第33号住居跡と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 長径約0.9mの楕円形に近い不整形である。深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 床面は平坦に近く、壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第38号土坑

[位置] V-46グリッドで確認されている。

[重複] 第33、34、35号住居跡と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 径約1.6mのほぼ円形である。深さは最深部で約70cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁は外傾しながら緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。白頭山・苦小牧火山灰と思われる火山灰が検出されている。土層断面図は図182参照。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第40号土坑

[位置] T～U-46グリッドで確認されている。

[重複] 第34号住居跡と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形であるが長軸は約2.5mである。深さは最深部で約120cmを測る。

[壁・床面] 床面、壁面は不安定である。

[堆積土] 覆土中に白頭山・苦小牧火山灰が層状に検出されている。本遺跡の中では最も安定した堆積状況を示す。

[遺物] 土師器の甕等が出土している。

第41号土坑

[位置] S～T-48グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 径約0.9mのほぼ円形である。深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第42号土坑

[位置] T～U-48グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 径約0.9mのややいびつな円形である。深さは最深部で約35cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦である。壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第43号土坑

[位置] U-48～49グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 径約1mの円形に近い方形である。

[壁・床面] 床面は平坦部が少なく、床面から壁面にかけては緩いU字状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第44号土坑

[位置] U～V-48～49グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 径約1.3mのほぼ円形である。深さは最深部で約80cmを測る。

[壁・床面] 床面は比較的平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第48号土坑

[位置] U～V-42～43グリッドで確認されている。

[重複] 第47号住居跡、第23号、26号、53号土坑と重複する。本土坑の方がいずれの遺構よりも古いようである。

[平面形・規模] 他の遺構と重複するため本来の平面形は不明であるが、深さは最深部で約220cmを

測る。

[壁・床面] 床面は平坦ではなく、壁面も場所によって立ち上がる角度が異なる。ほぼ垂直に立ち上がる部分もあれば、緩く外傾する部分もある。

[堆積土] 上部は自然堆積と思われるが、下部には人為的な様子も伺える。

[遺物] 羽口片が出土している。他に鉄滓も多量に出土している。西側には配置されたような状態で礫も確認されている。本土坑は精錬炉であった可能性も考えられる。

第49号土坑

[位置] T-40~41グリッドで確認されている。

[重複] 第4号溝跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 長径約3.2mの橢円形に近い不整形である。深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・床面] 床面は凹凸があり一定しない。壁は外傾しながら緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第62号土坑

[位置] V~W-34グリッドで確認されている。

[重複] 第2号溝跡と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 長径約1.8mのほぼ長方形である。

[壁・床面] 現町道の直下にあたるため上部はほとんど削平されており、辛うじて床面が残存している。

[堆積土] ほとんど削平されている。

[遺物] 出土していない。

第64号土坑

[位置] U-33グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長径約1.3mの長方形である。

[壁・床面] 床面は凹凸があり、壁は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 図示できる遺物は出土していない。

第66号土坑

[位置] X-34~34グリッドで確認されている。

[重複] 第7、57号住居跡と重複する。本土坑はそれらより新しいものと思われる。

[平面形・規模] 西側が調査区外にかかるため規模は不明確であるが、長径約1.1m程度の長方形になるものと思われる。

[壁・床面] 床面は若干凹凸がある。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器の甕等が出土している。

(太田原 潤)

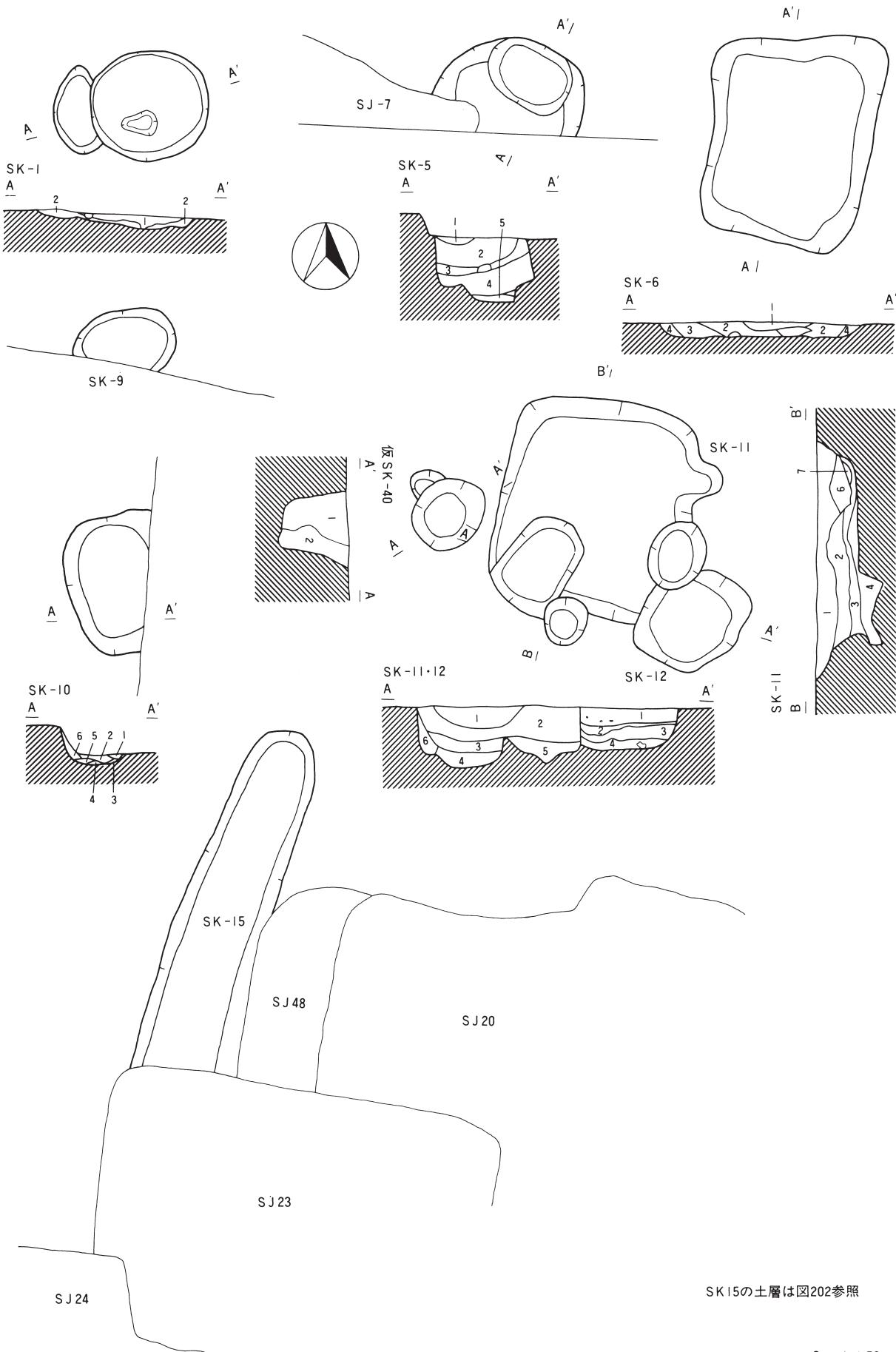


図214 B区土坑(1)(SK 1、5、6、9、10、11、12、15)

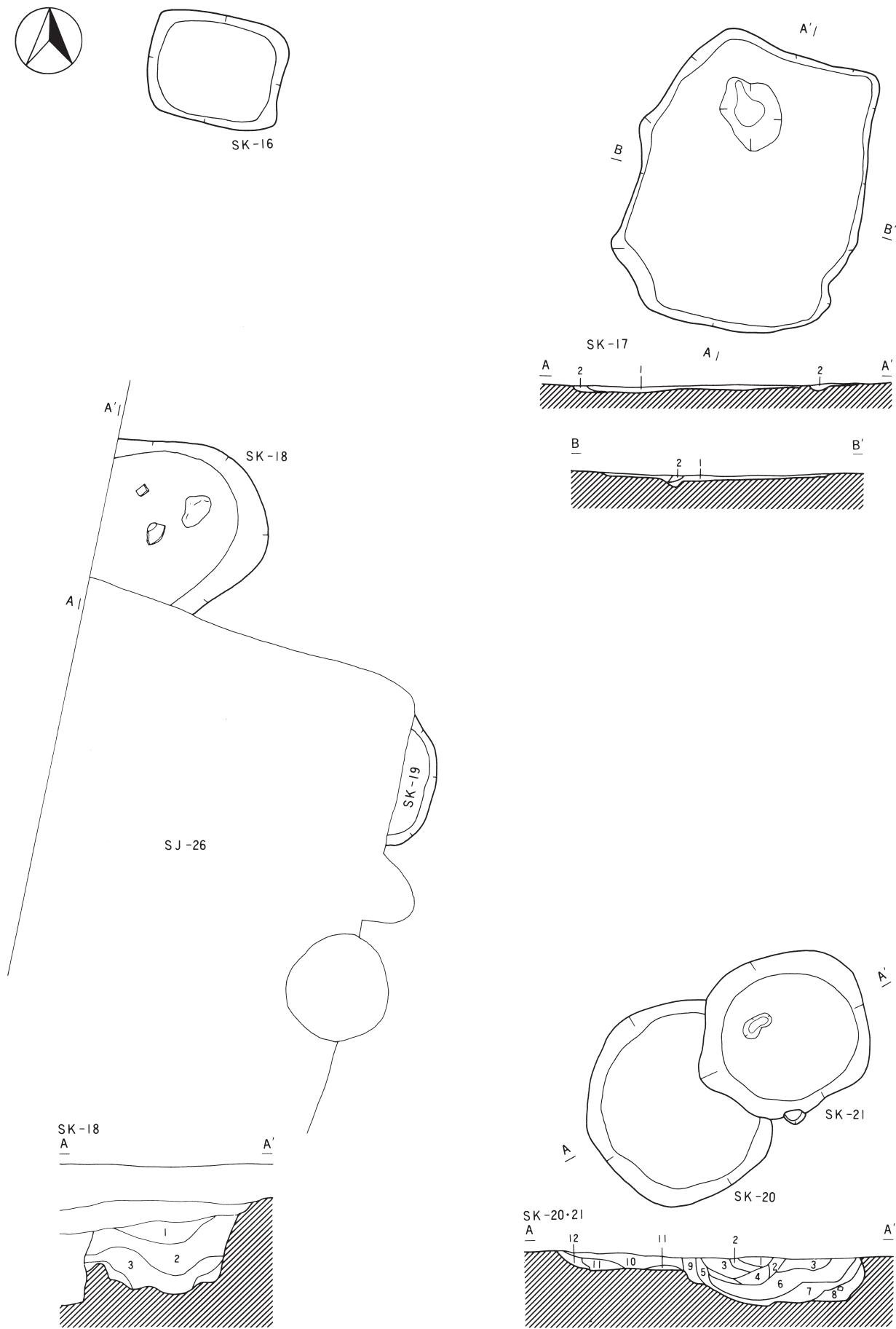


図215 B区土坑（2）(SK-16、17、18、19、20、21)

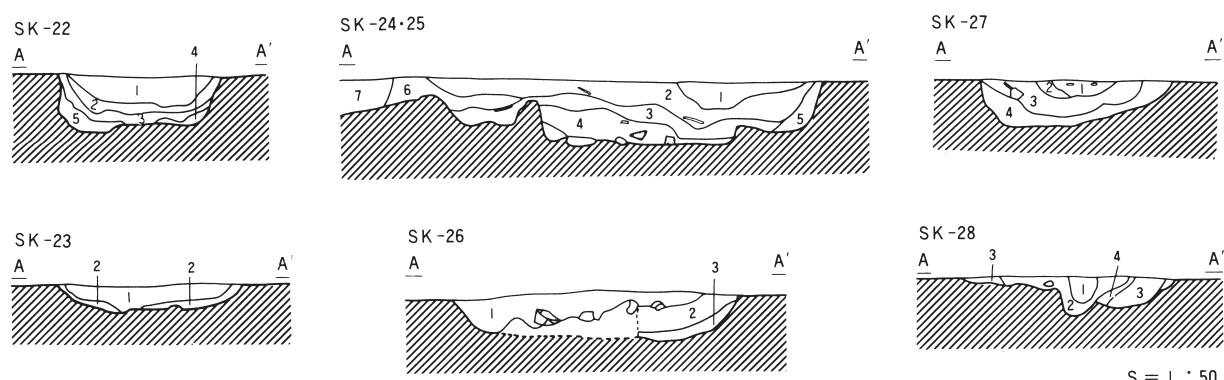


図216 B区土坑(3)(SK22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 47, 48, 53)

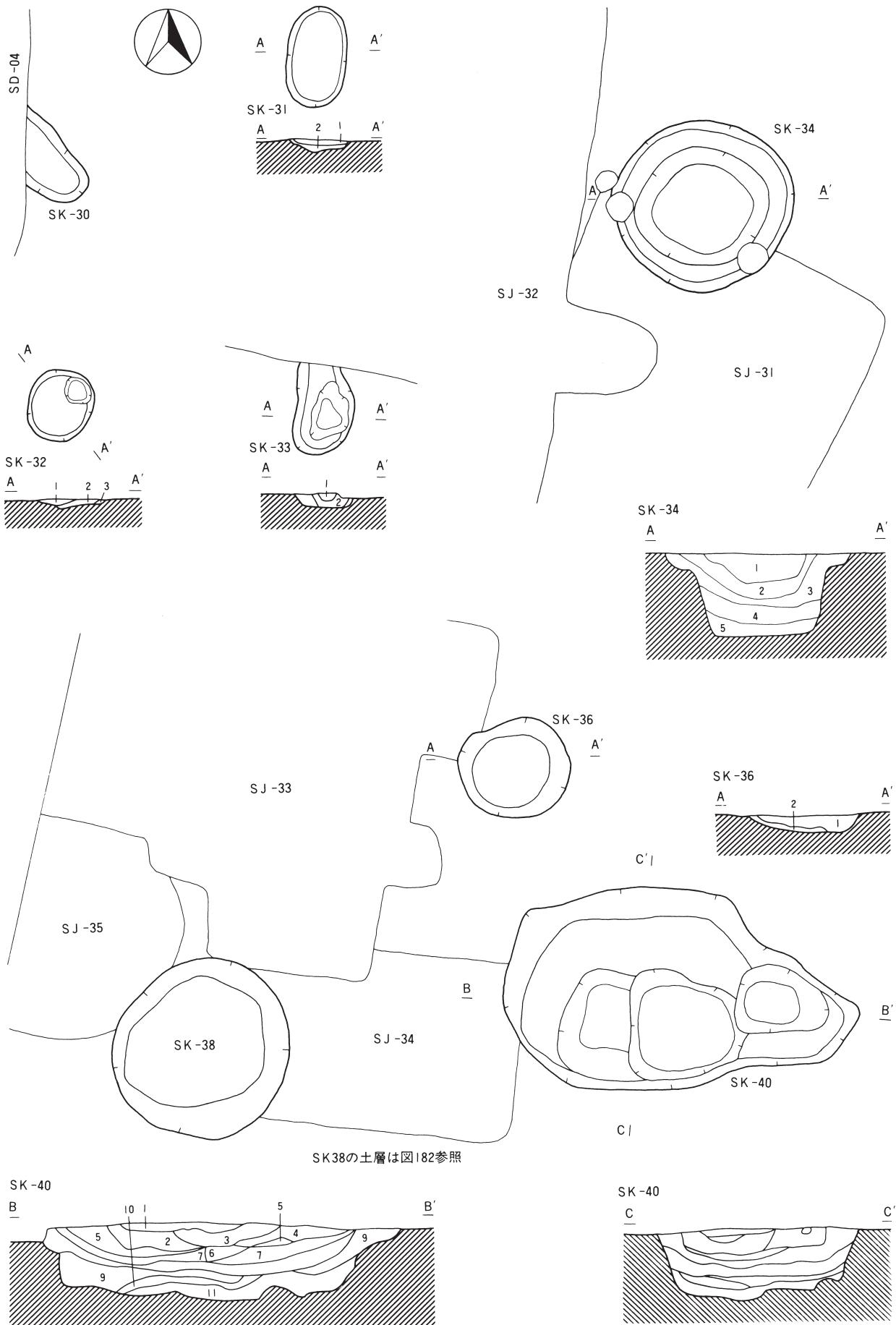


図217 B区土坑(4)(SK-30,31,32,33,34,36,38,40)

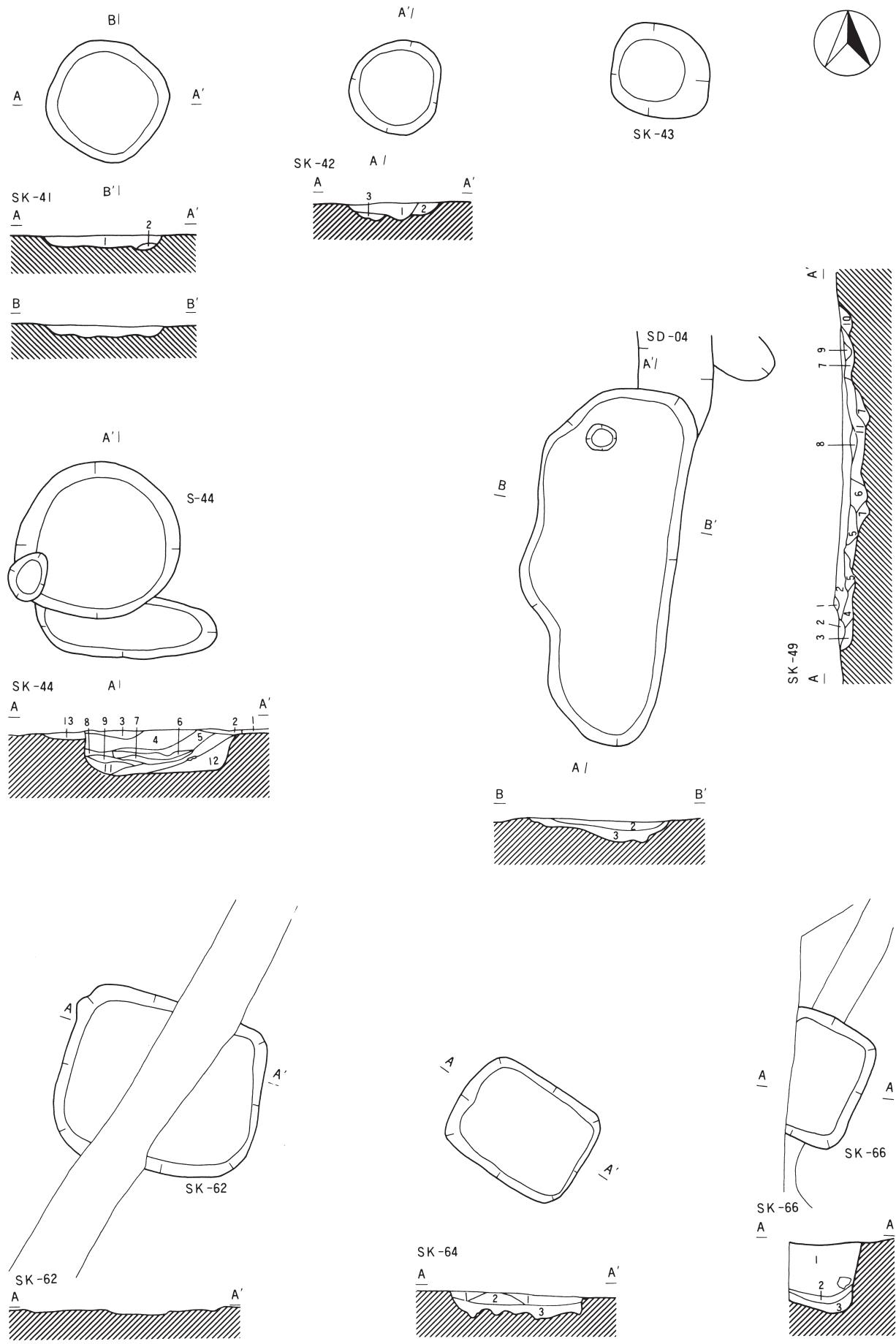


図218 B区土坑(5)(SK41、42、43、44、49、62、64、66)

S = 1 : 50

SK 1層 10YR1.7/1 黒色土主体 黒褐色土主体	10YR3/3暗褐色土30% 口ーム小粒10%	ローム粒40% 一部に大ローム塊 焼土粒全体に20%炭化物小塊を含む
SK 5 1層 10YR3/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒1% 10YR3/1 黑褐色土10% ローム小粒5% ローム中粒1% ローム大粒1% 粘性あり	
2層 10YR2/2 黒褐色土主体	ローム粒50% 口ーム中粒10%	
SK17 1層 10YR1.7/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒1% 10YR3/1 黑褐色土10% ローム小粒5% ローム中粒1% ローム小塊1% 焼土粒1% 烧土粒1% 以下 しまりなし 粘性あり	
2層 10YR2/1 黒褐色土主体	ローム粒1% 小石少々 10YR3/1 黑褐色土5% ローム小粒5% ローム大塊% 小石少々	
3層 10YR1.7/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒5% 口ーム大塊% 小石少々 10YR2/1 黑褐色土1% 口ーム小粒1% 口ーム小塊1% 粘性大	
4層 10YR2/1 黒褐色土主体	ローム粒5% 口ーム大塊% 小石少々	
5層 10YR1.7/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒1% 口ーム小粒1% 口ーム小塊1% 粘性大 10YR3/1 黑褐色土1% 口ーム中粒1% 小石少々	
SK18西側壁 1層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒、ローム中粒5% 暗褐色土5% (層状に混入) 10YR2/3 ローム粒、ローム小塊5% 暗褐色土10% (層状に混入)	
2層 10YR2/3 黒褐色土主体	ローム粒1% 10YR1.7/1	
3層 10YR1.7/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム粒1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
SK20・SK21 1層 10YR1.7/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~3mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
2層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~3mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
3層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~4mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
4層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~2mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
5層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(2~4mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
6層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(25~30mm) 25% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
7層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(50~70mm) 50% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
8層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(10~15mm) 1% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
9層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(10~30mm) 10% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
10層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(10~20mm) 10% 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR1.7/1	
SK22 1層 10YR2/2 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~5mm) 1% 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/4 浅黃褐色土主体 10YR2/5 黑色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑色土主体 10YR2/8 黄褐色ローム主体 10YR2/9 黑色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
2層 10YR2/2 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(2~15mm) 1% 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/4 浅黃褐色土主体 10YR2/5 黑色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑色土主体 10YR2/8 黄褐色ローム主体 10YR2/9 黑色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
3層 N.I.5/0 10YR2/2 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~2mm) 1% N.I.5/0 黑色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑色土主体 10YR2/4 浅黃褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑色土主体 10YR2/7 黑色土主体 10YR2/8 黄褐色ローム主体 10YR2/9 黑色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
4層 10YR2/2 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~10mm) 25% 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑色土主体 10YR2/4 浅黃褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑色土主体 10YR2/7 黑色土主体 10YR2/8 黄褐色ローム主体 10YR2/9 黑色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
5層 10YR2/2 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~15mm) 5% 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑色土主体 10YR2/4 浅黃褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑色土主体 10YR2/7 黑色土主体 10YR2/8 黄褐色ローム主体 10YR2/9 黑色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
SK23 1層 10YR3/3 暗褐色土主体 黒褐色土主体	ローム(1~3mm) 1% 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
2層 10YR2/3 暗褐色土主体 黒褐色土主体	ローム(1~25mm) 25% 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
SK24・25 1層 10YR2/1 黒褐色土主体 黒色土主体	ローム(1~25mm) 1% 10YR3/2 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体 10YR2/2 黑褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
2層 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体	ローム(5~30mm) 1% 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
3層 10YR1.7/1 黒色土主体	ローム(10~50mm) 25% 10YR1.7/1 黑色土主体 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
4層 10YR2/1 黒色土主体	ローム(1~25mm) 1% 10YR2/1 黑色土主体 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
5層 10YR2/1 黒色土主体	ローム(1~25mm) 10% 10YR2/1 黑色土主体 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
6層 10YR2/1 黒色土主体	ローム(5~10mm) 10% 10YR2/1 黑色土主体 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	
7層 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体	ローム(1~35mm) 50% 10YR4/3 に、ぶい黄褐色土主体 10YR3/3 暗褐色土主体 10YR2/3 黑褐色土主体 10YR2/4 黑褐色土主体 10YR2/5 黑褐色土主体 10YR2/6 黑褐色土主体 10YR2/7 黑褐色土主体 10YR2/8 黑褐色土主体 10YR2/9 黑褐色土主体 10YR2/1 黑褐色土主体	

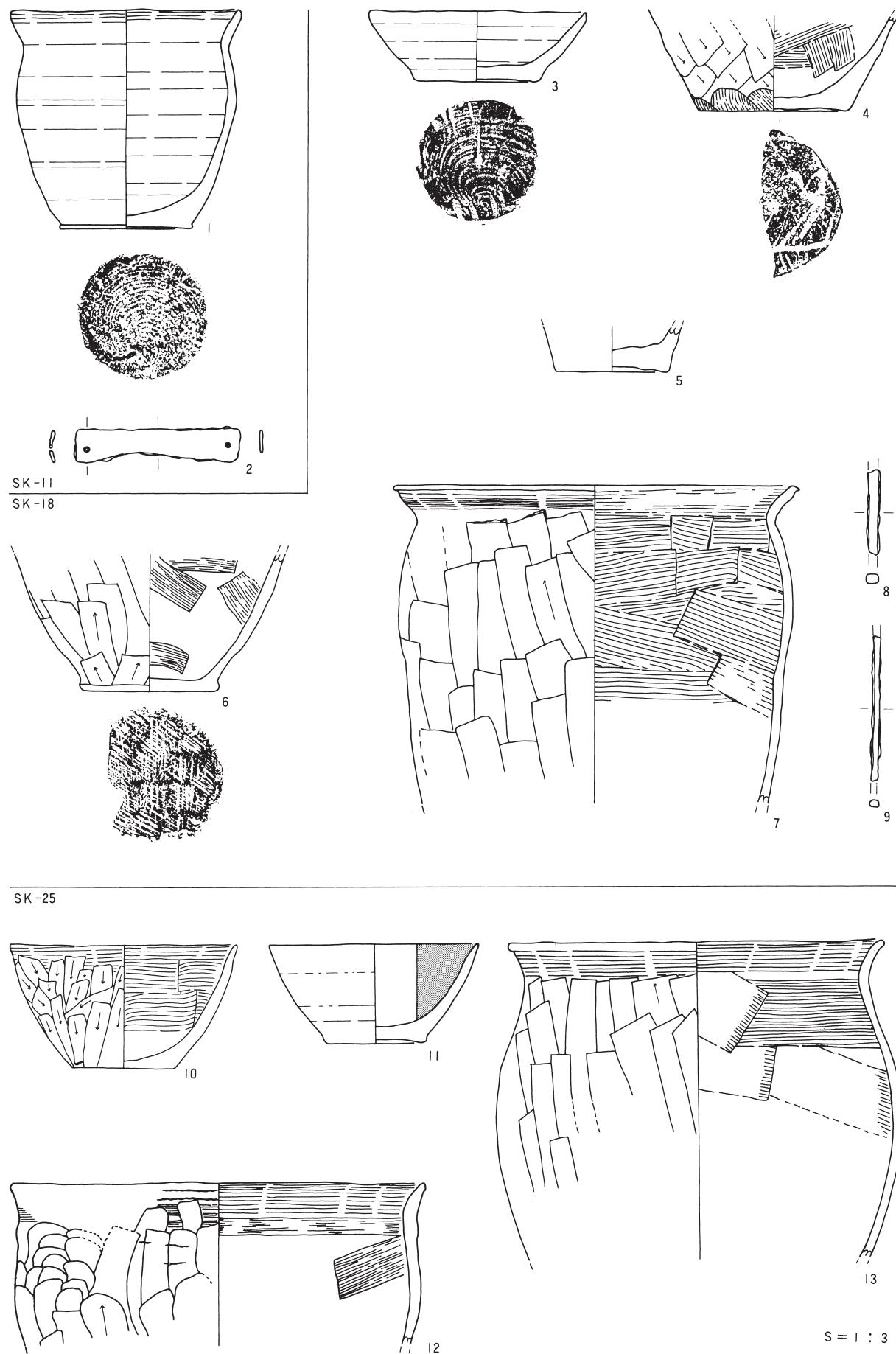
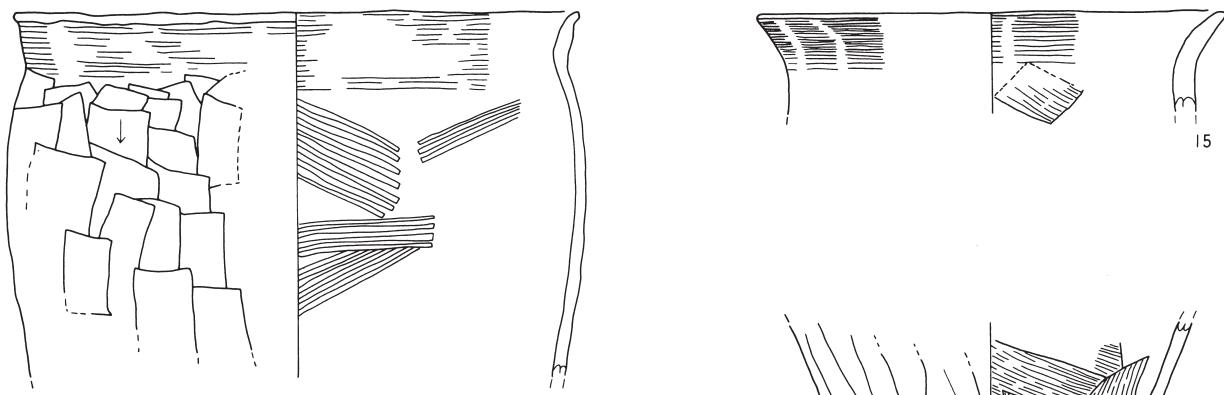
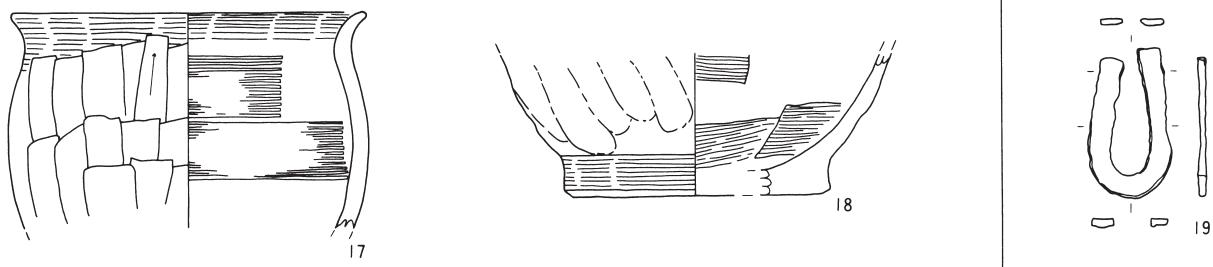


図219 B区土坑出土遺物（1）(SK 11、18、25)

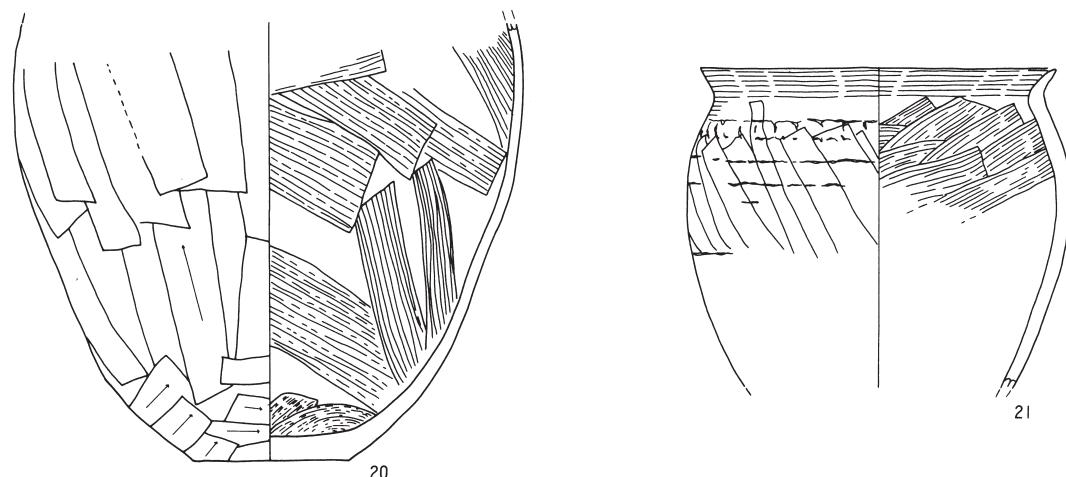


SK-25
SK-27



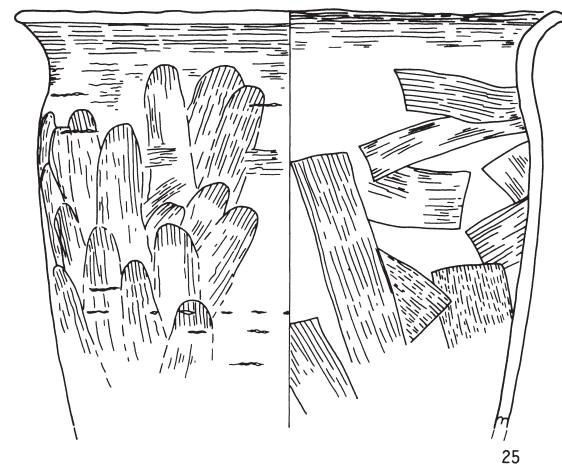
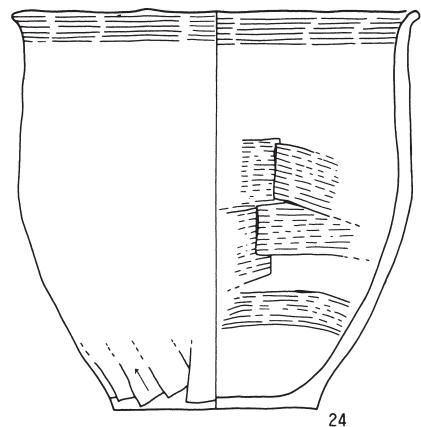
SK-29

SK-34



S = 1 : 3

図220 B区土坑出土遺物（2）(SK25,27,29,34)



SK-35
SK-40

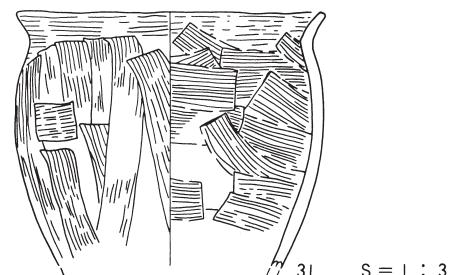
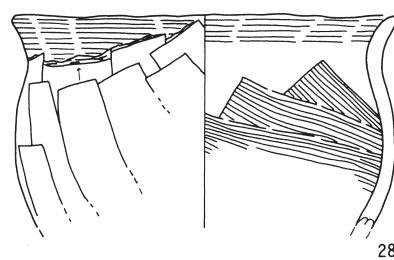
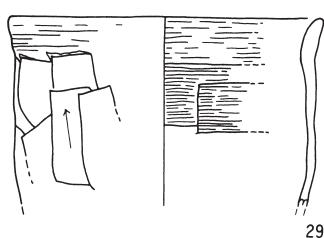
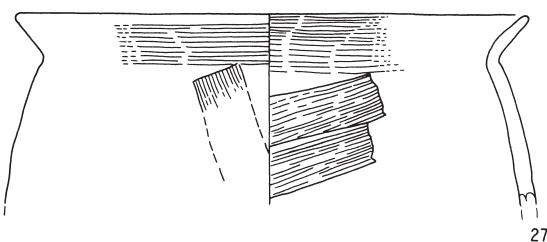
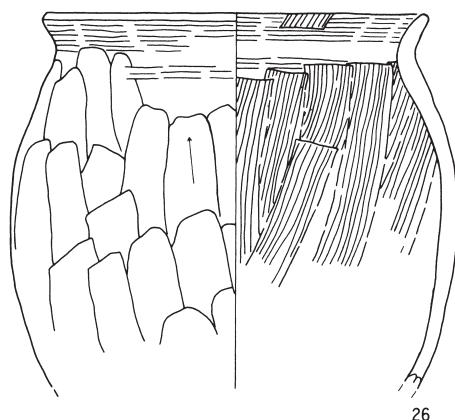
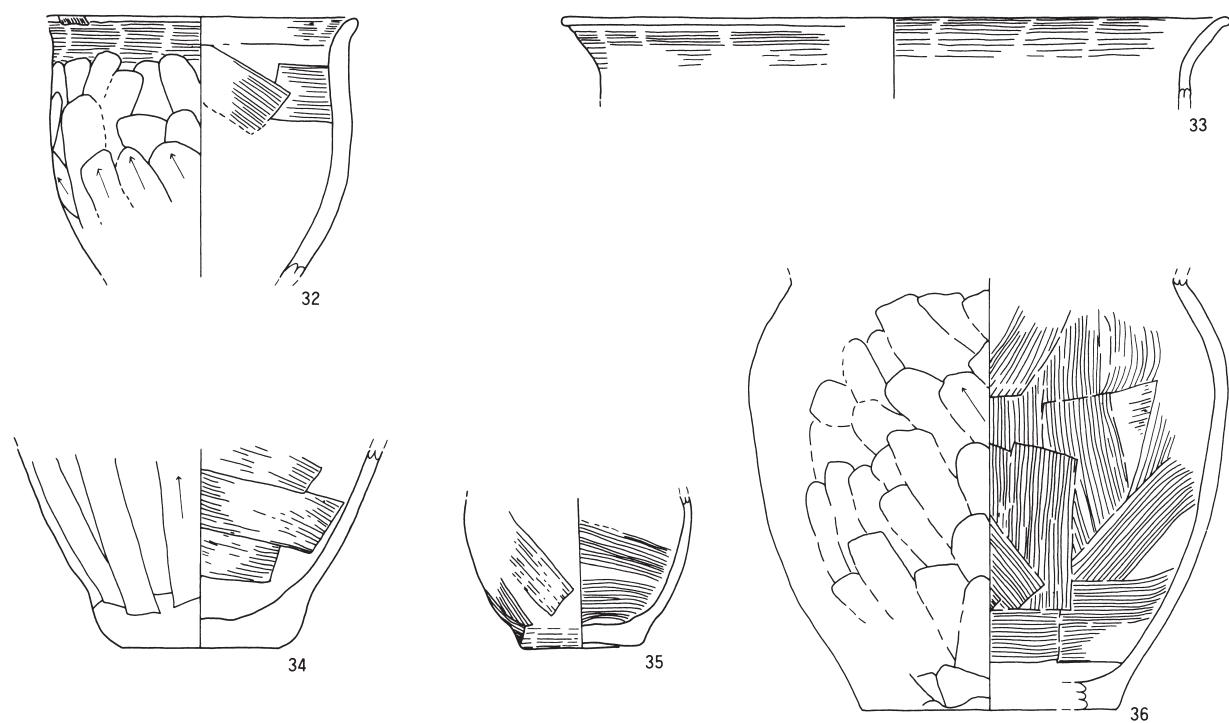
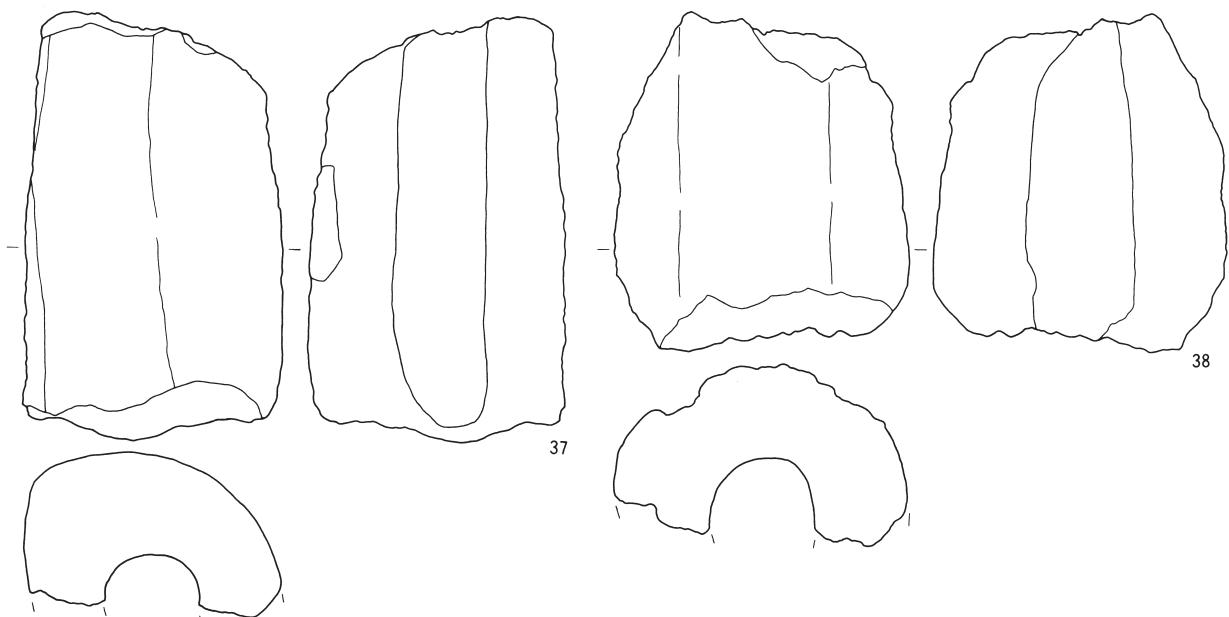


図221 B区土坑出土遺物(3) (SK35,40)

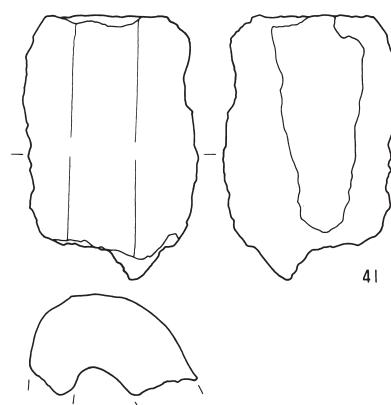
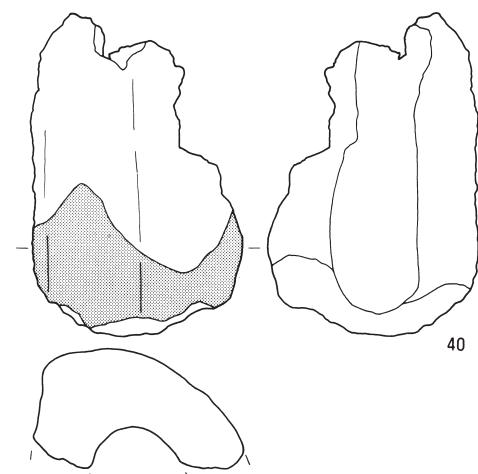
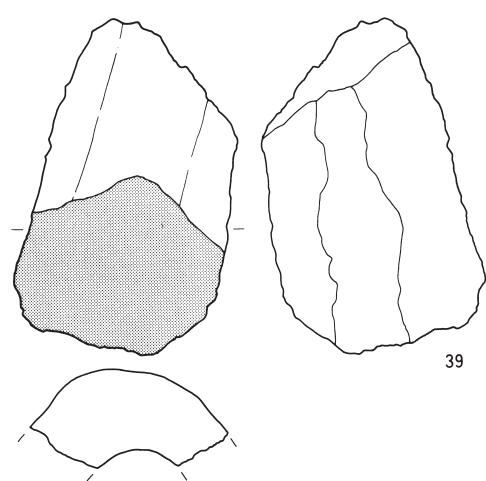


SK-40
SK-48

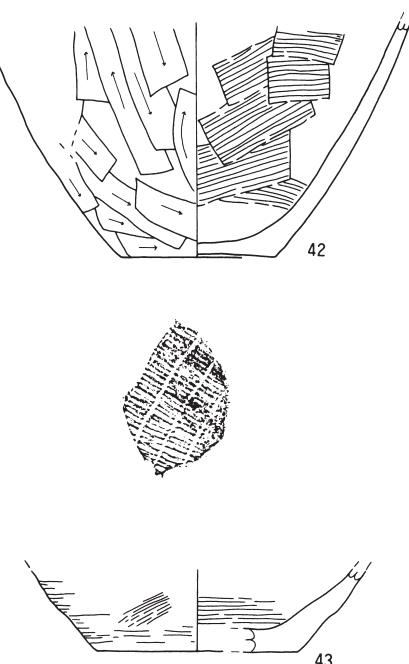


S = 1 : 3

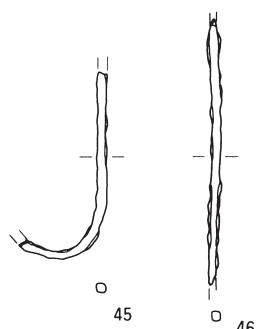
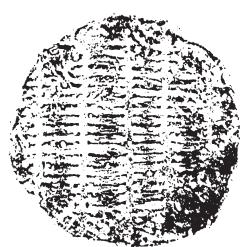
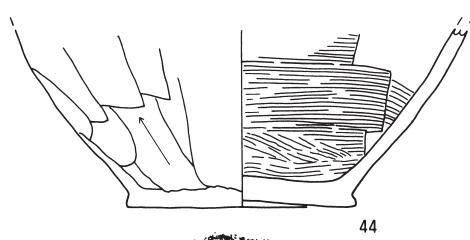
図222 B区土坑出土遺物(4)(SK40、48—1)



SK-54



SK-48
SK-66



S = 1 : 3

図223 B区土坑出土遺物(5)(SK48—2、54、66)

第5節 溝 跡

第1号溝跡

[位置] R～T-32～32グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 北側は攢乱の影響を受け、南側は調査区外に延伸しているため全体は検出されていない。

[壁・床面] 底から壁面にかけて緩く立ち上がっている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器等には図示できる大きさの物はないが、棒状の鉄製品が出土している。

第2号溝跡

[位置] U～V-30～35グリッドで確認されている。

[重複] 第2、3、5、8、9号住居跡、第62号土坑と重複している。本溝跡は他の全ての遺構より新しい。

[平面形・規模] 北側は攢乱の影響を受け、南側は調査区外に延伸しているため全貌は明らかでない。またV-33グリッドから34グリッドに欠けて現町道によりほとんど削平されている。

[壁・床面] 底面から壁面にかけて緩く立ち上がっている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第3号溝跡

[位置] T-35～V-38グリッドで確認されている。

[重複] 第11、15、16、19、20、23、24、45、48号住居跡、第10、15号溝跡と重複している。本溝跡の方がそれらの全てより新しい。

[平面形・規模] T-35以北は削平されており、V-38以西は調査区外に延伸しているため全貌は不詳である。T-35からほぼ南に伸び、U-38グリッド付近で屈曲しほぼ西に伸びる。

[壁・床面] 底面から壁面にかけて緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第4号溝跡

[位置] S-39～T-40グリッドで確認されている。

[重複] 第21号・22号住居跡、第30、49号土坑跡と重複している。本溝跡の方がそれらの遺構全てより新しい。

[平面形・規模] 東側が調査区外まで延伸しているため全貌は不詳であるが、S-39グリッドから緩やかに南下しながら西方に伸び、T-39グリッド内で屈曲しT-40グリッドまで確認されている。

それ以南は検出することはできなかったが、さらに屈曲して第5号溝跡に連続していた可能性も考えられる。

[壁・床面] 底面は平坦に近く、壁は緩く立ち上がっている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第5号溝跡

[位置] S～T-40グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東側が調査区外に延伸しているため規模は不明確である。西側はT-40グリッドまで確認されているが、そこから北方に屈曲し、第4号溝跡に連続していた可能性も考えられる。

[壁・床面] 底面は平坦に近く、壁は緩く立ち上がっている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第6号溝跡

[位置] T～U-43グリッドで確認されている。

[重複] 第25号・29号土坑と重複しているが、両者より本溝跡の方が新しい。

[平面形・規模] U-43グリッドからほぼ西に伸びるが、末端は第25号土坑との重複で不明瞭である。

[壁・床面] 底面から壁面にかけては緩いU字状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第7号溝跡

[位置] S～T-45～48グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] S-45グリッドから第41号住居跡の北西角に向けてほぼ直線的に伸びる。

[壁・床面] 底面は比較的平坦ではあるが、溝掘削時の工具の跡と思われる痕跡が確認されている。鍬状の工具で掘削したものと推定される。壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積である。

[遺物] 出土していない。

第8号溝跡

[位置] U～V-47～48グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] U-47から西方へほぼ48ラインに沿うように伸び、調査区外まで延伸している。

そのため全体の規模は不明である。

[壁・床面] 底面は比較的平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

第9号溝跡

[位置] U～V-48グリッドで確認されている。

[重複] 第44号住居跡と重複している。本溝跡の方が古いと思われる。

[平面形・規模] 小規模な溝で長さ約2.3m、幅約40cmである。

[壁・床面] 底面は比較的平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

(太田原 潤)

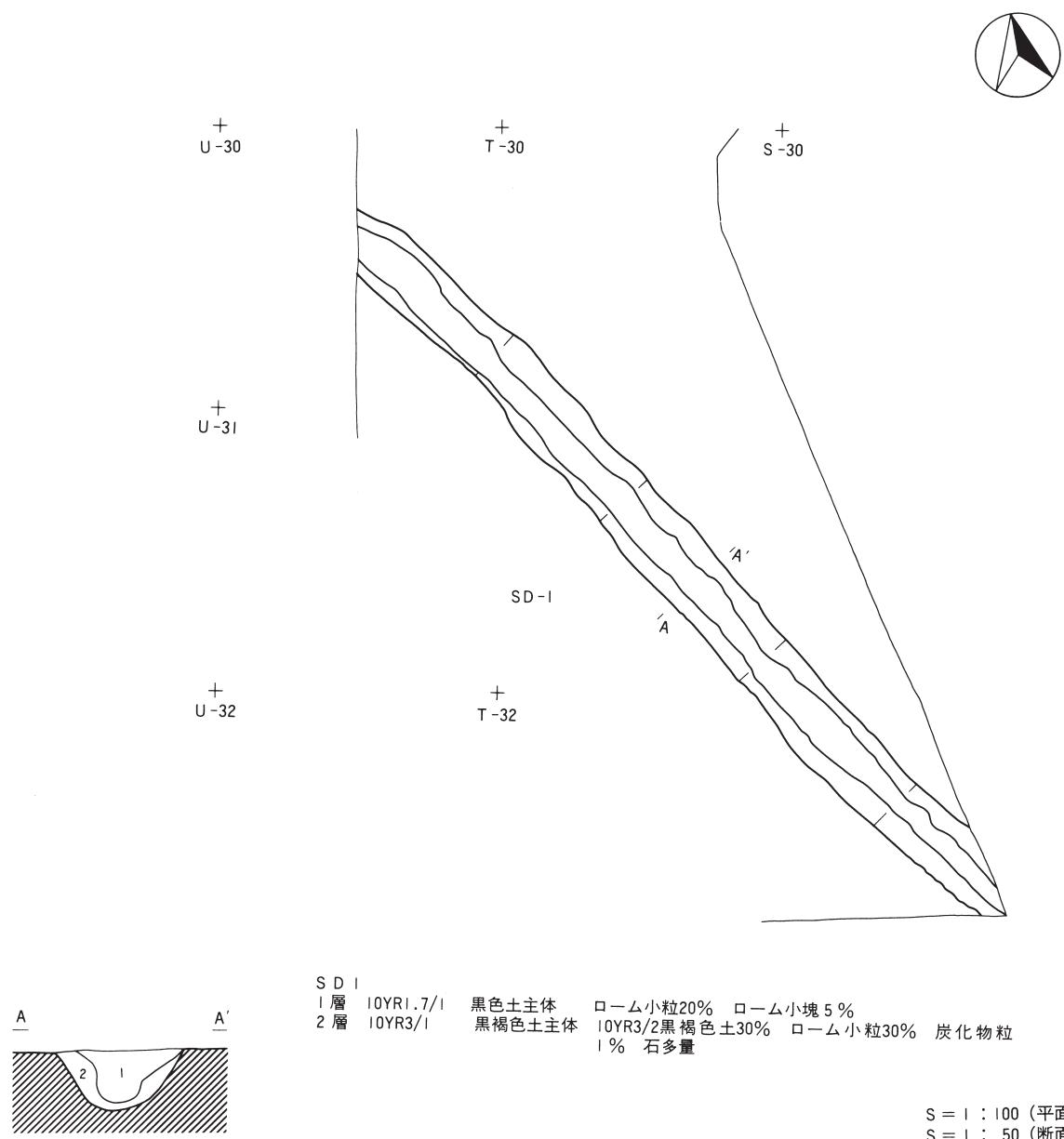


図224 第1号溝跡

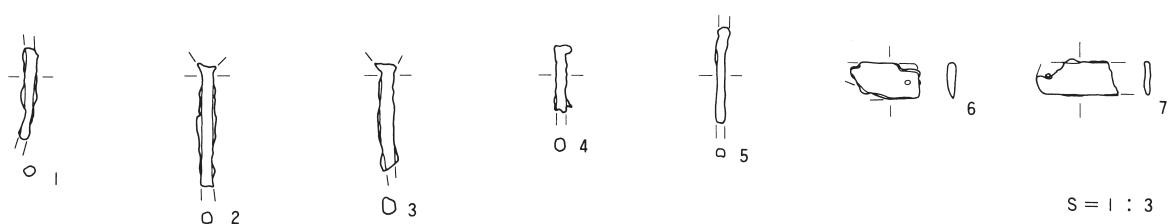


図225 B区第1号溝跡出土遺物

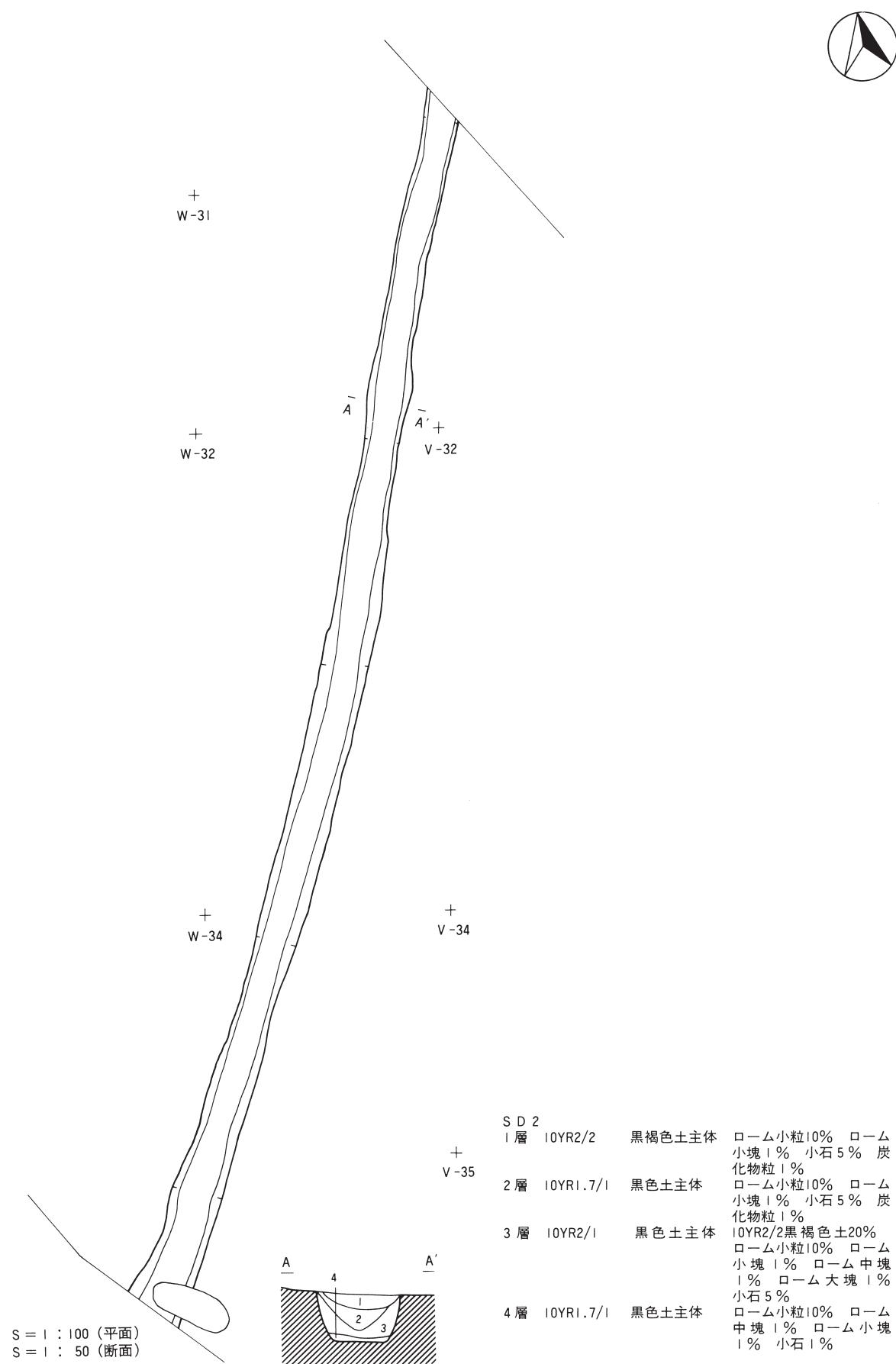


図226 第2号溝跡

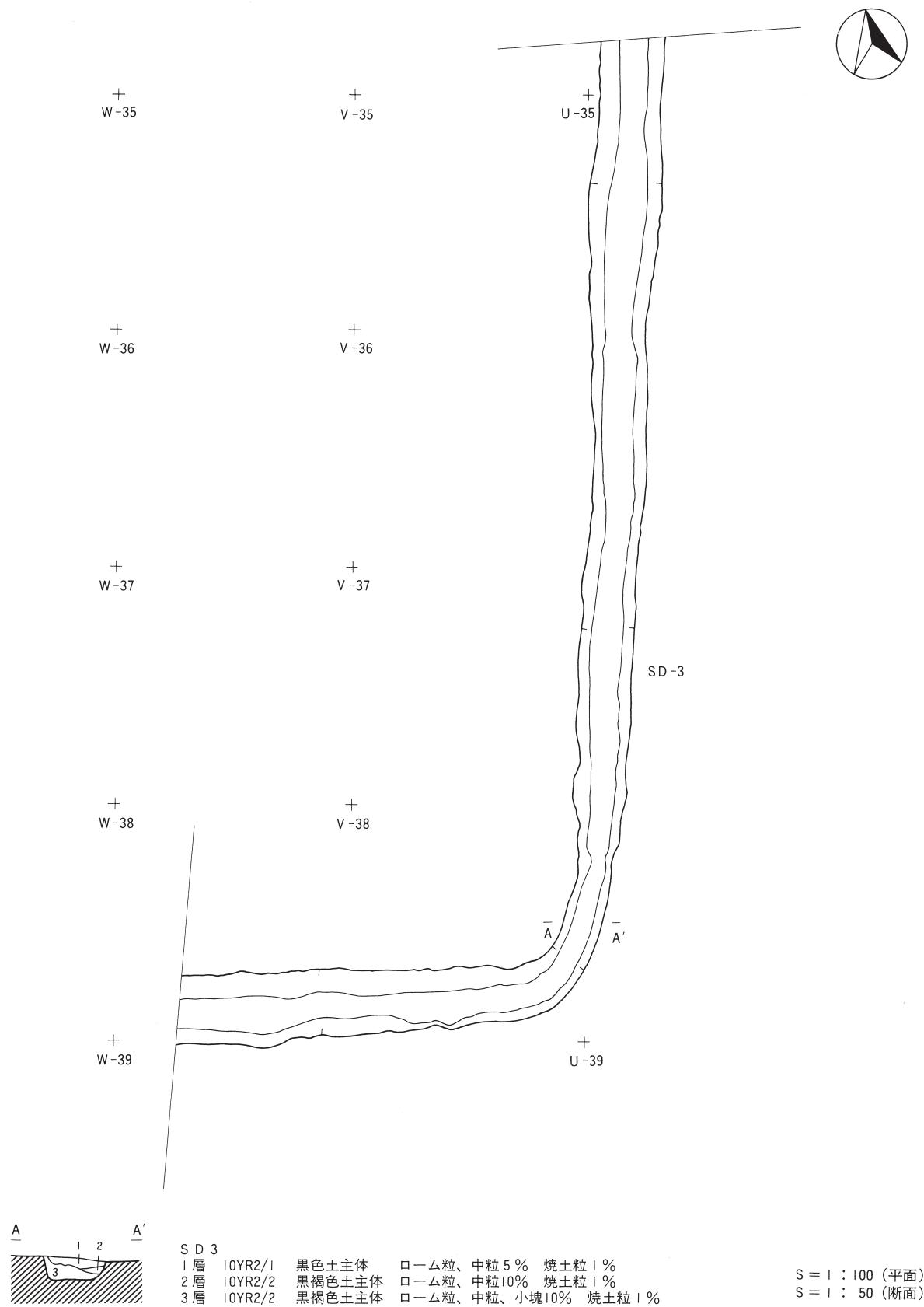


図227 第3号溝跡

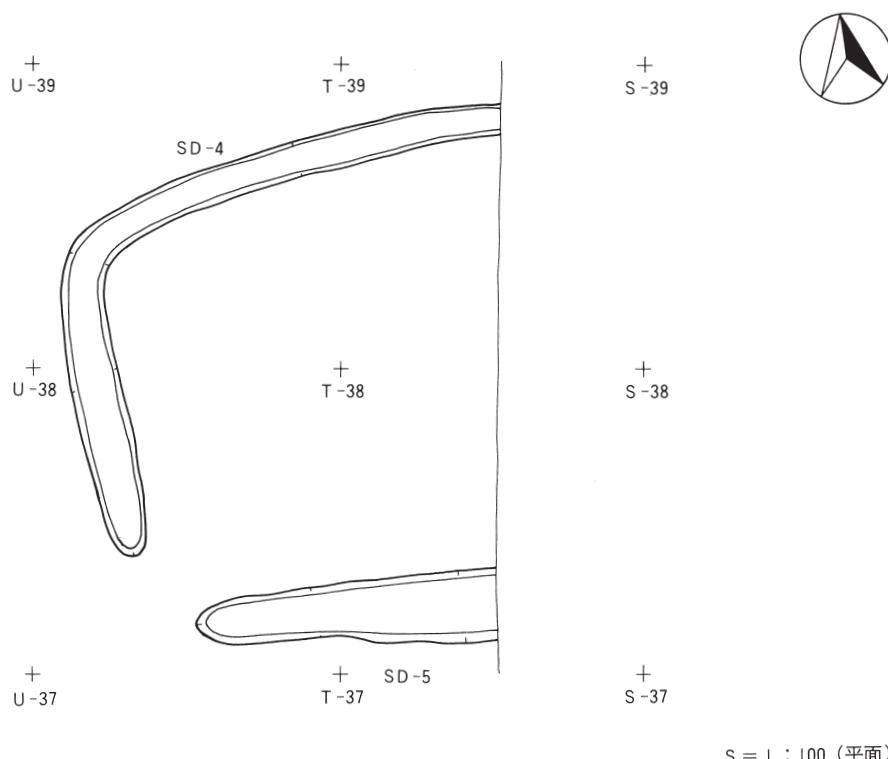


図228 第4、5号溝跡

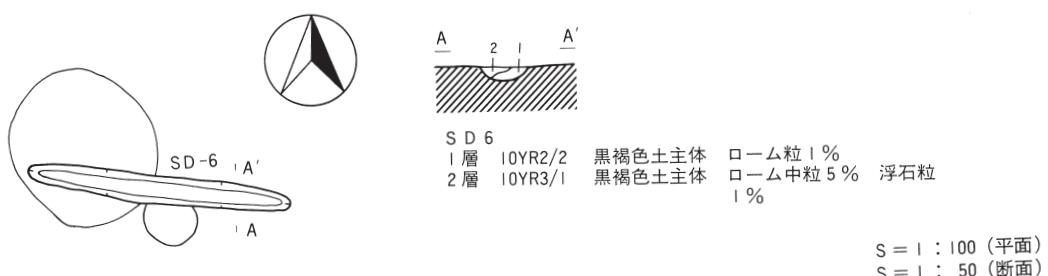


図229 第6号溝跡

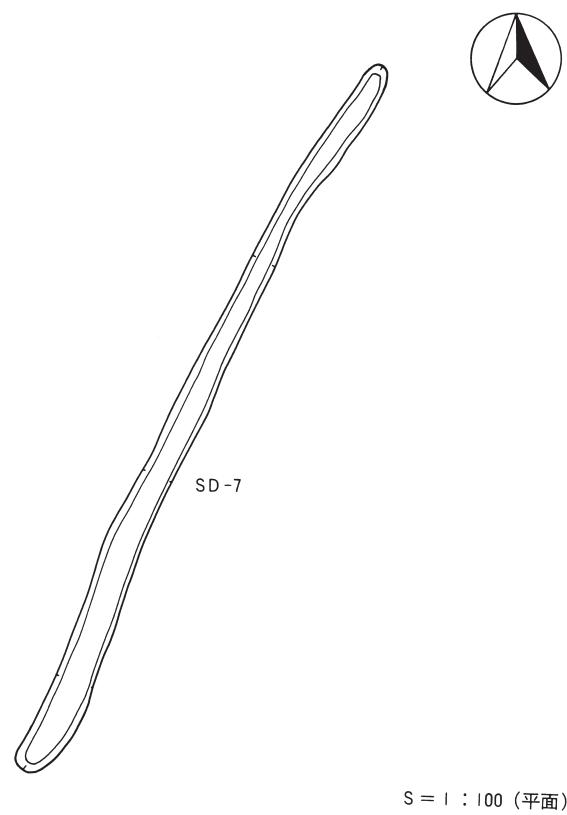


図230 第7号溝跡

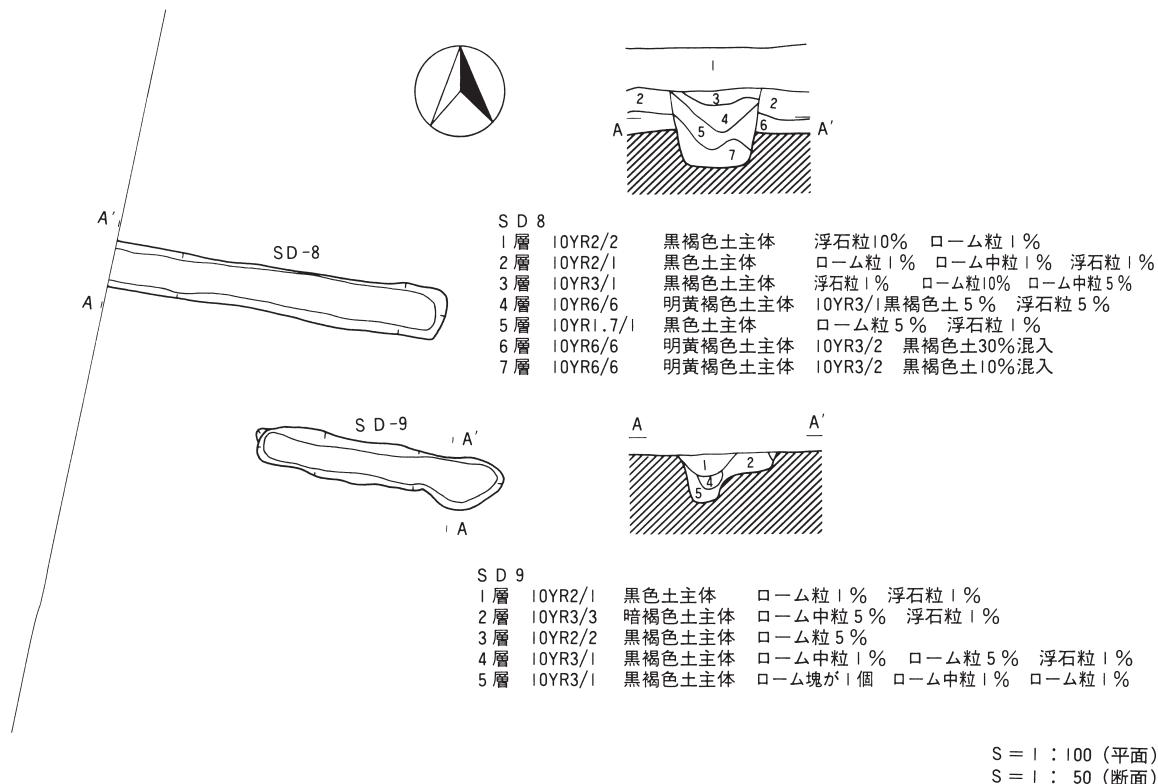


図231 第8、9号溝跡

表12 B区遺構内出土遺物（1）

挿図	遺構	番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	備考
133	S J - 9	1	壺	(11.3)	5.1	5.2	br	にぶい黄橙10YR6/3	A	90	内黒 挖り方出土
134	S J - 11	1	壺	(13.3)	6.2	5.7	w針	浅黄橙10YR8/4	A	90	底面回転糸切り
137	S J - 12	1	甕	17.6	20.4	7.2	w針	にぶい黄橙10YR6/3	A	95	口縁部外面多条の横位沈線？有り
		2	甕	-	< 2.5>	8.3	bs	浅黄橙10YR8/4		40	底面木葉痕
139	S J - 14	1	壺（椀）	-	< 5.4>	5.2	r針	黄橙7.5YR7/8	A	80	底面回転糸切り・火燐痕、内黒 挖り方出土
142	S J - 15	1	甕	-	< 7.7>	(9.1)	rs	明赤褐5YR5/6		50	底面木葉痕
144	S J - 16	1	甕（小）	(13.7)	< 7.4>	-	br	明赤褐5YR5/6		60	口縁部有機物（茶色）付着 カマド出土
		2	甕	-	< 4.9>	7.8	r針	明赤褐5YR5/6		60	内面黒色、茶色有機物付着 カマド出土
147	S J - 17	1	壺	(12.1)	4.6	2.7	wb	灰白10YR8/2	A	70	灯明具転用、底面回転糸切り、外 面刻字？有り
		2	壺	-	< 4.1>	5.3	w針	灰白10YR8/2	A	60	底面回転糸切り
		3	甕	24.4	30.1	6.5	ws	暗褐10YR3/3	A	95	砂底
		4	甕（小）	(12.3)	<11.4>	-	rs	明赤褐5YR5/6		70	
		5	甕（小）	(12.4)	<12.6>	-	br	にぶい黄橙10YR6/3		60	
		6	甕	-	<11.5>	8.7	b針	にぶい黄褐10YR5/3		60	底面こも編み圧痕 カマド出土
149	S J - 18	1	甕	(23.6)	<17.9>	-	rs	浅黄橙10YR8/4		60	外面黒色有機物付着 カマド出土
		2	甕	(20.5)	<10.8>	-	r針	黄橙7.5YR7/8		40	外面輪積痕顯著、黒色有機物付着 カマド出土
152	S J - 20	1	甕	(14.5)	13.7	(6.8)	br	明赤褐5YR5/6	A	60	底面回転糸切り、外面沈線、黒色 有機物付着
		2	甕	(21.8)	<17.8>	-	rs	橙5YR6/6	A	70	外面輪積痕顯著
		3	甕	(15.4)	<12.4>	-	br	浅黄橙10YR8/4		60	
		4	甕（大）	(20.2)	<16.9>	-	br	にぶい黄橙10YR6/3	A	60	内面黒色有機物付着
		5	甕（小）	-	< 5.9>	7.7	bs	にぶい黄褐10YR5/3		70	砂底
154	S J - 21	1	壺	(11.4)	5.3	(5.0)	br	橙5YR6/6	A	90	底面こも編み圧痕
156	S J - 22	1	甕	22.1	30.6	10.2	ws	明褐7.5YR5/6	A	95	底面こも編み圧痕、外面輪積痕顯 著
		2	甕	(20.2)	<20.8>	-	wr	明赤褐5YR5/6		80	内外面輪積痕顯著 カマド出土
		3	甕	(25.8)	<13.7>	-	br	にぶい黄橙10YR6/3		50	外面輪積痕顯著
		4	甕（大）	(19.3)	<11.4>	-	r	明赤褐5YR5/6		40	外面輪積痕顯著、※54と同一個体 カマド出土
		5	甕（大）	-	<11.3>	(8.9)	rs	にぶい黄褐10YR5/3		30	底面こも編み圧痕
159	S J - 23	1	壺	(13.3)	5.8	6.9	br	黄橙7.5YR7/8	A	90	底面こも編み圧痕
		2	甕	(16.4)	30.3	(5.8)	wr	灰白10YR8/2	A	80	底面こも編み圧痕、外面輪積痕顯 著
162	S J - 24	1	壺	(12.8)	5.3	5.0	wr	浅黄橙10YR8/4	A	80	底面回転糸切り
		2	壺	(12.2)	4.3	6.3	rs	浅黄橙10YR8/4		80	底面木葉痕
		3	甕（小）	(13.7)	<12.2>	(5.1)	rs	明赤褐5YR5/6		80	底面こも編み圧痕
		4	甕	-	< 5.7>	6.2	bs	にぶい黄褐10YR5/3		50	底面こも編み圧痕 カマド出土
167	S J - 27	1	壺	(12.8)	6.3	(6.6)	r針	浅黄橙10YR8/4	A	90	底面回転糸切り、内黒
		2	壺	(13.1)	5.2	(5.3)	b針	にぶい黄橙10YR6/3	A	80	底面回転糸切り
		3	甕（小）	(14.8)	< 4.6>	-	br	明赤褐5YR5/6		50	口縁部沈線
169	S J - 29	1	甕（小）	-	< 8.1>	7.1	bs	にぶい黄橙10YR6/3		50	
171	S J - 30	1	壺か椀	(11.8)	5.1	4.8	w針	浅黄橙10YR8/4	A	70	底面回転糸切り、内黒
		2	甕	(11.7)	< 6.9>	-	rs	明赤褐5YR5/6		40	外面輪積痕顯著
		3	甕（大）	-	<25.1>	(8.7)	rs	明赤褐5YR5/6		70	底面こも編み圧痕後ナデ、
		4	甕（大）	(33.8)	<16.1>	-	br	橙5YR6/6		60	外面輪積痕顯著
		5	甕（大）	(22.0)	< 8.1>	-	r針	橙5YR6/6		40	外面輪積痕顯著

表12 B区遺構内出土遺物（2）

掲図	遺構	番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	備考
171	S J - 3 0	6	甕	(20.5)	< 8.7 >	-	wr	明赤褐5YR5/6		40	外面輪積痕顯著
		7	甕（大）	(20.6)	< 7.4 >	-	r	明赤褐5YR5/6		40	外面輪積痕顯著、口縁部内側黒色有機物付着
		8	甕（大）	(22.4)	< 4.6 >	-	br	暗褐10YR3/3	A	40	外面輪積痕顯著
172	S J - 3 0	9	甕（大）	-	<20.3>	(10.1)	rs	黄橙7.5YR7/8		60	底面こも編み圧痕
		10	甕	-	<10.9>	(8.1)	rs	橙5YR6/6		60	底面こも編み圧痕
		11	甕	-	< 6.9 >	(8.5)	br	明赤褐5YR5/6		50	底面こも編み圧痕、外面黒色有機物付着
		12	甕	-	<10.1>	8.2	rs	黄橙7.5YR7/8		40	底面こも編み圧痕
		13	甕	-	<11.5>	8.1	wr	明赤褐5YR5/6		50	底面こも編み圧痕
174	S J - 3 1	1	壺（高壺？）	-	< 5.6 >	(7.4)	w針	明赤褐5YR5/6		50	底面こも編み圧痕
177	S J - 3 2	1	壺	(11.7)	4.9	(5.5)	br	明赤褐5YR5/6	A	80	灯明具転用、底面ハケメ
		2	壺	(11.6)	< 4.3 >	-	br	浅黄橙10YR8/4	A	40	
		3	壺	(13.4)	< 5.1 >	-	wr	浅黄橙10YR8/4		50	
		4	壺？	(13.3)	< 8.4 >	-	r	橙5YR6/6		40	外面輪積痕顯著
		5	甕（大）	(23.6)	< 5.7 >	-	wr	にぶい黄橙10YR6/3		40	
		6	甕	(13.6)	< 8.6 >	-	rs	黄橙7.5YR7/8		50	内外面輪積痕顯著
		7	甕	-	<10.3>	(7.8)	br	にぶい黄褐10YR5/3		50	底面剝落
180	S J - 3 3	1	壺	(13.2)	6.4	6.2	br	黄橙7.5YR7/8	A	90	底面木葉痕
		2	壺	(10.6)	5.7	4.8	wr	浅黄橙10YR8/4	A	70	灯明具転用？底面こも編み圧痕
		3	甕	11.1	13.7	(6.9)	br		A	90	底面こも編み圧痕、球胴形
		4	甕	(21.6)	26.3	(9.6)	wr	暗褐10YR3/3		60	底面木葉痕
		5	甕（小）	(13.2)	<12.9>	(6.8)	rs	明赤褐5YR5/6		70	底面こも編み圧痕
		6	甕（大）	(18.4)	<14.3>	-	wr	にぶい黄橙10YR6/3		50	外面輪積痕顯著
		7	甕（大）	(17.7)	< 8.9 >	-	br	黄橙7.5YR7/8		50	外面輪積痕顯著 鏡の下位から出土
		8	甕	(20.7)	< 6.4 >	-	wr	黄橙7.5YR7/8	A	40	外面輪積痕顯著
		9	甕	(15.4)	< 6.6 >	-	r	明赤褐5YR5/6		40	外面輪積痕顯著
181	S J - 3 3	10	甕	-	< 7.1 >	8.2	wr	黄橙7.5YR7/8		50	底面こも編み圧痕、外面有機物付着
		11	甕	-	< 4.3 >	5.8	br	にぶい黄橙10YR6/3		40	底面こも編み圧痕、外面黒色有機物付着
		12	甕	-	< 3.6 >	(8.9)	br	にぶい黄褐10YR5/3		40	底面こも編み圧痕
		13	甕（大）	-	< 8.6 >	(7.8)	br	にぶい黄褐10YR5/3		40	底面こも編み圧痕
184	S J - 3 5	1	甕	-	<17.8>	8.8	rs	にぶい黄褐10YR5/3		60	底面木葉痕
191	S J - 4 1	1	甕（大）	(22.7)	<13.9>	-	br	明赤褐5YR5/6		50	内外面黒色有機物付着
		2	壺	(10.4)	< 5.6 >	-	wr	橙5YR6/6	A	40	外面輪積痕顯著
		3	甕（大）	(22.5)	<13.6>	-	r針	黄橙7.5YR7/8		50	カマド出土
		4	甕	(19.4)	<11.5>	-	bw	にぶい黄橙10YR6/3		50	外面輪積痕顯著 カマド出土
		5	甕（大）	(23.4)	< 5.9 >	-	w針	浅黄橙10YR8/4		40	外面輪積痕顯著 カマド出土
		6	甕	(19.1)	< 7.9 >	-	rb	橙5YR6/6	A	50	外面輪積痕顯著 カマド出土
		7	甕（大）	(24.9)	< 8.3 >	-	br	橙5YR6/6		40	口縁上位沈線、外面灰色有機物付着
		8	甕	-	<17.7>	-	wr	浅黄橙10YR8/4		50	カマド出土
196	S J - 4 4	1	壺	(13.2)	5.4	5.4	rs	浅黄橙10YR8/4	A	80	底面回転糸切り
		2	甕	(12.5)	<13.4>	-	rs	橙5YR6/6	C	30	
		3	甕（大）	(21.9)	<17.4>	-	rs	黄橙7.5YR7/8		50	カマド出土
		4	甕	-	< 7.2 >	8.7	br	にぶい黄褐10YR5/3		50	底面こも編み圧痕 カマド出土
198	S J - 4 5	1	甕（大）	(25.1)	< 7.9 >	-	br	暗褐10YR3/3		40	外面輪積痕顯著
		2	甕	-	< 5.6 >	(7.6)	bs	にぶい黄褐10YR5/3		40	砂底、外面黒色有機物付着 カマド出土

表12 B区遺構内出土遺物（3）

挿図	遺構	番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	備考
201	S J - 4 7	1	甕	12.6	14.7	6.4	b針	赤褐色5YR4/6	A	100	底面木葉痕、
207	S J - 5 1	1	甕（小）	(14.0)	<12.3>	(6.6)	rs	明赤褐5YR5/6		60	砂底 床面直上出土
		2	壺（椀）	(12.8)	<5.4>	5.2	wr	橙5YR6/6	A	50	底面回転糸切り、内黒 床面直上出土
		3	甕（大）	(21.2)	<14.2>	-	r針	にぶい黄橙10YR6/3		40	床面直上出土
		4	甕（大）	(23.4)	<25.2>	-	br	にぶい黄橙10YR6/3		60	床面直上出土
211	S J - 5 5	1	壺	(13.5)	5.7	6.0	rs	明赤褐5YR5/6	A	80	底面回転糸切り
		2	甕	-	<8.6>	7.1	rs	明赤褐5YR5/6		60	底面こも編み圧痕 挖り方出土
213	S J - 5 7	1	壺か高壺	(12.6)	6.4	5.2	br	にぶい黄橙10YR6/3	A	60	灯明具転用、底面回転糸切り
		2	甕	-	<9.2>	-	br	にぶい黄橙10YR6/3		40	外面黒色、灰色有機物付着 カマド出土
		3	甕	-	<11.9>	-	r針	橙5YR6/6		40	外面黒色有機物付着
		4	甕（大）	(22.9)	<13.2>	-	r針	明赤褐5YR5/6		40	外面黒色有機物付着 カマド出土
219	SK - 1 1	1	甕	(13.4)	11.7	6.8	rs	浅黄橙10YR8/4		90	底面回転糸切り後ヘラケズリ
		3	壺	(11.6)	3.8	6.2	wb	にぶい黄橙10YR6/3	A	90	灯明具転用、底面回転糸切り
	SK - 1 8	4	甕	-	<5.1>	(8.0)	rs	明赤褐5YR5/6		40	底面木葉痕
		5	甕	-	<2.3>	(6.8)	rs	明赤褐5YR5/6		40	底面粘土貼付け
		6	甕	-	<7.3>	(7.1)	r針	橙5YR6/6		50	底面こも編み圧痕後ハケメ
		7	甕	(18.2)	<17.2>	-	rs	黄橙7.5YR7/8		60	
	SK - 2 5	10	壺	(11.9)	6.6	5.4	rs	橙5YR6/6		80	外面輪積痕顯著
		11	壺	(11.2)	5.4	5.2	w針	浅黄橙10YR8/4	A	60	底面回転糸切り、内黒
		12	甕	(17.6)	<8.6>	-	rs	橙5YR6/6		50	
		13	甕	(20.2)	<16.8>	-	rs	黄橙7.5YR7/8	A	50	外面有機物付着
220	SK - 2 5	14	甕	(19.4)	<14.7>	-	rs	にぶい黄褐10YR5/3		40	
		15	壺か椀	(12.8)	<4.1>	-	wr	黄橙7.5YR7/8	A	40	外面輪積痕顯著、内面有機物付着
		16	甕	-	<6.6>	(9.1)	rs	明赤褐5YR5/6		50	底面こも編み圧痕
	SK - 2 7	17	甕	13.6	<8.5>	-	bs	明赤褐5YR5/6		50	
		18	甕	-	<5.6>	(9.2)	b針	暗褐10YR3/3	C	40	外面剥落激しい
	SK - 3 4	20	甕	-	<17.1>	(6.1)	rs	黄橙7.5YR7/8		60	底面こも編み圧痕
		21	甕	(14.0)	<12.6>	-	rs	黄橙7.5YR7/8		50	外面輪積痕顯著
		22	壺	-	<5.5>	(6.8)	wr	浅黄橙10YR8/4	A	60	底面こも編み圧痕
		23	壺	(11.0)	5.5	(4.6)	rs	橙5YR6/6		60	底面こも編み圧痕
221	SK - 3 5	24	甕	(14.8)	16.0	8.6	rs	明赤褐5YR5/6		60	底面木葉痕
		25	甕	(20.9)	<16.9>	-	rs	黄橙7.5YR7/8		70	
	SK - 4 0	26	甕	(14.8)	<1 5.1>	-	r針	浅黄橙10YR8/4		60	火山灰下位から出土
		27	甕	(16.2)	<6.7>	-	rs	橙5YR6/6		40	外面有機物付着 火山灰下位から出土
		28	甕	(13.6)	<8.4>	-	rs	明赤褐5YR5/6		50	火山灰下位から出土
		29	甕	(10.4)	<7.6>	-	r針	橙5YR6/6		40	火山灰下位から出土
		30	壺	(8.8)	<3.5>	-	bs	にぶい黄橙10YR6/3	A	40	火山灰下位から出土
		31	甕	(12.4)	<10.4>	-	rs	浅黄橙10YR8/4		80	火山灰下位から出土
		32	甕	(11.3)	<10.2>	-	r針	浅黄橙10YR8/4		70	
		33	甕	(26.2)	<3.1>	-	rs	橙5YR6/6		30	
		34	甕	-	<7.8>	6.8	rs	明赤褐5YR5/6		50	火山灰下位から出土
		35	壺	-	<5.5>	4.6	rs	にぶい黄橙10YR6/3		60	火山灰下位から出土
222	SK - 4 0	36	甕	-	<17.2>	(9.4)	ws	にぶい黄橙10YR6/3		60	砂底
		42	甕	-	<9.5>	6.8	ws	暗褐10YR3/3		50	底面こも編み圧痕
		43	甕	-	<3.1>	(8.5)	ws	灰白10YR8/2		30	底面木葉痕、外面有機物付着
		44	甕	-	<7.1>	9.3	bs	明赤褐5YR5/6		40	底面こも編み圧痕
223	SK - 5 4										
	SK - 6 6										